

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蘚苔類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

ケガイ

二枚貝綱 イガイ目 イガイ科

Trichomya hirsutus (Lamarck, 1819)

【選定理由】 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化。1979年以前に県内では鳥羽，浜島，紀伊長島，引本，九鬼，新鹿の県内5箇所の潮間帯より分布記録がある。今まで多くの図鑑にも掲載されていたが，近年全国的に生貝の採集報告がない。生息環境に関する情報も，1940年代福岡県博多湾でクログチと共に生息していたという情報があるのみ。2000年代以降，打ち上げられた殻の採集記録もほとんど存在せず，現在では正に幻の貝である。県内では絶滅している可能性もある。

【種概要】 殻長45 mm。殻は厚く，後方に広がる箱形。殻表に多数毛状突起を有する。普通種のヒバリガイと近似するが，殻は細長く膨らみは強く，靱帯受けが長く強く，明確に識別できる。

【分布】 福島・能登から九州，中国大陸沿岸，西太平洋。オーストラリア東岸からも生息が報告されているが，殻標本を見る限り，日本産とは別種の可能性がある。

【現況・減少要因】 現況は選定理由参照。海岸の開発，水質汚濁などが挙げられている。

【文献】 14, 61, 186.

(木村昭一)

(写真：三重県内(詳細不明；三重大学農学部所蔵後廃棄標本)，1960年代採集)



三重県 2025

CR

三重県 2015

—

環境省 2020

—

ヒメアカガイ

二枚貝綱 フネガイ目 フネガイ科

Anadara troscheli (Dunker, 1882)

【選定理由】 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化，分布域限定。2005年度版三重県版レッドデータブックで本県の詳細な分布記録が初めて示された。その後の分布調査でも英虞湾の内湾最奥部の泥質干潟1箇所以外では合弁の死殻すら採集されていない。また現在県下から生息を確認できない。鳥羽市では2011年に浦村の鏡浦よりドレッジで死殻(半片)がわずかに採集されたに過ぎない。英虞湾でも合弁の死殻の個体数も年々減少してきており，危機的生息状況であり，鳥羽市では既に絶滅したと判断された。本県の海産貝類としては最も絶滅した可能性が高い種と評価される。

【種概要】 殻長40 mm，箱形でサルボオに近似するが，殻が三角形に近く，殻表の肋数が24本前後で，サルボオの32本前後より少ない。

【分布】 本州から九州，中国大陸南部からベトナムの潮間帯下部に分布する。現在国内からは健全な個体群が報告されていない。

【現況・減少要因】 現況は選定理由参照，著しい減少の要因として，特に内湾最奥部のアマモ類が繁茂する泥質干潟と言う生息場所の著しい減少，水質汚濁などが考えられる。

【文献】 157, 164, 236.

(木村昭一)

(写真：英虞湾湾奥泥干潟，2003年，木村昭一採集)



三重県 2025

CR

三重県 2015

CR

環境省 2020

CR+EN

ヨコヤマミミエガイ

二枚貝綱 フネガイ目 サンカクサルボオ科

Verilarca interplicata (Grabau & King, 1928)

【選定理由】 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化。1979年以前に県内では白子，有滝，三木浦の県内3箇所の水深10~30 mより分布記録がある。愛知県レッドデータブックではCRにランクされている。内湾潮下帯の泥質の多い砂泥底に生息し，1960年代には伊勢湾・三河湾での底引き網漁によって生貝が採集されている。当時，愛知県側では一色漁港，三重県側では有滝漁港で水揚げされたことが記録されている。近年鳥羽市沖のドレッジ調査では死殻さえ希少で，合弁死殻(図示)は1個体採集されたのみ。最近の勢水丸の伊勢湾湾口部調査では，殻皮の残った半片殻が1個体採集。

【種概要】 殻長20 mm，殻は前後に長い箱形で，殻質は厚く，殻表には細かい強い放射肋が出る。殻表は，濃褐色のビロード状の殻皮で覆われる。潮間帯の転石海岸に生息するミミエガイとやや近似するが，本種の殻はやや大きく，殻皮が厚く，殻表の放射肋が強いので識別は容易である。

【分布】 房総半島から九州，台湾，中国南部の潮間帯から水深100 mの砂泥底に分布する。

【現況・減少要因】 現況は選定理由参照。内湾域の無酸素水域の拡大，水質汚濁などが考えられる。

【文献】 3, 19, 164, 167, 186.

(木村昭一)

(写真：鳥羽市浦村沖水深10 m ドレッジ，2010年，木村昭一採集)



三重県 2025

CR

三重県 2015

—

環境省 2020

—

ヒナノヒオウギ

二枚貝綱 イタヤガイ目 イタヤガイ科

Mimachlamys asperulata (A. Adams & Reeve, 1850)

【選定理由】 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化。1979年以前に県内では白子，有滝，の県内2箇所の水深20～30 mより分布記録がある。愛知県レッドデータブックではCRにランクされている。1983年に小浜漁協水揚げのカレイ底刺網で鳥羽湾の水深10 mより2生貝（図示）が採集されている。近年鳥羽市沖のドレッジ調査では死殻も稀で，死後間もない合弁殻は全く採集されない。

【種概要】 殻長20 mm，殻は小型であるが，殻質は厚い。殻表には強い放射肋が18本前後出る。殻の色彩は紫から橙黄色まで変異がある。

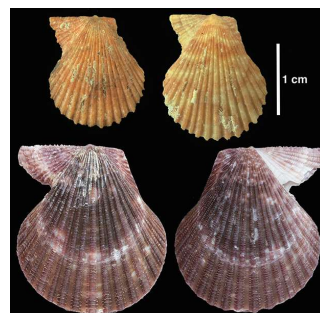
【分布】 速水の見解では，房総半島から沖縄の水深20 m以浅の岩礫底に分布するとされているが，久保の見解では房総半島から九州である（南西諸島に分布するものは別種）。鳥羽市沖での生息環境は外洋に面した内湾域の水深30 mまでの礫混じりの砂泥底である。

【現況・減少要因】 現況は選定理由参照。内湾域の無酸素水域の拡大，水質汚濁などが考えられる。

【文献】 3, 32, 125, 164, 186.

(木村昭一)

(写真：上段：答志島北沖水深20 m 勢水丸ベントスネット，2014年，下段：小浜沖水深10 m 底刺網，1982年，木村昭一採集)



三重県 2025

CR

三重県 2015

環境省 2020

—

イタボガキ

二枚貝綱 カキ目 イタボガキ科

Ostrea densamellosa Lischke, 1869

【選定理由】 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化。1980年代前半には三河湾，伊勢湾湾口部の潮下帯を中心に生息し，個体数も決して少なくなかった。例えば1982年に鳥羽湾で生貝が採集された報告などがあるが，1990年代に入り急激に減少し，近年では，かろうじて本種と同定できる古い死殻（図）が稀に採集される程度で，生息が確認できない。危機的生息状況であり，三重県のみならず東海地方から絶滅した可能性も考えられる。

【種概要】 殻長120 mm，マガキなどと比べて丸みのある方形をしていて，右殻表面は檜皮茸状になるのが特徴。内湾から湾口部の潮下帯の砂泥底を分布の中心とする。

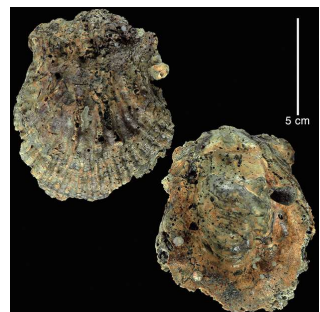
【分布】 陸奥湾から九州に分布するとされていたが，近年では瀬戸内海から有明海の限られた海域で生息が確認されているにすぎない。海外では朝鮮半島，中国大陸に分布する。近年，瀬戸内海中部（香川県の一部，岡山県西部）では本種の回復傾向が確認されている。

【現況・減少要因】 現況は選定理由参照。非常に急激な減少要因と三河湾・伊勢湾での全く回復傾向が認められない理由として，干潟の減少，水質汚濁だけでは説明が難しい。

【文献】 3, 20, 125, 131, 132, 164, 236.

(木村昭一)

(写真：小浜沖水深10 m 蛸壺漁，2022年，木村昭一採集)



三重県 2025

CR

三重県 2015

CR

環境省 2020

CR+EN

ベニガイ

二枚貝綱 ドブシジミ目 ニッコウガイ科

Pharaonella sieboldii (Deshayes, 1855)

【選定理由】 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化。1979年以前に伊勢湾から県南部の4箇所の内湾域潮下帯から分布記録がある。近年，志摩半島を含めた伊勢湾湾口部から南部の内湾域の潮下帯から古い死殻半片は採集されるが，合弁の死殻も採集できない。近年では，2個体の生貝（幼貝）が英虞湾中央部の潮下帯より採集されたのみである。かつては湾口部から外洋域にも個体群が存在したが，最近の10年間では勢水丸ドレッジ，底引き網等の試料からも全く確認できない。絶滅の可能性が高い種と判断されカテゴリーがアップされた。

【種概要】 殻長60 mmに達する大型種。扁平なくさび形の濃い紅色の二枚貝で，よく目立つ種である。

【分布】 北海道南部から九州，種子島，朝鮮半島に分布する。近年，福岡県，石川県など日本海側のかつての有名な多産地でも個体数が激減している上に，近年分布全域で生貝の採集記録がない。

【現況・減少要因】 現況は選定理由参照。環境悪化が著しい内湾域のみならず外洋域でも著しい減少が認められ，減少要因については不明。

【文献】 3, 164, 167, 186, 236, 278.

(木村昭一)

(写真：上：鳥羽市生浦湾水深5～10 m ドレッジ，2011年，伊勢湾湾口水深12 m 勢水丸ベントスネット1997年，木村昭一採集)



三重県 2025

CR

三重県 2015

EN

環境省 2020

NT

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蘚苔類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

アオサギガイ

二枚貝綱 ドブシジミ目 ニッコウガイ科

Psammacoma fallax (Bertin, 1878)

【選定理由】 個体群・個体数の減少、生息条件の悪化。1979年以前に伊勢湾の3箇所の水深10~30 mから分布記録がある。近年、鳥羽市を含めた伊勢湾中部から湾口部内湾域の潮下帯から古い死殻半片は極めて稀に採集されるが、合弁の死殻も採集できない。生貝は無論、伊勢湾・三河湾全域で合弁死殻が採集されたのも2009年名古屋港沖（水深8 m）以来記録されていない。垂直分布を含めて、分布域が広いので絶滅とは評価されなかったが、絶滅の可能性が極めて高い種と考えられる。

【種概要】 殻長45 mm、殻は長い卵形で膨らみは弱く扁平。殻は薄質で白色、殻頂部は淡い青みを帯びる。後背縁は短く直線的。

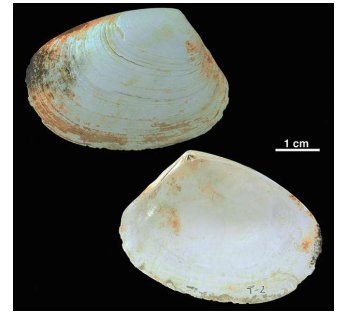
【分布】 房総半島から九州、東南アジアに分布する。近年日本の分布全域で生貝の採集記録がない。瀬戸内海（広島県）では絶滅したとされている。

【現況・減少要因】 現況は選定理由参照。内湾域潮下帯の環境悪化が著しいことが減少要因と考えられる。

【文献】 3, 21, 143, 164, 186.

(木村昭一)

(写真： 答志島北沖水深20 m 勢水丸ベントスネット, 2014年, 木村昭一)



三重県 2025

CR

三重県 2015

環境省 2020

イチヨウシラトリ

二枚貝綱 ドブシジミ目 ニッコウガイ科

Serratina diaphana (Deshayes, 1856)

【選定理由】 個体群・個体数の減少、生息条件の悪化。1979年以前に伊勢湾内の4箇所の潮間帯から潮下帯より分布記録がある。現在伊勢湾内では生息が確認されない。2004年に英虞湾より本種の生息が初めて報告された。その生息場所も湾最奥部の1箇所だけで、生息面積も非常に小さい。その後も県内に他の生息地は発見されていない。

【種概要】 殻長45 mm、楕円形で膨らみは弱く扁平。殻表には板状の強い同心円状の肋がある。後端はとがる。殻の色彩は白色。

【分布】 相模湾から九州、朝鮮半島、中国大陸に分布する。三河湾、愛知県側の伊勢湾では絶滅したと判断され、現在英虞湾が本種の分布の北・東限と考えられる。瀬戸内海（広島県）では絶滅したとされている。

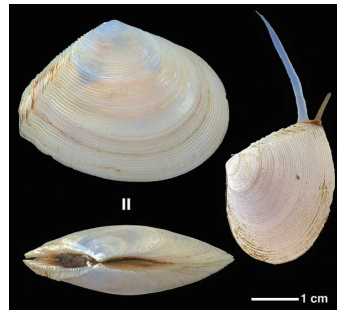
【現況・減少要因】 現況は選定理由参照。減少要因は、本種の生息場所が陸域に近く、埋め立て、護岸工事などが大きな影響を及ぼしている。

【保護対策】 英虞湾の生息地では、三重大学生物資源学部海洋生態学研究室及び志摩市主催による年3回以上のモニタリング調査が行われている。現在も県内唯一の個体群の生息地として記録されている。

【文献】 2, 24, 31, 157, 158, 186, 236, 280.

(木村昭一・木村妙子)

(写真： 英虞湾湾奥泥干潟, 2003年, 木村昭一採集)



三重県 2025

CR

三重県 2015

CR

環境省 2020

CR+EN

フジナミガイ

二枚貝綱 ドブシジミ目 サンカクサルボオ科

Hiatula boeddinghausi (Lischke, 1870)

【選定理由】 個体群・個体数の減少、生息条件の悪化。1979年以前に県内では白子、御座、賀田、新鹿の潮間帯~10 mから分布記録がある。近年、三重県全域から生貝の採集記録はなく、死殻も希少である。1975年春、二見町から鳥羽市にかけての海岸で夥しい量の二枚貝が打ち上げられていて、その中に本種の半片死殻（図示標本）も含まれていた。垂直分布は干潟だけでなく潮下帯まで、分布域は外洋に面した内湾から湾口部にまで及び広いので、絶滅とは評価されなかったが、絶滅の可能性が極めて高い種と考えられる。

【種概要】 殻長100 mm、殻は大形で楕円形。殻はやや厚く、濃い紫色と薄い紫色のだんだら模様となる。殻表は平滑、褐色の厚い殻皮に覆われている。

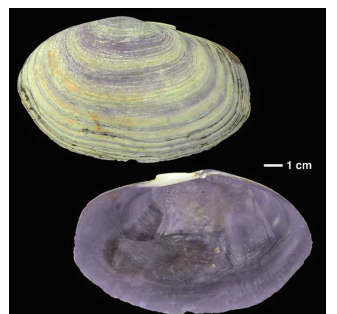
【分布】 岩手県・男鹿半島~九州、朝鮮半島に分布する。近年でも神奈川県、瀬戸内海の一部で生息が確認されている。

【現況・減少要因】 現況は選定理由参照。内湾域潮下帯の環境悪化が減少要因と考えられる。近似種で系統的にも近く、生息環境もよく似ているムラサキガイに近年著しい回復傾向が認められているので、本種に特有な減少要因が存在する可能性がある。

【文献】 3, 164, 186, 236.

(木村昭一)

(写真： 伊勢市二見浦海岸 打ち上げ, 1975年, 木村昭一採集)



三重県 2025

CR

三重県 2015

CR

環境省 2020

CR+EN

ホクロガイ

二枚貝綱 マルスダレガイ目 バカガイ科

Oxyperas bernardi (Pilsbry 1904)

【選定理由】 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化．1979年以前に県内では菅島，和具，紀伊長島の水深30～50 mから分布記録がある．1980年代には鳥羽湾で生貝の採集記録があるが，近年，三重県全域から生貝の採集記録はなく，合弁の死殻もほとんど採集できない．現在でも殻皮の残った死殻（半片）は菅島から石鏡沖の水深30～80 mの海域で少数採集されるので絶滅とは判断されなかったが，絶滅の可能性が高い種と考えられる．

【種概要】 殻長60 mm，殻は前後に長い二等辺三角形でやや膨らむ．殻質はやや厚く，殻の地色は黄白色で，生時や死後間もない殻では，殻表は淡黄褐色の地色に黒褐色の斑点を散らした殻皮で覆われる．

【分布】 房総半島～九州，日本海，台湾の水深10～100 mに分布する．最近，愛知県沖の渥美外海から底引き網により生貝が確認され，死殻も稀に採集されているが，伊勢湾湾口部に近い熊野灘の水深100 m前後の海底からは死殻も採集されない．元々外洋ではなく湾口部から内湾に生息する種であろう．

【現況・減少要因】 現況は選定理由参照．内湾域潮下帯の環境悪化が著しいことが減少要因と考えられる．

【文献】 19, 20, 164, 186.

(木村昭一)

(写真：鳥羽市小浜沖水深10 m カレイ底刺網漁，1983年，木村昭一採集)



三重県 2025

CR

三重県 2015

—

環境省 2020

—

シオガマガイ

二枚貝綱 マルスダレガイ目 フタバシラガイ科

Joannisiella cumingii (Hanley, 1846)

【選定理由】 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化．1979年以前に県内では白子，津の水深20～30 mから分布記録がある．フタバシラガイ科としては特に大成し，死殻試料も得られやすいのでモニタリングしている種で，1990年代には伊勢湾中央部の水深10～20 mの泥底より勢水丸によるベントスネットで稀に生貝が得られたが，近年では死殻半片も稀にしか採集されない．現在でも殻皮の保存された死殻（半片）は鳥羽市答志島から石鏡沖の水深20～30 mの海域で採集されるので，絶滅とは判断されなかった．最近の勢水丸の伊勢湾湾口部調査では，殻皮の残った半片殻が1個体採集された．

【種概要】 殻長30 mm，殻はほぼ円形で良く膨らむ．殻質はやや薄く脆い．前閉殻筋痕は細長い．殻の地色は黄白色で，生時や死後間もない殻では，殻表は紫がかかった褐色の殻皮で覆われる．

【分布】 房総半島，東南アジアの水深10～50 mに分布する．県内では伊勢湾に分布が限られ，鳥羽市が最も外洋側に位置する分布域と言える．

【現況・減少要因】 現況は選定理由参照．内湾域潮下帯の環境悪化が著しいことが減少要因と考えられる．

【文献】 19, 164, 167, 186.

(木村昭一)

(写真：答志島北沖水深20 m 勢水丸ベントスネット，2014年，木村昭一採集)



三重県 2025

CR

三重県 2015

—

環境省 2020

—

ウラカガミ

二枚貝綱 マルスダレガイ目 マルスダレガイ科

Dosinia corrugata (Reeve, 1850)

【選定理由】 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化．1979年以前に県内では四日市，白子，五ヶ所の水深20 mから分布記録がある．現在も伊勢湾中央部から県南部にかけての比較的広い範囲の小規模な干潟や潮下帯から古い死殻片は時折採集される．近年，死後間もない合弁の殻が得られたのは，鳥羽市生浦湾，紀伊長島町だけである．生浦湾最奥部から採集された死殻3個体はいずれも靱帯（二枚の殻をつなぐ革質の構造）も保存されており，本種が絶滅していない可能性があるかと判断された．生息が確認されない現況から，絶滅の可能性が高い種と評価されカテゴリーがアップされた．

【種概要】 殻長65 mm，殻はやや角張った円形で厚い．潮間帯下部から記録があるが，潮下帯に分布の中心があり，水深20 mまでのシルト泥底に生息する．

【分布】 陸奥湾から九州，朝鮮半島，中国大陸に分布する．東京湾や大阪湾では，近年になって絶滅したと考えられる．日本では2008年に伊勢湾最奥部の名古屋港沖の潮下帯から採集された2個体以来生貝の報告がない．

【現況・減少要因】 現況は選定理由参照．現況は選定理由参照．内湾域潮下帯の環境悪化が著しいことが減少要因と考えられる．

【文献】 143, 154, 164, 186, 236.

(木村昭一)

(写真：鳥羽市生浦湾奥部水深2 m ドレッジ，2012年，木村昭一採集)



三重県 2025

CR

三重県 2015

EN

環境省 2020

CR+EN

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

藓苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蘚苔類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

ハナグモリ

二枚貝綱 マルスダレガイ目 ハナグモリ科

Glaucanome angulate Reeve, 1844

【選定理由】 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化．1979年以前に伊勢湾の2箇所から分布記録がある．現在東海地方全域でも死殻すら採集できる地点はなく，生息が確認できない．東海地方で最も近年の生息記録は，1970年代の名古屋港からの記録で，殻皮の保存された死後間もないと考えられる合弁殻が埠頭造成のためのサンドポンプで汲み上げられて採集されている．危機的生息状況であり本県だけではなく東海地方から既に絶滅した可能性もある．

【種概要】 殻長25 mm，殻は薄質で膨らみが強い楕円形．

【分布】 房総半島から九州の内湾域の最奥部の泥底の潮間帯中部付近に生息する．現在，東京湾には2箇所生息地が確認されているが，三河湾，伊勢湾では生息が確認できない．瀬戸内海，徳島県，有明海，南西諸島では健全な生息地が確認されている．海外では朝鮮半島，中国大陸，フィリピンに分布する．

【現況・減少要因】 現況は選定理由参照．減少要因については，干潟の消失などが考えられるが，三河湾，伊勢湾における著しい減少要因の理由は不明．

【文献】 2, 118, 186, 236.

(木村妙子・木村昭一)

(写真：名古屋港（伊勢湾最奥部）サンドポンプ採集，1977年，河合秀高採集)



三重県 2025
CR
三重県 2015
CR
環境省 2020
VU

ヒメカノコ

腹足綱 アマオブネ目 アマオブネ科

Clithon oualaniense (Lesson, 1831)

【選定理由】 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化．1979年以前に県南部のリアス式海岸に位置する小規模な内湾域3箇所から分布記録がある．近年，比較的新しい死殻は英虞湾の湾奥部及び北牟婁郡の汽水湖の潮間帯より少数採集されていたが，生息は確認できなかった．2021年に英虞湾湾奥部の淡水の影響のあるコアマモの小群落内にマガキが散在する砂泥底より1個体生貝が確認された（図下段）．他の海域では死殻も稀産．

【種概要】 殻長10 mmで球形に近い．殻表は滑らかで強い光沢がある．暗い黄緑色の地色に灰白色の三角形の模様が並ぶ個体が多いが，模様には変異がある．南西諸島産個体では，殻表の模様の変異が本州産個体と比べて著しい．

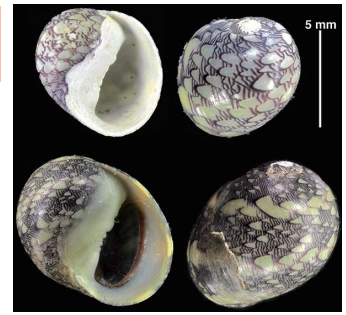
【分布】 房総半島から南西諸島，インド・太平洋に分布する．現在九州以北の生息地は和歌山県，愛媛県など非常に限られている．内湾奥の河口部の干潟，アマモ場周辺の泥上に生息する．

【現況・減少要因】 現況は選定理由参照，減少要因については，干潟の減少，水質汚濁などが考えられる．

【文献】 2, 97, 157, 158, 184, 186, 236.

(木村昭一)

(写真：英虞湾奥部，2021年，木村昭一採集)



三重県 2025
CR
三重県 2015
CR
環境省 2020
NT

ハツカネズミ

腹足綱 エゾタマキビ目 シロネズミガイ科

Macromphalus tornatilis (Gould, 1859)

【選定理由】 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化，特殊生息環境．1979年以前に県内では桃取（鳥羽市）の水深15～20 mから分布記録がある．1980年代には伊勢湾から県南部の小規模な内湾域で死殻は見られたが，近年では死殻も稀．鳥羽市では近年のドレッジ，ダイビング調査で死後間もない殻が少数採集されている．最近の勢水丸の伊勢湾湾口部調査では，死殻が1個体のみ確認された．絶滅とは判断されなかったが，危機的生息状況である．

【種概要】 殻長4 mm，太い紡錘形の殻を持つ．体層は大きく7～8本の太い螺肋がある．殻口は半円形となる．瀬戸内海では生貝が発見されていて，本種とユムシ類の共生関係が観察されている．

【分布】 房総半島から九州，中国大陸の内湾湾口部の海岸礫地砂泥底の低潮線から潮下帯の転石下面にユムシ類の粘液で固められた泥の管に沿って付着する．

【現況・減少要因】 現況は選定理由参照．内湾域潮間帯から潮下帯の環境悪化が著しいこと，共生関係にあるユムシ類の減少などが減少要因と考えられる．

【文献】 3, 164, 167, 236.

(木村昭一)

(写真：鳥羽市石鏡沖水深20 m ドレッジ，2021年，佐藤達也採集)



三重県 2025
CR
三重県 2015
DD
環境省 2020
CR+EN

マルテンスマツムシ

腹足綱 新腹足目 タモトガイ科

Mitrella martensi (Lischke, 1871)

【選定理由】 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化．1979年以前に県内では津，答志，紀伊長島，尾鷲の干潮線下から水深3mの分布記録がある．近年，伊勢湾中部の潮下帯，鳥羽市生浦湾湾奥部の潮下帯より半化石のような死殻が稀に採集されているが，生息は確認できない．危機的生息状況であり本県から既に絶滅した可能性もある．

【種概要】 殻長15mm，殻は紡錘形でムギガイに似るがやや大型で，螺層の膨らみが弱く螺塔が高い．殻は黄褐色の地色に濃褐色の不規則な縞模様がある．模様には変異が多い．三河湾や伊勢湾，生浦湾の個体は，現在有明海に生息する個体と比べて，殻の大きさは小形で細く，模様は細かい斑で構成され変異が少ない．また有明海産個体は朝鮮半島産個体とほぼ同様であり，本州産個体と有明産個体の分類学的な検討が必要である．

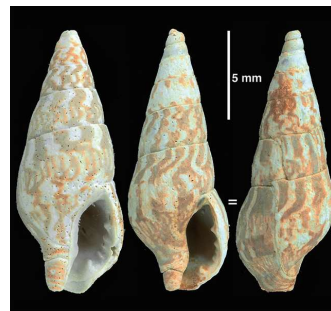
【分布】 北海道南部から九州，朝鮮半島，中国大陸に分布する．かつての分布は広がったが，現在瀬戸内海西部から有明海周辺でのみ生息が確認されている．

【現況・減少要因】 現況は選定理由参照．減少要因は生息環境の減少，水質汚濁などの理由だけでは説明が難しい．

【文献】 3, 154, 164, 186, 236, 249.

(木村昭一)

(写真：鳥羽市生浦湾最奥部水深2m ドレッジ，2012年，木村昭一採集)



三重県 2025

CR

三重県 2015

CR

環境省 2020

CR+EN

ウネムシロ

腹足綱 新腹足目 オリイレヨフバイ科

Reticunassa hiradoensis (Pilsbry, 1904)

【選定理由】 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化，特殊生息環境．1979年以前に県内では鳥羽，紀伊長島の潮間帯より分布記録がある．近年，本種の生息が確認できなかったが，鳥羽市の潮間帯より1個体生貝が採集された(図)．本種は愛知県や浜名湖での生息地の状況から海水(淡水と混合)の湧き出しがある内湾域の潮間帯中，上部に生息する．特殊な生息環境が必要である．その後同地から生息が確認されず，現在他の海域では，死殻も見つからず，危機的生息状況である．

【種概要】 殻長20mm，螺塔は高く螺層は膨れ，縫合はくびれる．畦状の縦肋があるアオモリムシロとやや近似するが，やや大形で，殻の色彩が黄・橙・黒の単色，灰褐色下地に白い色帯を持つ4タイプが出現し，色彩での識別も容易である．図中央は，共に図示した成貝1個体を数カ月間水槽飼育中に生み出された稚貝で，成長後斃死した標本である．本種の直達発生の発生様式を示唆する．

【分布】 北海道南部から九州，朝鮮半島北部，中国大陸北部に分布する．

【現況・減少要因】 現況は選定理由参照．減少要因は特殊な生息環境の喪失などが考えられる．

【文献】 3, 158, 164, 186, 236.

(木村昭一)

(写真：鳥羽市浦村町入江潮間帯，2016年，締次美穂採集)



三重県 2025

CR

三重県 2015

CR

環境省 2020

CR+EN

オガイ

腹足綱 新腹足目 ベッコウバイ科

Cantharus cecillei (Philippi, 1844)

【選定理由】 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化．1979年以前に県内では有滝，答志，紀伊長島の水深20mから分布記録がある．近年，三重県全域から生貝の採集記録はなく，死殻破片も全く見られない．1983年に小浜漁協水揚げのカレイ底刺網で鳥羽湾の水深10mより2生貝(図示)が採集された．生貝採集記録があり，垂直分布が比較的広く，分布域が比較的広いので，絶滅とは評価されなかったが，死殻さえ採集できない状況は，絶滅の可能性が極めて高い種と示唆される．

【種概要】 殻長40mm，太い紡錘形，殻は厚く縦肋が強く，生時には，殻表は緑褐色の殻皮で覆われる．蓋は革質で厚く，殻口の大部分をふさぐ．カゴ網漁で混獲された記録があるので，腐肉食性と考えられる．

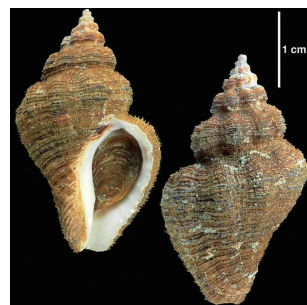
【分布】 房総半島・富山湾から九州，朝鮮半島，中国大陸，台湾に分布し，2000年代九州以外では生貝記録が稀であったが，近年瀬戸内海中部の潮間帯から潮下帯で著しい個体群の復活状況が報告されている．

【現況・減少要因】 現況は選定理由参照．パイのように有機スズ化合物による雌の雄化により個体数が減少した可能性が考えられる．

【文献】 3, 88, 125, 160, 164, 183, 186, 236.

(木村昭一)

(写真：小浜沖水深10m カレイ底刺網，1982年，木村昭一採集)



三重県 2025

CR

三重県 2015

CR

環境省 2020

CR+EN

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

藓苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蘚苔類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

ツノオリイレ

腹足綱 新腹足目 アッキガイ科

Boerotrophon candelabrum (Reeve, 1848)

【選定理由】 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化．1979年以前に県内では伊勢湾内4箇所の水深30 mから分布記録がある．近年，三重県全域から生貝の記録はない．2000年に知多半島内海沖の水深10 mの砂礫底から軟体部の残存した1死亡個体が採集されて以降，生息が確認されていない．最近の勢水丸の伊勢湾湾口部調査では，死殻1個体が採集された．垂直分布が比較的広いが，絶滅の可能性が極めて高い種と考えられる．

【種概要】 殻長40 mmとされるが，伊勢湾で確認される大形個体でも殻長は25 mmで小型の個体群である．殻は細長く，板状の強い縦張筋が出るが，北方産個体のような幅広い鱗状にまでは発達しない．

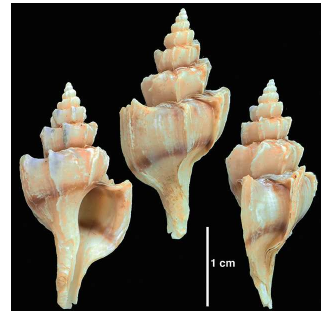
【分布】 北方系の種で，日本では相模湾，日本海北部以北の潮間帯から水深30 mに分布する．瀬戸内海（広島県）では絶滅したとされている．本種は東北・北海道型と定義された，「内海が太平洋側の分布限界である外海では生息し得ないが，低温・低塩分の内海に生息している」貝類群集に含まれる．

【現況・減少要因】 現況は選定理由参照．内湾域潮下帯の環境悪化と近年の海水温上昇が減少要因と考えられる．

【文献】 3, 26, 91, 164, 167, 186.

(木村昭一)

(写真：答志島北沖水深20 m 勢水丸ベントスネット，2021年，木村妙子採集)



三重県 2025

CR

三重県 2015

—

環境省 2020

—

ヒラドサンゴヤドリ

腹足綱 新腹足目 アッキガイ科

Coralliophila jeffreysii E.A. Smith, 1879

【選定理由】 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化，特殊生息環境．1979年以前に県内では紀伊長島の水深50 mから分布記録があるが，この記録は紀伊長島周辺の海洋生物（1968）を引用している可能性が高く，そこに本種として図示されているのはオニカゴメガイである．近年，鳥羽市で生貝（図）が採集されたが，その他県全域で明確な生貝の記録はなく，危機的生息状況と言える．

【種概要】 殻長30 mm，殻質は厚く太い強い縦筋を持ち，鱗片状の突起が発達する．内湾の湾口部の潮下帯に生息するキサソゴ類に外部寄生する．本属の貝類は外洋性の種がほとんどで，本種は数少ない内湾域に生息する種であり，外洋には生息しない．

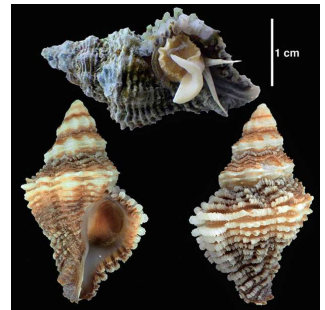
【分布】 三河湾，伊勢湾，瀬戸内海，玄界灘，朝鮮半島に分布する．瀬戸内海では近年も比較的広い海域（兵庫県，山口県）で生息が確認されているが，岡山県，広島県共に絶滅危惧IA類にカテゴリーされている．

【現況・減少要因】 現況は選定理由参照．内湾域潮下帯の環境悪化が考えられる．ホストの内湾性キサソゴ類は潮通しの良い岩礁に生息しており，このような生息環境の減少も要因であろう．

【文献】 3, 9, 23, 164, 174, 186.

(木村昭一)

(写真：鳥羽市石鏡沖水深6 m ダイビング，2022年，高重博採集)



三重県 2025

CR

三重県 2015

—

環境省 2020

—

タクミナ

腹足綱 クルマガイ目 タクミナ科

Mathilda sinensis P. Fischer, 1867

【選定理由】 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化，希少．1979年以前に県内では四日市，有滝の水深20 mから分布記録がある．近年，東海地方全域でも死殻は稀に採集されているが，生息が確認できない．鳥羽市生浦湾では2012年に殻の色彩と胎殻まで保存された死後間もない殻が採集されたが，その後は半化石状態の古い死殻しか採集されない．伊勢湾湾口での勢水丸による調査で2022年に死後時間を経過していないと考えられる殻が1個体採集された．死後時間の経過していない殻が採集されること，生息環境が内湾奥部から外洋に面した内湾まで，垂直分布も潮下帯までと広く，絶滅とは評価されなかったが，絶滅の可能性が高い種と考えられる．

【種概要】 殻長15 mmの細長い円錐型，螺層の周辺には強く角張った螺肋が4本並ぶ．死後間もない殻では，殻の色彩は赤味の強い褐色．

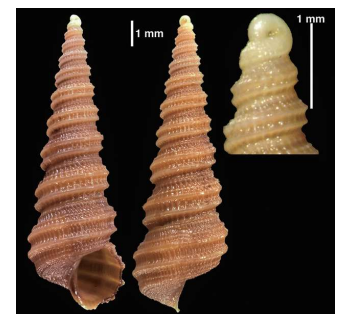
【分布】 房総半島以南，中国大陸沿岸，熱帯インド・西太平洋の内湾域の潮間帯下部から潮下帯に分布する．近年岡山県（瀬戸内海）の潮間帯より生貝が1個体採集された．

【現況・減少要因】 現況は選定理由参照．内湾域潮下帯の環境悪化が考えられる．

【文献】 3, 9, 19, 164, 167, 186.

(木村昭一)

(写真：鳥羽市浦村沖水深10 m ドレッジ，2010年，木村昭一採集)



三重県 2025

CR

三重県 2015

—

環境省 2020

CR

ナワメグルマ

腹足綱 クルマガイ目 クルマガイ科

Heliacus enoshimensis (Melville, 1891)

【選定理由】 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化，特殊生息環境。1979年以前に県内では菅島，紀伊長島の水深30 mから分布記録がある。近年，東海地方全域でも死殻は稀に採集されているが，生息が確認できない。垂直分布が比較的広く，分布域が外洋に面した内湾にまで及び広いので，絶滅とは評価されなかったが，絶滅の可能性が高い種と考えられる。

【種概要】 殻径5 mm，殻は低く，周縁は丸みがある。周縁には2本のやや強い螺肋とその間に細い螺肋がある。本科の貝類は外洋性の種がほとんどで，本種は数少ない内湾域に生息する種である。近似種には腔腸動物を寄生的に捕食する種が多いが，本種の生態的な知見はほとんどない。

【分布】 房総半島・男鹿半島から九州，オーストラリアの潮下帯の砂底に分布する。1970年代，瀬戸内海広島県沖の海砂には多くの死殻が含まれていたが，近年生貝の記録はない。

【現況・減少要因】 現況は選定理由参照。内湾域潮下帯の環境悪化が考えられる。

【文献】 20, 63, 186.

(木村昭一)

(写真：鳥羽市生浦湾水深20 m ドレッジ，2012年，木村昭一採集)



三重県 2025

CR

三重県 2015

—

環境省 2020

—

マキモノガイ

腹足綱 トウガタガイ目 インチドリ科

Leucotina diana (A. Adams, 1854)

【選定理由】 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化，特殊生息環境。1979年以前に県内では四日市，有滝，答志，尾鷲の水深10～30 mから分布記録がある。2014年に鳥羽市浦村沖で生貝1個体が採集された(図)。本県では伊勢湾湾口部の潮下帯で死殻は稀に採集されるが，干潟域では死殻もほとんど確認されない。また勢水丸の調査で2022年に伊勢湾湾口部で生貝が1個体確認されたが，生貝の記録は分布域全域でも非常に少ない。

【種概要】 殻長30 mmの紡錘形。螺層の周辺には強い螺肋をめぐらす。殻の色彩は白色。内湾では前述の小形個体が確認されているが，外洋の深い水深帯(水深100 m前後)から大形個体(殻長25 mm以上)の死殻が採集されている。

【分布】 日本，朝鮮半島に分布し，日本では大槌湾・新潟県～九州に分布する。

【現況・減少要因】 現況は選定理由参照。内湾域潮下帯の環境悪化が考えられる。

【文献】 3, 9, 19, 164, 167, 186.

(木村昭一)

(写真：鳥羽市浦村沖水深15 m ドレッジ，2014年，木村昭一採集)



三重県 2025

CR

三重県 2015

CR

環境省 2020

CR+EN

ヤマホトトギス

二枚貝綱 イガイ目 イガイ科

Arcuatula japonica (Dunker, 1857)

【選定理由】 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化。1979年以前に伊勢湾内2箇所，的矢湾1箇所の潮下帯より分布記録がある。近年鳥羽市，志摩半島で詳細な調査が行われているが，生浦湾，英虞湾の外洋水の影響の強い潮下帯アマモ場より生貝が採集されているが，個体数は非常に少ない。干潟で生息は確認されていない。他の海域特に伊勢湾沿岸では死殻も全く確認できない。近似種で絶滅危惧種のノジホトトギスより危機的な生息状況が確認され，今回カテゴリーがアップされた。

【種概要】 殻長30 mm，殻は薄く後方に広がる長方形。内湾域の潮間帯に多産するホトトギスガイに近似するが，本種は大成し，細長い。ノジホトトギスにも近似するが，本種の方が大形になり，赤褐色の波形模様が明瞭である。

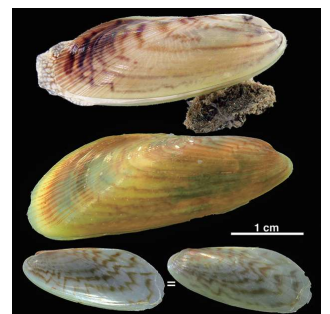
【分布】 房総半島から九州，沖縄本島，朝鮮半島，中国大陸に分布する。内湾の潮間帯から水深20 mの砂泥底に生息する。浜名湖や有明海では潮間帯のアマモ場で生きた個体が確認されている。

【現況・減少要因】 現況は選定理由参照。減少要因は干潟の減少，水質汚濁などが考えられる。

【文献】 3, 158, 164, 186, 236.

(木村昭一)

(写真：鳥羽市生浦湾水深2～3 m ドレッジ，2013年，木村昭一採集)



三重県 2025

EN

三重県 2015

VU

環境省 2020

NT

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

- 哺乳類
- 鳥類
- 爬虫類
- 両生類
- 汽水・淡水魚類
- 昆虫類
- クモ類
- 貝類
- 甲殻類
- その他動物
- 維管束植物
- 蘚苔類
- 藻類
- キノコ
- EX
- EW
- CR
- EN
- VU
- NT
- DD

ハンレイヒバリガイ (カラスノマクラ) 二枚貝綱 イガイ目 イガイ科
Modiolatus hanleyi (Dunker, 1882)

【選定理由】 個体群・個体数の減少、生息条件の悪化。1979年以前に伊勢湾内3箇所（ハンレイヒバリガイ、カラスノマクラでそれぞれ2箇所、1箇所は共通）の潮下帯より分布記録がある。この記録の根拠となる標本は今回の標本調査の限りでは見つかっていない。本種の記録には分類学的な混乱があり、ツヤガラスの幼貝を誤同定した例が認められた。本種と確実に同定できる三重県産標本は少なく、1960年以前に採集された標本がほとんどであった。近年の勢水丸による伊勢湾ドレッジ調査等でも死殻半片も採集されず、カテゴリーアップと評価された。

【種概要】 殻長45 mm。殻は薄く、後方に広がる長方形。殻表は小型の個体では金色を帯びた黄色で大型個体では茶褐色で光沢が強い。

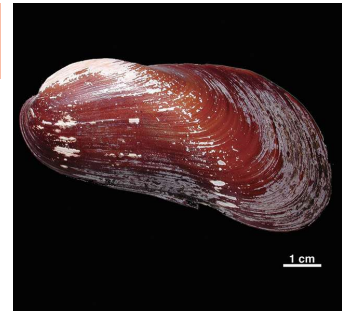
【分布】 東京湾から九州、インド・西太平洋に分布する。内湾の潮間帯から水深20 m程度の砂泥底に生息する。近年全国的に生貝の採集例が少なく、干潟で生息が確認されているのは瀬戸内海周防灘に限られた海域のみである。

【現況・減少要因】 現況は選定理由参照。減少要因は干潟の減少、水質汚濁などが考えられる。

【文献】 167, 186, 207, 236.

(木村昭一)

(写真：三重県鈴鹿市白子，1965年，宗方浩採集)



三重県 2025

EN

三重県 2015

VU

環境省 2020

CR+EN

コオキナガイ 二枚貝綱 ネリガイ目 オキナガイ科
Laternula anatina (Linnaeus, 1758)

【選定理由】 個体群・個体数の減少、生息条件の悪化。1979年以前に本種の記録はない。2004年に筆者らが英虞湾より本種の生息状況を初めて報告した。英虞湾内から南部のリアス式海岸に点在する小規模な内湾域を調査しているが、英虞湾内では死殻が確認できるが、他の海域では死殻も確認できない。現在も英虞湾最奥部の1箇所砂泥質干潟の潮間帯中部から下部で生息が確認されているだけである。年による個体数の変動はあるが、健全な個体群が現在も確認されている。生息域の面積は非常に小さく、陸域に近いため、護岸工事や宅地造成などが大きな脅威である。三河湾では1965年に採集された生貝標本が記録されているが、現在は生息が確認されず絶滅した。現在英虞湾が本種の分布の北・東限と考えられる。

【種概要】 殻長40 mm、殻はやや長い卵形、白色薄質で殻表には微細な顆粒状突起がある。殻の前・後端は開き、水管は太い。前述の生息地には近似種のソトオリガイも生息しているが、本種は殻が全体に丸みが強く、短く、二枚の殻をつなぐ蝶番の構造に相違があるので、明瞭に識別できる。オキナガイにも近似するが、生息環境は、オキナガイが外洋に面した干潟の低潮線から潮下帯の砂泥底を好み内湾奥の泥質干潟には生息しないこと、オキナガイの殻は本種より通常大型になり、殻後端がやや細く水管状にくびれること、オキナガイの殻質は、白濁して不透明な本種に比較して透明感が強く、さらに薄質であることから容易に識別できる。

【分布】 房総半島から南西諸島、中国大陸に分布する。相模湾（三浦半島）、三河湾、伊勢湾では絶滅状態で、前述のように現在、国内で生息が確認されているのは、英虞湾、瀬戸内海の一部、有明海、九州西岸の一部に限られ、かつて比較的生息地の多かった、南西諸島では埋め立てなどで多くの個体群が消滅し、現在生息地はほとんど残されていない。

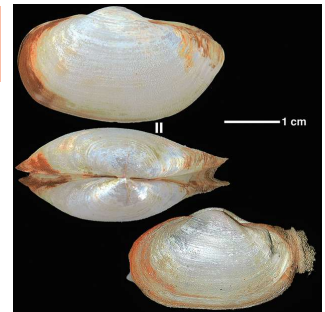
【現況・減少要因】 現況は選定理由参照。減少要因については、本種の生息場所が陸域に近く、埋め立て、護岸工事などによる干潟の消失が大きな影響を及ぼしていると考えられる。

【保護対策】 英虞湾の生息地では、三重大学生物資源学部海洋生態学研究室による年2回以上のモニタリング調査が行われている。また志摩市主催による市民干潟調査としての英虞湾いきもの調査隊事業により年1回モニタリング調査が行われている。この調査は2010年から行われていて、本生息地の環境保全の指針を提供している。

【文献】 2, 157, 158, 236.

(木村昭一・木村妙子)

(写真：英虞湾，2003年，木村昭一採集)



三重県 2025

EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

CR+EN

ノムラスエモノガイ

二枚貝綱 スエモノガイ目 スエモノガイ科

Trigonothracia pusilla (Gould, 1861)

【選定理由】 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化。1979年以前に県内では分布記録の記録はないが，2013年に鳥羽市から記録された（本種の三重県からの初記録）。それ以降も東海地方全域で本種の記録はないが，鳥羽市生浦湾では潮下帯から少数の生貝と死殻が採集されている。シナヤカスエモノガイより小形で見つかりにくい可能性もあるが，個体数は遙かに少ない。また本種は内湾寄りに分布し，生息域が明らかに狭い。

【種概要】 殻長10 mm，殻は卵円形で膨らみは弱く後方へ狭くなり，後端は裁断状。両殻をつなぐ殻帯を持ち，弾帯受（図→）は小さい。出入水管は白色。殻は薄質で白色，縁部が赤褐色の殻皮で覆われる個体が多い。

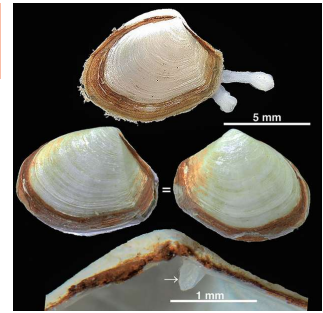
【分布】 北海道から九州の内湾の細砂泥底に生息する。鳥羽市では生浦湾奥部，鏡浦の潮下帯のシルト分の多い砂泥底から少数の生貝が確認された。

【現況・減少要因】 現況は選定理由参照。内湾域潮下帯の環境悪化が著しいことが減少要因と考えられる。

【文献】 19, 154, 164, 186.

(木村昭一)

(写真：鳥羽市鏡浦水深2 m ドレッジ，2012年，木村昭一採集)



三重県 2025

EN

三重県 2015

—

環境省 2020

—

イセシラガイ

二枚貝綱 ツキガイ目 ツキガイ科

Pegophysema bialata (Pilsbry, 1895)

【選定理由】 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化。1979年以前に伊勢湾から県南部の3箇所の内湾域の潮下帯から分布記録がある。現在伊勢湾湾口部から南部の小規模な内湾域の干潟や潮下帯から成貝の古い死殻破片は割合広範囲で採集される。合併の新しい死殻は，伊勢湾湾口部，紀伊長島町で採集されているにすぎない。2012年鳥羽市生浦湾最奥部の水深2 mの泥底より生貝（殻長20 mm以下の幼貝：図右）1個体が採集された。東海地方で生貝が確認されたのは，2008年の名古屋港沖に次ぐ記録である。

【種概要】 殻長80 mm，やや扁平な球形。殻は大きい薄質で脆い。死後間もない殻や生貝の殻表は黄褐色の殻皮で被われる。底質に深く埋没して，強力な斧足で硫化水素を巻き上げ，鰓内に硫酸化細菌を共生させている。

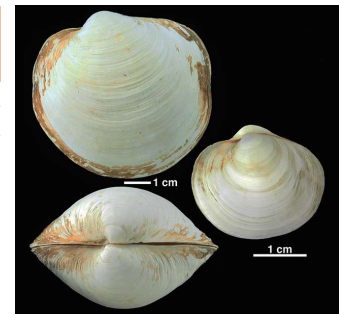
【分布】 北海道南部から九州，朝鮮半島，中国，インドに分布する。生貝の採集例は非常に少ない。

【現況・減少要因】 現況は選定理由参照。減少要因については，干潟の減少，水質汚濁などの理由だけでは説明が難しい。

【文献】 2, 83, 135, 143, 164, 186, 236.

(木村昭一)

(写真：左：死殻，右：生貝，鳥羽市生浦湾水深2 m ドレッジ，2012年，秀島佑典採集)



三重県 2025

EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

CR+EN

コヅツガイ

二枚貝綱 ツクエガイ目 ツクエガイ科

Eufistulana grandis (Deshayes, 1855)

【選定理由】 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化。1979年以前に伊勢湾2箇所の潮下帯から分布記録がある。現在伊勢湾中部から湾口部で稀に棲管が打ち上げ採集され，潮下帯から棲管や死殻が稀に採集されるが生息は確認できない。勢水丸のベントスネットで2014年に答志島北沖から，棲管と共にその中に保存された死後間もない殻が採集され，ドレッジ調査で2022年に伊勢湾湾口部から死後間もない棲管が採集され，現在も生息していると判断された。

【種概要】 殻長40 mmで殻は白色で長方形。全長100 mmを越える細長い石灰質の棲管を分泌してその中に生息する。棲管は先端部分を残して，底質中にほぼ垂直に埋もれる。

【分布】 房総半島から南西諸島，インド，太平洋に分布する。沖縄本島では干潟と潮下帯に健全な個体群が確認されているが，近年本州から九州で生貝が採集された記録は瀬戸内海（兵庫県，岡山県）以外にはない。

【現況・減少要因】 現況は選定理由参照。干潟の消失，水質汚濁などが減少要因と考えられる。本種は棲管が底質に定着すれば，その後の移動ができない（足が棲管の外に出ない）と考えられ，無酸素水塊の発生や底質環境の悪化を避けることが難しいと考えられる。

【文献】 2, 10, 132, 135, 164, 167, 186, 235, 236.

(木村昭一)

(写真：答志島北沖水深29~38m 勢水丸ベントスネット，2014年，木村昭一採集)



三重県 2025

EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

NT

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

藓苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蘚苔類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

オオマテガイ

Solen grandis Dunker, 1862

二枚貝綱 マテガイ目 マテガイ科

【選定理由】 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化．1979年以前に伊勢湾 2箇所，答志の水深20 mから分布記録がある．1975年春，二見町から鳥羽市北部にかけての海岸で夥しい量の大型の合弁死殻（図）が打ち上げられていた．その後1980年代よりほとんど死殻も採集されなくなり，目立つ大型種であるが，現在県下で死殻が採集される海域も確認されていない．本種は鳥羽市だけでなく三重県から絶滅した可能性もある．

【種概要】 殻長120 mmと大型，細長い長方形の殻を持つ．生貝や死後間もない死殻では，殻表は光沢の強い黄褐色の殻皮で覆われる．潮間帯下部から潮下帯の底質に深く穿孔している．

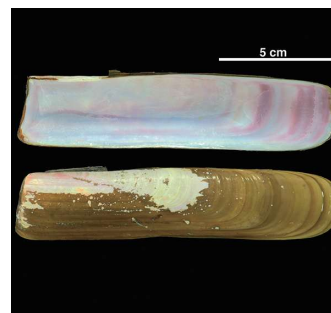
【分布】 房総半島から九州，東南アジアに分布する．九州，瀬戸内海西部では食用として採集されているが，東海地方では生息地は著しく少なく，静岡県浜名湖の潮間帯下部より生貝が採集された例がある．

【現況・減少要因】 現況は選定理由参照．干潟の消失，水質汚濁などが減少要因と考えられる．

【文献】 19, 158, 164, 186.

(木村昭一)

(写真：伊勢市二見浦海岸 打ち上げ，1975年，木村妙子採集)



三重県 2025

EN

三重県 2015

—

環境省 2020

—

ダンダラマテガイ

Solen kurodai Habe, 1964

腹足綱 マテガイ目 アッキガイ科

【選定理由】 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化．本種は新種記載時に三河湾産の標本が使用された．原記載以来，愛知，三重県，三河湾，伊勢湾，渥美外海において生貝が採集された記録はない．2000年代以降，渥美外海で操業するトロール漁業や鳥羽市沖からのドレッジ調査で古い死殻が極めて稀に採集されているが，前種と同様，本種も三重県だけでなく東海地方から絶滅した可能性もある．

【種概要】 殻長50 mm，殻は前後に著しく延長した長方形で，膨らみは弱い．殻はやや薄く，両端は裁断状となる．殻の後部には後端と平行な赤色の条線がある．

【分布】 日本固有種．房総半島以南から九州まで分布する．東海地方では著しく稀な種であるが，神奈川県三浦半島では，比較的普通に生貝を含めて死後間もない殻が打ち上げられて採集される．

【現況・減少要因】 現況は選定理由参照．水質汚濁などが減少要因と考えられる．

【文献】 3, 16, 19, 164, 186.

(木村昭一)

(写真：上：神奈川県逗子市 打ち上げ，2003年，下：渥美半島伊良湖沖 小型底引き網漁，2016年，木村昭一採集)



三重県 2025

EN

三重県 2015

—

環境省 2020

—

バラフマテガイ

Solen roseomaculatus Pilsbry, 1901

二枚貝綱 マテガイ目 マテガイ科

【選定理由】 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化．1979年以前に県内では有滝，的矢，紀伊長島の水深50 mから分布記録がある．最近，鳥羽市沖，紀伊長島港から生貝が数個体採集されているが，その他三重県全域から生貝の採集記録はなく，死殻も希少である．近年，瀬戸内海では健全な個体群が確認されているが，東海地方では紀伊長島港以外で生貝が採集されていない．鳥羽市生浦湾では，2010年には色彩の残存した半片死殻が大量に採取された調査地点が存在したので，近年の著しい減少傾向と考えられる．垂直分布，分布域が広いが，絶滅の可能性が高い種と言える．

【種概要】 殻長50 mm，背側縁が背方向にそり，殻表に赤色の斑紋がある．軟体部は淡黄褐色で，足部には褐色の小斑が散在する．

【分布】 房総半島以南，中国大陸，インド・西太平洋に分布記録がある．分布域が非常に広いが，海外の分布は，日本では南西諸島に分布するジャングサマテガイもしくは近似の別種と混同されている可能性がある．

【現況・減少要因】 現況は選定理由参照．特に東海地方における減少要因は，干潟の減少，水質汚濁などの理由だけでは説明が難しい．

【文献】 3, 154, 161, 164, 186, 236.

(木村昭一)

(写真：上2：鳥羽市沖水深20～30m，佐藤達也採集，下：紀伊長島港，2023年，木村昭一・木村妙子採集)



三重県 2025

EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

NT

オウギウロコガイ

二枚貝綱 ウロコガイ目 ウロコガイ科

Galeommella utinomii Habe, 1958

【選定理由】 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化，希少。2008年に鳥羽市より採集記録がある（生死は不明）。近年愛知県では生息地が4箇所発見されているが，三重県内では鳥羽市内の2箇所で生息が確認されているにすぎない。元々希少な種であるが，良好な内湾域のアマモ場周辺に生息していることが多く，埋もれた石の下に潜んでいることもある。本種が生息する海域は貝類多様性が高い場合が多い。

【種概要】 殻長10 mm，殻は白色半透明で薄く脆い。殻表全面には低い放射肋が26本程度ある。外套膜が殻を覆い，先端部が鮮やかな赤色の細長い突起が前後に数本ずつ伸びる。生時は外套膜の突起を揺らしながら斧足で匍匐し，甲殻類に擬態しているのかも知れない。

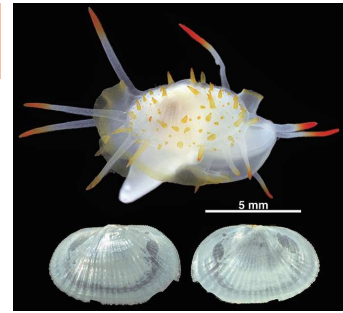
【分布】 東京湾から九州に分布し，日本固有種の可能性が高い。浜名湖は一時的に健全な個体群が確認されたが，近年では本種の生息を確認できない。

【現況・減少要因】 現況は選定理由参照。干潟の消失，水質汚濁などが減少要因と考えられる。

【文献】 3, 155, 164, 221, 236.

(木村昭一)

(写真：鳥羽市生浦湾水深3 m ダイビング，2015年，佐藤達也採集)



三重県 2025

EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

CR+EN

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

藓苔類

藻類

キノコ

イソカゼ

二枚貝綱 ウロコガイ目 イソカゼ科

Basterotia gouldi (A. Adams, 1864)

【選定理由】 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化，特殊生息環境。1979年以前に県内では分布記録がないが，鳥羽市より2004年に生死不明の採集記録がある。鳥羽市を含む伊勢湾南部から湾口部の潮下帯より死後間もない死殻半片は比較的普通に採集されるが，合弁の死殻や生貝は採集されない。本種はミドリユムシ類の巣穴内に生息していて，かつ死殻の両殻が分離しやすい特徴があるので，生貝や合弁死殻が得られにくい可能性がある。いずれにしても生貝が確認できない状況は危機的生息状況と判断される。

【種概要】 殻長10 mm，殻は白色で卵円形，殻頂は前方へ曲がり，後背縁は湾曲する。殻表には微細な顆粒が散在し，灰褐色の殻皮で覆われる。

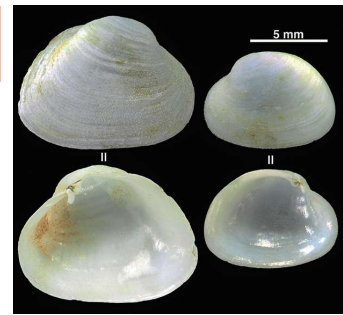
【分布】 房総半島，男鹿半島～九州の潮間帯から水深40 mの砂泥底に生息する。日本固有種の可能性が高い。浜名湖は一時的に健全な個体群が確認され，ホストとの共生も観察されたが，近年では本種の生息を確認できない。

【現況・減少要因】 現況は選定理由参照。内湾域潮下帯の環境悪化，ホストの減少が本種の減少要因と考えられる。

【文献】 3, 155, 164, 167, 221, 236.

(木村昭一)

(写真：答志島北沖水深20 m 勢水丸ベントスネット，2014年，木村昭一採集)



三重県 2025

EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

CR+EN

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

ヒシガイ

二枚貝綱 ザルガイ目 ザルガイ科

Fragum carinatum (Lyngbe, 1909)

【選定理由】 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化。1979年以前に英虞湾の1箇所の干潟から潮下帯より分布記録がある。近年鳥羽市生浦湾，市南部の干潟で古い死殻は採集されているが，生息が確認できない。県内で生息が確認されていたのは英虞湾中部の数箇所の狭い範囲にすぎない。この数少ない生息地でも生息確認ができない期間が続き，危機的生息状況である。これを受けて今回絶滅危惧上位カテゴリーと評価された。現在でも英虞湾の湾奥部から中央部にかけての潮間帯から潮下帯では，比較的新しい死殻半片が採集されているので，生息している可能性は高いと考えられる。

【種概要】 殻長10 mm。殻は四角形厚質で堅固。殻表には瘤状突起が並ぶ20本前後の太い放射肋がある。

【分布】 東京湾から九州，奄美大島，台湾，タイに分布する。外洋水の影響のある内湾の干潟から水深10 m程度の砂泥底に生息する。近年玄界灘及び周防灘の一部から個体群の消滅が報告された。現在全国的に生貝の採集例が少なく，英虞湾は分布の北・東限と考えられる。

【現況・減少要因】 現況は選定理由参照。減少要因は干潟の減少，水質汚濁などが考えられる。

【文献】 157, 163, 164, 186, 236, 278.

(木村昭一)

(写真：鳥羽市南部入江潮間帯下部，2011年，木村昭一採集)



三重県 2025

EN

三重県 2015

VU

環境省 2020

VU

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蘚苔類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

フルイガイ

二枚貝綱 ドブシジミ目 アサジガイ科

Semele cordiformis (Holten, 1802)

【選定理由】 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化。1979年以前には英虞湾から県南部の内湾域の4箇所の潮間帯から潮下帯より分布記録がある。現在，英虞湾の1箇所でのみ生息が確認されているが，合弁死殻を含めても個体数は非常に少ない。県南部の内湾域にも生息している可能性があるが，現在死殻すら確認できない。

【種概要】 殻長50 mm，類円形でやや厚く，膨らみは弱い。殻頂は背縁のほぼ中央部にある。殻表は同心円細肋と放射状の溝で布目状。

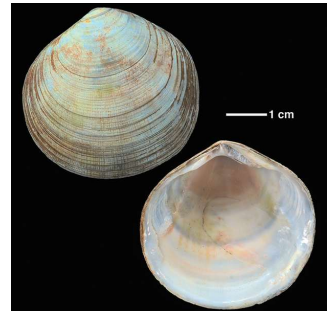
【分布】 房総半島から九州，中国大陸，東南アジアに分布する。外洋水の影響の強い内湾の岩礁の間に溜まった砂礫底に生息する。英虞湾が本種の現在の北限分布地と考えられる。本種は，ケマンガイと同所的に生息していることがあるが，個体数は非常に少ない。現在九州の一部に数箇所の健全な個体群が残されているにすぎない。

【現況・減少要因】 現況は選定理由参照。非常に急激な減少要因については，干潟の減少，水質汚濁などの理由だけでは説明が難しい。

【文献】 46, 236.

(木村昭一・木村妙子)

(写真：英虞湾潮間帯，2015年，木村昭一採集)



三重県 2025

EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

CR+EN

ズングリアゲマキ

二枚貝綱 ドブシジミ目 キヌタアゲマキ科

Azorinus abbreviatus (Gould, 1861)

【選定理由】 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化。1979年以前に県内では四日市，有滝，五ヶ所，古和浦，尾鷲の水深10～30 mから分布記録がある。近年，三重県全域から生貝の採集記録はなく，殻皮が保存された死殻でさえほとんど採集できない。本種の殻皮の残存していない古い死殻は近年でも伊勢湾奥から採集されるので，かつては内湾奥にも生息していたと考えられる。垂直分布を含めて，分布域が外洋に面したリアス海岸に立地する小規模な内湾にまで及び広いので，絶滅とは判断されなかったが，絶滅の可能性が高い種と考えられる。

【種概要】 殻長40 mm，殻は前後に長い丸みのある方形。殻は薄質，白色で，膨らみは弱い。生時や死後間もない殻では，黄緑褐色の殻皮で覆われるが，殻皮は剥がれやすく老成個体ではその傾向が強い。

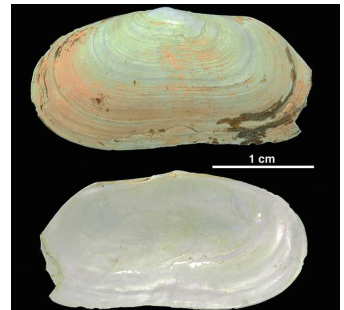
【分布】 岩手県・男鹿半島～九州，中国大陸の潮下帯に分布する。福岡県福岡町で絶滅した例が報告されている。

【現況・減少要因】 現況は選定理由参照。内湾域潮下帯の環境悪化が減少要因と考えられる。

【文献】 19, 164, 167, 186, 278.

(木村昭一)

(写真：答志島北沖水深20 m 勢水丸ベントスネット，2014年，木村昭一採集)



三重県 2025

EN

三重県 2015

—

環境省 2020

—

アリソガイ

二枚貝綱 マルスダレガイ目 バカガイ科

Coelomactra antiquate (Spengler, 1802)

【選定理由】 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化。1979年以前に伊勢湾3箇所，県南部の1箇所の内湾域の潮下帯から分布記録がある。目立ちやすい大型種であるにも関わらず，現在伊勢湾中部で新鮮な死殻が少数打ち上げられる程度で，生貝(図)は極めて稀産。本種は伊勢湾湾口部より外洋域にも個体群が存在したが，近年全く確認できない。

【種概要】 殻長120 mmに達する大型二枚貝。いわゆるハマグリ型の貝殻で殻頂部は紫青色で，放射線はない。大型であることとその色彩から死殻でもよく目立つ種である。

【分布】 房総半島から九州，朝鮮半島，中国大陸，東南アジアに分布する。徳島県，宮崎県には多産地，相模湾や日本海西部では生息が確認されている。しかし，近年かつての多産海域であった三河湾，伊勢湾からほとんど姿を消した。

【現況・減少要因】 現況は選定理由参照。環境悪化が著しい内湾域のみならず外洋域でも著しい減少が認められ，減少要因については不明。

【文献】 2, 164, 167, 186, 236.

(木村昭一)

(写真：津市河芸町(台風後打ち上げ採集)，2017年，締次美穂採集)



三重県 2025

EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

VU

ユキガイ

二枚貝綱 マルスダレガイ目 バカガイ科

Meropesta nicobarica (Gmelin, 1791)

【選定理由】 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化。1979年以前には県南部の内湾域の箇所潮下帯より分布記録がある。現在では英虞湾の2箇所でのみ生息が確認されているが個体数は非常に少ない。県南部の内湾域にも生息している可能性があるが，現在古い死殻すらほとんど確認できない。

【種概要】 殻長50 mm，殻は白色卵形で薄く，後端は開く。殻表はやや強い放射肋で被われる。水管は太く長く，殻長の2倍以上に伸展する。

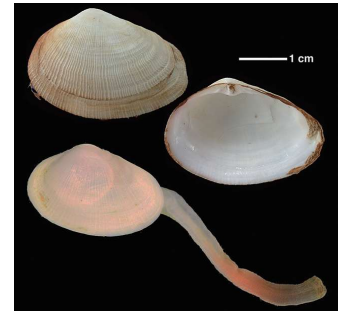
【分布】 房総半島から南西諸島，インド・太平洋に分布する。外洋水の影響のある内湾奥のアマモ場周辺の泥質干潟に深く穿孔する。伊勢湾以北ではほぼ絶滅状態で，死殻すら確認できない。英虞湾が本種の現在の北限分布地と考えられる。

【現況・減少要因】 現況は選定理由参照。非常に急激な減少要因については，干潟の減少，水質汚濁などの理由だけでは説明が難しい。

【文献】 2, 157, 186, 236.

(木村昭一・木村妙子)

(写真：英虞湾，2023年，木村昭一・木村妙子採集)



三重県 2025

EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

NT

ヤチヨノハナガイ

二枚貝綱 マルスダレガイ目 イソカゼ科

Raeta pellicula (Reeve, 1854)

【選定理由】 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化。1979年以前に伊勢湾3箇所の潮下帯から分布記録がある。2016年に伊勢湾奥部の名古屋港沖で1個体生貝が採集された。現在伊勢湾中部から湾口部で稀に新鮮な死殻破片が打ち上げ採集される。潮下帯から死殻半片が採集されるが生息は確認できない。近年の鳥羽市内調査では，内湾奥部で死殻が確認され，生貝は生浦湾湾口部より数例確認された。県内では鳥羽市以外で生貝が記録された例はない。

【種概要】 殻長50 mm，殻は白色半透明できわめて脆く破損しやすい。殻質は非常に薄く生貝では軟体部が透過される。湾内の還元状態の砂泥底に多産するチヨノハナガイに近似するが，本種の殻は遙かに大成し，小形の標本(図)でも殻の透明度が高く，殻表の輪肋が細かく多いので識別は明確である。

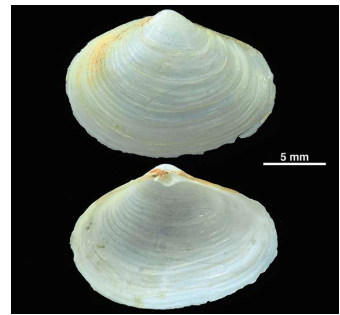
【分布】 福島県から九州，朝鮮半島，中国大陸，台湾，東南アジアに分布する。干潟から潮下帯の砂泥底に分布するが，生貝の採集例はきわめて稀である。瀬戸内海では近年生貝の記録がある。

【現況・減少要因】 現況は選定理由参照。干潟の消失，水質汚濁などが減少要因と考えられる。

【文献】 2, 3, 136, 164, 167, 186, 236.

(木村昭一)

(写真：鳥羽市小浜沖水深5 m 蛸壺漁，2016年，木村昭一採集)



三重県 2025

EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

CR+EN

ヒナミルガイ

二枚貝綱 マルスダレガイ目 ザルガイ科

Macrotoma depressa Spengler, 1802

【選定理由】 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化。1979年以前に県内では分布記録はなく，鳥羽市レッドデータブックが本種の県下よりの初めての正式な記録となった。本種はミルクイの幼貝と混同され記録がなかった可能性がある。近年，伊勢湾中部から湾口部で稀に死殻が採集され，2020年鳥羽市から生貝も確認されている。

【種概要】 殻長40 mm，殻は白色でやや薄質であるが，殻表は黄緑褐色の厚い殻皮で覆われる。殻頂から後腹隅に稜角が走る。ミルクイの幼貝とやや近似するが，ミルクイは水管が入り出る殻後縁部分が水管にそって湾曲するのに対して，本種の後縁部(図下段右)は湾曲せず直線状。また，弾帯受は腹側に突出しない点(図中段)でもミルクイとは識別される。水管は黄白色で太く長い。

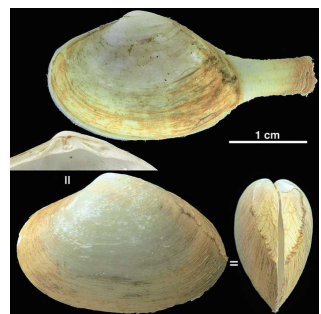
【分布】 房総・男鹿半島から九州，小笠原，インド・太平洋に分布する。低潮線から潮下帯の砂泥底に分布するが，採集記録は稀。分布域は広いが，海外の分布は，近似の別種と混同されている可能性がある。

【現況・減少要因】 現況は選定理由参照。内湾域の無酸素水域の拡大，水質汚濁などが考えられる。

【文献】 19, 164, 186, 236, 254.

(木村昭一)

(写真：鳥羽市浦村入江 水深0.5 m，2022年，木村昭一採集)



三重県 2025

EN

三重県 2015

DD

環境省 2020

VU

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

藓苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蘚苔類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

フスマガイ

二枚貝綱 マルスダレガイ目 マルスダレガイ科

Clementia papyracea (Gmelin, 1791)

【選定理由】 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化，希少。1979年以前に県内では四日市，有滝の水深20～30 mから分布記録がある。本種は内湾域から水深100 m程の外海にも生息している。渥美外海で操業する底引網漁で稀に生貝が混獲される。伊勢湾，三河湾では死殻半片しか採集できず，その個体数も著しく少ない。伊勢湾湾口部の鳥羽市からも死殻は稀に採集されているが，生息は確認できない。近年内湾域からの採集記録は英虞湾中央部からの生貝（幼貝）2個体だけである。

【種概要】 殻長80 mm，殻質はやや薄く白色，生時殻表は薄い淡褐色の殻皮で覆われる。膨らみが強く，殻頂部は高くなり，成長脈は強く波打つ。

【分布】 房総半島以南，台湾，朝鮮半島，潮間帯から水深100 m砂泥底に生息する。南西諸島に分布するカミブスマとの分類学的な再検討が必要である。

【現況・減少要因】 現況は選定理由参照。内湾域の無酸素水域の拡大，水質汚濁などが考えられる。

【文献】 3, 19, 164, 186.

(木村昭一)

(写真：鳥羽市生浦湾水深10 m ドレッジ，2012年，木村昭一採集)



三重県 2025

EN

三重県 2015

環境省 2020

ヤタノカガミ

二枚貝綱 マルスダレガイ目 マルスダレガイ科

Dosinia troscheli Lischke, 1873

【選定理由】 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化，希少。1979年以前に県内では津，有滝，紀伊長島の水深10～30 mから分布記録がある。1980年代には鳥羽湾で生貝の採集記録があるが，近年，三重県全域から生貝の採集記録はなく，合弁の死殻もほとんど採集できない。現在でも死殻半片は菅島から石鏡沖の水深30～80 mの海域で少数採集される。近年愛知県でも合弁の死殻が採集された。

【種概要】 殻長50 mm，殻は円形で膨らみはやや強く，小月面および楕面は白色。殻質は，同大のカガミガイと比べてやや薄質。通常淡い赤褐色の放射線がある。マルヒナガイとは殻の膨らみ，小月面および楕面の色彩等で明確に識別される。

【分布】 遠州灘～九州の潮間帯から潮下帯の砂底に分布するとされているが，瀬戸内海以外からの採集記録は非常に少ない。県下ではマルヒナガイと共に湾口部から内湾に生息する種であるが本種の方が内湾寄りに分布するようである。

【現況・減少要因】 現況は選定理由参照。内湾域の無酸素水域の拡大，水質汚濁などが考えられる。

【文献】 19, 119, 125, 164, 186.

(木村昭一)

(写真：鳥羽市小浜沖水深10 m カレイ底刺網漁，1984年，木村昭一採集)



三重県 2025

EN

三重県 2015

DD

環境省 2020

マルヒナガイ

二枚貝綱 マルスダレガイ目 マルスダレガイ科

Dosinia aff. troscheli Lischke, 1873

【選定理由】 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化，希少。1979年以前に県内では有滝，和具，新鹿の水深10～30 mから分布記録がある。1980年代には鳥羽湾で生貝の採集記録があり，英虞湾湾口部ではバカガイ漁に比較的普通に混獲されていたが，近年三重県全域から生貝の採集記録はない。現在でも死殻（半片）は菅島から石鏡沖の水深30～80 mの海域で少数採集される。近年愛知県でも合弁の死殻が採集された。

【種概要】 殻長40 mm，殻は円形で膨らみは弱く，小月面および楕面は赤褐色。殻質は薄質で通常淡い赤褐色の放射線がある。ヤタノカガミとは殻の膨らみ，小月面および楕面の色彩等で明確に識別される。

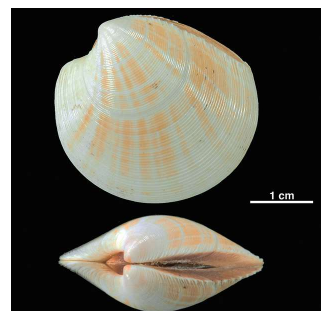
【分布】 遠州灘～九州の潮間帯から潮下帯の砂底に分布するとされているが，瀬戸内海以外からの採集記録は非常に少ない。県下ではヤタノカガミと共に湾口部から内湾に生息する種であるが本種の方が外洋寄りに分布するようである。

【現況・減少要因】 現況は選定理由参照。内湾域の無酸素水域の拡大，水質汚濁などが考えられる。

【文献】 19, 119, 125, 164, 186.

(木村昭一)

(写真：鳥羽市小浜沖水深10 m カレイ底刺網漁，1984年，木村昭一採集)



三重県 2025

EN

三重県 2015

環境省 2020

ウスハマグリ

二枚貝綱 マルスダレガイ目 マルスダレガイ科

Aphrodora kurodai (Matsubara, 2007)

【選定理由】 個体群・個体数の減少、生息条件の悪化。和名としてのウスハマグリ（学名は異なる）は1979年以前に伊勢湾湾口部から県南部の水深30～50 mの海域3か所から分布記録がある。本種は比較的多くの近似種があり、分類学的にも混乱していて、本種としてはやや水深帯が深く、正確に同定された記録かどうかは検討を要す。近年、本県で生貝が採集されているのは鳥羽市生浦湾の潮下帯からのみである。個体数は非常に少ない。

【種概要】 殻長30 mm、殻は膨らみが強いハマグリ型。殻質はうすく白色、殻頂部は淡橙桃色。生時は殻表が砂粒で被われている個体が多い。

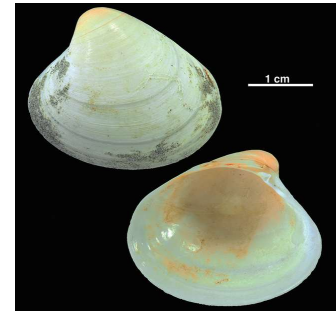
【分布】 福島県から九州、海外からも記録があるが、本種と同種であるかどうかは検討を要する。生貝の採集例は非常に少ない。徳島県では打ち上げで、長崎県では潮干狩りで採集される事があるが、鳥羽市での採集例は全て潮下帯の砂泥底からドレッジで採集されている。

【現況・減少要因】 現況は選定理由参照。内湾域潮下帯の環境悪化が著しいことが減少要因と考えられる。

【文献】 83, 163, 164, 186, 236.

(木村昭一)

(写真：鳥羽市生浦湾水深10 m ドレッジ, 2013年, 木村昭一採集)



三重県 2025

EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

CR+EN

ウミタケ

二枚貝綱 オオノガイ目 ニオガイ科

Barnea japonica (Yokoyama, 1920)

【選定理由】 個体群・個体数の減少、生息条件の悪化。1979年以前に県内では津、有滝の水深5 mから分布記録がある。かつては房総半島以南の内湾から記録されていたが、有明海以外での生息記録はほとんどない。1997年三重大学実習船勢水丸のベントス調査によって伊勢湾湾口部（水深12 m）で死殻破片、名古屋港沖で2008、2009年に死殻破片が数個体採集され、2009年に愛知県汐川干潟で生貝2個体が採集された。近年、鳥羽市の潮下帯から死殻破片は稀に採集されるが、生貝は確認されていない。

【種概要】 殻長80 mm、殻質は薄く脆い。殻の膨らみは強い。殻は白色、生きている時はやや厚い殻皮を被る。殻後端は斜めに裁断状で両端とも大きく開く。後域にはやや長く強い棘が並ぶ。

【分布】 房総半島以南、瀬戸内海、有明海、朝鮮半島、ロシア日本海沿岸、中国大陸の干潟から潮下帯の泥分の多い砂泥底に分布する。

【現況・減少要因】 現況は選定理由参照。内湾域潮下帯の環境悪化が著しいことが減少要因と考えられる。

【文献】 83, 164, 186, 236, 237.

(木村昭一)

(写真：上：鳥羽市生浦湾水深10 m ドレッジ, 2013年, 下：有明海（福岡県柳川市）, 木村昭一採集)



三重県 2025

EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

VU

セムシマドアキガイ

腹足綱 スカンガイ目 スカンガイ科

Rimula cumingii A. Adams, 1853

【選定理由】 個体群・個体数の減少、生息条件の悪化、希少、特殊生息環境。本種は2021年に鳥羽市石鏡沖のドレッジ調査で初めて三重県下から記録された。その後鳥羽市浦村の潮間帯の調査でも死殻が採集されている。内湾湾口部の礫干潟で砂に埋もれた転石下の還元的な環境に生息する。死後間もない殻の状態から、現在も生息していると考えられるが、近年前述した特殊生息環境の調査も精力的に行われているが、本種の生貝が確認できない。絶滅の可能性が高い種であると考えられる。

【種概要】 殻長5 mm、殻は小さな笠型、背面前方に細長い孔があるが、近似種のマドアキガイが肋間に有るのに対し、本種は肋上にある。

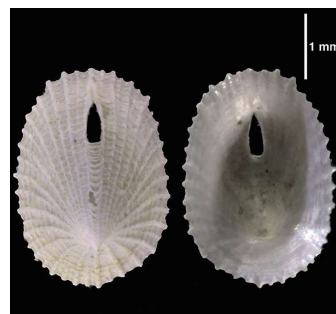
【分布】 茨城県北部・佐渡から九州西岸、小笠原父島に分布する。瀬戸内海（山口・香川県など）では健全な個体群が認められている。

【現況・減少要因】 現況は選定理由参照。干潟の減少、内湾域潮間帯の環境悪化が著しいことが減少要因と考えられる。特に埋もれた転石下の還元的な環境は有機物の堆積や水質の富栄養化により、破壊されやすい。

【文献】 19, 120, 164, 186.

(木村昭一)

(写真：鳥羽市浦村入江 水深0.5 m, 2022年, 木村昭一採集)



三重県 2025

EN

三重県 2015

DD

環境省 2020

VU

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

藓苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蘚苔類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

イボキサゴ

腹足綱 ニシキウズ目 ニシキウズガイ科

Umbonium moniliferum (Lamarck, 1822)

【選定理由】 個体群・個体数の減少、生息条件の悪化。1979年以前に県内では津、東黒部、引本の潮間帯から水深10 mから分布記録がある。一時期県下内湾域から姿を消していたが、近年明らかな回復傾向が認められた。生息場所や年による変動も大きい。伊勢湾中部沿岸の干潟でまとまった個体数の生貝が確認された。鳥羽市でも2014年頃、生浦湾を中心にアマモ場周辺の砂泥底で普通に生息が確認された。しかし、最近数年は再び減少傾向にある。この様な回復傾向から今回カテゴリーダウンと評価された。

【種概要】 殻径15 mmのそろばん玉型、殻は厚く周辺は丸い。外洋の砂浜に生息するキサゴと酷似するが、殻が小さく、殻が高い（殻径に対する殻長の割合が大きい）個体が多く、臍部の滑層が大きい点で区別できる。

【分布】 東北地方から九州、韓国南部に分布する。浜名湖、瀬戸内海中西部には健全な個体群が確認されている。

【現況・減少要因】 現況は選定理由参照。干潟の消失、水質汚濁などが減少要因と考えられる。

【文献】 3, 164, 186, 236.

(木村昭一)

(写真：鳥羽市生浦湾水深1 m ダイビング、2014年、佐藤達也採集)



三重県 2025

EN

三重県 2015

CR

環境省 2020

NT

ツバサコハクカノコ

腹足綱 アマオブネ目 コハクカノコ科

Neritilia mimotoi Kano, Sasaki, & Ishikawa, 2001

【選定理由】 個体群・個体数の減少、生息条件の悪化、特殊生息環境。三重県では2009年に初めて南部の小河川の河口域（汽水域）で生息が確認された。周囲に地下水の滲み出しが認められる浅い水たまりのような河川床に半ば埋もれた石の下面に生息し、陸上からの土砂などが流れ込むと生息できなくなる。愛媛県宇和島市では井戸水から採集された。県内での生息場所は現在のところ2箇所、内1箇所では現在も生息が確認されているが、上述の生息環境が残された小河川の数m²程度の非常に狭い範囲でのみ生息が確認され、かつその範囲内で本種の付着している石は限られている。

【種概要】 最大個体の殻径は3.9 mmで、原記載では最大個体の殻径が2.88 mmであるので、三重県産の個体群は大形になる傾向があるようである。大形の個体は殻口が左右方向に急激に広がり、和名の由来となる翼状突起が発達する。蓋は石灰質。軟体部全体は白色半透明で、触角は長く殻径とほぼ同じ長さまで伸張する（図）。

【分布】 タイプ産地は鹿児島県上甕島の貝池で、宮崎県、高知県（当初コハクカノコ属の1種として報告）、愛媛県で生息地が記録されている。和歌山県紀ノ川河口域では打ち上げられた砂中より、未成貝の死殻が1個体だけ採集されている。2012年静岡県静岡市の河口域からもイガカノコ、フネアマガイの北進記録と共に生息が記録された。静岡県静岡市が現在の本種の分布東限及び北限である。本属中では最も北方に分布する種で、現在まで日本近海の温帯域でのみ生息が確認されている。比較的分布は広いが各県とも1～2箇所程度の生息地点数で、生息地における個体数も多くない。高知県では新種記載前に絶滅危惧種としてレッドデータブックに掲載された。なお三重県では2013年に県南部で2箇所目の生息地が発見された。

【現況・減少要因】 現況は選定理由参照。河川の水質の富栄養化、河川上流域の森林環境の悪化に伴う土砂の流入などの河川環境の悪化が大きな減少要因と考えられる。

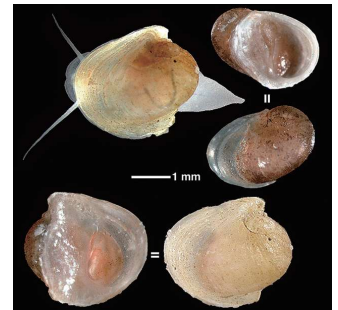
【保護対策】 定期的なモニタリングをしているが、三重県における本種の最初の生息地も近年道路、護岸工事の改変を受けた。幸い個体群は保存されているが、非常に小規模な工事でも希少種の生息環境を完全に破壊する恐れがあり、行政による具体的な保護対策が望まれる。なおこの生息地はフネアマガイ（当地で三重県から初めて記録された南方系種）、ミヤコドリ、ニッポンマメアゲマキなどの希少貝類だけではなく、汽水性魚類の多様性に富む貴重な小河川である。

【特記事項】 2001年に新種記載された種であり、特殊な生息環境に生息し、その面積も非常に小さくかつ微小種であるので、本種の分布調査自体が十分とは言えない。また前述したとおり、生息地は小規模な改変によっても破壊される可能性がある。今後さらなる詳細な分布調査とモニタリングが必要である。

【文献】 35, 58, 103, 105, 142, 171, 236.

(木村昭一)

(写真：県南部小河川下流域、2009年、木村昭一採集)



三重県 2025

EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

VU

ホソコオロギ

腹足綱 オニノツノガイ目 オニノツノガイ科

Cerithium torresi E. A. Smith, 1884

【選定理由】 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化。1979年以前にも宿浦1か所から分布記録があるだけである。現在でも鳥羽湾以南の熊野灘沿岸リアス式海岸に点在する小規模なよく保全された内湾域で古い死殻は稀に確認される。しかし，現在鳥羽市南部の入江，英虞湾の2か所でしか生息が確認されていない。2か所とも，本種の生息面積は非常に小さい。

【種概要】 殻長25 mm，高い円錐形で，殻口は小さく，水管は短いが明瞭に突出する。殻頂部はとがる。殻の色彩は黒褐色から，黄色まで変異する。近似種のコオロギより殻が細く，殻質がうすく，殻表の彫刻が細かい(図)。三重県の生息地の2か所では外洋水の影響の強い内湾域の潮間帯下部から潮下帯のアマモ場，もしくは褐藻群落周辺の砂泥底，石の周辺に生息する。またこの生息地では，コオロギと同所的に分布するが，鳥羽市南部の入江における詳細な生息環境調査の結果，コオロギがやや波あたりの強い岩礁や転石の上を好むのに対して，本種は内湾よりの砂泥底の藻の生えた転石上や周辺の砂泥上に多い。

【分布】 相模湾から九州に広く分布するとされていたが，現在鳥羽市，志摩市，佐賀県唐津市の各1か所でしか生息が確認されていない。南西諸島には分布しない。海外ではインド，太平洋に広く分布し，オーストラリア(トレス水道がタイプ産地)にも分布するとされているが，オーストラリア産の本種は日本産と比べて水管や殻口の形態に相違があり，同種かどうかは検討を要する。

【現況・減少要因】 現況は選定理由参照。減少要因については，近似種でよく似た環境に生息するコオロギは，分布域のほぼ全域で復活傾向が認められ，比較的普通種になり，特に瀬戸内海では多産する生息地も少なくないが，コオロギと比べると，本種の生息状況は依然として深刻である。干潟の減少，水質汚濁などの理由だけでは減少理由の説明が難しい。

【保護対策】 英虞湾の個体群については，三重大学生物資源学部海洋生態学研究室の年2回以上のモニタリング調査が行われている。現在本種の生息が確認されている1地点では2000年当初と比べて個体群の健全化が確認され，2014年春の調査では生息帯が潮間帯中部まで拡大している。更に志摩市主催で観覧会が行われている干潟の低潮線付近の藻場で生貝がモニタリングされている。

【文献】 157, 158, 163, 164, 186, 236.

(木村昭一)

(写真：鳥羽市南部入江水深1 m ダイビング，2011年，木村昭一採集)



三重県 2025

EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

CR+EN

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

カヤノミカニモリ

腹足綱 オニノツノガイ目 オニノツノガイ科

Clypeomorus bifasciata (Sowerby II, 1855)

【選定理由】 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化。1979年以前に県内では賢島，三木浦，二木島の潮間帯から分布記録がある。近年，英虞湾座賀島から生貝が記録された。県内では鳥羽市より南の内湾域で古い死殻は採集されるが，上述以外に生貝の記録はない。鳥羽市の調査では少数の古い死殻が生息環境以外で偶然採集されただけなので，本種独特の生息環境を重点的に調査したが，生息は全く確認されなかった。県南部のリアス海岸でも同様であったので今回カテゴリーアップと評価された。本種は県内では危機的生息状況である。

【種概要】 殻長20 mm，太い紡錘形で，殻は厚く殻表には黒いイボ状突起が並ぶ。外洋に面した内湾の潮間帯の岩礫底の岩や礫間にたまった小石・砂底にすむ。

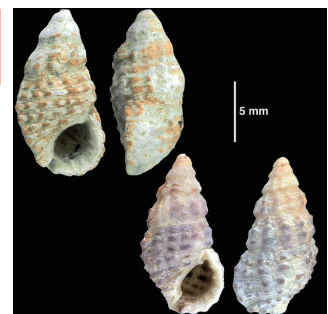
【分布】 房総，北長門海岸から南西諸島，インド・太平洋熱帯域まで広く分布する。九州南部から南西諸島では生息地が多く現存する。対照的に本州から九州では著しく生息地，個体数とも減少している。

【現況・減少要因】 現況は選定理由参照。減少要因は生息環境の減少，水質汚濁などの理由だけでは説明が難しい。

【文献】 19, 164, 186, 269.

(木村昭一)

(写真：上段：鳥羽市鏡浦水深2 m ドレッジ，2011年，下段：英虞湾，2013年，木村昭一採集)



三重県 2025

EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

NT

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蘚苔類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

サナギモツボ

腹足綱 オニノツノガイ目 スナモチツボ科

Finella pupoides A. Adams, 1860

【選定理由】 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化．1979年以前に四日市，紀伊長島の潮下帯から分布記録がある．かつては普通種であった様で，1980年代には伊勢湾から南部の小規模な内湾域で普通に死殻は見られたが，近年では殻皮が完全に剥離した古い死殻が潮下帯より少数採集される程度で，現在生貝が全く採集できない．絶滅とは判断されなかったが，危機的生息状況である．今回カテゴリーアップと評価された．

【種概要】 殻長4 mmでやや長い紡錘形の小型巻貝．螺層は良く膨れ，縫合は深い．殻表には多数の螺肋を持つ．殻質はやや薄く半透明．

【分布】 三陸沿岸から南西諸島の内湾奥から湾口部の砂泥底に分布するが，近年生息記録があるのは，瀬戸内海の一部と奄美大島の笠利湾にすぎない．県内では生息が確認できないが死殻の分布密度から内湾湾奥のアマモ場周辺の砂泥底に生息環境があると考えられる．

【現況・減少要因】 近年生貝はアマモ場周辺で確認されているので，干潟，アマモ場の減少が減少要因と考えられるが，同様にアマモ場を生息環境とするスズメハマツボ，シマハマツボ，シマモツボには現在も減少傾向は認められない．

【文献】 2, 186, 236.

(木村昭一)

(写真：鳥羽市生浦湾水深2 m ドレッジ，2012年，木村昭一採集)



三重県 2025

EN

三重県 2015

VU

環境省 2020

VU

ゴマツボモドキ

腹足綱 エゾタマキビ目 ワカウラツボ科

Hyalia delicata (Philippi, 1849)

【選定理由】 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化，希少，特殊生息環境．1979年以前に県内では分布記録がないが，鳥羽市より2008年に生死不明で図示を伴わない採集記録がある．近年，愛知県佐久島より生貝が記録され，2022年に鳥羽市より死殻が報告された（三重県産の本種の図を伴った初めての報告）．鳥羽市沖と伊勢湾湾口部（勢水丸研究航海）からドレッジで少数の死殻が採集されているに過ぎない．危機的生息状況である．

【種概要】 殻長4 mm，殻質は薄く半透明，やや細い円筒形で，弱い螺肋が各螺層中央部以外に多数にある．本種には，殻が細長く殻頂部が細い円錐状に延長する個体と，殻頂部がドーム状の個体があるが鳥羽市で記録されたのは後者（図）であった．これらが同種か否かは詳細な比較検討が必要．

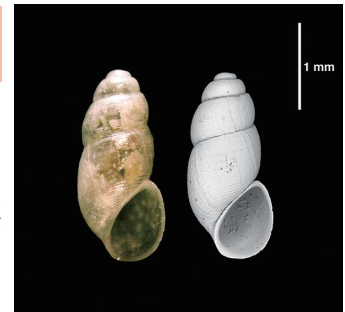
【分布】 宮城県から九州，南西諸島，朝鮮半島，フィリピン，オーストラリア，熱帯インド・太平洋．外国産が日本産と同種か否かは検討が必要．

【現況・減少要因】 現況は選定理由参照．本種は，埋もれた転石下の還元環境に生息する．このような特殊生息環境は有機物の堆積や水質の富栄養化により，破壊されやすい．

【文献】 3, 120, 164, 167, 186, 221, 236.

(木村昭一)

(写真：鳥羽市石鏡沖水深2～6 m ドレッジ，2021年，河合秀高採集)



三重県 2025

EN

三重県 2015

DD

環境省 2020

VU

アダムスタマガイ

腹足綱 エゾタマキビ目 タマガイ科

Cryptopnatica adamsiana (Dunker, 1860)

【選定理由】 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化．1979年以前に安乗の水深10 mから分布記録がある．1980年頃には鳥羽湾の潮下帯のアマモ場周辺の泥底で生貝が採集された．当時，既に個体数は著しく少なかった．現在，伊勢湾中部海岸で死殻が，伊勢湾湾口部から鳥羽市で潮下帯から新しい死殻は確認されるが，生貝は採集できない．近年の伊勢湾湾口部のドレッジ調査でも生貝は確認されなかった．危機的生息状況である．

【種概要】 殻長20 mm，球形で，蓋は白色石灰質で厚く，外縁に沿って2本の溝があるが浅く明瞭でない．本種はエゾタマガイと近似しているが，殻は小型で螺塔が高く，蓋，臍盤の形状が異なる．

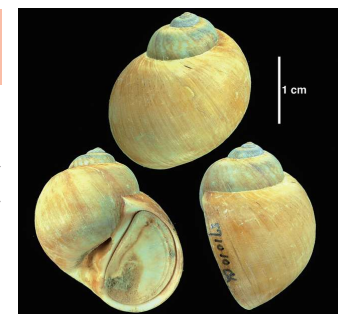
【分布】 房総半島から九州に分布するとされていたが，東京湾，相模湾から近年生息が確認されない．現在浜名湖，瀬戸内海から九州では健全な個体群が確認されている．三河湾では現在でもかろうじて生息が確認されているが，近年生息がほとんど確認されていない伊勢湾の生息状況はさらに深刻である．

【現況・減少要因】 現況は選定理由参照．干潟特にアマモ場の消失，水質汚濁などが減少要因と考えられる．

【文献】 3, 125, 164, 167, 186, 236.

(木村昭一)

(写真：鳥羽市小浜沖水深10 m カレイ底刺網にかかったトゲモミジガイ（棘皮動物）の胃中，1982年，木村昭一採集)



三重県 2025

EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

NT

ハスイトカケ

腹足綱 エゾタマキビ目 イトカケガイ科

Epitonium replicatum (Sowerby II, 1844)

【選定理由】 個体群・個体数の減少、生息条件の悪化、希少、特殊生息環境。1979年以前に答志、紀伊長島、天満（尾鷲市）の水深20 mから分布記録がある。元々希少な種であるが、1980年代には伊勢湾から県南部の小規模な内湾域で死殻は見られたが、近年では死殻も稀。鳥羽市では近年のドレッジ、ダイビング調査で生貝や死後間もない殻が少数採集されている。

【種概要】 殻長15 mm、殻は白色で光沢が強い。殻質は本科としてはやや厚質。縦肋は板状で広く肩部で拡がって、先端で尖る。螺層は遊離するが、上下の縦肋で連結する。蓋は黒褐色。非常に特徴的な外見を示す。本種の食性は明らかではないが、近似種の食性から寄生的に刺胞動物を捕食する様である。

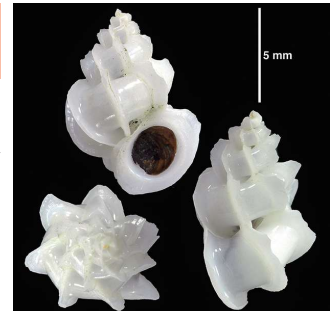
【分布】 房総半島、日本海西部以南、インド・太平洋の潮間帯下部から水深30 mのウミヒルモの多い砂底に生息する。元々生貝の採集例は少ない。

【現況・減少要因】 現況は選定理由参照。内湾域潮間帯から潮下帯の環境悪化が著しいこと、アマモ場、ウミヒルモの減少などが本種の減少要因と考えられる。

【文献】 20, 164, 186, 236, 266.

(木村昭一)

(写真：鳥羽市生浦湾沖水深約20 m ドレッジ，2012年，木村昭一採集)



三重県 2025

EN

三重県 2015

—

環境省 2020

—

チャマダライトカケ

腹足綱 エゾタマキビ目 イトカケガイ科

Epitonium stigmaticum Pilsbry, 1911

【選定理由】 個体群・個体数の減少、生息条件の悪化、希少、特殊生息環境。1979年以前に有滝、和具の水深20~30 mから分布記録がある。1980年代には伊勢湾湾口部から県南部の小規模な内湾域で死殻は見られたが、近年では死殻も稀。鳥羽市では近年のドレッジ、ダイビング調査で死後間もない殻が少数採集されているが、生貝は採集できない。

【種概要】 殻長30 mm、殻は黄白色で光沢が強い。各層に2本の茶褐色斑紋列がある。螺塔は高く細長く、殻質は薄質で脆い。縦肋は低い板状でねじれる。蓋は淡褐色。特徴的な外見を示す。本種の食性は明らかではないが、近似種の食性から寄生的に刺胞動物を捕食する様である。

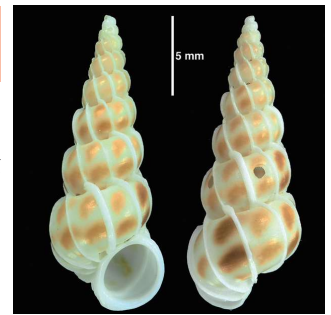
【分布】 房総半島、日本海西部から九州の潮下帯から水深30 mの透水性の高い砂底に生息する。ハスイトカケほどではないが、生貝の採集例は少ない。

【現況・減少要因】 現況は選定理由参照。愛知県知多半島沖での本種の生息個体数の著しい減少は、定期的なドレッジ調査の結果、有機物の堆積により、底質に泥分が多くなる事が要因であると考えられた。

【文献】 20, 164, 186, 236.

(木村昭一)

(写真：鳥羽市生浦湾沖水深約10 m ドレッジ，2013年，木村昭一採集)



三重県 2025

EN

三重県 2015

—

環境省 2020

—

ゴマツボ

腹足綱 エゾタマキビ目 リソツボ科

Stosicia annulata (Dunker, 1860)

【選定理由】 個体群・個体数の減少、生息条件の悪化。1979年以前に本県から分布記録がない。1例紀伊長島町より1953年の採集記録がある（画像なし）。1980年代には伊勢湾から南部の小規模な内湾域で比較的普通に死殻は見られたが、近年では古い死殻が潮下帯より稀に採集される程度で、現在生息が確認できない。最近の伊勢湾湾口部ドレッジ調査で死殻も確認されなかった。三河湾から伊勢湾ではモニタリングが困難な微小種であることを割り引いても、ほぼ絶滅状態である。近年、県内では志摩市越賀より少数の死殻が記録されたのみである。これらのことから今回カテゴリーアップと評価された。

【種概要】 殻長4 mm、殻は紡錘形で殻質は厚い。殻表に強い螺肋があり肋間には深い溝状になる。

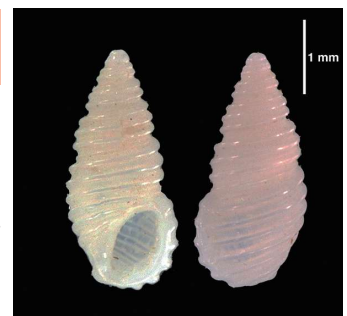
【分布】 房総半島から九州、中国大陸に分布する。内湾の潮通しの良い干潟に隣接する礫地や転石地の石の下面に付着している。近年でも瀬戸内海の一部と九州西岸には健全な個体群が確認されている。近年瀬戸内海では回復傾向が顕著である。

【現況・減少要因】 現況は選定理由参照。上述したような生息環境の減少などが大きな減少要因と考えられる。

【文献】 2, 20, 167, 186, 221, 236.

(木村昭一)

(写真：志摩市越賀海岸打ち上げ，2018年，木村昭一採集)



三重県 2025

EN

三重県 2015

VU

環境省 2020

VU

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

藓苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蘚苔類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

イソマイマイ

腹足綱 エゾタマキビ目 イシカワシタダミ科

Sigaretornus aff. *planus* (A. Adams, 1850)

【選定理由】 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化，特殊生息環境. 1979年以前に津，尾鷲の潮間帯から分布記録がある. 現在県下全域で生息は確認できない. 近年，伊勢湾湾口部，鳥羽市生浦湾の潮下帯より死後間もない殻（図）が稀に採集されているにすぎない. 生貝が確認できない状態より今回カテゴリーアップと評価された.

【種概要】 殻径10 mm，白色円盤状で殻質は薄く半透明. 臍孔は広く開く. ユムシ類の巣穴に共生すると推測されているが，県内で観察例はない. 本種は学名（種名）を *planus* とされる事が多かったが，*planus* はフィリピンから香港に生息種であり，南西諸島に分布するガタチンナンに相当する可能性が高い.

【分布】 房総半島から九州に分布する. 内湾湾口部の干潟から潮下帯の砂泥底に分布する. 三浦半島，瀬戸内海など打ち上げられた死後間もない殻が比較的普通に確認される場所もあるが，生貝の採集例は極めて少ない.

【現況・減少要因】 現況は選定理由参照. 上述したような生息環境の減少が大きな減少要因と考えられる. また本種はホストに依存するので，ホストの減少も関係する可能性がある.

【文献】 2, 20, 164, 186, 236.

(木村昭一)

(写真：鳥羽市生浦湾水深約12 m ドレッジ，2012年，木村昭一採集)



三重県 2025

EN

三重県 2015

VU

環境省 2020

VU

フデガイ

腹足綱 新腹足目 フデガイ科

Nebularia inquinata (Reeve, 1844)

【選定理由】 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化，希少. 1979年以前に答志，安乗，和具，錦，紀伊長島，海野の水深10～30 mから分布記録がある. 三重県全域から生貝の記録は極めて少ない. 1980年代から鳥羽市小浜から安乗沖にかけての底刺網で稀に死殻が確認されていたが，生貝の記録の少ない希少種. 近年菅島沖で操業された底刺網より生貝1個体が採集された. 内湾から湾口部の大形の絶滅危惧種として象徴的.

【種概要】 殻長70 mm，細長い紡錘形で殻頂は尖る. 殻質は厚く堅固. 殻は白地に濃淡のある黒褐色の格子目模様で覆われ，殻全体は暗色. 殻口は白色，内唇に4～5本の襞がある（図の背面に付着しているのは外来種のシマメノウブネガイ）.

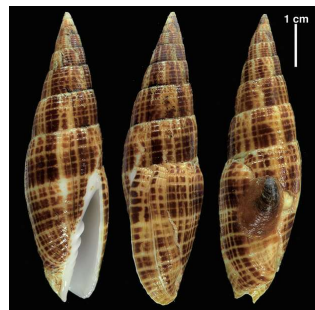
【分布】 房総半島以南，中国，台湾の水深30 mまでの潮下帯の礫混じりの砂泥底に分布する. 本科の貝類は外洋，暖海性の貝類がほとんどであるが，本種は瀬戸内海で広く分布が記録されており，内湾から内湾湾口部に主分布域がある. 近年広島県（瀬戸内海）では絶滅したとされている.

【現況・減少要因】 現況は選定理由参照. 内湾域潮下帯の環境悪化が減少要因と考えられる.

【文献】 20, 22, 91, 164, 186, 266.

(木村昭一)

(写真：鳥羽市菅島沖イセエビ底刺網水深20 m，2022年，自見直人採集)



三重県 2025

EN

三重県 2015

—

環境省 2020

—

フデシャジク

腹足綱 新腹足目 フデシャジク科

Daphnella radula Pilsbry, 1904

【選定理由】 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化，希少. 1952年に志摩半島御座から詳細な生息状況及び図示がない分布記録がある. この記録以降も主に県南部で採集記録はあるが，詳細は明らかでない. 近年の鳥羽市の調査では浦村から石鏡沖よりドレッジで死殻が採集されているが，個体数は非常に少ない. 2014年鳥羽市麻倉島の潮間帯より生貝が採集された.

【種概要】 殻長20 mm，螺塔はやや高い紡錘形. 殻は薄質で，殻口の外信も薄い，わずかに肥厚する. 殻表はかすり模様の螺肋と間肋で密に覆われ，成長脈と交差して布目状. 殻口はやや大きく殻長の約半分を占める. 軟体部は純白（図）. 別名：ヌノメフデシャジク.

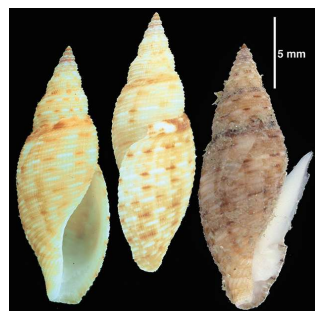
【分布】 紀伊半島・若狭湾から九州，潮間帯から潮下帯の岩礁上にたまった石や貝殻の多い砂底に分布する. 外洋に面した湾口部の潮間帯から生息するが，生貝採集記録は非常に稀.

【現況・減少要因】 現況は選定理由参照. 内湾域の環境悪化が減少要因と考えられる.

【文献】 125, 164, 186, 221.

(木村昭一)

(写真：鳥羽市麻倉島潮間帯，2014年，木村昭一採集)



三重県 2025

EN

三重県 2015

—

環境省 2020

—

イボヒメトクサ

腹足綱 新腹足目 タケノコガイ科

Granuliterebra bathyraphe (E.A. Smith, 1875)

【選定理由】 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化。1979年以前に四日市，有滝の水深20 mから分布記録がある。近年，県下では伊勢湾中部から鳥羽市沖の伊勢湾湾口部の潮下帯から死殻は稀に採集されるが，生貝は確認されていない。近年，鳥羽市生浦湾，伊勢湾湾口部から死殻もない殻が少数採集されているので，生息していると判断されたが，絶滅の可能性が高い種である。愛知県では死殻ですら稀で，絶滅危惧Ⅰ類にランクされている。タケノコガイ科の貝類はゴカイなどの底生動物を選択的に餌とする食性の種が多く，環境の悪化の影響を受けやすく，最初に減少傾向を示す種群である。

【種概要】 殻長30 mm，細長い円錐型。殻質は厚くやや強い縦肋があり，各層に2本の疣状結節列がある。

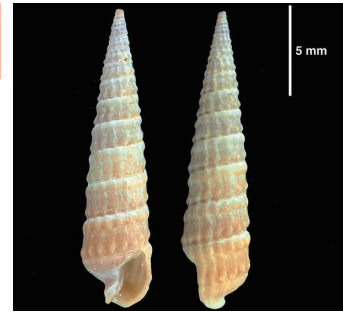
【分布】 茨城県から九州まで，熱帯インド・西太平洋の水深20 mまでの潮下帯に分布する。数少ない内湾性のタケノコガイ科貝類で，湾口部まで分布する。

【現況・減少要因】 現況は選定理由参照。内湾域潮下帯の環境悪化，餌とする底生動物の多様性の低下が考えられる。

【文献】 3, 164, 167, 186, 236.

(木村昭一)

(写真：鳥羽市浦村沖水深15 m ドレッジ，2014年，木村昭一採集)



三重県 2025

EN

三重県 2015

—

環境省 2020

—

イソチドリ

腹足綱 トウガタガイ目 イソチドリ科

Amathina tricarinata (Linnaeus, 1767)

【選定理由】 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化，特殊生息環境。1979年以前に県南部のリアス式海岸に位置する小規模な内湾域4か所から分布記録がある。2000年代2014年までは伊勢湾湾口部から南部の小規模な内湾域の干潟や潮下帯から古い死殻は比較的広範囲で採集されたが，殻皮が保存された新しい死殻は，鳥羽市，英虞湾の潮下帯に限られていた。その後，鳥羽市，英虞湾では回復傾向が認められ，限られた範囲ではあるが，生貝が確認されるようになった。特に英虞湾中部の生息地ではマガキをホストとした本種が確認されるようになり，個体数が増加した。

【種概要】 殻長15 mm，やや長い方形の笠型をしている。マキモノガイなどと共にイソチドリガイ科として独立し，高円錐形で多数の螺層を持つ貝殻がほとんどのトウガタガイ科の一員ではない。殻表には殻頂から殻口かけて3本の強い放射状の肋がある。生貝は茶褐色の厚い殻皮で殻表が被われる。腹足には中央部に前後方向の深い溝があり，特異な形態をしている。砂泥質の干潟低潮線から水深20 mほどの潮下帯に分布し，タイラギ，ハボウキ，イタヤガイ，アズマニシキ，イタボガキ，マガキ，稀にアコヤガイ（鳥羽市で数例確認された；図）などの大型二枚貝の腹縁付近に付着し，口吻を伸ばして体液を吸う。付着された貝殻には本種特有の黒色の付着痕が認められる。前述した英虞湾の生息域ではマガキ，アズマニシキに付着し，ハボウキへの付着個体は確認されていない。

【分布】 房総から九州，中国，香港，フィリピンに分布する。現在，日本で生息が確認されているのは英虞湾を東限とし，瀬戸内海中央部，有明海のみで，生息場所，個体数共に非常に少ない。フィリピン産の個体は日本産と比べて著しく大成し，殻幅も大きいので同種かどうかは検討を要する。

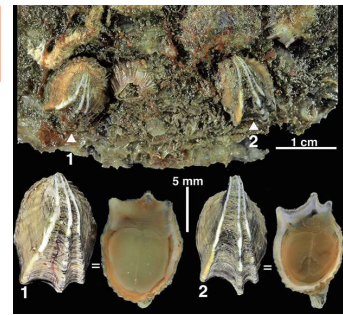
【現況・減少要因】 現況は選定理由参照。減少要因については，タイラギ，ハボウキ，イタボガキは絶滅危惧種で宿主自体の個体数が減少していること，同じように生きた貝類に付着する外来種シマメノウフネガイの大量繁殖による，本種の排除などが考えられる。

【保護対策】 英虞湾の生息地では，三重大学生物資源学部海洋生態学研究室で年2回以上のモニタリング調査が行われている。潜水調査により2年間は比較的多くのアズマニシキに付着する生貝が観察できたが，その後数年間でアズマニシキも減少し，本種の生息が確認できず，その後マガキに付着する個体が発見され，その頻度が増加して回復傾向が認められる。

【文献】 3, 28, 123, 124, 157, 158, 164, 186, 236, 257.

(木村昭一)

(写真：鳥羽市潮下帯潜水漁，2020年，佐藤達也採集)



三重県 2025

EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

CR+EN

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蘚苔類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

ヒメゴウナ

腹足綱 トウガタガイ目 イソチドリ科

Monotygmia eximia (Lischke, 1872)

【選定理由】 個体群・個体数の減少、生息条件の悪化。1979年以前に答志、紀伊長島、尾鷲の水深20 mから分布記録がある。近年、県下では鳥羽市沖の伊勢湾湾口部の潮下帯から死後間もない殻は稀に採集されるが、生貝は確認されていない。全国的に死殻の採集例は少なくないが、生貝の採集例は極めて稀。

【種概要】 殻長20 mm、細長い円錐形で、殻全体に幅広く低い螺肋を巡らす。殻は光沢が強く、濃褐色から白色に近いものまで殻色には変異がある。殻質は比較的厚い。殻軸には弱い襞が1本ある。本属の種には実体の不明の希少種も多く、また移入種ではないかと考えられる種も存在し、分類学的な再検討が必要である。

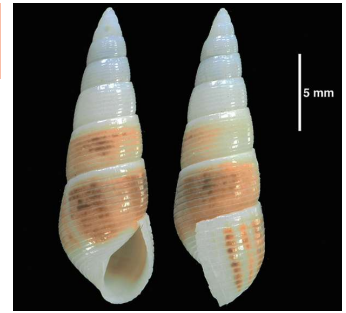
【分布】 房総半島・男鹿半島から九州の潮間帯下部から水深60 mの砂底に分布する。東海地方では内湾から湾口部の透水性の高い砂底より死後間もない殻が発見されることが多いので生息環境であると考えられる。

【現況・減少要因】 現況は選定理由参照。内湾域の環境悪化、有機物の堆積による底質の泥分の増加も減少原因と考えられる。

【文献】 3, 164, 186, 236.

(木村昭一)

(写真：答志島北沖水深20 m 勢水丸ベントスネット、2014年、木村昭一採集)



三重県 2025

EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

NT

ホソマキギヌ

腹足綱 トウガタガイ目 イソチドリ科

Monotygmia lauta (A. Adams, 1853)

【選定理由】 個体群・個体数の減少、生息条件の悪化。1979年以前に四日市、有滝、尾鷲の水深20 mから分布記録がある。近年、県下では鳥羽市沖の伊勢湾湾口部の潮下帯から死後間もない殻は少数採集されたが、生貝は確認されていない。全国的に死殻の採集記録は少なくないが、生貝の採集報告はほとんどない。

【種概要】 殻長10 mm、細長い円錐形で、殻全体に幅広く低い螺肋を巡らし、螺肋間は幅の狭い刻点列になる。殻は白色であるが、殻表は薄い黄褐色の殻皮で覆われ、光沢が少ない。本属の種には実体の不明の希少種も多く、また移入種ではないかと考えられる種もあり、分類学的な再検討が必要である。

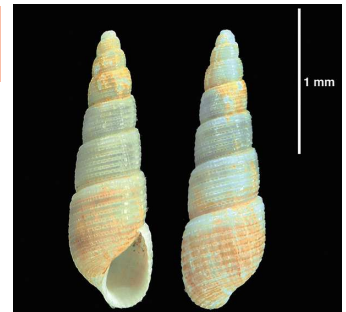
【分布】 房総半島・男鹿半島から九州、フィリピンの潮間帯下部から水深40 mの砂泥底に分布する。内湾から湾口部の砂泥底に生息する。ヒメゴウナより泥分の多い内湾域に生息する。2008年名古屋港沖の伊勢湾最奥部の潮下帯泥底から生貝が採集された。

【現況・減少要因】 現況は選定理由参照。内湾域の潮下帯の環境悪化が減少原因と考えられる。

【文献】 3, 164, 186, 236.

(木村昭一)

(写真：鳥羽市生浦湾水深20 m ドレッジ、2012年、木村昭一採集)



三重県 2025

EN

三重県 2015

—

環境省 2020

—

ドロアワモチ

腹足綱 ドロアワモチ目 ドロアワモチ科

Paromoionchis tumidus (C. Semper, 1880)

【選定理由】 個体群・個体数の減少、生息条件の悪化。筆者らによって2000年代に入って、英虞湾で生息が確認された。現在同湾の湾奥部の数箇所が生息が確認されているが、生息地の面積は狭く、すべての生息地で毎年生息を確認できるわけではない。梅雨から夏の雨後には観察される個体数が多くなるが、概して個体数は少ない。現在県下では英虞湾のみから生息が記録されている。現在英虞湾は本種の分布北限かつ東限である。

【種概要】 体長30~50 mm程度で殻を持たず軟体部の伸縮幅は大きい。いわゆるナメクジ状で、背面には多くのイボ状突起がある。背面の色彩や形状には個体変異がある。腹足部は黒褐色でその他の腹面は橙褐色(図)。塩性湿地周辺の潮間帯の中部から上部にかけて生息するが、底質に潜り込むので季節と条件により観察できる個体数に変動がある。

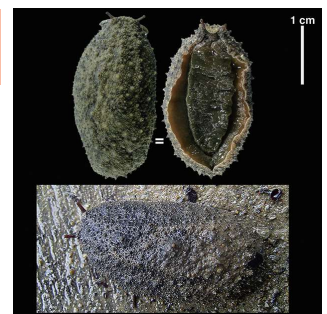
【分布】 英虞湾の他、愛媛県、長崎県、南西諸島、香港、シンガポールに分布するが、海外の個体と日本産個体が同種かどうかは検討を要する。本州では生息地、個体数共に非常に少ない。

【現況・減少要因】 塩性湿地、潮間帯上部の破壊が大きな減少要因と考えられる。

【文献】 97, 157, 158, 236.

(木村昭一・木村妙子)

(写真：英虞湾湾奥部、2006年、木村昭一・木村妙子採集)



三重県 2025

EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

VU

ナラビオカミミガイ

腹足綱 オカミミガイ目 オカミミガイ科

Auriculastra cf. duplicata (Pfeiffer, 1854)

【選定理由】 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化．1999年に伊勢湾沿岸1箇所の生息地が報告された．その後筆者らによる詳細な分布調査により，伊勢湾沿岸2箇所，鳥羽市，英虞湾，五ヶ所湾からも本種の生息を報告したが，現在，健全な個体群は残されていない．また1999年に報告した生息地では近年生息が確認されていない．

【種概要】 殻長10 mm．殻は卵形で殻質は厚い．殻皮は淡黄褐色で光沢が強い．

【分布】 本種は国内では三河湾から九州，沖縄本島に分布する．ただし沖縄本島の個体群は生息環境や殻の形態，集団遺伝学的分析から相違が認められ，別種と考えられる．陸上植生まで良く保全されたヨシ原塩性湿地内の朽ち木，石の下などに生息する．

【現況・減少要因】 本種は上述したような塩性湿地の消失が最も大きな減少要因と言える．集団遺伝学的研究から本種は全国的に地域的な分化が進んでおり，個体群が分断され，脆弱になっていると考えられる．

【保護対策】 伊勢湾の生息地については，三重大学生物資源学部海洋生態学研究室による年間3回以上のモニタリング調査が行われている．

【文献】 2, 92, 114, 126, 156, 157, 158, 186, 233.

(木村昭一・木村妙子)

(写真：津市，2013年，木村昭一採集)



三重県 2025

EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

VU

シノミミミガイ

腹足綱 オカミミガイ目 オカミミガイ科

Cassidula plecotrematoides japonica Möllendorff, 1901

【選定理由】 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化．1979年以前に志摩半島以南の5箇所から分布記録がある．2000年代に英虞湾，鳥羽市南部，五ヶ所湾で現生息地が確認された．生息地の面積は狭く，陸域に近く，橋梁工事や河川改修などの開発の影響を受けやすい．鳥羽市南部の生息地では産卵，繁殖も確認され，湿った石の表面に螺旋状の卵塊を産み付ける（図下段）．現在鳥羽市南部は三浦半島次ぐ本種の北側の分布地である．

【種概要】 殻長12 mm程度で産地により変異がある．殻はやや細い卵形で，成貝では殻口外唇は反転，肥厚する．若い個体では毛状突起を具えた濃褐色の殻皮で覆われる（図左上）が，多くの個体では殻皮が剥離し，殻表，殻頂部が侵食されている．

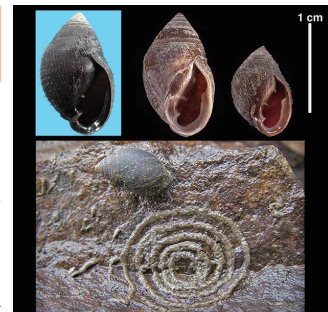
【分布】 三浦半島・北長門海岸～九州に分布する．河口部汽水域や内湾奥海岸飛沫帯の泥底において転石が密集した場所や古い石組みの奥に潜み，温暖な季節の夜間や雨天に表層へ現れる．内湾の礫間に生息する．

【現況・減少要因】 護岸改修による生息地の消失，川岸の転石地や古い石垣がごとごとくコンクリート護岸に置換されたことで急減したと考えられる．

【文献】 141, 157, 158, 164, 186, 236, 255.

(木村昭一)

(写真：左上：五ヶ所湾，2007年，その他：鳥羽市南部湾奥，2010年，木村昭一採集)



三重県 2025

EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

CR+EN

キヌカツギハマシイノミ

腹足綱 オカミミガイ目 オカミミガイ科

Melampus cf. singaporensis L. Pfeiffer, 1855

【選定理由】 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化．1999年に伊勢湾沿岸4箇所の生息地が報告されたが，その後いずれの個体群も縮小しており，現在健全な個体群は残されていない．

【種概要】 殻長10 mm，殻は卵形，殻表は厚い殻皮で被われる．

【分布】 紅海，インドから韓国，日本において報告されているが，複数種が含まれているとされ，学名については今後検討が必要である．国内では九州から瀬戸内海，伊勢・三河湾に分布する．陸上植生まで良く保全されたヨシ原塩性湿地内の朽ち木，石の下などに生息する．

【現況・減少要因】 本種は上述したような塩性湿地の消失が最も大きな減少要因と言える．本種は国内各地の集団の遺伝的多様性は高く，個体群間の交流があることが示されている．一方で伊勢・三河湾では，ヨシ原湿地の植生に変化が見られないにもかかわらず，オカミミガイ科貝類の中で本種だけが近年急速に減少している生息地が認められ，原因究明が急務である．

【保護対策】 伊勢湾の生息地については，三重大学生物資源学部海洋生態学研究室による年間3回以上のモニタリング調査が行われている．

【文献】 8, 92, 156, 186, 223, 233, 244.

(木村妙子・木村昭一)

(写真：松阪市，2012年，木村昭一採集)



三重県 2025

EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

VU

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蘚苔類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

サメハダヒザラガイ 多板綱 サメハダヒザラガイ目 サメハダヒザラガイ科
Leptochiton hirasei (Is. Taki & Iw. Taki, 1929)

【選定理由】 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化。県下では2015年に初めて鳥羽市麻倉島から報告された。志摩半島周辺の3箇所からも生息が確認され。その後愛知県でも生息が確認された。本種の生息環境は，多様性の高い貝類相を示すよく保全された内湾域に限られており，個体数も少なく，絶滅が危惧される。生物地理的にも貴重な本種の保全は不可欠である。

【種概要】 体長5 mm，サメハダヒザラガイ目としては最も小型，キタサメハダヒザラガイと近似するが，殻，肉帯共に白淡褐色から赤みが強い褐色。肉帯上の鱗片は，先端が丸みを持った長方形で10本以上の強い縦肋があり，周辺の棘は長いもので鱗片の2倍以上の長さで強い縦肋を持つ。

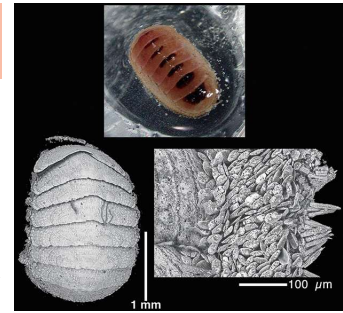
【分布】 タイプ産地は紀伊半島で，房総半島から九州の潮間帯から潮下帯の砂底上の転石下に分布する。瀬戸内海にも分布する。日本以外からの分布記録はない。県下では貝類多様性の高い潮間帯に生息する。

【現況・減少要因】 本種は潮通しの良い，泥分の少ない礫砂底に生息することから，水質汚濁，底質環境の泥質化，有機物量の増加などの影響を受けやすいと考えられる。

【文献】 3, 91, 153, 164, 247, 268.

(木村昭一)

(写真：鳥羽市麻倉島潮間帯，2014年，木村昭一採集)



三重県 2025
VU
三重県 2015
—
環境省 2020
—

キタサメハダヒザラガイ 多板綱 サメハダヒザラガイ目 サメハダヒザラガイ科
Leptochiton hakodatensis (Thiele, 1909)

【選定理由】 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化。県下では2015年に初めて鳥羽市麻倉島，生浦湾から報告された。その後，英虞湾でも生息が確認された。本種は，北方系の種が伊勢湾や瀬戸内海の内湾に遺存種的に分布している貝類と考えられる。また本種の生息海域は，多様性の高い貝類相を示す保全された内湾域に限定され，個体数も少なく，絶滅が危惧される。生物地理的にも貴重な本種の保全は不可欠である。

【種概要】 体長約10 mm，殻板，肉帯ともに淡黄白色で特徴的な色彩である。

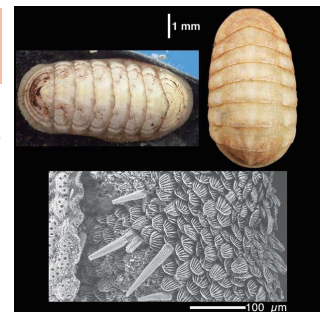
【分布】 オホーツク海南部，日本海北部，東北以北に分布するとされているが，近年愛知県以西の内湾域にも生息が確認された。本種は稲葉（1982）が東北・北海道型と定義した，「内海が太平洋側の分布限界である外海では生息し得ないが，低温・低塩分の内海に生息している貝類群集」に含まれる種と言える。

【現況・減少要因】 現況は選定理由参照。海水温の上昇が大きな要因と考えられる。また，本種は潮通しの良い，泥分の少ない礫砂底に生息することから，水質汚濁，底質環境の泥質化，有機物量の増加などの影響を受けやすい。

【文献】 3, 91, 145, 153, 164, 247, 268.

(木村昭一)

(写真：鳥羽市麻倉島潮間帯，2013年，木村昭一採集)



三重県 2025
VU
三重県 2015
—
環境省 2020
—

ウスバニヒザラガイ 多板綱 クサブリガイ目 ケハダヒザラガイ科
Leptoplax doederleini (Thiele, 1909)

【選定理由】 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化。個体群・個体数の減少，生息条件の悪化。県下では2015年に初めて鳥羽市麻倉島潮間帯から報告された。その後，英虞湾の潮下帯転石地でも生息が確認された。本種の生息環境は，多様性の高い貝類相を示す一部のよく保全された内湾域から淡水の影響のある外洋に面した転石海岸に限られており，個体数も少なく，絶滅が危惧される。

【種概要】 体長30 mm，和名の通り，殻板，肉帯ともに淡紅色で特徴的な色彩（図左：アルコール液漬標本）である。生体（図右）では肉帯の幅は広い。

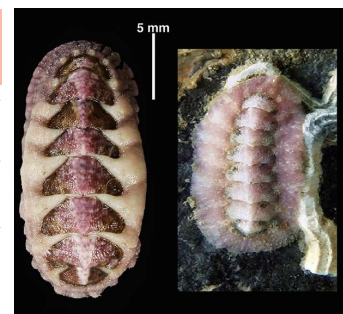
【分布】 房総半島以南，沖縄，小笠原に分布する。湾口部から外洋域の潮通しの良い潮下帯の転石の裏面に生息するが，個体数は少ない。県下では貝類多様性の高い潮間帯下部に生息する。

【現況・減少要因】 現況は選定理由参照。本種は潮通しの良い，泥分の少ない礫砂底に生息することから，水質汚濁，底質環境の泥質化，有機物量の増加などの影響を受けやすいと考えられる。

【文献】 153, 164, 246, 268.

(木村昭一)

(写真：左：鳥羽市麻倉島潮間帯（液漬標本），2013年，早瀬善正採集，右：生浦湾（生態），2014年，佐藤達也採集・撮影)



三重県 2025
VU
三重県 2015
—
環境省 2020
—

アサヒキヌタレガイ

二枚貝綱 キヌタレガイ目 キヌタレガイ科

Solemya japonica Dunker, 1882

【選定理由】 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化．1979年以前に県南部の2か所の潮下帯より分布記録がある．近年生浦湾，英虞湾の外洋水の影響の強い潮下帯アマモ場で生貝が確認されているが，干潟で生息は確認されていない．死殻の採集例も非常に少ない．

【種概要】 殻長20 mm．殻は円筒形で厚い殻皮に覆われ非常に薄く，石灰分が少なく軽く脆い．キヌタレガイと近似するが殻の色彩は濃く，淡黄褐色の放射肋が明瞭で数が多い．

【分布】 北海道から九州，中国大陸に分布する．内湾の潮間帯から水深20 m程度の砂泥底に生息する．鰓には硫化水素を用いて有機物を合成する化学合成細菌が共生している．現在干潟で生きた個体が確認されることは非常に少ない．浜名湖や瀬戸内海では潮間帯のアマモ場で生きた個体が確認されている．同所的に生息している海域もあるが，キヌタレガイより外洋水の影響の強い海域を生息環境とする場合が多い．

【現況・減少要因】 現況は選定理由参照．減少要因は干潟の減少，水質汚濁などが考えられる．

【文献】 19, 154, 158, 164, 186, 236.

(木村昭一)

(写真：鳥羽市生浦湾水深15 m ドレッジ，2012年，木村昭一採集)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

VU

ノジホトトギス

二枚貝綱 イガイ目 イガイ科

Arcuatula perfragilis (Dunker, 1857)

【選定理由】 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化．1979年以前に県内では御座の水深10～30 mから分布記録がある．採集記録が少ない種であったが，近年のドレッジ調査で鳥羽市答志島から石鏡沖の水深30～80 mの砂泥底より少数の生貝が採集されている．他の海域では死殻の採集例もほとんどなく，最近の勢水丸の伊勢湾調査でも死殻すら採集されなかった．

【種概要】 殻長20 mmでヤマホトトギスと近似するが，より小形で，殻に丸みがある．殻表の波状模様は個体変異があるが，概して小さく不明瞭．図鑑類でもヤマホトトギスと混同されている例もある．

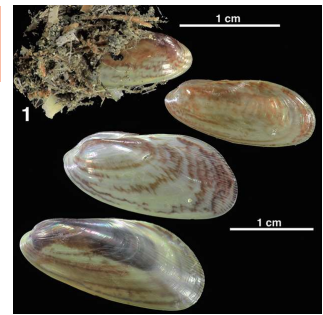
【分布】 房総半島から九州の内湾から湾口部水深100 mまでの潮下帯砂泥底に分布し，足糸で砂泥等を絡めたマットを作る（図左上）．生息水深はヤマホトトギスより深い．

【現況・減少要因】 現況は選定理由参照．減少要因は干潟の減少，水質汚濁などが考えられる．

【文献】 19, 154, 164, 167, 186, 236.

(木村昭一)

(写真：鳥羽市菅島南沖水深40～80 m ドレッジ，2022年，佐藤達也採集)



三重県 2025

VU

三重県 2015

—

環境省 2020

—

イガイ

二枚貝綱 イガイ目 イガイ科

Mytilus coruscus Gould, 1861

【選定理由】 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化．1979年以前に伊勢湾内1か所，県南部の海域の3か所の潮間帯から水深20 mより分布記録がある．本種はかつて伊勢湾内から湾口部にかけての岩礁の潮間帯から潮下帯に群生し，食用として重要な種であった．1980年代から著しく生息域，個体数とも減少し，2013年に伊勢湾口部の非常に限られた海域にのみかろうじて生息域が残されている種であることが，詳細な潜水による生息調査によって初めて明らかにされた．

【種概要】 殻長100 mmを越える．殻は黒紫色で厚い．いわゆるムール貝（ムラサキイガイ：移入種）を大形にしたような種．

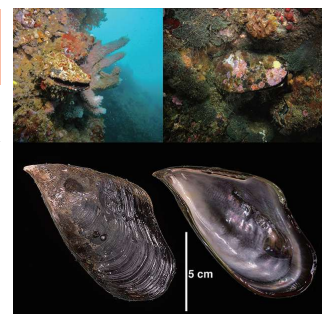
【分布】 北海道南部から九州，朝鮮半島，中国大陸に分布する．相模湾や東海地方で著しい減少が報告されている．瀬戸内海などで現在でも食用種として珍重されている．

【現況・減少要因】 現況は選定理由参照．減少要因は干潟の減少，水質汚濁，ムラサキイガイ（外来種）との競合などが考えられる．

【文献】 31, 164, 186, 256.

(木村昭一・佐藤達也)

(写真：鳥羽市沖 スクーバ潜水，2012年，佐藤達也採集)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

—

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

藓苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類

シコロエガイ

二枚貝綱 フネガイ目 シコロエガイ科

Porterius dalli (E.A. Smith, 1885)

【選定理由】 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化．1979年以前に県内では答志の水深30～50 m（水深は疑問）から分布記録がある．県内では個体数が少ないが，鳥羽市，紀伊長島町から生息が記録されている．2011年，鳥羽市南部の入江の潮間帯から生息が確認されたが，生息範囲は非常に狭い．

【種概要】 殻長40 mm，殻は前後に長い楕円形で殻表は厚い殻皮で覆われ，殻皮は同心円状に毛羽立つ部分と栓皮状の部分交互にある．

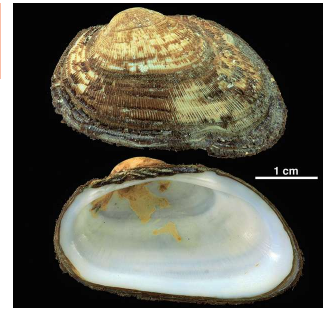
【分布】 日本固有種．北海道南部以南から瀬戸内海まで分布するとされているが，千葉県銚子以北では健全な個体群が確認されているが，房総半島以南では近年生息が確認されている場所は少ない．

【現況・減少要因】 現況は選定理由参照．減少要因は干潟の減少，水質汚濁などが考えられる．本種は温帯性貝類で，近年の海水温上昇が個体群の減少に影響している可能性もある．

【文献】 3, 19, 163, 164, 186.

(木村昭一)

(写真：鳥羽市南部入江潮間帯転石下面，2011年，木村昭一採集)



三重県 2025

VU

三重県 2015

環境省 2020

貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蘚苔類
藻類
キノコ

シナヤカスエモノガイ

二枚貝綱 スエモノガイ目 スエモノガイ科

Thracia concinna Reeve, 1859

【選定理由】 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化．1979年以前に県内では古和浦沖の水深80 mから分布記録がある．近年，鳥羽市を含めた伊勢湾湾口部から南部の内湾域の潮下帯から死殻半片は採集されるが，合弁の死殻も採集できない．英虞湾中央部から湾口部の潮下帯より合弁の死殻が比較的普通に採集されるが，生貝の個体数は非常に稀．近年愛知県からも死殻が記録された．

【種概要】 殻長30 mm，殻は薄質で白色，右殻（図下）は左殻（図上）より大きく，膨らみも強い．殻長から後縁にかけて稜角がある．

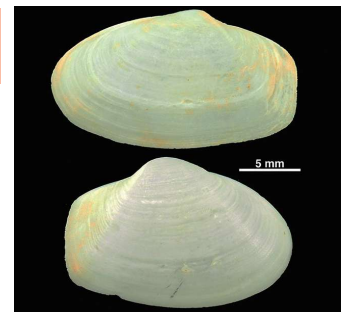
【分布】 房総半島，男鹿半島から九州の水深10～80 mの透水性の高い細砂底に分布する．

【現況・減少要因】 現況は選定理由参照．内湾域潮下帯の環境悪化が著しいことが減少要因と考えられる．

【文献】 19, 164, 186, 236, 238.

(木村昭一)

(写真：鳥羽市生浦湾水深5～10 m ドレッジ，2011年，木村昭一採集)



三重県 2025

VU

三重県 2015

DD

環境省 2020

EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

コカタビラガイ

二枚貝綱 スエモノガイ目 ミツカドカタビラガイ科

Myadora reeveana (E. A. Smith, 1880)

【選定理由】 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化．2000年代に志摩市（詳細不明），熊野市から生死不明の図示のない分布記録がある．近年も鳥羽市生浦湾湾口部沖を主生息域とした水深5～20 mの細砂底から生貝が採集されている．生浦湾湾口部白浜沖に本種の健全な個体群が確認されているが，その範囲は非常に狭い．

【種概要】 殻長7 mm，殻は三角形で扁平（右殻は弱く膨らむ），厚質で内面には真珠光沢がある．

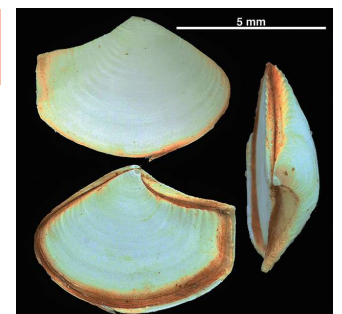
【分布】 房総半島から九州，中国大陸の水深5～300 mの砂底に分布するとされているが，県下の100 m以深の外洋では生息が確認できない．

【現況・減少要因】 現況は選定理由参照．内湾域潮下帯の環境悪化が著しいことが減少要因と考えられる．

【文献】 19, 154, 164, 186, 221, 278.

(木村昭一)

(写真：鳥羽市生浦湾湾口水深5 m ドレッジ，2012年，木村昭一採集)



三重県 2025

VU

三重県 2015

環境省 2020

ヤマザキスエモノガイ 二枚貝綱 スエモノガイ目 ミツカドカタビラガイ科
Myodopsis transmontana Yokoyama, 1922

【選定理由】 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化．1979年以前に県内では安乗の水深50 mから分布記録がある．近年も鳥羽市生浦湾湾口部沖を主生息域とした水深5～80 mの細砂底から生貝が採集されている．生浦湾湾口部に本種の健全な個体群が確認されているが，その範囲は非常に狭い．

【種概要】 殻長8 mm，殻は横に長い三角形で後端は裁断状．トゲヤマザキスエモノガイと近似した後背端が鋭く尖る個体があるが，その形態は漸次的に変異し識別が困難で1種として評価した．

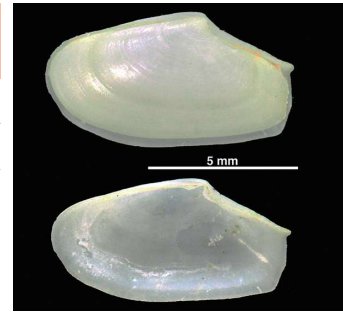
【分布】 相模湾から九州，日本海西部の水深10～300 mの砂底に分布するとされているが，県下の100 m以深の外洋では生息が確認できない．

【現況・減少要因】 現況は選定理由参照．内湾域潮下帯の環境悪化が著しいことが減少要因と考えられる．

【文献】 19, 154, 164, 186.

(木村昭一)

(写真：鳥羽市生浦湾湾口水深5 m ドレッジ，2012年，木村昭一採集)



三重県 2025

VU

三重県 2015

—

環境省 2020

—

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

ミゾガイ 二枚貝綱 マテガイ目 ナタマメガイ科
Siliqua pulchella Dunker, 1852

【選定理由】 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化．1979年以前に県内では白子，津，東黒部（すべて伊勢湾中部沿岸）の潮間帯から水深10 mより分布記録がある．近年も伊勢湾湾口部から県南部にかけての外洋に面した内湾域で打ち上げられた殻が採集されているが，生貝の記録はほとんどない．現在伊勢湾内では打ち上げられた死殻も稀な種となっていて，生息が確認できない．鳥羽市では浦村の沿岸で死殻が採集され，生貝はドレッジでのみ採集されているが，個体数が非常に少ない．

【種概要】 殻長30 mm，殻は非常に薄く半透明，膨らみは弱くほとんど扁平．殻の外から前寄りに白い放射肋のように見えるのは，殻内部の構造物の内肋．

【分布】 房総半島から九州，中国大陸の水深50 mまでの潮下帯の透水性の高い砂底に分布する．三浦半島周辺，九州日本海側で打ち上げられた殻が普通な海域もある．

【現況・減少要因】 現況は選定理由参照．内湾域潮下帯の環境悪化が著しいことが減少要因と考えられる．

【文献】 19, 154, 164, 186.

(木村昭一)

(写真：鳥羽市生浦湾湾口水深20 m ドレッジ，2012年，木村昭一採集)



三重県 2025

VU

三重県 2015

—

環境省 2020

—

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

ウロコガイ 二枚貝綱 ウロコガイ目 ウロコガイ科
Lepirodes takii (Kuroda, 1945)

【選定理由】 生息条件の悪化，分布域限定，希少．1979年以前には紀伊長島の潮間帯～潮下帯でのみ分布記録がある．近年，伊勢湾湾口部から鳥羽市南部の入江の転石地の低潮線から潮下帯で生貝が採集されていたが，最近では潮間帯では生貝がほとんど確認できないことより今回カテゴリーアップと評価された．ニッポンマメアゲマキより外洋側，かつ低い位置に分布域があり，垂直分布の幅はやや広い（潮下帯水深20 mまで生息する）が，生息地，個体数共に非常に少ない．

【種概要】 殻長20 mm，殻は半透明で白色．殻表には放射状の多数の微小顆粒がある．生時は軟体部で殻が覆われ，二枚の殻が大きく開いた状態で石の下面に附着している．

【分布】 駿河湾，浜名湖，紀伊半島，瀬戸内海，高知県，九州西岸の外洋に面した潮通しの良い湾口部の転石地の低潮線から潮下帯の石や礫の下面に生息する．生息地は限られていて分断されている．どの生息地においても個体数は非常に少ない．

【現況・減少要因】 現況は選定理由参照．上述したような生息環境の減少などが大きな減少要因と考えられる．

【文献】 19, 163, 164, 186, 236.

(木村昭一)

(写真：鳥羽市石鏡沖水深20 m ダイビング，2022年，高重博採集)



三重県 2025

VU

三重県 2015

NT

環境省 2020

—

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類

ツヤママアゲマキ

二枚貝綱 ウロコガイ目 ウロコガイ科

Scintilla nitidella Habe, 1962

【選定理由】 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化．2000年代に英虞湾から採集されているが，鳥羽市レッドデータブックで三重県産の図示を伴った初報告がなされた．近年，愛知県でも記録されている．近年，鳥羽市を含めた伊勢湾湾口部から県南部にかけての外洋に面した内湾域で採集されているが，個体数は非常に少ない．鳥羽市では浦村北部，南部の入江の潮通しの良い潮間帯下部砂泥底上，転石下より生貝が採集されている．

【種概要】 殻長8 mm，殻は白色半透明で薄質，殻表は平滑．外套膜が殻を包み込み，先端部のみ黄橙色の長い突起が伸びる．生時はまるでカニ類に擬態するかのように外套膜を運動させる．

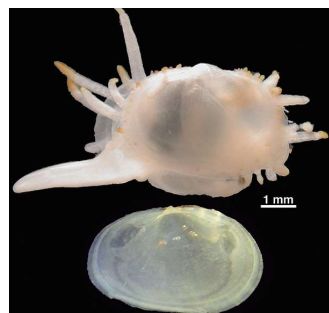
【分布】 青森県から九州の内湾から湾口部の潮間帯から水深20 mまでの潮下帯に分布する．どの生息地においても個体数は非常に少ない．

【現況・減少要因】 現況は選定理由参照．上述したような生息環境の減少などが大きな減少要因と考えられる．

【文献】 3, 19, 163, 164.

(木村昭一)

(写真：鳥羽市浦村北部潮間帯，2022年，木村昭一採集)



三重県 2025

VU

三重県 2015

環境省 2020

イナズママアゲマキ

二枚貝綱 ウロコガイ目 ウロコガイ科

Scintilla violescens Kuroda & Taki, 1961

【選定理由】 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化．1997年の資料で熊野市からの記録があるが，生死などは不明．鳥羽市レッドデータブックで三重県産の図示を伴った初報告がなされた．近年の鳥羽市での調査で初めて本種の生息が確認されたが，浜名湖など外洋に面した内湾域転石地では稀な種ではない．鳥羽市では浦村北部，南部の入江の潮通しの良い潮間帯下部砂泥底上，転石下より生貝が，ドレッジで死殻半片が採集されている．

【種概要】 殻長10 mm，殻は淡桃紫色，半透明で薄質，殻表は平滑．外套膜が殻を包み込み，白橙色の外套膜に同色の短い突起が前後に多数ある．転石裏面に付着していることが多いが，刺激を与えると，触手を運動させて泳ぐ様に離脱する．

【分布】 房総半島から九州，日本海の内湾から湾口部の潮間帯から水深5 mまでの潮下帯転石，礫底に分布する．

【現況・減少要因】 現況は選定理由参照．上述したような生息環境の減少などが大きな減少要因と考えられる．

【文献】 19, 163, 164, 187, 188.

(木村昭一)

(写真：鳥羽市南部入江水深1 m転石下面 ダイビング，2011年，木村昭一採集)



三重県 2025

VU

三重県 2015

環境省 2020

スジホシムシモドキヤドリガイ

二枚貝綱 ウロコガイ目 プンプクヤドリガイ科

Nipponomysella subtruncata (Yokoyama, 1922)

【選定理由】 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化，特殊生息環境．県下から正式な生息記録は前回の三重県レッドデータブックでなされた．伊勢湾中部から志摩半島にかけての干潟約10箇所が生息が確認されている．近年，鳥羽市北部伊勢湾に面した干潟でも生息が確認されている．本種は砂泥底に深く潜って生息するスジホシムシモドキの体表に付着している(図)が，宿主自体は良く保全された干潟に生息し，そのような干潟自体が減少しているため，本種の生息基盤は脆弱である．

【種概要】 殻長5 mm．殻は微小，長卵形で膨らみは弱く白色．

【分布】 浜名湖から九州，南西諸島．分布北限の浜名湖では潮通しの良いアマモ場周辺の砂泥底に多数のスジホシムシモドキが生息しており，年による変動もあるが健全な本種の個体群が確認されている．三重県下の生息地では，浜名湖ほどの個体数は確認できない．南西諸島の個体群は生息環境が著しく異なり宿主も別種の可能性もあり，分類学的な検討を要す．

【現況・減少要因】 現況は選定理由参照．減少要因は干潟の減少，水質汚濁などが考えられる．

【文献】 2, 158, 164, 236.

(木村昭一)

(写真：鳥羽市北部干潟 スジホシムシモドキの体表，2016年，木村昭一採集)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

NT

マゴコロガイ

二枚貝綱 ウロコガイ目 プンブクヤドリガイ科

Peregrinamor ohshimai Shoji, 1938

【選定理由】 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化，特殊生息環境．1990年に津市志登茂川河口域から県下で初めて本種の産出が報告された．近年，伊勢湾最奥部の名古屋港沖の潮下帯よりも生息が確認された．三重県下の干潟で近年本種が確認されているのは，伊勢湾中部の2箇所，英虞湾，紀伊長島港だけである．以上の生息地でも個体数は少ない．

【種概要】 殻長10 mm．殻は薄質半透明，腹面から見るとハート型．本種は干潟の砂泥底に深く穿孔して生息するアナジャコ類の頭胸部腹側に足糸で着生する．

【分布】 東京湾から九州に分布する日本固有種．東京湾からは原記載以来生息が確認されていない．名古屋港沖が本種の分布北限であると考えられる．

【現況・減少要因】 減少要因は干潟の減少，水質汚濁などが考えられる．現在でもアナジャコ類が多産する干潟は多いので，ホストの減少が要因とは考えにくい．

【保護対策】 英虞湾の本種の生息地では，三重大学生物資源学部海洋生態学研究室によるモニタリング，志摩市主催による市民干潟調査としての英虞湾いきもの調査隊事業により合わせて年3回モニタリング調査が行われている．

【文献】 2, 143, 158, 166, 236.

(木村昭一)

(写真：英虞湾奥部干潟，2023年，木村昭一採集)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

NT

イシカゲガイ

二枚貝綱 ザルガイ目 ザルガイ科

Keenocardium buellowi (Rolle, 1897)

【選定理由】 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化．1979年以前に県内では伊勢湾中・南部の3箇所，答志の水深20～30 mから分布記録がある．近年，鳥羽市を含めた伊勢湾中部から湾口部内湾域の潮下帯から成貝の合弁死殻は稀に採集されるが，生きた成貝は確認できない．伊勢湾湾口部での勢水丸によるベントネット，菅島から石鏡沖のドレッジで殻長15 mm以下の幼貝（生貝）は採集されており危機的な状況からの回復傾向が認められる．但し最近の伊勢湾湾口部調査では，生貝は採集されなかった．

【種概要】 殻長70 mm，殻は前後に細長い卵形，膨らみは強い．殻全面に放射状の肋が約30本発達する．

【分布】 本種は本州から九州に分布するが，北方系の種で日本では東北地方以北の潮下帯に分布する．瀬戸内海（広島県）では絶滅したとされている．本種は東北・北海道型と定義された，内海が太平洋側の分布限界である外海では生息し得ないが，低温・低塩分の内海に生息している貝類群集に含まれる．

【現況・減少要因】 現況は選定理由参照．内湾域潮下帯の環境悪化と近年の海水温上昇が減少要因と考えられる．

【文献】 3, 25, 91, 164, 167, 186.

(木村昭一)

(写真：鳥羽市小浜沖水深20 m 蛸壺漁，2022年，木村昭一採集)



三重県 2025

VU

三重県 2015

—

環境省 2020

—

サビシラトリ

二枚貝綱 ドブシジミ目 ニッコウガイ科

Limecola contabulata (Deshayes, 1855)

【選定理由】 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化．1979年以前に県内では，津，大淀，三木浦の潮間帯から分布記録がある．現在でも伊勢湾の内湾奥で生息が確認されているが，生貝の個体数は非常に少ない．近年，鳥羽市北部伊勢湾に面した干潟でも生息が確認されている．

【種概要】 殻長50 mm．殻は卵形，膨らみは弱く白色，殻表縁辺部は薄い殻皮に覆われる．水管は長く伸長する．

【分布】 北海道南部から九州，朝鮮半島，中国大陸，ロシア日本海沿岸に分布する．北日本では生息地が多いが，西南日本（温帯域）では生息地が少なく，減少傾向が著しい．内湾奥の河口域や汽水湖の泥底に深く穿孔して生息する．

【現況・減少要因】 現況は選定理由参照．減少要因は干潟の減少，水質汚濁などが考えられる．

【保護対策】 伊勢湾の生息地については，三重大学生物資源学部海洋生態学研究室による年間2回以上のモニタリング調査が行われている．

【文献】 2, 31, 136, 143, 158, 164, 186, 236.

(木村昭一)

(写真：鳥羽市北部干潟，2016年，木村昭一採集)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

NT

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

モモノハナ

二枚貝綱 ドブシジミ目 ニッコウガイ科

Moerella hilaris (Hanley, 1844)

【選定理由】 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化．1979年以前に県内では，白子，津，新鹿の水深10～30 mから分布記録がある．かつて伊勢湾中部の内湾で死後間もない殻が確認されているが，生貝の確認例はない．近年，鳥羽市生浦湾で少数の死殻が採集されている．浜名湖では潮間帯のアマモ場周辺の砂泥底に普通に生息するが，県下でそのような場所は，確認されていない．

【種概要】 殻長20 mm，サクラガイに近似するが，やや小型で紅色の色彩が濃く，殻頂から放射状に出る桃白色の2本の色帯が特徴．殻の色彩の変異は少ない．

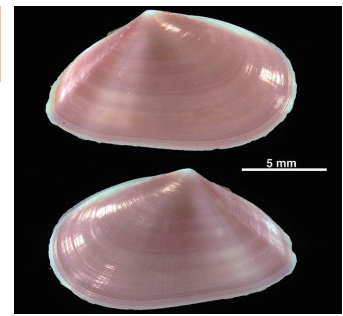
【分布】 三陸沿岸・男鹿半島から九州，朝鮮半島，中国大陸の潮間帯から水深10 mの砂泥底に分布する．三浦半島周辺，九州日本海側などでは合弁の死殻が普通に打ち上げられている海岸も少なくはないが，内湾域での減少傾向は著しい．

【現況・減少要因】 現況は選定理由参照．減少要因は干潟の減少，水質汚濁などが考えられる．

【文献】 19, 158, 164, 165, 186, 236.

(木村昭一)

(写真：鳥羽市生浦湾水深10 m ドレッジ，2013年，木村昭一採集)



三重県 2025

VU

三重県 2015

DD

環境省 2020

NT

サギガイ

二枚貝綱 ドブシジミ目 ニッコウガイ科

Rexithaerus sector (Ôyama, 1950)

【選定理由】 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化．1979年以前に県内では，白子，有滝，尾鷲，三木浦の水深10～30 mから分布記録がある．1980年代には伊勢湾沿岸各地で比較的普通に新鮮な死殻が打ち上げられていたが，近年，伊勢湾中部では打ち上げられる死殻も激減し，伊勢湾湾口部から志摩半島でも打ち上げ死殻も著しく減少した．鳥羽市浦村沿岸では潮間帯下部から生貝が採集されている．

【種概要】 殻長50 mmで，殻は卵形で膨らみは弱く扁平，白色で殻表には光沢がある．ゴイサギガイと近似するが本種は大型で殻表の光沢が強い点等で区別できる．

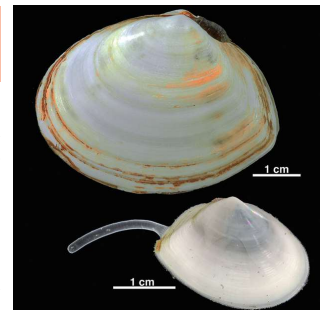
【分布】 北海道から九州，サハリン，朝鮮半島，中国大陸に分布する．外洋水の影響のある内湾の干潟から水深10 m程度の砂泥底に生息する．近年，三浦半島や浜名湖で生息が継続的に確認されているが，そのような場所は少なくなった．かつての多産地の瀬戸内海でも，生息海域，個体数が激減している．

【現況・減少要因】 現況は選定理由参照．減少要因は干潟の減少，水質汚濁などが考えられる．

【文献】 2, 164, 165, 186, 236.

(木村昭一)

(写真：鳥羽市浦村町入江潮間帯，2016年，締次美穂採集)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

NT

ニシムラザクラ

二枚貝綱 ドブシジミ目 ニッコウガイ科

Moerella nishimurai Kuroda & Habe, 1958

【選定理由】 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化．年代不詳（1997年より以前）に熊野市新鹿から生死不明の図示のない分布記録がある．近年も鳥羽市生浦湾湾口部沖を主生息域とした水深5～10 mの細砂底から生貝が採集されている．生浦湾湾口部白浜沖に本種の健全な個体群が確認されているが，その範囲は非常に狭い．近年，英虞湾でも生息が確認されている．

【種概要】 殻長7 mm，殻は三角形で膨らみは弱く，白色半透明，殻表には弱い成長脈があるが平滑で光沢が強い．

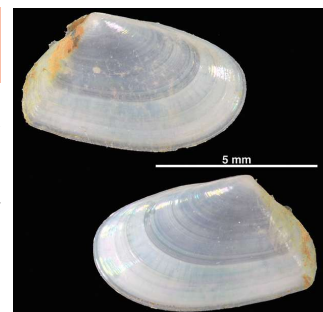
【分布】 房総・男鹿半島から九州の水深20～300 mの砂底に分布するとされているが，県下の100 m以深の外洋では生息が確認できない．県内では外洋に面した浅海の潮通しが良く，透水性が高い細砂底に生息する．

【現況・減少要因】 現況は選定理由参照．減少要因は干潟の減少，水質汚濁などが考えられる．

【文献】 19, 154, 164, 188, 221.

(木村昭一)

(写真：鳥羽市生浦湾湾口水深5 m ドレッジ，2012年，木村昭一採集)



三重県 2025

VU

三重県 2015

—

環境省 2020

—

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

ナミノコガイ

二枚貝綱 ドブシジミ目 フジノハナガイ科

Donax cuneatus Linnaeus, 1758

【選定理由】 個体群・個体数の減少、生息条件の悪化。1979年以前に県内では、御座、新鹿、大泊の潮間帯から分布記録がある。鳥羽市内ではキュウシュウナミノコガイの生息が確認されたが、本種は未確認。志摩半島では3箇所で見つけられた殻が確認され、2018年に1箇所では生貝も確認された。外海に面した砂浜に生息域があるが、面積は非常に小さく、個体数も少ない。

【種概要】 殻長25 mm、殻質は厚く堅固、殻表には青紫地に淡褐色の色帯が入り、内面は濃紫色の個体が多いが、殻表、内面とも純白の個体も出現する。露出度の高い湾や外洋の砂浜の中・低潮帯の波打ち際に生息し、潮汐・波と共に移動する。

【分布】 太平洋側では千葉県銚子以南、東京湾内房、相模湾、日本海側では男鹿半島や能登半島周辺、山口県などから記録がある。九州では産地が多く、福岡県福岡市、鹿児島県吹上浜、宮崎県日向灘では多産する。奄美大島から西表島にかけての南西諸島にも分布する。

【現況・減少要因】 現況は選定理由参照。砂浜の埋立や汚染によって、局所的に個体群が減少している。底質の粒度は、本種の生息分布の重要な条件である。

【文献】 19, 164, 186, 221, 236, 278.

(木村昭一)

(写真：志摩半島潮間帯，2018年，縮次美穂採集)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

NT

キュウシュウナミノコガイ

二枚貝綱 ドブシジミ目 フジノハナガイ科

Donax kiusiuensis Pilsbry, 1901

【選定理由】 1979年以前に県内から分布記録がない。2000年代に熊野市から生死不明で図を伴わない報告がある。鳥羽市レッドデータブックが図を伴う初報告となる。近年、大王町、鳥羽市生浦湾湾口部、熊野市新鹿で生息が記録されているが、採集例は非常に少ない。淡水の影響のある外海に面した砂浜に生息域があるが、生息面積は非常に狭く、個体数も少ない。

【種概要】 殻長10 mm、前後の長い三角形、殻は薄く、殻表は平滑で色彩、模様の変異は大きく、純白の個体も出現する(図)。露出度のやや高い内湾や外洋の砂浜の中・低潮帯の波打ち際に生息する。

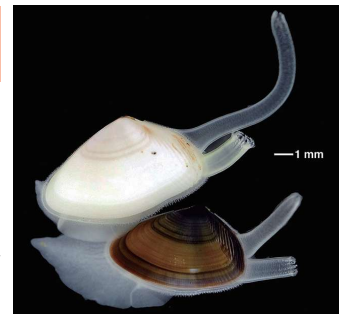
【分布】 北海道南部から南西諸島、中国大陸、台湾の湾口部から外洋に面した細砂底の潮間帯に分布する。ナミノコガイより内湾寄りに分布域があり、フジノハナガイと同所的に分布することもある。

【現況・減少要因】 現況は選定理由参照。砂浜の埋立や汚染によって、局所的に個体群が減少している。底質の粒度は、本種の生息分布の重要な条件と考えられる。

【文献】 19, 164, 186, 221, 236, 278.

(木村昭一)

(写真：熊野市新鹿潮間帯，2022年，縮次美穂採集)



三重県 2025

VU

三重県 2015

DD

環境省 2020

—

マスオガイ

二枚貝綱 ドブシジミ目 シオサザナミ科

Gari elongata (Lamarck, 1818)

【選定理由】 個体群・個体数の減少、生息条件の悪化。2004年に紀伊長島町の汽水湖から県下よりの生息が初めて報告された。現在の本種の北・東限分布地として貴重である。報告時から個体数は少なかったが、その後歩道整備によって生息地の一部が改変を受け、個体数が明らかに減少し、最近の調査では生貝を確認することができなかった。志摩市から熊野市にかけて記録があるが、詳細は不明。

【種概要】 殻長50 mmで前後に長い方形。殻表は平滑で紫色、若い個体では緑褐色の殻皮で被われる。

【分布】 紀伊半島から九州、南西諸島、インド・太平洋に分布する。内湾奥の石や礫混じりの泥質干潟に生息する。紀伊半島から九州にかけての生息地は少なく、比較的生息地の多い南西諸島でも護岸工事等で個体群の消失が報告されている。

【現況・減少要因】 現況は選定理由参照。干潟の消失、水質汚濁などが減少要因と考えられる。

【文献】 137, 139, 221, 236.

(木村昭一)

(写真：北牟婁郡汽水湖，2004年，木村昭一採集)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

NT

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

ムラサキガイ

二枚貝綱 ドブシジミ目 シオサザナミ科

Hiatula adamsii (Reeve, 1857)

【選定理由】 個体群・個体数の減少、生息条件の悪化。1979年以前に県内では、白塚、大淀、二見、槌柄浦の水深20 mまでの潮下帯から分布記録がある。1980年代には伊勢湾沿岸各地で比較的普通に死殻が打ち上げられていたが、一時期死殻すら全く見かけない時代があった。2012年頃より復活傾向が確認され、伊勢湾中部から湾口部の沿岸で死殻が比較的普通に見られる海岸もある。しかし、その様な海岸は少なく、干潟で生貝が確認されることは現在も非常に稀である。最近では、鳥羽市浦村沿岸の潮間帯下部から生貝も採集されている。本種は深く底質に穿孔することもあり、依然として生貝確認個体数は非常に少ない。

【種概要】 殻長120 mm。殻は長い楕円形で膨らみが少なく薄質。殻表は紫色で褐色の殻皮で覆われている。

【分布】 房総半島から九州、台湾、インドネシアに分布する。外洋水の影響のある内湾の干潟から潮下帯の砂泥底に生息する。復活傾向はあるが、かつての状態にはほど遠い。瀬戸内海西部、宮崎県に健全な個体群が確認されている。

【現況・減少要因】 現況は選定理由参照。減少要因は干潟の減少、水質汚濁などが考えられる。

【文献】 2, 158, 164, 186, 236.

(木村昭一)

(写真：鳥羽市浦村町入江潮間帯，2016年，佐藤達也採集)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

VU

アケボノキヌタ

二枚貝綱 ドブシジミ目 シオサザナミ科

Soletellina atrata Deshayes in Reeve, 1857

【選定理由】 個体群・個体数の減少、生息条件の悪化。1979年以前に県内では、国府の水深30 mから分布記録がある。三重県下では浜名湖のように打ち上げて死殻が得られる場所はほとんどない。渥美外海で操業する底引網漁での混獲以外での採集例は非常に少ない。近年、鳥羽市答志島沖で勢水丸によるベントス調査で合弁の死殻が採集されている。本種は深く底質に穿孔することもあり、依然として生貝確認個体数は非常に少ない。

【種概要】 殻長60 mm，フジナミを小形にしたような形態であるが、腹縁が直線的で、殻頂から後腹縁部へ2本の細い白帯が明瞭な点などで区別される。

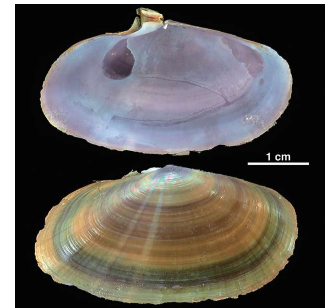
【分布】 房総半島から九州、東南アジアの潮間帯から水深30 mの湾口部から外洋の砂底に分布する。フジナミ、ムラサキガイと比べて本種の生息水深はやや深い。九州北部、宮崎県に健全な個体群が確認されている。

【現況・減少要因】 現況は選定理由参照。減少要因は干潟の減少、水質汚濁などが考えられる。

【文献】 19, 164, 186, 236.

(木村昭一)

(写真：答志島北沖水深20 m 勢水丸ベントスネット，2014年，木村昭一採集)



三重県 2025

VU

三重県 2015

—

環境省 2020

—

アサジガイ

二枚貝綱 ドブシジミ目 アサジガイ科

Semele zebuensis (Hanley, 1843)

【選定理由】 個体群・個体数の減少、生息条件の悪化。1979年以前に県内では、答志、和具、海野、三浦の水深10~30 mから分布記録がある。渥美外海で操業する底引網漁での混獲以外での採集例は非常に少ない。近年、鳥羽市では答志島沖で勢水丸によるベントス調査、菅島から石鏡沖のドレッジで死後間もない合弁殻が少数採集されている。元々湾口部の潮下帯に生息域がありモニタリングが容易ではない種であるが、近年、採集個体数（特に大型個体）が著しく減少している。

【種概要】 殻長50 mm，背部が尖った円形，殻表は粗い成長脈で覆われ、淡橙色の不明瞭な放射彩状が数本ある。

【分布】 房総半島から九州、東南アジアの水深10~50 mの湾口部から外洋の砂底に分布する。

【現況・減少要因】 現況は選定理由参照。内湾域潮下帯の環境悪化が著しいことが減少要因と考えられる。

【文献】 19, 164, 186.

(木村昭一)

(写真：鳥羽市菅島南沖水深30 m ドレッジ，2021年，佐藤達也採集)



三重県 2025

VU

三重県 2015

—

環境省 2020

—

ミソハギガイ

二枚貝綱 マルスダレガイ目 フタバシラガイ科

Microstagon japonicum (Habe, 1961)

【選定理由】 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化，希少．原記載時より三重県英虞湾から分布記録があるが，小型種ということもあり生息記録は少ない．県下では，2022年に鳥羽市での本種の詳細な産出状況が報告されたが，それ以前に志摩市から生死不明で図を伴わない報告がある．前述の通り，鳥羽市では岩礁に近い砂礫底より生貝が確認されている．全国的に採集記録が少なく，限られた海域に生息する希少種の可能性が高い．三重県に生息する希少種として今後もモニタリングの必要性がある．

【種概要】 殻長3 mm，殻は卵形で，前腹方向へ傾き殻頂は後方へ寄る．殻表は黄褐色の殻皮で覆われ光沢がある．輪肋は明瞭な個体からほとんど目立たず平滑な個体まで変異がある．

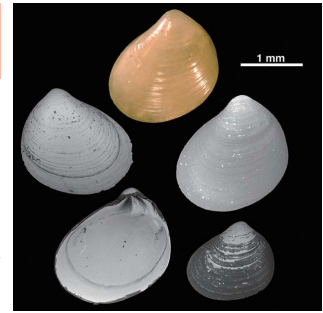
【分布】 三重県志摩半島から和歌山県の潮間帯から水深30 mの砂底に分布する．海産貝類としては非常に分布域が狭い．日本固有種．

【現況・減少要因】 現況は選定理由参照．内湾域潮下帯の環境悪化が著しいことが減少要因と考えられる．

【文献】 15, 19, 120, 164, 186, 221.

(木村昭一)

(写真：鳥羽市石鏡沖水深2～5 m ドレッジ，2021年，河合秀高採集)



三重県 2025

VU

三重県 2015

—

環境省 2020

—

ガンギハマグリ

二枚貝綱 マルスダレガイ目 マルスダレガイ科

Pitar lineolatum Sowerby II, 1854

【選定理由】 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化．1979年以前に県内では紀伊長島，須賀利の水深5～10 mから分布記録がある．近年，英虞湾では健全な個体群が確認されており，潮間帯（アマモの繁茂した干潟周辺）でも生息が確認されている．鳥羽市では生浦湾，南部の入江の潮下帯より生貝が確認されているが，個体数は非常に少ない．その他の海域では死殻が採集されることも稀である．最近では紀伊長島港でも死殻は確認された．

【種概要】 殻長25 mm，殻は横に長い丸みのある三角形で，膨らみは強い．殻は黄白色の地色に茶褐色の細かいジグザグ模様が散在する．生時には殻皮に砂粒を付着させている個体が多い．

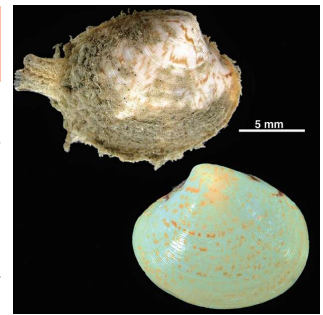
【分布】 房総半島・佐渡から九州，中国大陸，台湾，熱帯インド・太平洋の潮間帯下部から水深20 mの内湾から湾口部砂泥底に分布する．

【現況・減少要因】 現況は選定理由参照．減少要因は干潟の減少，水質汚濁などが考えられる．

【文献】 163, 164, 186, 236.

(木村昭一)

(写真：鳥羽市南部入江水深2 m ダイビング，2011年，木村昭一採集)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

NT

イオウハマグリ

二枚貝綱 マルスダレガイ目 マルスダレガイ科

Pitar sulfureus Pilsbry, 1904

【選定理由】 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化．1979年以前に県内では賢島の潮間帯から分布記録がある．英虞湾，五ヶ所湾に健全な個体群が確認されている．近年，鳥羽市南部の入江奥部の潮間帯で生息が確認されたが，個体数は非常に少ない．この生息地は本種の現在の北限かつ東限の可能性が高い．上述以外の海域では死殻すら稀である．

【種概要】 殻長30 mm，殻は横に長い丸みのある三角形で，殻質はやや厚く，膨らみは強い．殻は鮮黄色で斑紋はないが，生時には殻皮に厚く砂粒を付着させている個体が多い．

【分布】 房総・男鹿半島から南西諸島，インド・太平洋の潮間帯（中・高潮線）の礫砂泥底に分布するとされるが，三重県（鳥羽市）以北では現在生息が確認されていない．

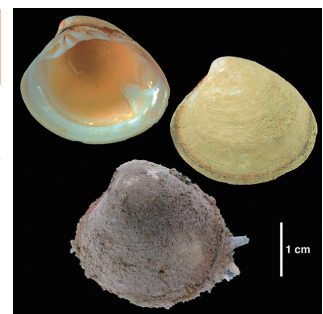
【現況・減少要因】 現況は選定理由参照．減少要因として，内湾域潮下帯の環境悪化が著しいこと，特に本種は干潟の高い部分に生息地があり，陸域の改変の影響も受けやすいと考えられる．

【保護対策】 英虞湾の生息地については，三重大学生物資源学部海洋生態学研究室による年間2回以上のモニタリング調査が行われている．

【文献】 141, 158, 164, 186, 236.

(木村昭一・木村妙子)

(写真：鳥羽市南部入江潮間帯，2010年，木村昭一採集)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

VU

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類

貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蘚苔類
藻類
キノコ

EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

ヒメマスオガイ

二枚貝綱 オオノガイ目 オオノガイ科

Cryptomya busoensis Yokoyama, 1922

【選定理由】 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化。1979年以前に県内では四日市，白子，有滝の水深20 mから分布記録がある。1990年代には打ち上げられた死殻も稀であったが，近年では伊勢湾中部から湾口部でクシケマスオとともに打ち上げられた死殻が確認されている。依然として生貝の採集例は稀。鳥羽市ではドレッジで生浦湾の奥部を中心に少数の生貝が確認されている。また，浦村沿岸の潮間帯下部からも少数の生貝が採集された。

【種概要】 殻長20 mm，殻は卵形で膨らみはやや強い。殻は白色で薄く脆い。殻表は緑灰色のやや厚い殻皮で覆われる。殻の後端は裁断状で開く。殻内面殻頂下にさじ状の弾帯受けがある。

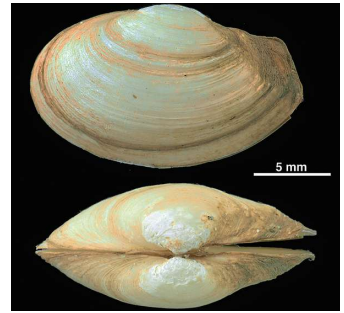
【分布】 北海道から九州，朝鮮半島，中国大陸の潮間帯下部から水深20 mまでの内湾砂泥底に分布する。

【現況・減少要因】 現況は選定理由参照。減少要因は干潟の減少，水質汚濁などが考えられる。

【文献】 3, 136, 158, 164, 186, 236.

(木村昭一)

(写真：鳥羽市生浦湾水深5 m ドレッジ，2012年，木村昭一採集)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

VU

クチベニガイ

二枚貝綱 オオノガイ目 シコロクチベニ科

Corbula erythrodon Lamarck, 1818

【選定理由】 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化。1979年以前に県内では南張（南島町），紀伊長島，尾鷲の水深5 mから分布記録がある。近年，伊勢湾の愛知県側には知多半島中部から南部に本種の健全な個体群が確認されているが，三重県側では確認できない。1980年代には伊勢湾中部から湾口部で比較的普通に死殻が打ち上げられて採集されていたが，生息が確認できなかった。2017年に鳥羽市浦村の潮間帯より生貝1個体が採集された。本種は伊勢湾の三重県側沿岸では危機的生息状況と判断された。

【種の概要】 殻長25 mm，殻は著しい厚質で堅固。膨らみが強く，右殻が大きく，腹縁後部は左殻を包み込む。殻内面の周辺部は紅紫色。

【分布】 房総半島～九州，朝鮮半島，中国沿岸の潮間帯から潮下帯の砂底に分布する。三浦半島周辺では打ち上げられた生貝や殻が比較的普通に見られる。知多半島美浜町沖（愛知県側の伊勢湾）では潮間帯下部や水深5～10 mの透水性の高い砂底でドレッジ等によって多数の個体が採集されている。

【現況・減少要因】 内湾域潮下帯の環境悪化（特に底質の泥質化）が著しいことが減少要因と考えられる。

【文献】 3, 63, 135, 164, 186.

(木村昭一)

(写真：鳥羽市浦村町入江潮間帯，2016年，締次美穂採集)



三重県 2025

VU

三重県 2015

—

環境省 2020

—

ヒメナガツノガイ

堀足綱 ツノガイ目 ゴウゲツノガイ科

Dentalium buccinum Gould, 1859

【選定理由】 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化。1979年以前に県内では大王崎の水深20～30 mから分布記録がある。外洋から湾口部に分布し，近年も鳥羽市沖を含めた湾口部の水深10～30 mの貝殻砂底から生貝が少数採集されている。内湾に普通なヤカドツノガイと比べると，透水性の高い底質を好む。1970年代，瀬戸内海広島県沖の海砂には多くの死殻が含まれていたが，現況は不明。現在でも福岡県北部に普通に本種の殻が打ち上げられる産地が存在するが，近年生貝の記録はほとんど見当たらない。

【種概要】 殻長30 mm，殻口と殻頂部の太さの差は小さく，殻頂から殻口の方に向かって途中で消失する縦肋が多数有る。

【分布】 房総半島，富山湾から南西諸島の水深100 m以浅の砂底に分布する。

【現況・減少要因】 現況は選定理由参照。内湾域潮下帯の環境悪化（特に底質の泥質化）が著しいことが減少要因と考えられる。

【文献】 20, 164, 186, 278.

(木村昭一)

(写真：鳥羽市石鏡沖水深30 m ドレッジ，2019年，佐藤達也採集)



三重県 2025

VU

三重県 2015

—

環境省 2020

—

マダカアワビ

Haliotis madaka (Habe, 1979)

腹足綱 ミミガイ目 ミミガイ科

【選定理由】 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化．1979年以前に国崎，安乗，和具，浜島，宿浦の5箇所の4～20 mより分布記録がある．著名な食用種であるが，近年鳥羽市を中心とした詳細な潜水実地調査，水揚げ物，市場調査により絶滅危惧種と評価された．鳥羽市中部から南部，離島の水深6～20 mの岩礁域に生息し，海女漁にて水揚げされる．かつては「メタカ」と称して，近縁種のメカイアワビと区別されたが1980年代以降，稀にしか産しないので，区別されることもなくなった（ともに赤アワビと呼称される）．潜水調査では水深10 m以深で僅かな個体数が確認されるに過ぎない．

【種概要】 殻長250 mmに達する大型種．殻質は厚く，殻全体を上から見た時の丸みが強く，殻の背は著しく隆起する．呼吸孔は4個程度で，孔の盛り上がりは山型になり高い．

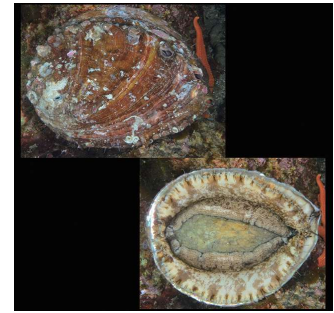
【分布】 太平洋側では房総半島以南，日本海側では西部沿岸から九州の潮間帯下から水深約50 mの岩礁に生息し，大型藻類を餌料としている．

【現況・減少要因】 近年，泥粒子の浮遊や浮泥の堆積が顕著でカジメの生育が制限されることが減少要因として重要であると考えられる．

【文献】 164, 186, 270, 276, 277.

(佐藤達也・木村昭一)

(写真：鳥羽市水深20 m，スクーバ潜水2013年，高重博撮影)



三重県 2025

VU

三重県 2015

—

環境省 2020

—

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

ウミヒメカノコ

Smaragdia sp.

腹足綱 アマオブネ目 アマオブネ科

【選定理由】 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化，希少．本種は内湾の干潟から潮下帯のアマモ場周辺に生息する．伊豆半島以南の日本本土の内湾域から死殻が時折採集されているが，生息情報が非常に少ない種である．鳥羽市レッドデータブックで本種の本県での正式な生息報告がなされた．2015年10月鳥羽市生浦湾のウミヒルモ群落内から2個体生貝が確認された．生貝は尾鷲市でも記録された．英虞湾では死後間もない殻は比較的普通に採集されるが，生貝は確認されていない．最近紀伊長島港からも死後間もない殻が2個体採集された．

【種概要】 殻長5 mmの球型，殻表は平滑で光沢があり，明るい黄色の地色に稲妻状の細かい縦縞がある．蓋は石灰質．本種の学名は確定していないが，近似種のキンランカノコガイとは本種は螺塔が低く，レモン色の螺状色帯が無いことなどから明確に区別される．

【分布】 伊豆半島から瀬戸内海，九州，南西諸島の潮間帯下部から潮下帯の水深40 mまでのコアマモ，ウミヒルモ群落の葉上に生息する．近年瀬戸内海中部，宮崎県，南西諸島より生息が記録されている．

【現況・減少要因】 現況は選定理由参照．減少要因については，藻場の著しい減少が考えられる．

【文献】 3, 12, 161, 164, 186, 236.

(木村昭一)

(写真：鳥羽市生浦湾水深1.5 m ダイビング，2015年，佐藤達也採集)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

VU

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

ヒナユキスズメ

Plesiothyreus sp.

腹足綱 アマオブネ目 ユキスズメ科

【選定理由】 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化．伊勢湾沿岸の内湾奥部の塩性湿地周辺の転石地から湾口部から鳥羽市，英虞湾を含めた県南部の小規模な内湾域の転石地まで分布する．近年の調査で比較的広い範囲に生息地が発見されているが，それぞれの面積は小さく，内湾域側の生息地の改変が顕著で生息地の消失も確認されている．

【種概要】 和名だけが提唱された未記載種．殻長5 mm，殻は笠型で，薄質．腹足の筋肉内に小型で半透明の蓋を持つ．ミヤコドリ幼貝（図2）と近似するが，殻頂部が左にずれる点で識別は明確である．砂泥底に半ば埋もれた石の裏面に付着する．内湾奥に生息する個体はワカウラツボと同所的に見られる場合も多く，殻表が摩耗している個体が多い．

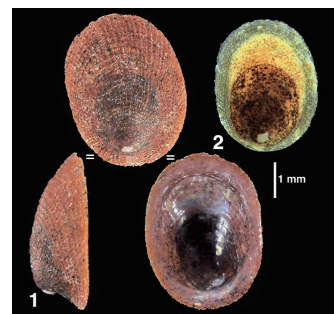
【分布】 現況では日本でのみ生息が確認されており，三浦半島から瀬戸内海，九州に分布する．

【現況・減少要因】 現況は選定理由参照．減少要因については，特に内湾側での干潟，塩性湿地の減少，改変の影響が最も大きい．

【文献】 2, 141, 156, 158, 164, 236.

(木村昭一)

(写真：1：ヒナユキスズメ，2：ミヤコドリ幼貝，共に鳥羽市南部入江潮間帯 砂礫底，2010年，木村昭一採集)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

NT

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

コゲツノブエ

腹足綱 オニツノガイ目 オニツノガイ科

Cerithium coralium Kiener, 1841

【選定理由】 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化。1979年以前に本県から分布記録がないが，単純な記録漏れと思われる。伊勢湾口部から鳥羽市にかけて死殻は見られるが生息が確認できない状況が続いた，近年，鳥羽市南部の入江奥の砂泥底より生息が確認された。この生息地は現在本種の北・東限と考えられる。英虞湾では湾中部では本種の個体数が減少し，湾奥部では逆に個体数が増加している。志摩半島から県南部の内湾の干潟に健全な個体群が残されているが，生息地は少なく，面積も小さく分断されている。

【種概要】 殻長35 mmで細長く，螺塔は高い。殻表は暗青褐色から黒褐色で，丸い小さなイボ状突起が螺肋に沿って多数並ぶ。

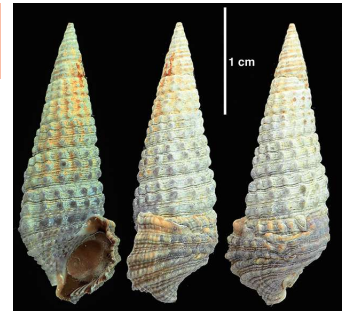
【分布】 房総半島から南西諸島，インド・西太平洋に分布する。内湾奥の潮間帯上部から中部の泥質干潟の表面に生息する。南西諸島では生息地が多いが，九州以北では生息地が少なく，古い死殻しか見られなくなった海域も多い。現在，鳥羽市南部が本種の北・東限分布地と考えられる。

【現況・減少要因】 現況は選定理由参照。減少要因については，干潟の減少，水質汚濁などが考えられる。

【文献】 137, 139, 141, 157, 158, 164, 186, 236.

(木村昭一)

(写真：鳥羽市南部入江奥部潮間帯，2011年，木村昭一採集)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

VU

イボウミナ

腹足綱 オニツノガイ目 ウミナ科

Batillaria zonalis (Bruguère, 1792)

【選定理由】 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化。1979年以前に伊勢湾2箇所，熊野灘沿岸の2箇所から分布記録がある。1990年代から急速に伊勢湾・三河湾の個体群の減少が確認され，一時期は全く生息が確認されない状態であった。近年三河湾では健全な個体群が確認された。伊勢湾中部でも生貝の確認例がある。2020年鳥羽市内でも北部の干潟（伊勢湾）で生貝が採集された。伊勢湾では依然として健全な個体群は確認されていないが，英虞湾には広範囲で健全な個体群が確認されている。

【種概要】 殻長45 mm，高い塔型で殻質は厚く，螺層にやや強い肋を持つ。殻口外唇が湾入する点で近似するウミナ，ホソウミナと識別できる。

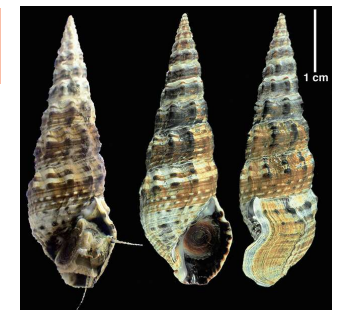
【分布】 北海道南部から南西諸島まで朝鮮半島，中国大陸，インド洋，太平洋に分布する。日本での分布域は広いが，東京湾・相模湾では絶滅状態で，浜名湖でも生貝は確認されていない。ウミナ類では一番沖側に分布する。

【現況・減少要因】 現況は選定理由参照。内湾域の生息環境の著しい悪化（水質の富栄養化，泥分の過剰な堆積）が減少要因と考えられる。

【文献】 3, 149, 157, 158, 164, 186, 236.

(木村昭一)

(写真：鳥羽市北部河口域潮間帯，2022年，伯耆匠二採集)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

VU

タケノコカワニナ

腹足綱 オニツノガイ目 トゲカワニナ科

Stenomelania torulosa (Bruguère, 1789)

【選定理由】 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化。1979年以前に御座，海野の2箇所から分布記録がある。伊勢湾から志摩市にかけてほとんど生息が確認されなかったが，英虞湾では生貝が少数採集された。2011年に伊勢湾奥部の河口域で軟体部と蓋の残った死亡個体が採集された（1個体のみ）。2022年に鳥羽市北部沿岸河口域で死殻が数個体確認された。更に県南部の湿地環境を伴い蛇行した河川河口域，汽水域3箇所健全な個体群が確認された。今回カテゴリーは前回より絶滅危険度が低く評価された。

【種概要】 殻長約60 mmの塔型で殻はやや厚く，大型。成長にともなって殻頂部は欠落する。殻表はほとんど平滑で黒色。蓋は卵形で革質。

【分布】 以前は日本固有種とされていたが，南西諸島に分布するムチカワニナと同種である。本州関東地方以南九州までに分布する。紀伊半島（三重県南西部から和歌山県中南部河口域），四国太平洋岸，九州南部・西部には健全な個体群が確認されている。

【現況・減少要因】 現況は選定理由参照。河口域，汽水域の地形の単純化，河川水が停留する環境の消失，水質汚濁などが減少要因と考えられる。

【文献】 3, 157, 158, 164, 186, 236.

(木村昭一)

(写真：左：県南部河口域，2013年，右：英虞湾湾奥，2004年，木村昭一採集)



三重県 2025

VU

三重県 2015

EN

環境省 2020

VU

ヌノメチョウジガイ

腹足綱 エゾタマキ目 ホソスジチョウジガイ科

Phosinella pura (Gould, 1861)

【選定理由】 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化．1979年以前に県内では紀伊長島，三木崎の水深10～20 mより分布記録がある．近年も伊勢湾湾口部から県南部にかけて内湾潮間帯下部の砂礫底で生貝は採集されているが，個体数・生息地は多くない．鳥羽市では生息地が多く，浦村北部沿岸，島嶼域，市南部の入江で生息が確認されている．

【種概要】 殻長5 mm，殻は白色，やや短い塔形で螺塔は高い．殻質は厚く，各螺層には細く明瞭な螺肋と成長肋がほぼ等間隔にあり，殻表全面は布目状．

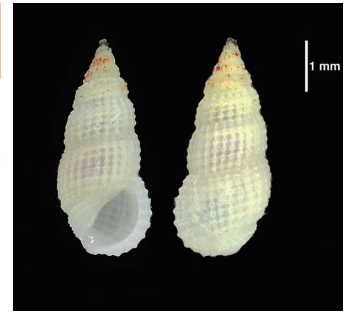
【分布】 北海道南部から九州，奄美大島，朝鮮半島，中国大陸の内湾から湾口部の転石の多い砂礫底に分布する．愛知県でも生息が確認されているが，三河湾湾口部の狭い範囲で，三重県内より生息状況は深刻である．外洋水の影響のある潮通しの良い石の下面に生息していることが多い．

【現況・減少要因】 現況は選定理由参照．減少要因については，干潟の減少，水質汚濁などが考えられる．転石上に浮泥が大量に堆積すると石の下面の還元状態が過度になり生息が困難になる可能性がある．

【文献】 3, 164, 186, 236.

(木村昭一)

(写真：鳥羽市麻倉島潮間帯石の下，2012年，木村昭一採集)



三重県 2025

VU

三重県 2015

DD

環境省 2020

—

スジウネリチョウジガイ

腹足綱 エゾタマキ目 ホソスジチョウジガイ科

Rissoina costulata Dunker, 1861

【選定理由】 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化．1979年以前に県内では紀伊長島，三木崎の水深10～20 mより分布記録がある．近年も伊勢湾湾口部から県南部にかけて内湾潮間帯下部の転石の多い砂礫底で生貝は採集されているが，個体数・生息地は多くない．ヌノメチョウジガイよりやや内湾寄りに分布することが多い．鳥羽市では生息地が多く，浦村北部沿岸，島嶼域，市南部の入江で生息が確認されている．

【種概要】 殻長5 mm，殻は灰白色であるが，付着物で汚れている場合が多い．やや短い塔形で螺塔は高い．殻質は厚く，殻表の縦肋は太く，緩曲する．

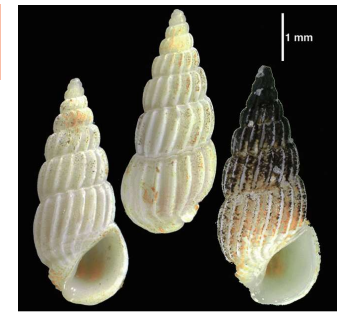
【分布】 房総・男鹿半島から九州，南西諸島，小笠原諸島，朝鮮半島の内湾から湾口部の砂礫底に分布する．潮通しの良い転石の下面に生息していることが多い．

【現況・減少要因】 現況は選定理由参照．減少要因については，干潟の減少，水質汚濁などが考えられる．転石上に浮泥が大量に堆積すると石の下面の還元状態が過度になり生息が困難になる可能性がある．

【文献】 3, 164, 186, 236.

(木村昭一)

(写真：鳥羽市浦村潮間帯石の下，2022年，木村昭一採集)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

VU

ミジンチョウジガイ

腹足綱 エゾタマキ目 ホソスジチョウジガイ科

Takirissoina japonica (Weinkauff, 1881)

【選定理由】 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化．1979年以前に県内では分布記録がない．2000年代に志摩市などより生死不明で図示のない記録がある．2020年に初めて鳥羽市より採集された標本が図示され，生息環境の詳細が報告された．鳥羽市石鏡沖の水深2～6 mの岩礁周辺の砂礫底から死後間もない殻が多数採集された．その後，答志島，菅島沖からもドレッジで少数の死殻が採集されているが，生貝は未確認．今のところ他の海域では死殻も確認されていない．

【種概要】 殻長4 mm，殻は長く半透明，肩部に弱い角があり，殻表には間隔の空いた螺溝が多数ある．死後間もない殻はガラス質で透明感がある．

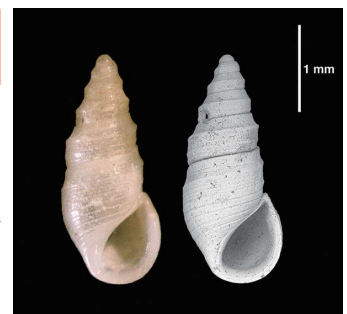
【分布】 紀伊半島から九州南部までの太平洋岸の岩礁地近くの砂浜で打ち上げ採集される．岩礁周辺の礫底に生息している可能性が高い．

【現況・減少要因】 現況は選定理由参照．減少要因については，水質汚濁，浮泥の堆積などが考えられる．

【文献】 30, 120, 164, 186, 221.

(木村昭一)

(写真：鳥羽市石鏡沖水深2～6 m ドレッジ，2021年，佐藤達也採集)



三重県 2025

VU

三重県 2015

—

環境省 2020

—

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

藓苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

ワカウラツボ

腹足綱 エゾタマキピ目 ワカウラツボ科

Wakauraia sakaguchii (Kuroda & Habe, 1954)

【選定理由】 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化，特殊生息環境。1979年以前に県内では分布記録がない。本種は内湾奥の河口域に発達したヨシ原湿地周辺の深く埋もれた転石や朽ち木の下面に生息する。本県ではヨシ原湿地という生息環境自体が護岸工事や埋め立てで著しく減少しているため本種の生息地，生息数とも著しく減少したと考えられる。伊勢湾湾奥から湾口部，英虞湾，五ヶ所湾で生息が確認されているが，概して確認個体数は少ない。

【種概要】 殻長5mmの小型種。殻は長卵形，臍孔はなく，蓋は革質で薄い。近似種のカワグチツボとは臍孔がない点，殻が厚い点などで識別される。タイプ産地の和歌山県和歌浦では環境破壊のため採集されず，有明海から再発見されるまで長らく幻の貝であった。その後生息環境が判明したため，生息地点数が増加した。

【分布】 現在まで日本でのみ発見されている。三河湾，伊勢湾，瀬戸内海，有明海に分布する。

【現況・減少要因】 現況は選定理由参照。上述したようなヨシ原湿地が護岸工事などで破壊され，生息地が減少している。

【文献】 3, 127, 128, 148, 156, 186, 236.

(木村昭一)

(写真：松阪市櫛田川河口域，2021年，木村昭一採集)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

VU

サザナミツボ

腹足綱 エゾタマキピ目 ワカウラツボ科

Nozeba ziczac (Fukuda & Ekawa, 1997)

【選定理由】 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化。比較的記載年が新しく，かつ微小種なので県内の分布情報は非常に少ない。近年伊勢湾沿岸から英虞湾，県南部の小規模な内湾域の数箇所ですら死殻が採集されている。津市の伊勢湾沿岸の河口域では軟体部が入った個体を含む死後間もない殻が多数打ち上げられることがあるが，生貝が採集される事は非常に稀である。伊勢湾最奥部の名古屋市庄内川河口域などの湾奥の泥質干潟周辺の石の下などで生貝が採集された例がある。英虞湾では1例だけであるがハサミシャコエビに付着して生貝が採集された。近年鳥羽市でも生息が確認された。

【種概要】 殻長2mm弱と微小，殻は太い紡錘型で半透明，殻表に多数の細かい波だった螺溝がある。

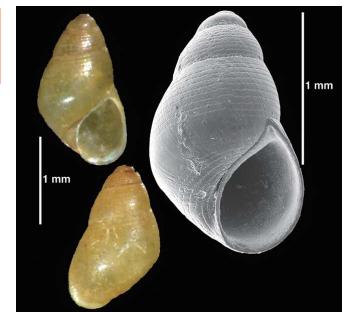
【分布】 陸奥湾から南西諸島，朝鮮半島に分布する。東北地方ではカワグチツボのように干潟の泥上に群生する事も多い。

【現況・減少要因】 現状は選定理由参照。上述したような生息環境の減少が大きな減少要因と考えられる。内湾奥の泥干潟周辺に生息するので陸域からの影響を大きく受けると考えられる。

【文献】 2, 11, 143, 158, 164, 236.

(木村昭一)

(写真：鳥羽市菅島潮間帯，2007年，木村昭一採集)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

NT

ミズゴマツボ

腹足綱 エゾタマキピ目 ミズゴマツボ科

Stenothyra japonica Kuroda, 1962

【選定理由】 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化，特殊生息環境。1979年以前に津から分布記録がある。分布調査を重ねても現在まで津から再採集されていない。2013年に桑名市，松阪市の3箇所の生息地が報告された。県内では現在，県中部の海岸に近い水質の良い小河川の3箇所で生息地が知られているだけで，生息面積も著しく小さい。

【種概要】 殻長5mmでタニシ型の巻貝であるが，殻口が丸く小さく，蓋は石灰質(図上段右)。干潟表面に生息するエドガワミズゴマツボに近似するが，大型で殻表に点刻列があること等で明確に識別される。

【分布】 東北から九州，朝鮮半島南部に分布する。河川下流域や海岸に近い小河川などの淡水中に生息する。愛知県の実生地は最近生息が確認できない。九州北西部には健全な生息地が多く確認されている。東海地方では，カワニナ類，マシジミと同所的に分布することが多い。

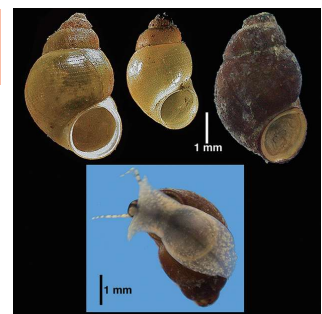
【現況・減少要因】 現状は選定理由参照。上述したような生息環境の減少などが大きな減少要因と考えられる。

【保護対策】 松阪市の個体群については，筆者らによって年2回以上のモニタリング調査が行われている。

【文献】 2, 138, 151, 186, 236.

(木村昭一・早瀬善正)

(写真：松阪市東部小河川，2012年，木村昭一採集)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

VU

ウミコハクガイ

腹足綱 エゾタマキビ目 ウミコハクガイ科

Teinostoma lucidum A. Adams, 1863

【選定理由】 個体群・個体数の減少、生息条件の悪化。1979年以前に分布記録はないが、三重県では紀宝町より生死不明で図示のない記録がある。2020年に初めて鳥羽市より採集された標本が図示され記録された。鳥羽市石鏡沖の水深2～6mの岩礁周辺の砂礫底から死後間もない殻が多数採集された。その後も答志島、菅島沖からもドレッジで少数の死殻が採集されている。また鳥羽市麻倉島では生貝が確認されている。県下では死殻の確認例も稀で、危機的生息状況である。

【種概要】 殻径2mm、殻は薄くガラス状で白色半透明。殻表の光沢は強く、体層部の滑層が螺塔全体を覆い、殻口内唇の滑層が発達して臍域を覆う。

【分布】 大槌湾・能登半島から九州、朝鮮半島の潮間帯の礫混じりの砂泥底に分布する。

【現況・減少要因】 現状は選定理由参照。内湾域の無酸素水域の拡大、水質汚濁などが考えられる。

【文献】 3, 120, 164, 186, 221, 236.

(木村昭一)

(写真：鳥羽市石鏡沖水深2～6m ドレッジ, 2021年, 佐藤達也採集)



三重県 2025

VU

三重県 2015

DD

環境省 2020

VU

アラウズマキ

腹足綱 エゾタマキビ目 イソコハクガイ科

Circulus duplicatus (Lischke, 1872)

【選定理由】 個体群・個体数の減少、生息条件の悪化。1979年以前に紀伊長島、新鹿の潮間帯から分布記録がある。現在でも伊勢湾から南部の小規模な内湾域の比較的広い範囲で死殻は比較的普通に見られる。近年では、伊勢湾湾口部から鳥羽市、英虞湾で生貝は稀に採集されているにすぎない。鳥羽市では比較的生息地が多く、浦村北部沿岸、生浦湾、島嶼域、市南部の入江で生息が確認されている。

【種概要】 殻径4mmで円盤状の巻貝で殻質は厚い。殻表には数本の強い螺肋がある。死殻は白色であるが、生貝は茶褐色の殻皮で覆われ、黒色の付着物が付着している個体も多い。

【分布】 房総半島から九州、朝鮮半島に分布する。殻は厚く堅固で残存しやすいためか、古い死殻は分布域の広い範囲で比較的普通に見られ、浜名湖、瀬戸内海などでは多産する場所も多い。生貝は内湾湾口部の潮通しの良い礫底の石の下面に付着している。同所的にはヒナユキズメ、シラギクが見られることが多いが、本種の生貝の個体数はそれらに比べて少ない。

【現況・減少要因】 現状は選定理由参照。上述したような生息環境の減少が大きな減少要因と考えられる。

【文献】 3, 164, 186, 236.

(木村昭一)

(写真：鳥羽市北部潮間帯石の下, 2022年, 木村昭一採集)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

VU

ハナゴウナ

腹足綱 エゾタマキビ目 ハナゴウナ科

Eulima bifascialis (A. Adams, 1864)

【選定理由】 個体群・個体数の減少、生息条件の悪化。1979年以前に県内では津、有滝、尾鷲の水深10～30mより分布記録がある。近年、鳥羽市を含めた伊勢湾湾口部から県南部にかけての外洋に面した内湾域で死殻は採集されているが、個体数は少なく、生貝の記録はない。鳥羽市では近年のドレッジ調査で答志島から石鏡沖の水深5～50mの砂泥底より死後間もない殻が少数採集されているが生貝は未確認。

【種概要】 殻長20mm、細長く殻頂は尖る。殻は光沢が強く、乳白色半透明。各層に赤褐色の帯がある。近似種には寄生性の種が多いが、本種の食性は不明。

【分布】 房総半島・佐渡島から東シナ海・小笠原諸島の潮間帯から水深50mまでの潮下帯に分布する。かつて瀬戸内海広島県沖で採取された海砂に多くの死殻が含まれていたが、現状は不明。

【現況・減少要因】 現状は選定理由参照。内湾域の無酸素水域の拡大、水質汚濁などが考えられる。

【文献】 20, 164, 186, 278.

(木村昭一)

(写真：鳥羽市石鏡沖水深30m ドレッジ, 2020年, 佐藤達也採集)



三重県 2025

VU

三重県 2015

—

環境省 2020

—

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

藓苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

ヒモイカリナマコツマミガイ

腹足綱 エゾタマキビ目 ハナゴウナ科

Melanella tanabensis Takano, Tanaka & Kano, 2019

【選定理由】 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化，希少，特殊生息環境。1979年以前に記録はない。筆者によって2012年，本県より初めて生貝が記録された（志摩市）。その後，志摩市英虞湾内，鳥羽市内2箇所，五ヶ所湾で生息が確認されている。宿主は内湾奥から外洋に面した内湾まで分布するが，内湾奥に生息する宿主には寄生率が低い。宿主も希少で本種の生息基盤は脆弱である。

【種概要】 殻長5 mm，殻は半透明白色で殻質は薄い。殻頂部はつまみ状に突出する。殻表は平滑で強い光沢がある。潮通しの良い内湾の砂礫底中に生息するヒモイカリナマコ（長さ約10 cm）に内部寄生する。2011年に志摩市における調査では宿主20個体中4個体に本種5個体の寄生が確認された。宿主1個体には本種が2個体，他の宿主には1個体ずつ確認された。

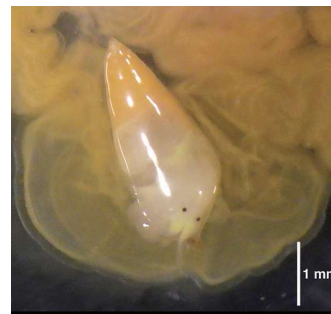
【分布】 日本固有種，三浦半島以南，三河湾，伊勢湾，志摩半島，英虞湾，五ヶ所湾，田辺湾，瀬戸内海，四国東岸から生息記録がある。既知の生息地は非常に少ない。

【現況・減少要因】 現状は選定理由参照。減少要因は干潟の減少，水質汚濁，また宿主のヒモイカリナマコの減少などが考えられる。

【文献】 2, 158, 164, 186, 236.

(木村昭一)

(写真：鳥羽市南部入江潮間帯 砂礫底，2011年，木村昭一採集)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

VU

カシパンヤドリニナ

腹足綱 エゾタマキビ目 ハナゴウナ科

Hypermastus peronellicola Kuroda & Habe, 1960

【選定理由】 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化，特殊生息環境。1979年以前に記録はなく，1997年までの間に紀伊長島の水深2 mより分布記録がある。鳥羽市レッドデータブックで初めて三重県産の図示を伴った報告がなされた。県下では英虞湾の潮下帯より少数の生貝が確認され，鳥羽市では菅島沖の砂底に生息するヨツアナカシパン（図左：乾燥標本）に外部寄生している個体が稀に確認されている。鳥羽市では英虞湾と比較して宿主の個体数が少なく，生息基盤は脆弱である。

【種概要】 殻長8 mm，殻は細長く殻頂は尖る。殻表は光沢が強く，白色半透明。本種は外部寄生ということもあるが，ドレッジで採集時など割合宿主から脱落しやすい。

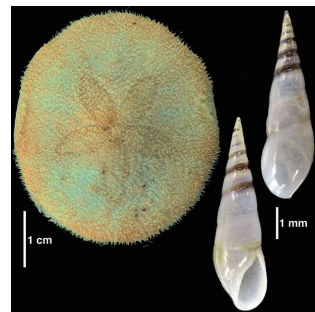
【分布】 日本固有種，三浦半島，紀伊半島，瀬戸内海，沖縄島の潮間帯から水深30 mまでの潮下帯砂底に分布する。

【現況・減少要因】 現状は選定理由参照。減少要因は干潟の減少，水質汚濁，また県内では宿主のヨツアナカシパンは多産種のハスノハカシパンより外洋寄りの透水性の高い砂底に分布し，生息地，個体数共に遥かに少ない。

【文献】 164, 186, 188, 236.

(木村昭一)

(写真：鳥羽市菅島沖水深30 m ドレッジ，2020年，佐藤達也採集)



三重県 2025

VU

三重県 2015

DD

環境省 2020

NT

マツモトヘソアキゴウナ

腹足綱 エゾタマキビ目 ハナゴウナ科

Niso matsumotoi Kuroda & Habe in Habe, 1961

【選定理由】 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化。1979年以前に白子，滝，桃取，答志の水深20～30 mより分布記録がある。1980年代から，伊勢湾中部から鳥羽市を含めた湾口部にかけて少数の死殻が採集されていたが，生貝は確認されていない。鳥羽市では2010年からドレッジ調査で生浦湾沖の水深10～20 mの砂泥底より生貝が比較的普通に採集されていたが，東北大震災の津波による泥の堆積後，個体数が顕著に減少した。勢水丸のドレッジ調査により，英虞湾湾口部からも生貝が確認された。

【種概要】 殻長15 mm，殻は長い円錐形で，淡褐色であるが螺層周囲に不明瞭な白帯がある。殻質は厚く，殻表は平滑で光沢がある。近似種に寄生性の種が多いが，本種がホストに着生した採集例はなく，食性は日和見的な寄生もしくは捕食である可能性が高い。

【分布】 日本固有種，相模湾から紀伊半島の水深10～50 mの砂泥底に分布する。海洋性貝類としては著しく分布域が狭い。

【現況・減少要因】 現状は選定理由参照。減少要因は干潟の減少，水質汚濁，内湾域の無酸素水域の拡大，浮泥の堆積などが考えられる。

【文献】 154, 164, 186.

(木村昭一)

(写真：鳥羽市生浦湾水深20 m ドレッジ，2011年，木村昭一採集)



三重県 2025

VU

三重県 2015

—

環境省 2020

—

オリイシラタマ

腹足綱 エゾタマキビ目 タマガイ科

Sigatica bathyraphe (Pilsbry, 1911)

【選定理由】 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化，希少。1979年以前に鳥羽市菅志の水深30 mから分布記録がある。近年，鳥羽市生浦湾湾口部の潮下帯の砂泥底よりドレッジでフロガイダマンと共に生貝が採集されたが，個体数は遙かに少なく，本種の方が外洋寄りの浅い場所を生息域とする。熊野灘の潮下帯の砂底より死殻は採集されているが生貝は確認できない。干潟では死殻すらほとんど採集されない。

【種概要】 殻長10 mm，殻は球形に近い卵形，殻質は薄く白色，殻表には螺肋が多数刻まれ，臍孔は広い。蓋は革質，淡黄色半透明で殻口を全て覆わない。ネコガイの幼貝と近似するが，縫合は深く溝状にくぼむ等の特徴で識別できる。

【分布】 駿河湾・秋田県から九州の潮間帯から水深20 mの砂泥底に分布する。湾口部から外洋にかけての干潟から潮下帯まで分布域は広いが，採集記録が少ない種である。本種が生息する海域は貝類の多様性が高い清浄な湾口部の砂底である場合が多い。

【現況・減少要因】 現状は選定理由参照。内湾の個体群の減少要因は干潟の減少，水質汚濁などが考えられる。

【文献】 120, 164, 186, 236.

(木村昭一)

(写真：鳥羽市生浦湾水深10 m ドレッジ，2013年，木村昭一採集)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

NT

ツガイ

腹足綱 エゾタマキビ目 タマガイ科

Sinum incisum (Sowerby I in Reeve, 1864)

【選定理由】 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化。1979年以前に県内では，御座，鬼ヶ城の水深30 mから分布記録がある。本種は伊勢湾中部の内湾から湾口部，外洋域まで生息域は比較的広いが，死殻の個体数も少なく，生貝の採集例は非常に稀。干潟（潮間帯）では近年死殻すらほとんど確認できない。近年，鳥羽市菅島，石鏡沖からドレッジで生貝が採集されている。

【種概要】 殻長25 mm，軟体部は白色で大きく，生時に殻は軟体部に内包される（図）。殻は白色，耳形扁平で，螺塔は小さく，殻表は細い螺溝で覆われる（ツツミガイの項の図上段）。

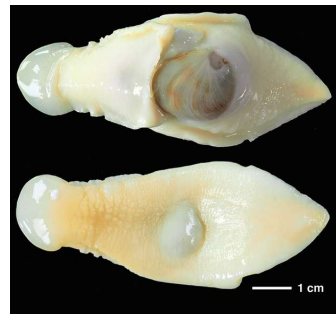
【分布】 房総半島から南西諸島，中国大陸，フィリピンの潮間帯から水深20 mの砂泥底に分布する。本種が生息する海域は貝類の多様性が高い清浄な湾口部の砂底である場合が多い。

【現況・減少要因】 現状は選定理由参照。内湾の個体群の減少要因は干潟の減少，水質汚濁などが考えられる。

【文献】 164, 186, 236.

(木村昭一)

(写真：菅島沖水深30 mドレッジ（冷凍標本），2022年，佐藤達也採集)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

NT

ツツミガイ

腹足綱 エゾタマキビ目 タマガイ科

Sinum planulatum (Récluz in Chenu, 1843)

【選定理由】 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化。1979年以前に県内では，御座，尾鷲新鹿の水深10~20 mから分布記録がある。本種は伊勢湾では生息が確認できない。外洋に面した内湾湾口部から外洋域まで生息域は比較的広いが，死殻の個体数も少なく，生貝の採集例は非常に稀。干潟（潮間帯）では生息は確認できない。近年，英虞湾湾口部からドレッジで生貝が稀に採集されている。

【種概要】 殻長30 mm。ツガイと同様，軟体部は白色で大きく，殻は薄質，扁平で生時は軟体部に内包される。殻はツガイと近似するが，大型になり殻表の螺肋は非常に弱い（図下段）。貝殻での識別は明確。

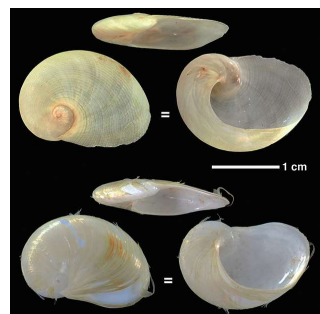
【分布】 房総半島から南西諸島，中国大陸，インド・太平洋に分布する。内湾の潮間帯から水深20 m程度の砂泥底に生息する。干潟で本種の生息が確認されている北限は浜名湖と考えられ，和歌山県，九州西岸，南西諸島でも干潟で生息が確認されているが個体数は少ない。本種は，ツガイと同所的に生息する海域（浜名湖，土佐湾など）もあるが，分布域はより南方に，生息域はより外洋寄りにある。

【現況・減少要因】 現状は選定理由参照。内湾の個体群の減少要因は干潟の減少，水質汚濁などが考えられる。

【文献】 186, 236.

(木村昭一)

(写真：上段：ツガイ，鳥羽市菅島沖，2022年，佐藤達也採集，下段：ツツミガイ，英虞湾，2012年，木村昭一採集)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

NT

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

藓苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蘚苔類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

ウネナシトカケ

腹足綱 エゾタマキ目 イトカケガイ科

Acrilla acuminata (Sowerby II, 1844)

【選定理由】 個体群・個体数の減少、生息条件の悪化、希少。1979年以前に県内では、津の水深10 mから分布記録がある。2000～2010年代には伊勢湾中部で稀に死後間もない殻が打ち上げ採集された。近年、鳥羽市浦村沖、菅島から石鏡沖の水深10～20 mで少数の死殻が採集されているが、生貝は採集されていない。本種は内湾から外洋にかけて比較的分布域は広いが、生貝の採集例は極めて稀。元々個体数の少ない種であるが、危機的な生息状況である。

【種概要】 殻長45 mm、高円錐型の細長い巻貝で、螺肋はやや強いが間隔や強さは不規則。殻表には巻きに沿って茶褐色の帯がある。刺胞動物に寄生すると考えられるが、詳細は不明。

【分布】 房総半島から九州、朝鮮半島、中国大陸、インドネシアに分布する。分布域は広いが、現在死殻を得ることも困難で、生貝が記録されているのは千葉県、有明海の一部にすぎない。外洋からも近似した形態の種が得られるが、生息水深は深く、殻形態も異なり、螺管がやや細く、螺肋が弱く間隔が密で別種の可能性もある。

【現況・減少要因】 現状は選定理由参照。減少要因は干潟の減少、水質汚濁などが考えられる。

【文献】 136, 164, 186, 236.

(木村昭一)

(写真：津市河芸町 打ち上げ、2002年、木村昭一採集)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

VU

ネジヌキ

腹足綱 スイショウガイ目 カツラガイ科

Neophinoe unicarinata (Broderip & Sowerby, 1829)

【選定理由】 個体群・個体数の減少、生息条件の悪化。1979年以前に県内では白子、有滝、答志の水深20～50 mから分布記録がある。1980年代から、伊勢湾中部から鳥羽市を含めた湾口部にかけて死殻が採集されていたが、個体数は少ない。勢水丸によるベントスネット調査で答志島北沖の水深30 mの砂泥底より、鳥羽市では菅島から石鏡沖の水深80 mの砂泥底よりドレッジで少数の生貝が採集された。

【種概要】 殻長15 mm、やや太い紡錘形で、生時には厚い殻皮で覆われる。肩部には強い稜角があり、その上の殻皮は三角形の毛状突起になる。

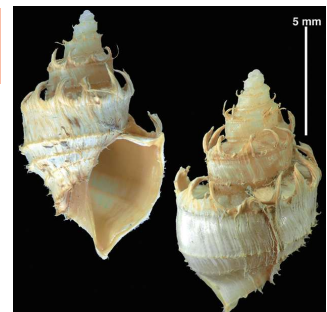
【分布】 房総半島から九州の潮下帯から水深100 mの砂底に分布する。瀬戸内海にも分布する。

【現況・減少要因】 現状は選定理由参照。潮下帯の生息環境が水質汚濁、底質の泥質化、有機物量の増加などで悪化していることが減少要因と考えられる。

【文献】 20, 164, 186.

(木村昭一)

(写真：鳥羽市菅島沖水深80 m ドレッジ、2022年、佐藤達也採集)



三重県 2025

VU

三重県 2015

—

環境省 2020

—

キシウベッコウタマガイ

腹足綱 タカラガイ目 ハナヅトガイ科

Lamellaria kiiensis Habe, 1944

【選定理由】 個体群・個体数の減少、生息条件の悪化。1979年以前に県内では有滝の水深20 mから分布記録がある。1980年代から、伊勢湾中部から鳥羽市を含めた湾口部にかけての底刺網、蛸壺漁などで死殻が採集されていたが、個体数は少ない。菅島から石鏡沖の水深30～80 mの砂礫底よりドレッジで少数の死殻が採集された。近年、生浦湾から麻倉島の岩礫地の潮下帯で生貝が採集されている。

【種概要】 殻長30 mm、殻は薄質でアワビ状、白色半透明で光沢が強い。軟体部は殻を包み込み、橙褐色のウミウシ状。

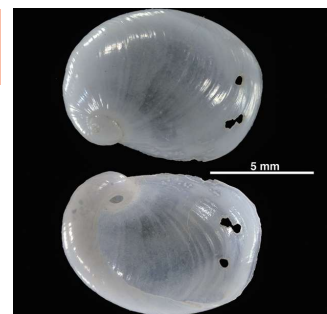
【分布】 房総・能登半島から九州の潮間帯から水深60 mの砂礫底に分布する。内湾湾口部から外洋域にかけて比較的広い範囲に分布する。

【現況・減少要因】 現状は選定理由参照。潮下帯の生息環境が水質汚濁、底質の泥質化、有機物量の増加などで悪化していることが減少要因と考えられる。

【文献】 164, 186, 278.

(木村昭一)

(写真：鳥羽市菅島沖水深80 m ドレッジ、2022年、佐藤達也採集)



三重県 2025

VU

三重県 2015

—

環境省 2020

—

ハナヅトガイ

腹足綱 タカラガイ目 ハナヅトガイ科

Velutina pusio A. Adams, 1860

【選定理由】 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化．1979年以前に県内では有滝，伊勢市，桃取の水深20～30 mから分布記録がある．1980年代から，伊勢湾中部から鳥羽市を含めた湾口部にかけての底刺網，蛸壺漁などで死殻が採集されていたが，個体数は非常に少ない．近年，菅島から石鏡沖の水深30～80 mの砂礫底よりドレッジで少数の死殻が採集されたが，生貝は採集されていない．

【種概要】 殻長20 mm，殻は体層が大部分を占め，殻口が広い．殻質は非常に薄く半透明橙白色．

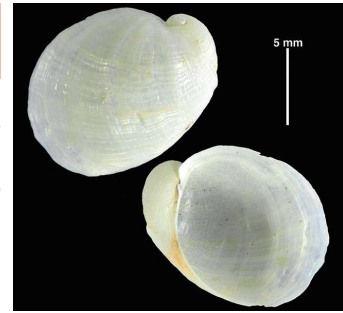
【分布】 房総・能登半島から九州，朝鮮半島の潮間帯から水深200 mの砂礫底に分布する．主に内湾域の潮間帯から浅海に生息する個体群と外洋の水深100 m以深に生息する個体群は同種かどうか検討を要する．

【現況・減少要因】 現況は選定理由参照．潮下帯の生息環境が水質汚濁，底質の泥質化，有機物量の増加などで悪化していることが減少要因と考えられる．

【文献】 20，164，186，236．

(木村昭一)

(写真：鳥羽市菅島南沖水深40～80 m ドレッジ，2022年，佐藤達也採集)



三重県 2025

VU

三重県 2015

DD

環境省 2020

NT

オリイレボラ

腹足綱 新腹足目 コロモガイ科

Scalptia scalariformis (Lamarck, 1822)

【選定理由】 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化．1979年以前に伊勢湾内の2箇所の潮下帯より分布記録がある．現在伊勢湾中部から湾口部にかけての潮下帯から生貝が採集されているが，生息海域は非常に狭く，個体群が隔離している．伊勢湾最奥部の名古屋市沖の潮下帯でも少数の生貝が確認されている．近年一時的に回復傾向が認められ，勢水丸のベントネット調査で松阪市沖の砂泥底より普通に生貝が採集され，干潟で死後間もない殻が確認されるようになった．鳥羽市では生浦湾でドレッジにより生貝が確認されている．

【種概要】 殻長25 mm．殻は非常に厚く堅固，縦肋は非常に強く，肋間は平滑．

【分布】 房総半島から九州西岸，黄海，インド・太平洋に分布する．内湾の潮間帯から水深20 m程度の砂泥底に生息する．干潟で本種の生息が確認されている北限は浜名湖と考えられ，有明海でも干潟で生息が確認されているが概して個体数は少ない．

【現況・減少要因】 現状は選定理由参照．減少要因は干潟の減少，潮下帯の生息環境が水質汚濁，底質の泥質化，有機物量の増加などで悪化していることが減少要因と考えられる．

【文献】 2，143，158，164，186，236．

(木村昭一)

(写真：鳥羽市生浦湾水深5 m ドレッジ，2012年，木村昭一採集)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

VU

ヘソアキオリイレボラ

腹足綱 新腹足目 コロモガイ科

Trigonaphera stenomphala Habe, 1961

【選定理由】 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化．1979年以前に県内では尾鷲，三木浦の潮間帯から分布記録がある．1980年代から，鳥羽市を含めた伊勢湾湾口部，尾鷲湾の底刺網で死殻が確認されていた．近年，勢水丸のドレッジ調査で英虞湾湾口部より生貝が採集され，鳥羽市菅島から石鏡沖の水深30～40 mの砂泥底よりドレッジで少数の生貝が採集された．土佐湾のように本種の生息する海域は貝類多様性が高い場合が多い．貝類の多様性が著しく高い九州北部でも本種の著しい減少例が報告された．

【種概要】 殻長25 mm，殻は太く，臍孔は広い．肩部は刺状に尖り，縦肋は強く螺肋と交わり鋸歯状になる．

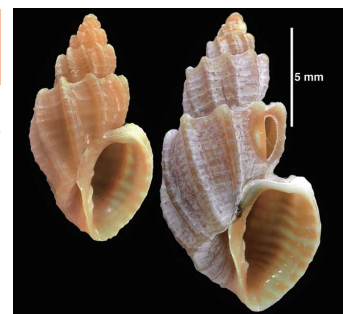
【分布】 房総半島，山口県北部から九州，熱帯インド・太平洋の潮間帯から水深50 mの砂泥底に分布する．

【現況・減少要因】 現況は選定理由参照．潮下帯の生息環境が水質汚濁，底質の泥質化，有機物量の増加などで悪化していることが減少要因と考えられる．

【文献】 164，186，278．

(木村昭一)

(写真：鳥羽市石鏡沖水深30 m ドレッジ，2021年，佐藤達也採集)



三重県 2025

VU

三重県 2015

—

環境省 2020

—

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

藓苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

藓苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

スミスシラゲガイ

腹足綱 新腹足目 タモトガイ科

Mitrella yabei (Nomura, 1935)

【選定理由】 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化。1979年以前に白子，尾鷲の水深5～20 mの分布記録がある。現在でも伊勢湾から南部の小規模な内湾域で死殻は見られるが個体数は少ない。愛知県でも絶滅危惧II類と評価されている。近年，伊勢湾湾口部，鳥羽市生浦湾の潮下帯より生貝が稀に採集されているにすぎない。近似種のシラゲガイも伊勢湾では希少な種であるが，湾口部からさらに外洋側に主分布域がある。

【種概要】 殻長10 mm，長い紡錘形の貝で，殻底は強くくびれ，殻口は肥厚しない。殻表は黄褐色で，不規則な褐色の縦帯をもつ。近似種のシラゲガイはやや大形で光沢が強く殻底のくびれが弱い。

【分布】 三陸海岸以南から九州，朝鮮半島に分布する。内湾奥部の潮下帯砂泥底に生息する。瀬戸内海にも分布するが，近年生貝の確認例がほとんどない。

【現況・減少要因】 現況は選定理由参照。潮下帯の生息環境が水質汚濁，底質の泥質化，有機物量の増加などで悪化していることが減少要因と考えられる。

【文献】 3, 20, 154, 164, 186.

(木村昭一)

(写真：鳥羽市生浦湾水深10 m ドレッジ，2012年，木村昭一採集)



三重県 2025

VU

三重県 2015

環境省 2020

カムロガイ

腹足綱 新腹足目 タモトガイ科

Sundamitrella impolita (Sowerby II, 1844)

【選定理由】 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化。1979年以前に越賀，田曾浦，錦，紀伊長島，尾鷲の5箇所の潮間帯から分布記録がある。県内では伊勢湾湾口部以南の外洋に面した岩礫地で古い死殻は採集できるが，生貝の報告例はなかった。最近，鳥羽市石鏡沖の潮下帯の岩礫地でダイビングにより生貝が確認された。

【種概要】 殻長20 mm，殻は紡錘形で淡褐色，縫合下に淡色帯がある。生時には薄い淡褐色の殻皮で覆われる。殻質は厚く，殻口には歯状の突起がある。

【分布】 房総半島から九州の岩礫地の潮間帯から水深20 mに分布する。岩礫亀裂内部など光の届かない場所に生息しているためか，分布全域で生貝の採集例は非常に少ない。近年，相模湾の潮間帯から水深5 mで生貝確認が報告されている。

【現況・減少要因】 現況は選定理由参照。潮下帯の生息環境が水質汚濁，底質の泥質化，有機物量の増加などで悪化していることが減少要因と考えられる。

【文献】 164, 186, 266, 272.

(木村昭一)

(写真：鳥羽市石鏡沖水深20 m ダイビング，2022年，高重博採集)



三重県 2025

VU

三重県 2015

環境省 2020

カニノテムシロ

腹足綱 新腹足目 オリイレヨフバイ科

Nassarius bellulus (A. Adams, 1852)

【選定理由】 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化。1979年以前に錦，紀伊長島，尾鷲の県南部の内湾域3箇所の潮間帯から分布記録がある。現在，紀伊長島港の1箇所の内湾域の干潟から潮下帯で生貝が採集されているが，個体数は少ない。この生息地は本種の現在の分布東・北限であると考えられ，貴重である。県内のその他海域では現在生息が確認できない。

【種概要】 殻長15 mm，太い紡錘形で，殻質は重厚で堅固。十分に成長した成貝では殻口の滑層が肥厚し，黄白色を帯び，カニの手（鋏脚）を彷彿とさせる。腐肉食性。

【分布】 紀伊半島から九州，南西諸島，インド・太平洋に分布する。内湾の潮間帯中部から潮下帯までに分布する。南西諸島では比較的の生息地と個体数は多いが，生息地の面積は大きくない。また本州から九州では生息地は少なく，不連続的で限定されている。生息地での個体数も概して少ない。上述した三重県の生息地では，干潟から水深5 mの砂泥底まで生息が確認されたが，その面積は非常に狭い。

【現況・減少要因】 現状は選定理由参照。減少要因は干潟の減少，水質汚濁などが考えられる。

【文献】 158, 186, 236.

(木村昭一)

(写真：紀北町紀伊長島港 干潟，2013年，木村昭一採集)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

NT

オマセムシロ

腹足綱 新腹足目 オリイレヨフバイ科

Reticunassa praematurata Kuroda & Habe in Habe, 1960

【選定理由】 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化，希少。1979年以前に県内より記録がなく，鳥羽市レッドデータブックで本種の三重県からの初記録がなされた。近年，伊勢湾中部から鳥羽市沖を含めた湾口部の潮間帯から水深20 mのアマモ場周辺の砂泥底から少数の死殻と生貝が稀に採集されている。本種はよく保全されたアマモ場が生息基盤と考えられ，県下内湾域のアマモ場の現状は本種の生息にとって危険な状況である。

【種概要】 殻は本科としては最小で殻長5 mm，殻頂部から次体層までの縦肋は非常に強いが，体層では肋は弱くなる。キヌボラの幼貝に近似するが，成熟個体では殻口が肥厚し，反転する。

【分布】 日本固有種。駿河湾から瀬戸内海，九州西岸に分布する。よく保全されたアマモ場周辺の狭い範囲で，少数個体の生息が確認されている。浜名湖には舞阪湾にアマモ場があり，貝類の多様性が高く，本種の安定した個体群が確認されている。

【現況・減少要因】 現況は選定理由参照。減少要因は干潟の減少，アマモ場の減少，水質汚濁などが考えられる。

【文献】 82, 150, 164, 186, 236.

(木村昭一)

(写真：鳥羽市生浦湾水深5 m ドレッジ，2012年，木村昭一採集)



三重県 2025

VU

三重県 2015

DD

環境省 2020

VU

コホラダマシ

腹足綱 新腹足目 ベッコウバイ科

Pollia subrubiginosa (E.A. Smith, 1879)

【選定理由】 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化。1979年以前に紀伊長島，三木崎の県南部の2箇所の潮間帯から分布記録がある。県内では伊勢湾湾口部以南の外洋に面した岩礫地で古い死殻が稀に確認されるが，生貝の報告例はなかった。最近，鳥羽市石鏡沖の潮下帯の岩礫地でダイビングにより生貝が採集された。過去には志摩市から県南部にかけて比較的多くの生死不明図示のない採集記録があるが，近年前述した鳥羽市以外の海域からの生息記録はない。

【種概要】 殻長10 mm，殻は紡錘形で淡黄褐色，やや強い縦肋が螺肋と交差し，区切られる。螺肋は暗褐色。生時は薄い殻皮で覆われる。

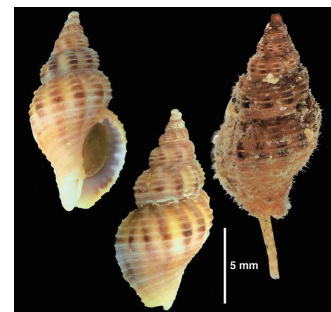
【分布】 房総半島から九州の岩礫地の潮間帯から水深10 mに分布する。洞窟内部など光の届かない場所に生息しているためか，分布全域で生貝の採集例は非常に少ない。

【現況・減少要因】 現況は選定理由参照。潮下帯の生息環境が水質汚濁，底質の泥質化，有機物量の増加などで悪化していることが減少要因と考えられる。

【文献】 164, 186, 221, 266.

(木村昭一)

(写真：鳥羽市石鏡沖水深20 m ダイビング，2022年，高重博採集)



三重県 2025

VU

三重県 2015

—

環境省 2020

—

ヒゼンツクシ

腹足綱 新腹足目 ミノムシ科

Vexillum inerme (Reeve, 1845)

【選定理由】 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化，希少。1979年以前に志摩半島から県南部の外洋に面した6箇所の水深10~20 mより分布記録がある。1980年代には鳥羽市小浜のカレイ底刺網より生貝が採集されていたが，個体数は少なかった。現在県下外洋側では本種の死殻が得られる場所も少なくないが，生貝の記録はほとんどない。分布全域で減少傾向が認められる。2014年鳥羽市麻倉島の潮間帯より生貝が採集された。

【種概要】 殻長20 mm，螺塔はやや高い紡錘形。殻は紫青褐色で螺層中央部に白帯状の斑があり，白帯上の弱いかすり状の斑は目立つ。鈍い縦肋が多数有るが，その数や間隔は変異が多い。殻の太さや縦肋の特徴でアワジツクシ，クラウスオトメフデなど亜種や型が提唱されているが識別は難しい。

【分布】 北海道南西部から九州，朝鮮半島，フィリピン，熱帯西太平洋に分布する。本科の貝類は外洋，暖海性の貝類がほとんどであるが，本種は内湾域の岩礁，その周辺の礫砂底にまで分布する。

【現況・減少要因】 現況は選定理由参照。内湾域の環境悪化が減少要因と考えられる。本種が外洋域でも減少している要因については不明。

【文献】 125, 164, 186, 221.

(木村昭一)

(写真：鳥羽市麻倉島潮間帯，2014年，木村昭一採集)



三重県 2025

VU

三重県 2015

—

環境省 2020

—

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

藓苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

オハグロシャジク

腹足綱 新腹足目 モミジボラ科

Inquisitor japonicus (Lischke, 1869)

【選定理由】 個体群・個体数の減少、生息条件の悪化。1979年以前に県内では有滝、和具、紀伊長島、尾鷲、二木島の水深20 mから分布記録がある。近年、伊勢湾中部ではほとんど死殻も採集できない状態で、鳥羽市を含む伊勢湾湾口部で死殻は少数採集されているが、生貝は確認できない。鳥羽市では浦村から石鏡沖の水深20 mまでの潮下帯の砂泥底から少数の死殻間もない殻が採集されている。旧クダマキガイ科貝類の中で*Inquisitor*属貝類（モミジボラ類）は普通種が多く、大型で目立つ存在であったが、近年の減少傾向は顕著である。

【種概要】 殻長30 mm、殻は細長く、螺塔は高い。殻は紫濃褐色で不規則な白帯を巡らす。螺塔各層には斜めに縦肋が走る。本属の貝類としては小型の種である。

【分布】 北海道南西部から九州、内湾から湾口部の水深50 mまでの潮下帯、岩礁に近い砂泥底に分布する。

【現況・減少要因】 現況は選定理由参照。内湾域潮下帯の環境悪化が著しいことが減少要因と考えられる。

【文献】 154, 164, 186, 266.

(木村昭一)

(写真：鳥羽市生浦湾湾口水深5 m ドレッジ, 2012年, 木村昭一採集)



三重県 2025

VU

三重県 2015

環境省 2020

ウスオビフタナシシャジク

腹足綱 新腹足目 フデシャジク科

Asperdaphne subzonata (E.A. Smith, 1879)

【選定理由】 個体群・個体数の減少、生息条件の悪化。1979年以前に県内では、四日市、有滝、紀伊長島、尾鷲の水深20 mより分布記録がある。1980年代、伊勢湾中部から鳥羽市を含めた湾口部で稀に死殻が採集されていた。勢水丸によるベントスネット調査で答志島北沖の水深30 mの砂泥底、鳥羽市小浜沖で操業される底刺網、蛸壺漁で死殻間もない殻が少数採集されたが、生貝は確認されていない。

【種概要】 殻長20 mm、殻は細長い紡錘形で、鮮橙褐色で白色の不規則な帯状斑が散在する。

【分布】 紀伊半島・若狭湾から九州の内湾、湾口部の潮間帯から水深30 mまで潮下帯の砂泥底に分布する。かつて広島沖で採取された海砂に死殻が普通に含まれていたが、現状は不明（広島県では情報不足と評価されている）。近年、愛知県（三河湾湾口部）でも死殻間もない殻が1個体記録されている。

【現況・減少要因】 現況は選定理由参照。内湾域潮下帯の環境悪化が著しいことが減少要因と考えられる。

【文献】 20, 27, 60, 164, 186.

(木村昭一)

(写真：鳥羽市小浜沖水深15 m 蛸壺漁, 2016年, 木村昭一採集)



三重県 2025

VU

三重県 2015

環境省 2020

ヒメキリガイ

腹足綱 新腹足目 タケノコガイ科

Cinguloterebra serotina Adams & Reeve, 1850

【選定理由】 個体群・個体数の減少、生息条件の悪化。1979年以前に県内では答志、紀伊長島、二木島の水深20~100 mより分布記録がある。1980年代から、鳥羽市を含めた伊勢湾湾口部から外洋にかけて底刺網などに混獲された死殻が採集されていた。近年、鳥羽市では答志島、菅島から石鏡沖の水深30~80 mの砂泥底よりドレッジで生貝が採集されているが、生息海域は非常に狭い。タケノコガイ科貝類はゴカイなどの底生動物を選択的に餌とする食性の種が多く、環境の悪化の影響を受けやすく、最初に減少傾向を示す種群である。

【種概要】 殻長50 mm、殻は細く、螺塔は非常に高く、螺層は多い。淡黄褐色の地色に濃橙褐色の不規則な斑がでる。軟体部は白色。

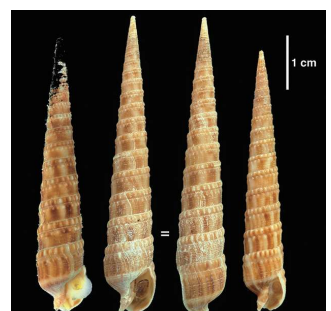
【分布】 房総半島・佐渡島から九州、台湾の湾口部から外洋の水深20~100 m 砂底に分布する。最近、本種の生貝採集記録はほとんどないが、相模湾（特に三浦半島周辺）では色彩の残存した比較的新しい殻が多く海岸に打ち上げられる海域がある。

【現況・減少要因】 現況は選定理由参照。内湾域潮下帯の環境悪化が著しいことが減少要因と考えられる。

【文献】 164, 180, 186.

(木村昭一)

(写真：菅島沖水深30 m ドレッジ, 2020年, 佐藤達也採集)



三重県 2025

VU

三重県 2015

環境省 2020

ムラクモキジビキガイ 腹足綱 オオシイノミガイ目 オオシイノミガイ科
Japanacteon nipponensis (Yamakawa, 1911)

【選定理由】 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化。1979年以前に津沖の潮下帯（水深3 m）より分布記録がある。現在伊勢湾中部から湾口部にかけて年による変動はあるが，死後間もない殻が打ち上げ採集され，潮間帯で生貝が確認されている海域は存在するが，限定的で，分布域は不連続である。志摩市大王町の外洋に面した小規模な干潟でも生貝が採集された。鳥羽市中部では2014年頃，アマモ場周辺の砂泥底でイボキサゴと共に普通に生息が確認された。本種は年による個体数の増減が著しいが，最近数年は再び減少傾向が顕著である。

【種概要】 殻長10 mm。殻は長い卵形，螺層肩部に黒色の火炎彩状模様をもつ。軟体部は灰色から黒色。伊勢湾中部の干潟で5月に交尾が確認されている。

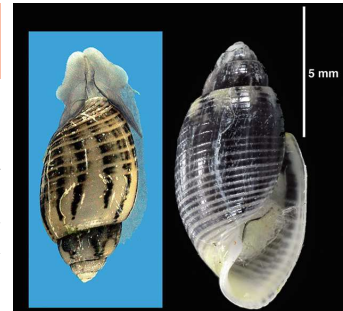
【分布】 陸奥湾から九州，朝鮮半島に分布する。内湾の清浄な砂質干潟の低潮線に生息することが多い。外洋側には和名だけが提唱された近似種のアサグモキジビキガイの死後間もない殻が採集されているが，情報不足である。

【現況・減少要因】 現状は選定理由参照。減少要因は干潟の減少，水質汚濁などが考えられる。

【文献】 3, 164, 186, 236, 266.

(木村昭一)

(写真：生浦湾水深1 m ダイビング，2014年，佐藤達也採集)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

NT

オオシイノミガイ 腹足綱 オオシイノミガイ目 オオシイノミガイ科
Acteon sieboldi (Reeve, 1842)

【選定理由】 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化。1979年以前に答志，安乗の伊勢湾湾口部2箇所の潮下帯より分布記録がある。現在伊勢湾中部から湾口部にかけて死殻が採集され，潮下帯から生貝が採集されているが，生息海域は非常に狭く，個体群が分断されている。近年，鳥羽市では生浦湾湾口部の潮下帯より生貝が採集されている。本種は年による個体数の増減が著しいが，分布域の縮小などの減少傾向は否定できない。

【種概要】 殻長20 mm。殻は長い卵形，殻は薄く，殻表に細かい螺溝を有するが，光沢がある。軟体部は白色。

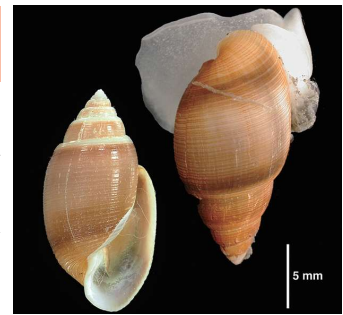
【分布】 東北地方から九州，中国大陸に分布する。内湾の潮間帯から水深20 m程度の砂泥底に生息する。干潟で本種の生息が確認されている北限は浜名湖と考えられるが個体数は著しく少ない。三浦半島沿岸では著しい減少傾向が報告されたが，近年回復傾向が認められ潮下帯に健全な個体群が確認されている。愛知県では知多半島美浜町以南の伊勢湾から三河湾湾口部に限られているが，潮下帯の砂底に安定した個体群が確認されている。

【現況・減少要因】 減少要因は干潟の減少，水質汚濁などが考えられる。

【文献】 31, 158, 164, 186, 236.

(木村昭一)

(写真：鳥羽市生浦湾水深10 m ドレッジ，2013年，木村昭一採集)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

NT

シグマクダタマガイ 腹足綱 頭楯目 クダタマガイ科
Cylichna sigmolabris (Habe & Ando, 1985)

【選定理由】 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化。本種は2021年に鳥羽市石鏡沖のドレッジ調査で初めて三重県下から記録された。鳥羽市レッドデータブックでは情報不足 (DD) と評価された。その後も鳥羽市，英虞湾で死後間もない殻が複数個体採集された。近年，愛知県でも死殻が記録されている。本種は現在まで本県で生貝が確認されず，死殻の個体数も非常に少ない。本種が属する頭楯目の貝類は季節的な消長が著しい可能性が高くモニタリングは十分とは言えないが，本種の県下の生息域の概要が明らかとなったので情報不足ではなく，VUと評価された。

【種概要】 殻長3 mm，殻は円筒形，白色，殻頂は開孔し周縁が強く角張る。外唇縁下部は強く張り出す。

【分布】 瀬戸内海，東シナ海の水深10～20 mの砂泥底に分布する。鳥羽市での産出は，東海地方における本種の愛知県南知多町内海（死後間もない殻の採集記録）に次ぐ2例目の記録である。瀬戸内海（兵庫県）では近年生貝が記録されている。

【現況・減少要因】 現況は選定理由参照。内湾域潮下帯の環境悪化が著しいことが減少要因と考えられる。

【文献】 3, 119, 120, 164, 235.

(木村昭一)

(写真：鳥羽市石鏡沖水深12 m ドレッジ，2022年，木村昭一採集)



三重県 2025

VU

三重県 2015

—

環境省 2020

—

- 哺乳類
- 鳥類
- 爬虫類
- 両生類
- 汽水・淡水魚類
- 昆虫類
- クモ類
- 貝類
- 甲殻類
- その他動物
- 維管束植物
- 蘚苔類
- 藻類
- キノコ
- EX
- EW
- CR
- EN
- VU
- NT
- DD

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蘚苔類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

スオウクチキレ

腹足綱 トウガタガイ目 トウガタガイ科

Evalea suoana (Hori & Nakamura, 1999)

【選定理由】 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化，特殊生息環境．1979年以前に県内より記録がなく，鳥羽市レッドデータブックで本種の三重県からの初記録がなされた．近年，鳥羽市北部沿岸の入江奥の岩礫地に生息するカリガネエガイの殻の腹縁部付近に外部寄生する本種が確認されている．県下では英虞湾でも生息が確認されていて，健全な個体群が確認されている．英虞湾と比較すると鳥羽市ではカリガネエガイが多産するが，本種の寄生確認例は非常に少ない．

【種概要】 殻長4 mm，殻は長い卵形で殻質は厚い．各層に2～3本，殻底に4本の明瞭な螺溝をめぐらす．軟体部は白色．

【分布】 三河湾，伊勢湾，英虞湾，宇和海，有明海の潮間帯岩礁，転石地に分布する．宿主は普通種で個体数も多く，生息地は広域に及ぶが，本種の寄生が見られる海域は少なく，生息域も狭い．本種が生息する干潟周辺の岩礁，転石礫地は貝類の多様性が高い場合が多い．

【現況・減少要因】 現況は選定理由参照．干潟の減少，水質汚濁と共に上述したような生息環境の減少などが減少要因と考えられる．

【文献】 3, 158, 164, 186, 187, 236.

(木村昭一)

(写真：鳥羽市北部入江潮間帯 カリガネエガイの殻上，2022年，木村昭一採集)



三重県 2025

VU

三重県 2015

—

環境省 2020

NT

ヌノメホソクチキレ

腹足綱 トウガタガイ目 トウガタガイ科

Iphiana tenuisculpta (Lischke, 1872)

【選定理由】 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化，希少．1979年以前に越賀の潮間帯下部から水深10 mより分布記録がある．小型種が多い本科の種として本種は大型で目立ちやすいが，伊勢湾湾口部以外で死殻の採集例も非常に少ない．近年，鳥羽市生浦湾湾口部，菅島沖から石鏡沖の潮下帯の砂底から健全な個体群が確認されている．

【種概要】 殻長15 mm，非常に高い円錐形で，殻は光沢のあるベッコウ色で軟体部は淡白桃色．おそらく多毛類などの底生動物に寄生もしくは捕食していると考えられているが，詳細は不明．

【分布】 房総半島から九州，内湾から湾口部の砂質干潟から潮下帯．本県以外の年代を伴う生貝の記録は2001年に和歌山県，2003年に大分県から知られているだけで，採集例の少ない種である．その他，山口県での生貝の記録がある．

【現況・減少要因】 現状は選定理由参照．干潟の減少，水質汚濁，内湾域潮下帯の環境悪化が著しいことが減少要因と考えられる．

【文献】 164, 186, 236.

(木村昭一)

(写真：鳥羽市生浦湾湾口部水深20 m砂底 ドレッジ，2012年，木村昭一採集)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

VU

オカミミガイ

腹足綱 オカミミガイ目 オカミミガイ科

Ellobium chinense (Pfeiffer, 1855)

【選定理由】 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化．1979年以前に伊勢湾沿岸の3箇所と浜島（英虞湾側かどうかは不明）より分布記録があるが，既に1箇所（米津）の生息地の破壊が報告されている．1999年には伊勢湾沿岸4箇所の生息地が報告された．その後筆者らによる本種の詳細な分布調査により，鳥羽市南部，英虞湾（浜島以外の生息地），五ヶ所湾からも本種の生息を報告したが，現在健全な個体群が残されているのは伊勢湾沿岸の3箇所だけである．近年の集団遺伝学的研究から特に伊勢湾の個体群は，国内の他集団との分化の程度が大きく，保全の重要性が高いことが示された．健全な生息地の1つの松阪市榎田川河口域では2011年から2012年にかけての堤防工事により，最も本種が多く生息していたヨシ原塩性湿地が破壊され，個体群に大きなダメージを受けた．この個体群は2024年になっても未だに回復していない．

【種概要】 殻長35 mm．日本産オカミミガイ科貝類としては最も大型．地域や産地によって殻の大きさには変異がある．殻は卵形で殻口は耳状に肥厚し白色．若い個体では殻表は緑褐色の殻皮でおおわれているが，生息地では殻皮がはがれて殻全体が灰白色の個体が多い．春から秋の活動期にはヨシ原内から外まで這い出ることもあるが，真夏や冬季にはヨシ原内の朽ち木の下や底質中に潜る．伊勢湾・三河湾では7月下旬にヨシ原内の泥上に卵紐を産む．

【分布】 房総半島から九州，朝鮮半島，中国大陸に分布していたが，東京湾，三浦半島では既に絶滅し，現在の分布東限は伊勢・三河湾である．内湾奥の河



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

VU

口域に発達したヨシ原湿地内の潮間帯上部の泥上に生息。健全な個体群の生息地はヨシ原から連続する陸上植生も保全されている場合が多い。

【**現況・減少要因**】現状は選定理由参照。上述した松阪市の生息地では、堤防工事によって、そこに生息していた本種の個体群が消失し、10年以上経過しても回復していない。工事前に本種の生息を把握されていたにも関わらず、計画変更なしに工事が行われた事は非常に残念なことである。本種にとって塩性湿地の消失が最も大きな減少要因と言える。津波対策等で堤防、護岸工事が行われる頻度が上がっている現状では予断が許されない。

【**保護対策**】小規模な改変でもこのような希少種が生息している可能性が高い地域は専門家による厳密な事前調査を義務づけるべきで、またその結果に応じた工事計画の変更をするシステム作りが必要である。本種の生息場所の面積は広大ではなく、工事の工法を工夫すれば生息地の破壊の防止と工事の遂行を両立させることも決して不可能ではないと考えられる。伊勢湾内の健全な個体群が残されている生息地の1つ（河芸）においては、ヨシ原塩性湿地を保全する工法で堤防が建設中である。また、三重大学生物資源学部海洋生態学研究室による年間3回以上のモニタリング調査が行われている。

【**文献**】2, 31, 93, 126, 141, 143, 156, 158, 163, 186, 223, 233.

(木村妙子・木村昭一)

(写真：鳥羽市，2011年，木村昭一採集)

クリイロコミミガイ 腹足綱 オカミミガイ目 オカミミガイ科
Laemodonta siamensis (Morelet, 1875)

【**選定理由**】個体群・個体数の減少，生息条件の悪化。1979年以前に伊勢湾内2箇所から分布記録がある。1999年に前述の産地以外の伊勢湾沿岸4箇所の生息地が報告された。その後筆者らによる詳細な分布調査により、伊勢湾湾口部～鳥羽市（2箇所）、五ヶ所湾（1箇所）からも本種の生息を報告したが、現在、健全な個体群は3箇所のみであり、近年そのうちの1箇所は護岸工事で生息地の大部分が消失した。

【**種概要**】殻長7mmの卵形で、ウスコミミガイと非常によく似ている。殻頂が欠けていること、殻表に毛状突起が生えないことなどから明確に区別される。

【**分布**】伊勢湾から九州，南西諸島，東南アジアに分布する。陸上植生まで良く保全されたヨシ原塩性湿地内のやや深く埋もれた朽ち木，石の下などに生息する。南西諸島の個体群は生息環境や殻の形態など相違が認められる。

【**現況・減少要因**】本種にとって上述した様な塩性湿地の消失が最も大きな減少要因と言える。

【**保護対策**】伊勢湾の生息地については、三重大学生物資源学部海洋生態学研究室による年間2回以上のモニタリング調査が行われている。

【**文献**】126, 141, 156, 158, 164, 186, 236.

(木村昭一・木村妙子)

(写真：鳥羽市北部塩性湿地，2022年，木村昭一採集)



三重県 2025
VU
三重県 2015
VU
環境省 2020
VU

カブトヒザラガイ 腹足綱 クサブリガイ目 カブトヒザラガイ科
Callistochiton jacobaeus (Gould, 1859)

【**選定理由**】個体群・個体数の減少，生息条件の悪化。1979年以前に県内では鳥羽の潮間帯から分布記録がある。現在も志摩半島の外洋に面した内湾から湾口部の岩礫地周辺の底質に埋もれた石の下面に生息しているが、その面積は大きくない。鳥羽市は本種の分布域の内湾側の境界付近に位置し、生息地も多くない。生息地では比較的個体数が多いが、泥が石に堆積すると生息できなくなる。近年、伊勢湾湾口部で浮泥の堆積が顕著で、生息基盤は脆弱である。

【**種概要**】体長15mm，背部は隆起し，正中線で弱い稜をなし，頭板，尾板の強い放射肋が特徴的で他種との識別は容易である。色彩変異は少なく，黄色褐色で濃淡が出る程度。

【**分布**】相模湾から九州にかけての外洋に面した内湾，湾口部の潮間帯に分布する。

【**現況・減少要因**】現況は選定理由参照。近年，泥粒子の浮遊や浮泥の堆積が顕著で，やや深く埋もれた石の下面を生息環境とする本種にとっては，浮泥の堆積に起因する過度の還元状態は，減少要因として重要であると考えられる。

【**文献**】153, 164, 186, 268.

(木村昭一)

(写真：鳥羽市麻倉島潮間帯，2013年，木村昭一採集)



三重県 2025
NT
三重県 2015
—
環境省 2020
—

- 哺乳類
- 鳥類
- 爬虫類
- 両生類
- 汽水・淡水魚類
- 昆虫類
- クモ類
- 貝類
- 甲殻類
- その他動物
- 維管束植物
- 藓苔類
- 藻類
- キノコ
- EX
- EW
- CR
- EN
- VU
- NT
- DD

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蘚苔類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

キヌタレガイ

二枚貝 キヌタレガイ目 キヌタレガイ科

Solemya pusilla Gould, 1861

【選定理由】 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化。1979年以前に本県から分布記録がないが，三重県レッドデータブック2015年版掲載が初記録となった。また，鳥羽市レッドデータブックで本種の図示を伴った初記録がなされた。現在伊勢湾中部で稀に死殻が打ち上げられるが，生息が確認できない。現在でも伊勢湾湾口部寄り南部の内湾域の潮下帯から生貝が採集されている。最近の勢水丸による湾口部の調査でも生貝が確認された。アサヒキヌタレガイに比較すると内湾寄りに分布域がある。現在県下の干潟では生息が確認されていない。

【種概要】 殻長15 mm，厚い殻皮に被われた殻は非常に薄く，石灰化が弱く，非常に薄く軽い。殻はよく膨らみ円筒形。

【分布】 北海道から九州に分布する。日本のみで生息が確認されている。内湾のアマモ場の泥中に生息しているが，干潟で生貝が採集されることは少ない。主な分布域は潮下帯にある。浜名湖や瀬戸内海では潮間帯のアマモ場で生貝が採集されている。

【現況・減少要因】 現状は選定理由参照。減少要因については，干潟・アマモ場の減少，水質汚濁などが考えられる。

【文献】 3, 20, 135, 158, 164, 167, 186, 236.

(木村昭一)

(写真：鳥羽市生浦湾水深5 m ドレッジ，2012年，木村昭一採集)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

NT

ツヤガラス

二枚貝綱 イガイ目 イガイ科

Jolya rhomboidea (Reeve, 1857)

【選定理由】 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化。1979年以前に県内から分布記録がないが，近似種と混同されている可能性が高い。勢水丸によるベントスネット調査などで伊勢湾中部から湾口部で生貝が採集されているが，個体数は少ない。近年，鳥羽市生浦湾，菅島沖の水深5～20 mでも生貝が採集されている。また最近の勢水丸による伊勢湾湾口部の調査でも生貝が確認された。

【種概要】 殻長50 mm，後方に広がる長方形，殻質は非常に薄い。殻皮は薄く栗色で光沢が強い。生時には泥の付着した蘭型筒状の巣(図上)を分泌し，殻はその中に包まれている。

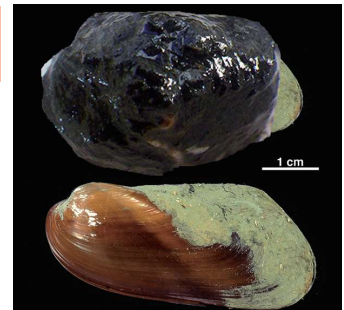
【分布】 陸奥湾以南から九州，熱帯インド・西太平洋の水深20 mまでの潮下帯，砂泥底に分布する。

【現況・減少要因】 現状は選定理由参照。内湾域潮下帯の無酸素水域の拡大，水質汚濁などが考えられる。

【文献】 3, 19, 164, 167, 186.

(木村昭一)

(写真：鳥羽市生浦湾水深15 m ドレッジ，2012年，木村昭一採集)



三重県 2025

NT

三重県 2015

—

環境省 2020

—

ムラサキインコ

二枚貝綱 イガイ目 イガイ科

Mytilisepta virgata (Wiegmann, 1837)

【選定理由】 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化。1979年以前に県内では県南部4箇所の潮間帯から分布記録がある。本種は1990年代までは湾口部から外洋の波あたりの強い潮間帯岩礁面に群集を形成し，帯状分布する優占種であった。しかし，近年伊勢湾・三河湾湾口部，渥美外海周辺での個体群の減少が著しい。潮間帯中部の岩礁面に群生するカメノテ(甲殻類)の生息帯に固着しているが，群集を形成することなく，少数個体が付着している。殻は肥厚するが，本来の殻形ではなく変形するほど摩耗し，正常に成長できていないと考えられる小形個体(図中・下)が高頻度で出現している。

【種概要】 殻長50 mm，細長い楕円形，殻質は厚く，黒紫色。幼貝には明瞭な放射線があるが，成長すると大部分の個体で摩耗して欠落している。

【分布】 北海道南西部から九州の外洋に面した潮間帯中・上部岩礁。健全な個体群ではその潮位の優占種となる。日本海側，九州西岸では健全な個体群が多く，食用に採取されている地域も多い。

【現況・減少要因】 現状は選定理由参照。近年の泥粒子の浮遊や浮泥の堆積が減少要因として重要であると考えられる。

【文献】 19, 77, 164, 186.

(木村昭一)

(写真：鳥羽市石鏡沿岸岩礁潮間帯，2022年，木村昭一採集)



三重県 2025

NT

三重県 2015

—

環境省 2020

—

ミミエガイ

二枚貝綱 フネガイ目 サンカクサルボオ科

Striarca symmetrica Reeve, 1844

【選定理由】 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化．1979年以前に松阪，紀伊長島，三木浦の潮間帯から水深10 mで分布記録がある．近年も伊勢湾湾口部から県南部にかけて内湾礫底に生息が確認されているが，殻形態において明確な差異が認められる近似種（もしくは個体群）が分布し，分類学的検討が必要である．鳥羽市浦村から市南部の入江では本種として典型的な個体群が生息しているが，個体数は少ない．

【種概要】 殻長15 mm，殻は箱形でよく膨らみ（老成すると膨らみがさらに強くなる），殻質は厚く堅固．殻表は毛状突起のある殻皮で覆われる．

【分布】 房総・男鹿半島から九州，朝鮮半島，中国大陸の潮間帯から水深10 mまでの砂礫底，石の下面に分布する．

【現況・減少要因】 現況は選定理由参照．近年，泥粒子の浮遊や浮泥の堆積が顕著で，やや深く埋もれた石の下面を生息環境とする本種にとっては，浮泥の堆積に起因する過度の還元状態は，減少要因として重要であると考えられる．

【文献】 3, 19, 20, 164, 186.

(木村昭一)

(写真：鳥羽市北部潮間帯下部石の下面，2022年，木村昭一採集)



三重県 2025

NT

三重県 2015

—

環境省 2020

—

ズベタイラギ

二枚貝綱 ウグイスガイ目 ハボウキ科

Atrina japonica (Reeve, 1858)

【選定理由】 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化．1979年以前にタイラギ（ズベタイラギとタイラギをあわせた記録）として伊勢湾2箇所，南部の内湾域2箇所の潮下帯から分布記録がある．現在伊勢湾中部で新鮮な死殻や生貝が打ち上げられて，潮下帯からも生貝が採集されているが，個体数は著しく減少している．干潟で生貝が確認されることも稀である．従来タイラギとした種は遺伝子解析で2種に区別され，ズベタイラギ，タイラギとして掲載する．

【種概要】 殻長300 mm．殻は長い三角形で，多数の低い肋が走るが，タイラギのような鱗片はなく，殻表は平滑．従来“タイラギの無鱗型”と呼ばれていた種．

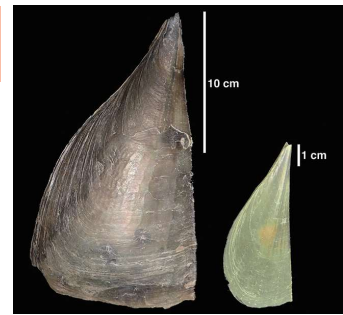
【分布】 本州から九州，朝鮮半島，中国大陸に分布する．内湾の干潟から潮下帯の砂泥底に殻の後縁の部分を出した状態で大部分が埋もれて生息する．

【現況・減少要因】 現状は選定理由参照．干潟の消失，水質汚濁などが減少要因と考えられる．また本種は重要な食用種なので，漁獲圧による資源量の減少も報告されている．

【文献】 132, 158, 164, 186, 236.

(木村昭一)

(写真：答志島北沖水深20 m 勢水丸ベントスネット，2014年，木村昭一採集)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

NT

タイラギ

二枚貝綱 ウグイスガイ目 ハボウキ科

Atrina lischkeana (Clessin, 1891)

【選定理由】 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化．1979年以前にタイラギ（ズベタイラギとタイラギをあわせた記録）として伊勢湾2箇所，南部の内湾域2箇所の潮下帯から分布記録がある．現在伊勢湾中部から湾口部で新鮮な死殻や生貝が打ち上げられて，潮下帯からも生貝が採集されているが，個体数は著しく減少している．干潟で生貝が確認されることも稀である．

【種概要】 殻長250 mm．殻は長い三角形で殻表には多数の肋が走り，肋の上に棘状の鱗片が密集する．従来“タイラギの有鱗型”と呼ばれていた種．東海地方では，本種の個体数は少ない．答志島北沖で本種と同定できる個体が採集されたが，西日本産の個体と比べると殻表の鱗片が弱く，ズベタイラギとの識別は微妙で特に幼貝では困難である．

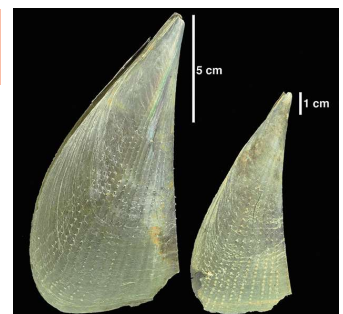
【分布】 本州から九州に分布する．海外での分布については不詳．ズベタイラギより外洋よりの砂質分の多い干潟から潮下帯の底質に殻の後縁の部分を出した状態で埋もれて生息する．

【現況・減少要因】 干潟の消失，水質汚濁などが減少要因と考えられる．また本種は重要な食用種なので，漁獲圧による資源量の減少も報告されている．

【文献】 132, 158, 164, 186, 236.

(木村昭一)

(写真：鳥羽市小浜沖水深20 m 底刺網漁，2014年，木村昭一採集)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

NT

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

藓苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蘚苔類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

ハボウキ

二枚貝 ウグイスガイ目 ハボウキ科

Pinna attenuate (Reeve, 1858)

【選定理由】 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化．1979年以前に県内では志摩半島以南の4箇所の潮間帯から水深10 mで分布記録がある．近年，伊勢湾沿岸ではほとんど生息が確認されないが，英虞湾には健全な個体群が確認されている．英虞湾では最近，増加傾向が認められる．鳥羽市では的矢湾湾口部や市南部の入江の潮間帯から水深2 mの潮下帯で健全な個体群が確認されたが，その範囲は狭く，個体数も多くはない．

【種概要】 殻長400 mmに達する．殻は細長い三角形で黒から黄褐色で殻表には約10本の肋が走るが，棘状の鱗片は無い．殻質は厚いが脆い．殻頂部から垂直に突き刺るように，殻の約4分の3が底質に埋没する．

【分布】 房総・能登半島から九州，朝鮮半島，中国大陸の外洋に面した内湾，湾口部の潮間帯から水深20 mまでの砂泥底に分布する．外洋に面した潮通しのよい干潟から潮下帯の砂泥底のアマモ場周辺に多く生息する．三河湾，伊勢湾ではほぼ絶滅状態で，現在健全な個体群が確認されている海域は浜名湖，紀伊半島，九州西岸の内湾域などである．

【現況・減少要因】 現状は選定理由参照．干潟，アマモ場の消失，水質汚濁などが減少要因と考えられる．

【文献】 2, 158, 163, 164, 165, 186, 236.

(木村昭一)

(写真：鳥羽市南部入江水深2 m ダイビング，2010年，木村昭一採集)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

NT

スタレモシオ

二枚貝綱 トマヤガイ目 モシオガイ科

Nipponocrassatella nana (A. Adams & Reeve, 1850)

【選定理由】 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化．1979年以前に県内では白子，有滝の水深20～30 mから分布記録がある．外洋から湾口部，内湾域まで分布し，近年も伊勢湾中部から鳥羽市沖を含めた湾口部の水深20～80 mの貝殻砂底から生貝が少数採集されている．過去に記録がある伊勢湾北・中部では化石のように褪色した古い死殻は比較的普通に得られる．かつては内湾奥部まで生息していたが，内湾域の個体群は著しい減少傾向が認められる種である．

【種概要】 外洋に生息する個体は殻長40 mmまで成長するが，内湾から湾口部では殻長20 mmに及ばない小形の個体のみが採集される．殻は重厚で三角形，膨らみは弱く，殻表にはやや強い規則的な輪肋がある．外洋域に生息域があるモシオガイは本種と近似するが，殻は濃褐色で，成長脈は弱く殻表は平滑な点で識別できる．

【分布】 房総・男鹿半島から南シナ海の水深15～100 mの砂底に分布する．

【現況・減少要因】 現状は選定理由参照．内湾域潮下帯の無酸素水域の拡大，水質汚濁などが考えられる．

【文献】 19, 164, 186.

(木村昭一)

(写真：鳥羽市石鏡沖水深30 m ドレッジ，2022年，佐藤達也採集)



三重県 2025

NT

三重県 2015

—

環境省 2020

—

オキナガイ

二枚貝綱 ネリガイ目 オキナガイ科

Laternula anatina (Linnaeus, 1758)

【選定理由】 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化．1979年以前に県内では津，有滝，三木崎の潮間帯から分布記録がある．近年も伊勢湾中部で打ち上げられた死殻が採集されているが，個体数は多くない．近年，英虞湾湾奥部から中央部の潮下帯では健全な個体群が確認されている．鳥羽市を含む伊勢湾湾口部では生浦湾の湾奥部から湾口部の潮下帯から少数の生貝が確認されている．現在，伊勢湾沿岸でも死殻は広い範囲で確認されるが，干潟で生貝が確認されている場所はない．

【種概要】 殻長50 mm．長楕円形．殻は白色半透明でよく膨らむ．殻質は非常に薄く壊れやすい．前後端は開口する．ソトオリガイと近似しているが，殻の丸みが強く，後端は急に細くなる．

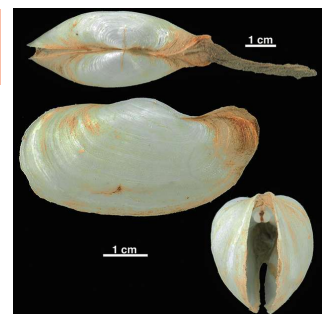
【分布】 東北地方から九州，中国大陸，インド・太平洋に分布する．内湾の干潟の干潮線から外洋に面した水深20 mの砂泥底に生息する．内湾の干潟では珍しい種になってしまったが，現在でも外洋に健全な個体群が残されている．

【現況・減少要因】 現状は選定理由参照．減少要因については，干潟の減少，水質汚濁などが考えられる．

【文献】 3, 19, 83, 157, 158, 164, 186, 236.

(木村昭一)

(写真：生浦湾水深5 m ドレッジ，2012年，木村昭一採集)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

—

ウミアサ

二枚貝綱 ツキガイ目 ツキガイ科

Ctena delicatula (Pilsbry, 1904)

【選定理由】 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化．1979年以前に県内では志摩半島以南の熊野灘に面した5箇所の潮間帯より水深10 mから分布記録がある．近年も鳥羽市浦村から島嶼の岩礁周辺の潮間帯から水深5 mの礫砂底から生貝が採集されている．湾口部からの記録は元々少ないが，外洋域でも現在本種の採集記録が少ない．本種の生息する海域は潮通しが良く，貝類の多様性が高い場合が多い．

【種概要】 殻長20 mm，殻はほぼ円形でやや膨らみ，殻質は厚く堅固．殻表は白色で，殻表は殻頂部から分岐したやや強い放射脈で覆われる．

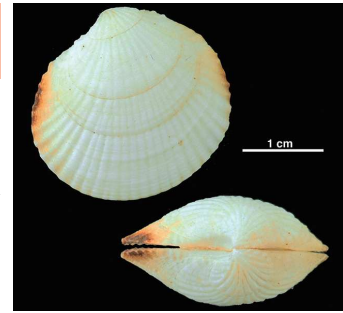
【分布】 房総，伊豆諸島，東南アジアの潮間帯から水深20 mの砂底に分布する．内湾域では潮通しのよい岩礁や転石地に隣接した砂底に生息する．

【現況・減少要因】 現状は選定理由参照．減少要因については，干潟の減少，水質汚濁，岩礁・転石地への浮泥の堆積などが考えられる．

【文献】 19, 164, 186.

(木村昭一)

(写真：鳥羽市麻倉島潮間帯，2013年，木村昭一採集)



三重県 2025

NT

三重県 2015

—

環境省 2020

—

ツキガイモドキ

二枚貝綱 ツキガイ目 ツキガイ科

Lucinoma annulata (Reeve, 1850)

【選定理由】 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化．1979年以前に県内では白子，有滝の水深20～30 mから分布記録がある．1980～2000年代には，伊勢湾中部から湾口部の水深20～50 mの泥底から底引網漁で多数の生貝が混獲されていたが，夏の無酸素水塊発生後に多くの斃死個体が採集される場合もあり，著しく個体数が減少した．近年も伊勢湾中部から湾口部での勢水丸によるベントスネット，鳥羽市菅島から石鏡沖のドレッジで少数の生貝が採集されているが，生息域は狭い．最近の勢水丸の伊勢湾湾口部調査でも生貝が確認された．

【種概要】 殻長40 mm，殻は類円形で膨らみは弱い．殻表は間隔の広い板状の輪肋がある．殻は白色，生時は淡褐色の殻皮で覆われる．

【分布】 北海道から九州までの内湾，水深20～50 mの砂泥底に分布する．北海道以北の広域に分布し，水深帯も広いという記述もあるが，近似種と混同されている可能性が高い．

【現況・減少要因】 現状は選定理由参照．本種は大きな内湾の水深が一番深い軟泥底に生息することが多く，内湾域潮下帯の無酸素水域の拡大，水質汚濁などが減少要因と考えられる．

【文献】 19, 31, 91, 164, 167, 186.

(木村昭一)

(写真：鳥羽市桃取沖水深20 m 小型底引網漁，1986年，木村昭一採集)



三重県 2025

NT

三重県 2015

—

環境省 2020

—

ニッポンマメアゲマキ

二枚貝綱 ウロコガイ目 ウロコガイ科

Pseudogaleomma japonica (A. Adams, 1862)

【選定理由】 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化．1979年以前には本県より分布記録がない．現在，生浦湾，英虞湾，五ヶ所湾，紀伊長島町，尾鷲湾などで健全な個体群が確認されているが，生息場所は少なく，生息面積も小さい．近年，鳥羽市では生浦湾湾奥，南部入江の潮間帯で生息が確認された．生息域では個体数が多いが，その範囲は限定的．本種は内湾奥の泥干潟の中潮帯に生息するため陸域の改変の影響を受けやすい．

【種概要】 殻長10 mmの長い楕円形．殻は薄く半透明，白色から黄白色．生時は外套膜が殻をおおい，殻がやや開いた形で石の下面などに付着する．

【分布】 房総半島から九州，朝鮮半島に分布する．外洋に面した内湾奥の砂泥質干潟周辺の深く埋もれた岩礁の下面に複数個体が集まって付着し，ミヤコドリと同所的に見られる場合も多い．

【現況・減少要因】 減少要因として特に本種は干潟の高い部分に生息地があり，陸域の改変の影響を受けやすい．

【保護対策】 英虞湾の生息地については，三重大学生物資源学部海洋生態学研究室による年間2回以上のモニタリング調査が行われている．

【文献】 114, 137, 141, 157, 158, 163, 164, 236.

(木村昭一・木村妙子)

(写真：鳥羽市南部入江潮間帯 砂礫底，2010年，木村昭一採集)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

NT

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

藓苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類

マツモトウロコガイ

二枚貝綱 ウロコガイ目 チリハギ科

Paraborniola matsumotoi Habe, 1958

【選定理由】 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化，分布域限定．前回のレッドデータブックが県下より正式な分布記録となる．伊勢湾湾口部から県南部の内湾域の転石地の低潮線付近の石の下面で生貝が採集されている．近年，鳥羽市では生浦湾湾奥，市南部入江の潮間帯で生息が確認されている．ニッポンマメアゲマキより外洋側，ウロコガイよりは内湾寄りに分布域があり，垂直分布は低潮線付近に限定され狭い．生息地，個体数共に少ない．

【種概要】 殻長8 mm，殻は半透明で白色，殻頂部は褐色に染められていることが多い．成長脈はやや粗く，弱くまばらに放射状の微小顆粒がある．

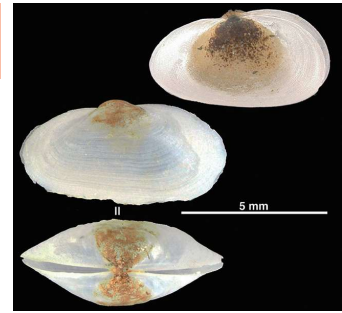
【分布】 房総半島から九州西岸に分布するが，近年生息が報告されているのは浜名湖，紀伊半島，淡路島，瀬戸内海，唐津湾，伊万里湾，佐世保市などで少ない．外洋に面した内湾の潮通しの良い転石混じりの礫底の石の下面に付着して生息する．ニッポンマメアゲマキ，ウロコガイのように生時も軟体部が殻表面をおおうことはない．また殻はほぼ閉じた状態で付着する．

【現況・減少要因】 上述したような生息環境の減少などが大きな減少要因と考えられる．

【文献】 163, 164, 186, 236.

(木村昭一)

(写真：鳥羽市南部入江潮間帯 砂礫底，2010年，木村昭一採集)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

NT

マルクサビザラ

二枚貝綱 ドブシジミ目 ニッコウガイ科

Cadella narutoensis Habe, 1960

【選定理由】 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化．1979年以前に県内では白子の水深10～30 mから分布記録がある．1980～2000年代には，伊勢湾中部から湾口部の水深5～30 mの泥底から底引網漁で生貝が混獲されていたが，個体数が減少している．近年も伊勢湾中部から湾口部での勢水丸によるベントネット，菅島から石鏡沖のドレッジで生貝が採集されているが，生息域は狭く，個体数は少ない．

【種概要】 殻長15 mm，殻は淡黄白色，長い楕円形で膨らみは弱い．殻表は規則的な成長脈で覆われるが，光沢がある．水管は白色．

【分布】 房総半島から九州までの内湾，湾口部の水深5～50 mの砂泥底に分布する．

【現況・減少要因】 現況は選定理由参照．干潟の減少，水質汚濁，内湾域潮下帯の無酸素水域の拡大などが減少要因と考えられる．

【文献】 19, 120, 164, 186.

(木村昭一)

(写真：鳥羽市石鏡沖水深2～6 m ドレッジ，2021年，佐藤達也採集)



三重県 2025

NT

三重県 2015

—

環境省 2020

—

トガリユウシオガイ

二枚貝綱 ドブシジミ目 ニッコウガイ科

Jitlada juvenilis (Hanley, 1844)

【選定理由】 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化．本種はユウシオガイと混同されていたが，2007年に本県より正式に分布が記録された．現在英虞湾から県南部の内湾域のアマモ場周辺の泥質干潟から潮下帯に健全な個体群が確認されているが，生息地は少なく分断されている．鳥羽市南部の入江でも本種の生息が確認されたが，現在本種の分布北限である．また，最近紀伊長島港から生息が再確認された．

【種概要】 殻長20 mm．ユウシオガイと近似しているが，殻はやや小型で，膨らみが強く，色彩が橙色系（稀に白色個体も出現する）だけであること，殻頂部の成長脈が粗く強いことなどから識別できる．

【分布】 紀伊半島から南西諸島，中国大陸，インド・太平洋に分布する．ユウシオガイと同所的に分布する場合，本種の方が低い場所に生息する．本種は潮下帯の水深10 m程度まで分布する．現在，英虞湾をはじめ生息地では比較的個体数が多いが，生息地点は少ない．

【現況・減少要因】 現状は選定理由参照．干潟の消失，水質汚濁などが減少要因と考えられる．

【文献】 137, 139, 140, 141, 157, 158, 161, 163, 164, 236.

(木村昭一)

(写真：鳥羽市南部入江潮間帯 砂泥底，2010年，木村昭一採集)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

NT

ゴイスギ

二枚貝綱 ドブシジミ目 ニッコウガイ科

Macoma tokyoensis Makiyama, 1927

【選定理由】 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化．1979年以前に県内では伊勢湾内2箇所，的矢，間崎の水深10～30 mから分布記録がある．1980～2000年代には，伊勢湾中部から湾口部の水深10～50 mの泥底から底引網漁で多数の生貝が混獲されていたが，近年著しく個体数が減少している．近年も伊勢湾中部から湾口部での勢水丸によるベントスネット，菅島から石鏡沖のドレッジで少数の生貝が採集されているが，生息域は狭い．最近の勢水丸の伊勢湾湾口部調査でも生貝が確認された．

【種概要】 殻長50 mm，殻は白色，卵形で膨らみは弱い．殻表は平滑で光沢がある，腹縁部は緑灰色の薄い殻皮で覆われる．外套湾入が深い．

【分布】 北海道南西部から九州までの内湾，水深10～50 mの砂泥底に分布する．伊勢湾では，ツキガイモドキと同所的に分布していることが多い．

【現況・減少要因】 現状は選定理由参照．本種は大きな内湾の水深が一番深い軟泥底に生息することが多く，内湾域潮下帯の無酸素水域の拡大，水質汚濁などが減少要因と考えられる．

【文献】 3, 19, 91, 164, 167, 186.

(木村昭一)

(写真：鳥羽市桃取沖水深20 m 小型底引網漁，1986年，木村昭一採集)



三重県 2025

NT

三重県 2015

—

環境省 2020

—

サクラガイ

二枚貝綱 ドブシジミ目 ニッコウガイ科

Nitidotellina hokkaidoensis (Habe, 1961)

【選定理由】 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化．1979年以前に伊勢湾内の津，二見，浦村の3箇所，御座，紀伊長島，須賀利，三木浦の4箇所の干潟から潮下帯で分布記録がある．現在でも伊勢湾沿岸各地で死殻が少数打ち上げられる場所はあるが，1980年前後と比較して生息地，個体数共に著しく減少した．また生貝が採集できる干潟は非常に少ない．伊勢湾湾口部から県南部の内湾域の干潟から潮下帯では広い範囲で生貝が採集されているが，個体数は少ない．

【種概要】 殻長20 mmの長卵形．殻の膨らみは非常に弱く，殻は桃色で大形個体では白桃色の個体もあるが，変異は少ない．稀に純白の個体も出現する(図右)．水管は長く伸展し白色．

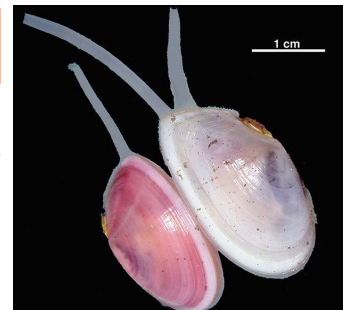
【分布】 北海道南部から九州，朝鮮半島，中国大陸に分布する．現在潮下帯のアマモ場周辺の砂泥底に主生息域があり，干潟では生息地は多くない．浜名湖のように潮通しのよいアマモ場周辺の干潟では多産する生息地もある．よく知られた本種であるが，殻を拾える海岸が著しく減少している．

【現況・減少要因】 現状は選定理由参照．干潟の消失，水質汚濁などが減少要因と考えられる．

【文献】 2, 83, 135, 143, 158, 164, 186, 236.

(木村昭一)

(写真：浦村町入江潮間帯，2018年，締次美穂採集)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

NT

ウズザクラ

二枚貝綱 ドブシジミ目 ニッコウガイ科

Nitidotellina minuta (Lischke, 1872)

【選定理由】 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化．1979年以前に伊勢湾1箇所(四日市沖)の潮下帯から分布記録がある．近年，伊勢湾中部から湾口部の潮下帯から生貝が採集されるが個体数は少ない．英虞湾から県南部の内湾域のアマモ場周辺の泥質干潟から潮下帯より生貝が採集されているが，生息地，個体数共に少ない．鳥羽市では生浦湾で潮下帯より少数の生貝が確認されている．最近では鳥羽市島嶼域の漁港内など潮通しの良い潮下帯泥底からも生貝が採集された．

【種概要】 殻長10 mm，前後に細長い卵形で膨らみは弱い．殻頂から後端にかけて薄紅色の色帯を持つ個体が多い．近年分子生物学手法による解析から複数種が含まれている可能性が示唆されているが，今回の評価は殻の外部形態より1種とした．

【分布】 北海道南部から九州，朝鮮半島，中国大陸に分布する．国内では比較的広い範囲で生息が報告されているが，生息地は少なく，分断されている．また浜名湖の錨瀬干潟などの一部の生息地を除いて概して個体数は少ない．

【現況・減少要因】 現状は選定理由参照．干潟の消失，水質汚濁などが減少要因と考えられる．

【文献】 83, 135, 136, 158, 164, 186.

(木村昭一)

(写真：鳥羽市答志漁港内水深2 m ハンドドレッジ，2022年，木村昭一採集)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

NT

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蘚苔類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

オオモモノハナ

二枚貝綱 ドブシジミ目 ニッコウガイ科

Praetextellina praetexta (Martens, 1865)

【選定理由】 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化．1979年以前に県内では，東黒部，紀伊長島，新鹿の水深10～20 mから分布記録がある．2000年代に伊勢湾中部の内湾で死後間もない殻が確認されているが，生貝の確認例はない．近年，鳥羽市菅島から浦村沖で少数の死殻が採集されている．浜名湖では潮間帯のアマモ場周辺の砂泥底に生息するが，県下でそのような場所は，確認されていない．本種は外洋域にも生息域があるが，内湾域での生息状況は危機的な状況である．

【種概要】 殻長40 mm，殻は楕円形で膨らみは非常に弱く扁平．後端はとがる．殻の色彩は薄紅色から白色まで変異がある．

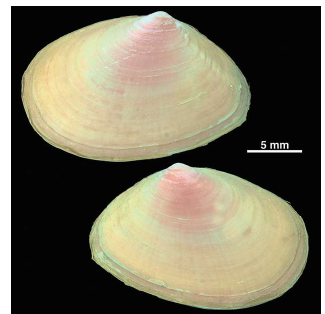
【分布】 北海道南部から九州，朝鮮半島，中国大陸，台湾に分布する．潮下帯に主分布域があるが，特に内湾の分布域で個体数が減少している．現在，浜名湖ではアマモ場周辺の干潟で生貝が少数確認できるが，そのような場所は非常に少ない．

【現況・減少要因】 現状は選定理由参照．干潟の消失，水質汚濁などが減少要因と考えられる．

【文献】 2, 158, 163, 164, 165, 186, 236.

(木村昭一)

(写真：答志島北沖水深20 m 勢水丸ベントスネット，2014年，木村昭一採集)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

NT

コメザクラ

二枚貝綱 ドブシジミ目 ニッコウガイ科

Semelangulus tokubeii Habe, 1961

【選定理由】 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化．1979年以前に県内では，四日市（沖）の水深20 mから分布記録がある．近年，伊勢湾中部から湾口部で勢水丸のベントス調査で海域は限定されているが，比較的普通に生貝が採集されている（図上・中）．生息深度がやや深いので打ち上げ死殻の記録は少ない．鳥羽市を含めた伊勢湾湾口部水深10～40 mでもドレッジで生貝が採集されている（図下）．

【種概要】 殻長10 mm，殻は前後に長い三角形卵形で，後端は裁断状．殻表の成長脈は細いが明瞭．殻は白色の個体が多いが，紅色の個体も出現する．

【分布】 房総半島以南，瀬戸内海，九州の内湾から湾口部の水深10～50 mの砂底に分布する．

【現況・減少要因】 現状は選定理由参照．内湾域潮下帯の無酸素水域の拡大，水質汚濁などが減少要因と考えられる．

【文献】 19, 91, 164, 186.

(木村昭一)

(写真：上・中：答志島北沖水深20 m，2014年，木村昭一採集，下：鳥羽市沖水深30～40 m，2022年，佐藤達也採集)



三重県 2025

NT

三重県 2015

—

環境省 2020

—

フジノハナガイ

二枚貝綱 ドブシジミ目 フジノハナガイ科

Donax semigranosus Dunker, 1877

【選定理由】 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化．1979年以前に県内では白子，津から分布記録がある．外洋の砂浜に棲む種と思われる事が多いが，内湾沿岸にも生息域がある．1980年代後半に伊勢湾・三河湾で個体数が激減し，全く生息が確認できなくなった範囲も広い．近年，三重県側伊勢湾では回復傾向が著しく，年による変動はあるが，健全な個体群が確認されている．愛知県側伊勢湾，三河湾では遠州灘沿岸と比べると回復傾向が顕著でない．三重県内でも再び絶滅危惧に移行する危険性がある種と評価された．

【種概要】 殻長15 mm前後の個体が多い．殻は亜三角形で膨らみは弱い，殻質は厚い．殻表は光沢があり，白色，淡黄白色，淡褐色，薄紫色など個体変異が多い．殻の内側は濃い藤色に彩られる個体が多い．潮汐の周期に連動した垂直移動をする貝として有名．

【分布】 房総半島から九州まで，中国大陸，タイに分布する．内湾から外洋の潮間帯砂底に生息する．内湾域では特に潮通しが良く，泥分が少ない砂底を好む．

【現況・減少要因】 現状は選定理由参照．水質汚濁，底質の泥質化などが減少要因と考えられる．

【文献】 3, 19, 158, 164, 186, 236.

(木村昭一)

(写真：津市河芸町潮間帯，2011年，木村昭一採集)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

NT

オチバ

二枚貝綱 ドブシジミ目 シオサザナミ科

Gari chinensis (Deshayes, 1855)

【選定理由】 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化．1979年以前に県内では白塚，香良洲，紀伊長島，尾鷲の潮間帯から分布記録がある．1980年代に伊勢湾・三河湾で個体数が激減し，全く生息が確認できなくなった範囲も広い．2000年前後以降に三重県側伊勢湾では回復傾向が著しく，現在では伊勢湾北部から中部にかけての河口域で健全な個体群が確認されている．愛知県側伊勢湾，三河湾では回復傾向が顕著でない．三重県内でも再び絶滅危惧に移行する危険性がある種と評価された．

【種概要】 殻長40 mmで殻は前後に長い楕円形．殻はやや薄く，殻表は平滑で黄褐色の厚い殻皮に覆われている．軟体部は白色．

【分布】 東京湾・若狭湾～九州まで，朝鮮半島，中国大陸（広東省），海南島，台湾，フィリピン．伊勢湾では，淡水の影響があり，潮通しが良く有機質や泥分が少ない砂質底を生息域とすることが多い．

【現況・減少要因】 現状は選定理由参照．水質汚濁，底質の泥質化などが減少要因と考えられる．

【文献】 3, 158, 164, 186, 236.

(木村昭一)

(写真：鈴鹿市潮間帯，2015年，木村昭一採集)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

NT

ハザクラ

二枚貝綱 ドブシジミ目 シオサザナミ科

Gari crassula (Deshayes, 1855)

【選定理由】 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化．1979年以前に県内では松阪，新鹿の潮間帯から分布記録がある．近年の伊勢湾の調査結果から，松阪の記録は，オチバの誤同定の可能性もある．2000年前後から五ヶ所湾から尾鷲湾のリアス式海岸奥部の礫質干潟に健全な個体群が記録されているが，五ヶ所湾以外では生息域は狭く，個体数も少ない．本種は直接外洋水と淡水が交わる干潟に生息域が存在する．明らかに県内でも絶滅危惧に移行する危険性がある種と評価された．

【種概要】 殻長30 mm，楕円形で殻はやや薄い，オチバよりは厚く硬い．殻表は黄緑褐色の殻皮で被われているが，暗青色の放射条の帯が数本出る．オチバよりは色彩変異が少ない．水管は密着せず，軟体部は白色．

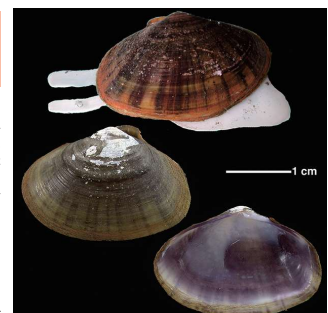
【分布】 房総半島から熱帯西太平洋に分布し，内湾河口域の砂泥干潟に生息する．県内では五ヶ所湾から熊野灘沿岸にかけて分布する．紀伊半島から九州南部にかけては産地が多いが，東日本における産地は浜名湖などで非常に少ない．

【現況・減少要因】 現状は選定理由参照．河口域干潟の減少，水質汚濁，底質の泥質化などが減少要因と考えられる．

【文献】 19, 158, 164, 186, 278.

(木村昭一)

(写真：五ヶ所湾河口域，2011年，木村昭一採集)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

NT

キヌタアゲマキ

二枚貝綱 ドブシジミ目 キヌタアゲマキ科

Solecortus divaricatus (Lischke, 1869)

【選定理由】 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化．1979年以前に津，有滝の伊勢湾内2箇所，紀伊長島，新鹿の県南部内湾域2箇所の水深10～20 mの潮下帯で分布記録がある．伊勢湾中部から湾口部でかつては死殻が普通に打ち上げられていたが，近年ほとんど確認できない．答志島北沖で勢水丸による調査等で死後間もない殻が採集されたが，個体数は非常に少ない．現在生貝が採集できる干潟は記録されていない．渥美外海で操業する底引網漁では本種も採集されるが，外洋側のやや深い水深帯では近似種のツヤキヌタアゲマキが混獲される．

【種概要】 殻長70 mm．前後に長い方形で前・後端は大きく開く．殻はやや厚く，殻表には鱗状の彫刻がある．後背縁には灰色の石灰が沈着する．

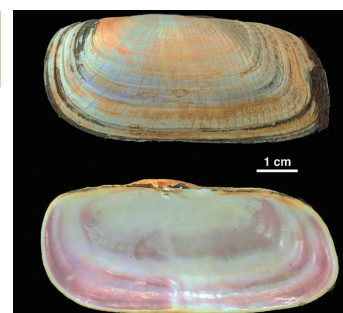
【分布】 房総半島から九州，朝鮮半島，中国大陸に分布する．外洋に面した内湾の干潟，アマモ場の低潮線から潮下帯の砂泥底に生息する．干潟で本種を観察できる海域は少ない．浜名湖，瀬戸内海，九州西岸では干潟でも生きた個体を観察することができるが，概して個体数は少ない．

【現況・減少要因】 干潟の消失，水質汚濁などが減少要因と考えられる．

【文献】 19, 158, 164, 186, 236, 278.

(木村昭一)

(写真：答志島北沖水深20 m 勢水丸ベントスネット，2014年，木村昭一採集)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

NT

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

藓苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蘚苔類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

オオトリガイ

二枚貝綱 マルスダレガイ目 バカガイ科

Lutraria maxima Jonas, 1844

【選定理由】 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化。1979年以前に県南部の内湾域から外洋にかけての3箇所の潮下帯で分布記録がある。現在でも伊勢湾湾口部の潮下帯で生貝は採集されているが個体数は少ない。本種は外洋の潮下帯砂底にも生息域がある。鳥羽市でも潮下帯から生貝が確認されているが，個体数は非常に少ない。現在，県下の干潟で生貝が採集できる場所は確認されていない。内湾域の個体群は著しく減少している。

【種概要】 殻長130 mm。前後に楕円形でカモジガイに近似するが背側縁はそらない。後端はやや大きく開く。殻質は厚いが，周辺部は薄く脆い。殻表は緑褐色の殻皮でおおわれる。

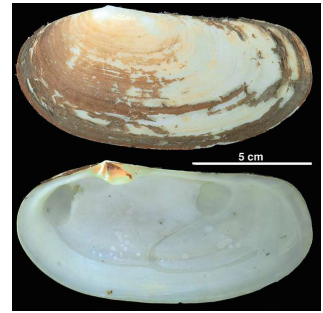
【分布】 銚子市から九州，台湾，ベトナムに分布する。外洋に面した内湾の干潟，アマモ場の低潮線から潮下帯の砂泥底に生息する。浜名湖のように干潟で本種を観察できる海域は少ない。2010年代に三河湾でも干潟より死後間もない殻が数個体記録された。

【現況・減少要因】 現状は選定理由参照。干潟の消失，水質汚濁などが減少要因と考えられる。

【文献】 3, 158, 164, 186, 236, 278.

(木村昭一)

(写真：鳥羽市生浦湾水深10 m ダイビング，2011年，佐藤達也採集)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

NT

カモジガイ

二枚貝綱 マルスダレガイ目 バカガイ科

Lutraria rhynchaena Jonas, 1844

【選定理由】 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化。1979年以前に県内では，和具，槌柄浦，三浦，新鹿の水深10 mから分布記録がある。伊勢湾中部から湾口部でかつては死殻が打ち上げられていたが，近年ほとんど確認できない。渥美外海で操業する底引網漁では稀に生貝が混獲される。答志島沖で勢水丸によるベントス調査等で殻皮が残された死殻が採集されたが個体数は非常に少ない。外洋の潮下帯にも生息域がある。現在，県下の干潟で生貝が採集できる場所は知られていない。内湾域の個体群は著しく減少している。

【種概要】 殻長100 mm，長い楕円形でやや薄質，後背縁は強く反る。後端はやや大きく開く。殻はやや薄く脆い。殻表は茶褐色の殻皮でおおわれる。

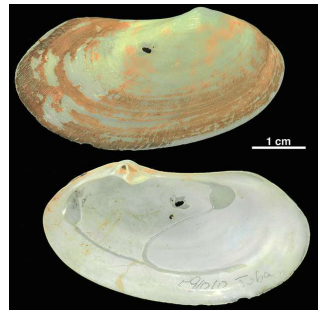
【分布】 房総半島から南西諸島，中国大陸，インド・太平洋に分布する。外洋に面した内湾の干潟，アマモ場の低潮線から水深20 mの潮下帯の砂泥底に生息する。南西諸島では干潟で本種を観察できる海域も比較的多いが，九州以北では潮下帯に主分布域がある。

【現況・減少要因】 現状は選定理由参照。干潟の消失，水質汚濁などが減少要因と考えられる。

【文献】 19, 164, 186, 236, 278.

(木村昭一)

(写真：鳥羽市菅島沖水深40 m ドレッジ，2022年，佐藤達也採集)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

NT

ヒラカモジガイ

二枚貝綱 マルスダレガイ目 バカガイ科

Lutraria sieboldii Reeve, 1854

【選定理由】 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化。1979年以前に県内では，有滝，紀伊長島の水深10 mから分布記録がある。伊勢湾中部から湾口部でかつては死殻が打ち上げられていたが，近年ほとんど確認できない。渥美外海で操業する底引網漁では稀に生貝が混獲される。答志島沖で勢水丸によるベントス調査等により殻皮が残された死殻が採集されたが個体数は非常に少ない。現在，県下で生貝が採集できる干潟は知られていない。内湾の個体群は著しく減少している。

【種概要】 殻長80 mm，長い楕円形でやや薄質，カモジガイと近似するが，殻後方に向かって広がり，殻長に比べて殻高が大きい。殻表は茶褐色の殻皮でおおわれる。上記は一般的な識別点で両種とも個体変異の幅が大きく，識別はかなり難しい。カモジガイとヒラカモジガイの明確な識別点は成貝の左殻の前主歯の大きさ（後者が大）で，背面から主歯を見ると前者で2本，後者で1本に見える。

【分布】 房総半島から九州，東南アジアの潮間帯から水深20 mの砂泥底に分布する。

【現況・減少要因】 現状は選定理由参照。干潟の消失，水質汚濁などが減少要因と考えられる。

【文献】 19, 94, 164, 186, 236, 278.

(木村昭一)

(写真：鳥羽市小浜沖水深10 m カレイ底刺網，1984年，木村昭一採集)



三重県 2025

NT

三重県 2015

—

環境省 2020

—

ミルクイ

二枚貝綱 マルスダレガイ目 バカガイ科

Tresus keenae (Kuroda & Habe, 1950)

【選定理由】 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化。1979年以前に県内では，白子，有滝，二見，浦村の水深5～20 mから分布記録がある。伊勢湾中部から湾口部で一時期ほとんど死殻も確認できなかったが，近年鳥羽市菅島の潮間帯で生貝が採集された（図）。1980年代には伊勢湾口部から鳥羽湾などで食用種として大量に水揚げされていたが，現在資源量は減少傾向である。現在鳥羽市島嶼域でのみ，本種の干潟での生息が確認されている。

【種概要】 殻長150 mm，楕円形で殻は膨らむ。後端は幅が広く裁断状で殻の間は広く開く。殻は白色だが殻皮は黒褐色で厚い。1978年にナガヒナミルクイと仮称されたのは本種の幼貝である。本種は大型食用二枚貝で「ミルガイ」と呼ばれ，水管が高級な寿司種となる。

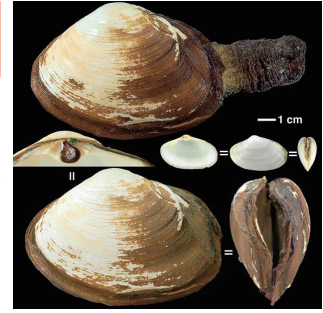
【分布】 北海道南部から九州の内湾から湾口部の低潮線から潮下帯に生息する。東京湾，三河湾，伊勢湾，瀬戸内海で現在も漁獲されているが，資源量は著しく低下し，代用品としてナミガイが「シロミルガイ」と呼ばれて大量に採取されている。

【現況・減少要因】 現状は選定理由参照。干潟の消失，水質汚濁などが減少要因と考えられる。また本種は漁獲圧による資源量の減少も報告されている。

【文献】 2, 158, 164, 186, 236, 254.

(木村昭一)

(写真：成貝：鳥羽市菅島潮間帯，2022年，佐藤達也採集，幼貝：鳥羽市北部入江潮間帯，2022年，木村昭一採集)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

VU

タガソデモドキ

二枚貝綱 マルスダレガイ目 フナガタガイ科

Trapezium sublaevigatum (Lamarck, 1819)

【選定理由】 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化。1979年以前に賢島の潮間帯1箇所から分布記録がある。近年，英虞湾，五ヶ所湾，県南部の内湾域の外洋水の影響のある砂泥質干潟付近の礫地や転石地の石の裏面から生息が確認されているが，生息地は少なく分断されている。また鳥羽市南部の入江の潮下帯からも生息が確認されたが，この生息地は本種の現在の北限かつ東限と考えられ，個体数は非常に少ない。近似種のウネナシトマヤガイは伊勢湾から県南部の河口域に広く分布し，個体数も多い。

【種概要】 殻長30 mmのやや長い楕円形で，殻の膨らみは弱く，殻質は厚く殻頂は前端付近にある。ウネナシトマヤガイと近似しているが，表面の横筋は細く弱く，後縁部は広く丸み強い。

【分布】 房総半島から九州，南西諸島，中国大陸からオーストラリアの潮間帯の転石地に分布するとされている。本種はウネナシトマヤガイより外洋側に分布域がある。南西諸島では比較的内湾河口域に生息地が多いが，九州以北には生息地，個体数共に少ない。

【現況・減少要因】 現状は選定理由参照。干潟の消失，水質汚濁などが減少要因と考えられる。

【文献】 19, 141, 158, 163, 164, 186, 236.

(木村昭一)

(写真：鳥羽市南部入江潮間帯，2011年，木村昭一採集)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

NT

シオヤガイ

二枚貝綱 マルスダレガイ目 マルスダレガイ科

Anomalodiscus squamosus (Linnaeus, 1758)

【選定理由】 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化，希少。1979年以前に県内では賢島，五ヶ所，賀田の潮間帯から分布記録がある。英虞湾，五ヶ所湾には健全な個体群が広域に分布し，紀伊長島港奥にも狭い範囲であるが健全な個体群が確認されている。さらに県南部のリアス海岸奥の小規模な内湾（入江）にも分布している。近年，鳥羽市生浦湾の鏡浦，市南部の入江で死殻半片が少数採集されている。採集された死殻は殻皮の剥離した古いものばかりではあったが，同所には英虞湾が北限とされていた希少種が多く生息しており，本種の生息環境と合致しているので，絶滅したとは判断されなかった。今後もモニタリングが必要である。

【種概要】 殻長30 mm，殻は亜三角形で膨らみは強い。殻質は非常に厚く堅固。前縁は丸みがあるが，後縁は細長く延長し後端は尖る。殻表には強い布目状の彫刻がある。

【分布】 紀伊半島以南，中国南部，東南アジア，オーストラリア西部，アンダマン海，インド洋に分布する。潮間帯から潮下帯直下の泥分の多い砂泥底に生息する。

【現況・減少要因】 干潟の消失，水質汚濁などが減少要因と考えられる。

【文献】 158, 163, 164, 186, 236.

(木村昭一)

(写真：上・中段：英虞湾 2010年，下段：鳥羽市南部入江潮間帯，2011年，木村昭一採集)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

NT

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蘚苔類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

シロオガイ

二枚貝綱 マルスダレガイ目 マルスダレガイ科

Circe undatina (Lamarck, 1818)

【選定理由】 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化．1979年以前には和具（英虞湾側），五ヶ所，尾鷲の潮間帯3箇所より分布記録がある．近年では英虞湾の潮間帯から潮下帯で健全な個体群が確認されていて多産する生息地もある．五ヶ所湾でも狭い範囲で生貝が確認されているが，それ以外の海域では死殻すら稀である．英虞湾は現在，本種の東・北限分布地である．

【種概要】 殻長40 mm．ほぼ円形で，殻質はやや厚く膨らみは弱い．黄褐色の地色に褐色の班紋がある個体が多いが，濃褐色の個体も出現する．

【分布】 房総半島から九州，中国大陸南部からシンガポールに分布する．潮通しのよい内湾や湾口部の干潟の干潮線から潮下帯の砂底，砂泥礫底，アマモ場に生息する．現在英虞湾が本種の北・東限分布地である．

【現況・減少要因】 現況は選定理由参照．干潟の消失，水質汚濁などが減少要因と考えられる．

【保護対策】 英虞湾の生息地については，三重大学生物資源学部海洋生態学研究室による年間2回以上のモニタリング調査が行われている．

【文献】 157, 158, 186, 236.

(木村昭一・木村妙子)

(写真：英虞湾潮間帯，2010年，木村昭一採集)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

NT

ハマグリ

二枚貝綱 マルスダレガイ目 マルスダレガイ科

Meretrix lusoria (Röding, 1798)

【選定理由】 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化．1979年以前に伊勢湾内の6箇所の潮間帯から潮下帯より分布記録がある．著名な食用種であるが，1980年代から著しい減少が報告された．幸い近年，伊勢湾内のモニタリングをしている干潟域で，明らかな個体数の増加が認められ，さらには五ヶ所湾の潮間帯など生息地も増加した．また鳥羽市の河口域でも生貝（図）が確認された．引き続き回復傾向は明らかであるが，1960年代の生息状況にはほど遠く，楽観はできない．

【種概要】 殻長85 mm．殻は丸みを帯びた三角形で，殻はよく膨れるが薄い．殻の色彩は個体変異が多く，模様の変異も多様で．チョウセンハマグリ（在来種）は殻が厚く，殻の色彩変異は少なく，外洋に分布する．シナハマグリ（外国産）は殻全体に丸みが強く，殻の模様は褐色の稲妻模様のある個体が大部分で色彩変異も少ない．

【分布】 韓国南部にも分布するがほぼ日本固有種，北海道南部から九州までの内湾の河口域の干潟から潮下帯に生息．

【現況・減少要因】 干潟の消失，水質汚濁，内湾域潮下帯の無酸素水域の拡大などが減少要因と考えられる．

【文献】 2, 20, 31, 141, 143, 158, 164, 186, 236.

(木村昭一・木村妙子)

(写真：鳥羽市生浦湾潮間帯，2014年，佐藤達也採集)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

VU

サツマアカガイ

二枚貝綱 マルスダレガイ目 マルスダレガイ科

Paphia amabilis (Philippi, 1847)

【選定理由】 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化．1979年以前に県内では志摩半島から県南部の6箇所の水深20～50 mから分布記録がある．1980年代には英虞湾湾口部でバカガイ漁に多数の生貝が混獲されていたが，現在県下でそのような産地は確認できない．渥美外海の底引網漁では，アケガイと混獲されているが個体数は非常に少ない．鳥羽市でも1980年代に底刺網で混獲されたが，現在生貝がほとんど確認できない．

【種概要】 殻長90 mm，前後に長い楕円形，殻質は厚く，殻表は強い輪肋があり，肋間は深い溝となる．「アカガイ」と和名にあるが，斧足の赤橙色の色彩に着目したもので，フネガイ科のアカガイとの類縁は遠い．

【分布】 房総半島から九州，中国大陸の湾口部から外洋，水深10～70 mの砂底に分布する．

【現況・減少要因】 現状は選定理由参照．水質汚濁，内湾域潮下帯の無酸素水域の拡大などが減少要因と考えられる．

【文献】 19, 163, 164, 186, 278.

(木村昭一)

(写真：鳥羽市小浜沖水深10 m カレイ底刺網，1984年，木村昭一採集)



三重県 2025

NT

三重県 2015

—

環境省 2020

—

スダレガイ

二枚貝綱 マルスダレガイ目 マルスダレガイ科

Paphia euglypta (Philippi, 1847)

【選定理由】 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化。1979年以前に伊勢湾中部2箇所，県南部の3箇所の水深20～30 mから分布記録がある。1980年代には伊勢湾中部から湾口部，英虞湾湾口部で生貝が普通に得られたが，現在県下全域で採集される生貝の個体数は少ない。渥美外海の底引網漁では，アケガイと混獲されているが個体数は少ない。近年，鳥羽市でも答志島から石鏡沖の潮下帯で死殻は比較的普通であるが，生貝は少ない。最近の勢水丸の伊勢湾湾口部調査では生貝が確認された。

【種概要】 殻長90 mm，サツマアカガイと近似するが，褐色の放射肋が明瞭で，肋間はやや広く，褐色斑が多数あることで識別される。

【分布】 北海道南西部から九州，朝鮮半島，中国大陸の内湾湾口部から外洋，水深10～50 mの砂泥底に分布する。

【現況・減少要因】 現状は選定理由参照。水質汚濁，内湾域潮下帯の無酸素水域の拡大などが減少要因と考えられる。

【文献】 19, 20, 164, 167, 186, 278.

(木村昭一)

(写真：鳥羽市石鏡沖水深30 m底刺網，2012年，木村昭一採集)



三重県 2025

NT

三重県 2015

環境省 2020

イヨスダレガイ

二枚貝綱 マルスダレガイ目 マルスダレガイ科

Paratapes undulatus (Born, 1778)

【選定理由】 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化。1979年以前に白塚，有滝の伊勢湾中部2箇所，的矢，五ヶ所，錦，尾鷲の県南部の4箇所の水深20 mから分布記録がある。かつて，伊勢湾中部から内湾奥湾口部の潮下帯に分布していた。一時期，貧酸素水塊発生のためか，大量の死殻は堆積しているが，生貝がほとんど確認できない海域も多かった。この様に減少傾向が続いたが，近年やや回復傾向が認められ，鳥羽市でも生浦湾奥部で健全な個体群が確認されている。

【種概要】 殻長40 mm，殻は前後に長い楕円形，膨らみは弱い。殻質はやや薄く，殻表は光沢があり，殻頂部以外には赤紫褐色の放射状の網目模様がある。

【分布】 房総半島から九州，インド・西太平洋に分布する。本州から九州に生息する個体と熱帯域（外国）産の個体には殻形態に差異が認められるので，分類学的な再検討が必要である。

【現況・減少要因】 現状は選定理由参照。水質汚濁，内湾域潮下帯の無酸素水域の拡大などが減少要因と考えられる。

【文献】 3, 19, 164, 186, 278.

(木村昭一)

(写真：鳥羽市生浦湾湾奥部水深5 m ドレッジ，2012年，木村昭一採集)



三重県 2025

NT

三重県 2015

環境省 2020

クシケマスオガイ

二枚貝綱 オオノガイ目 オオノガイ科

Cryptomya elliptica (A. Adams, 1851)

【選定理由】 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化。1979年以前には伊勢湾1箇所から分布記録がある。伊勢湾沿岸では1980年代に潮間帯下部で生息が確認され，海岸に殻が大量に打ち上げられ本種の有数の生息海域として知られていたが，1990年代から個体数が激減した。その後2000年代に回復傾向が認められたが，年による個体数の変動が著しい。現在，伊勢湾沿岸から湾口部の海岸で，死殻は広い範囲で採集されているが，個体数は少ない。生貝の採集例は特に干潟では稀。英虞湾，鳥羽市でも生貝が確認されているが個体数は非常に少ない。

【種概要】 殻長20 mm。白色円形，膨らみは弱い。殻は薄質で脆い，殻表には細かい放射状の肋が密に走り，後端は開く。アナジャコ類の巣穴を利用していることが知られている。

【分布】 伊勢湾から九州，南西諸島インド洋，太平洋，紅海の潮間帯下部から水深5 mまでの潮下帯内湾砂泥底に分布する。南西諸島には健全な生息場所が比較的多く確認されている。

【現況・減少要因】 現状は選定理由参照。干潟の消失，水質汚濁などが減少要因と考えられる。

【文献】 2, 157, 158, 164, 186, 236.

(木村昭一)

(写真：鳥羽市生浦湾水深5 m ドレッジ，2012年，木村昭一採集)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

NT

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

藓苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蘚苔類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

オオノガイ

二枚貝綱 オオノガイ目 オオノガイ科

Mya japonica Jay, 1857

【選定理由】 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化。1979年以前，県内では津，五ヶ所，賀田の潮間帯から分布記録がある。伊勢湾全域，英虞湾など県南部の内湾奥，河口域の干潟で生息が確認されている。伊勢湾北部から中部の河口干潟奥部の泥底に多産し，潮干狩りの獲物の1つであったが，近年個体数（特に大型個体）が激減し，採取する人もほとんど見かけなくなった。湾口部に位置する鳥羽市では生息地は少なく，北部の伊勢湾沿岸，南部の入江で少数の生貝が確認されている。

【種概要】 殻長100 mm，殻は大形，長い卵形で，後端は細くなり両殻は開く。殻質はやや薄く脆い。殻は白色から灰白色，生時は殻の一部が淡褐色の薄い殻皮で覆われる。水管は太く，食用に採取する地方もある。

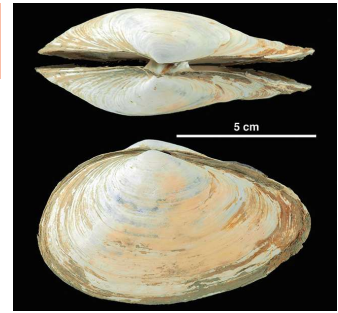
【分布】 北海道から九州，朝鮮半島，中国大陸の内湾域，河口域の潮間帯の泥底に分布する。

【現況・減少要因】 現状は選定理由参照。内湾域の無酸素水域の拡大，水質汚濁などが考えられる。

【文献】 3, 158, 164, 186, 236.

(木村昭一)

(写真：鳥羽市北部潮間帯，2011年，佐藤達也採集)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

NT

ツボミ

腹足綱 ヨメガカサ目 コガモガイ科

Patelloida conulus (Dunker, 1861)

【選定理由】 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化，特殊生息環境。1979年以前，県内では有滝，池の浦，迫間浦，賀田の潮間帯から分布記録がある。最近まで伊勢湾全域，英虞湾，五ヶ所湾で多産したが，急速に多くの産地で個体数が著しく減少している。鳥羽市では現在も普通に生貝が採集されているが，今後の動態に注意を要する。愛知県側の伊勢湾，三河湾での減少傾向も著しい。

【種概要】 殻長10 mm，殻は高い笠形。殻口はほぼ円形。内湾の砂泥干潟表層に生息するウミナナ・ホソウミナナ・イボウミナナなどの巻貝の生貝殻上や，表面が平滑な小石，二枚貝類の死殻表面等に附着する。

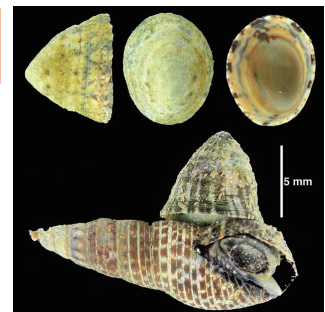
【分布】 陸奥湾北部・北長門海岸から九州，沖縄島，朝鮮半島の内湾域，潮間帯の砂泥底に分布する。

【現況・減少要因】 現状は選定理由参照。愛知県豊橋市紙田川河口域のモニタリング例では，河川から大量の土砂・浮泥の流入後，付着基盤となる巻貝類の数が急減し，浮泥におおわれ巻貝に付着したまま軟体部が腐敗した本種が得られ，その後短期間に本種の個体数が激減した。明らかに浮泥の堆積が本種の減少要因の1つと考えられる。

【文献】 3, 158, 164, 186, 236.

(木村昭一)

(写真：生浦湾奥部泥干潟ホソウミナナの殻上，2022年，木村昭一採集)



三重県 2025

NT

三重県 2015

—

環境省 2020

NT

キサゴ

腹足綱 ニシキウズ目 ニシキウズ科

Umbonium costatum (Kiener, 1838)

【選定理由】 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化。1979年以前に県内では国府，尾鷲，市来の水深10 mから分布記録がある。イボキサゴと比べて外洋域に生息するが，湾口部にも生息している。渥美外海浅海ではダンベイキサゴと同等に大形になる個体群が比較的普通に採集されるが，鳥羽市では小形個体群のみが確認されている。この大形，小形2つの個体群は別種の可能性があり，分類については再検討が必要である。鳥羽市では生浦湾湾口部で生貝が確認されているが，個体数は少ない。

【種概要】 殻径20 mm，イボキサゴと近似するが，やや大形で，殻の裏側の臍版（中心部分の赤みがかった部分）が，イボキサゴでは殻の半径よりも大きい，本種はそれよりも小さい。また殻の色彩の個体変異は少ない。上述した大形個体群は殻径30 mmを超える。

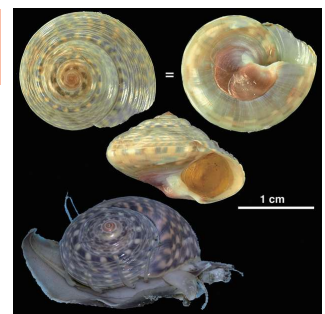
【分布】 北海道南部から九州，朝鮮半島，中国大陸の水深10 mまでの潮下帯砂底に分布する。上述した2型（個体群）の詳細な分布域は不詳。

【現況・減少要因】 現状は選定理由参照。水質汚濁，内湾域潮下帯の無酸素水域の拡大などが減少要因と考えられる。

【文献】 62, 164, 186, 278.

(木村昭一)

(写真：鳥羽市生浦湾湾口部水深5 m ドレッジ，2012年，木村昭一採集)



三重県 2025

NT

三重県 2015

—

環境省 2020

—

クボガイ

Tegula rugata (Gould, 1861)

腹足綱 ニシキウズ目 クボガイ科

【選定理由】 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化．1979年以前に鳥羽市から県南部にかけての9箇所の潮間帯から10 mでの分布記録がある．岩礁海岸の普通種で「イソモノ」と総称される食用種であるが，近年急速に個体数を減らし漁協への水揚げもごくわずかな状況が続いている．鳥羽市を中心とした詳細な潜水実地調査，水揚げ物，市場調査により絶滅危惧種に移行する可能性がある種と評価された．今後のモニタリングが不可欠である．やや内湾寄りの泥分の多い転石地に生息するコンダカガンガラには減少傾向は認められない．

【種概要】 殻長30 mm．殻は円錐形で螺層はやや膨らみ，多数の縦肋が斜めに並ぶ．殻底は縦肋ではなく螺肋でおおわれ，臍孔周辺部（臍孔はふさがれる）は真珠光沢があり緑色に彩色される．

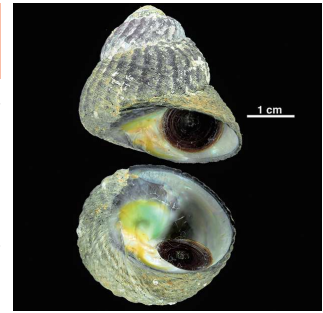
【分布】 北海道南部以南から九州，潮間帯から水深20 mの岩礁に分布する．

【現況・減少要因】 現況は選定理由参照．近年，泥粒子の浮遊や浮泥の堆積が顕著で藻類の生育が制限されることが減少要因として重要であると考えられる．

【文献】 164, 186, 191, 270, 276, 277.

(木村昭一・佐藤達也)

(写真：鳥羽市生浦湾潮間帯，2013年，佐藤達也採集)



三重県 2025

NT

三重県 2015

—

環境省 2020

—

クマノコガイ

Tegula xanthostigma (A. Adams, 1853)

腹足綱 ニシキウズ目 クボガイ科

【選定理由】 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化．1979年以前に田曾浦から県南部にかけての5箇所の潮間帯から10 mでの分布記録がある．岩礁海岸の普通種で「イソモノ」と総称される食用種であるが，近年急速に個体数を減らし漁協への水揚げもごくわずかな状況が続いている．鳥羽市を中心とした詳細な潜水実地調査，水揚げ物，市場調査により絶滅危惧種に移行する可能性がある種と評価された．今後のモニタリングが不可欠である．やや内湾寄りの泥分の多い転石地に生息するコンダカガンガラには減少傾向は認められない．

【種概要】 殻長30 mm．殻はやや低い円錐形で螺層はやや膨らみ，表面はほぼ平滑．殻底も縦肋，螺肋はなくほとんど平滑．臍孔周辺部（臍孔はふさがれる）は真珠光沢があり緑色に彩色される．

【分布】 福島県，能登半島以南，潮間帯から水深20 mの岩礁に分布する．

【現況・減少要因】 現況は選定理由参照．近年，泥粒子の浮遊や浮泥の堆積が顕著で藻類の生育が制限されることが減少要因として重要であると考えられる．

【文献】 164, 186, 270.

(木村昭一・佐藤達也)

(写真：鳥羽市生浦湾潮間帯，2013年，佐藤達也採集)



三重県 2025

NT

三重県 2015

—

環境省 2020

—

バテイラ

Tegula pfeifferi (Philippi, 1846)

腹足綱 ニシキウズ目 クボガイ科

【選定理由】 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化．1979年以前に鳥羽市から県南部にかけての7箇所の潮間帯から10 mでの分布記録がある．岩礁海岸の普通種で「イソモノ」と総称される食用種であるが，2012年頃からサガラメやカジメの葉上で見られていた本種の姿が減少し始め，鳥羽市を中心とした詳細な潜水実地調査，水揚げ物，市場調査により絶滅危惧種に移行する可能性がある種と評価された．今後のモニタリングが不可欠である．本種は大形で肉質もよく「シリタカ」などと呼ばれ，潮間帯のクボガイ類とは区別される場合が多い．

【種概要】 殻長45 mm．殻は整った円錐形で螺層は膨らみが弱く直線的．表面はほぼ平滑．臍孔は深く開く．

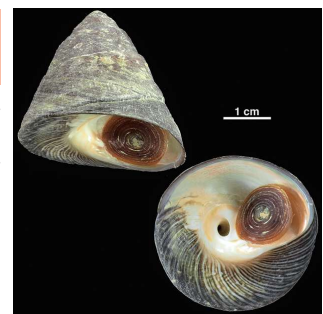
【分布】 青森県以南の太平洋岸（日本海側には亜種のオオコンダカガンガラが分布する），潮間帯から水深20 mの岩礁に分布する．

【現況・減少要因】 現況は選定理由参照．近年，泥粒子の浮遊や浮泥の堆積が顕著で藻類の生育が制限されることが減少要因として重要であると考えられる．今後磯焼けの兆候が顕著になることで，生息環境や餌が失われる影響を強く受けることが予想される．

【文献】 164, 186, 191, 270, 277.

(木村昭一・佐藤達也)

(写真：鳥羽市国水深15 m スクーバ潜水，2010年，佐藤達也採集)



三重県 2025

NT

三重県 2015

—

環境省 2020

—

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蘚苔類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

ヒラサザエ

腹足綱 ニシキウズ目 リュウテン科

Pomaulax japonicus (Dunker, 1845)

【選定理由】 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化。1979年以前に安乗から志摩半島，県南部の6箇所の水深20~30 mより分布記録がある。かつては潮下帯から水深20 mほどの岩礁帯から砂泥底に広い範囲に生息し，「カブトガイ」と答志で称され多産した。安楽島，石鏡でも地区独自に呼称されるほどの普通種で，食用にも供されていた。2017年頃から減少傾向が著しく，近年では生息が確認される場所が水深6~15 mまでの範囲に限られ，イセエビ底刺網への混獲もごく稀。志摩半島大王崎周辺からも底刺網で水揚げされる。将来的に絶滅危惧へ移行する可能性が高い。

【種概要】 殻径140 mm，低い円錐形で，周辺部に鋸歯状突起が並ぶ。表面が白く平滑で横長石灰質の厚い蓋を持つ。殻は色彩変異が多く，若い個体では緑色に周辺は橙色に彩色される。老成するとやや高い円錐形となり，殻表面は灰白色となる。

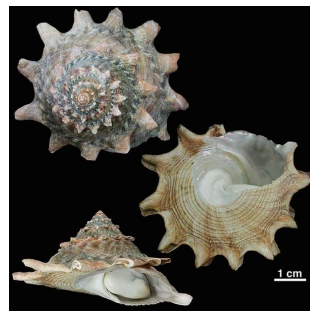
【分布】 岩手県，男鹿半島から九州の水深5~50 mの岩礁に分布する。分布域は広いが，生息海域は分断されている。

【現況・減少要因】 現状は選定理由参照。減少要因は水質汚濁，磯焼けの拡大，浮泥の堆積などが考えられる。

【文献】 164, 186, 275, 276, 277.

(木村昭一・佐藤達也)

(写真：鳥羽市石鏡水深20 m イセエビ底刺網，2013年，佐藤達也採集)



三重県 2025

NT

三重県 2015

—

環境省 2020

—

カノコガイ

腹足綱 アマオブネ目 アマオブネ科

Clithon faba (G. B. Sowerby I, 1836)

【選定理由】 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化。1979年以前に県南部の紀伊長島，引本，尾鷲，賀田の4箇所から分布記録がある。外洋水の影響がある河口部から下流部に生息環境がある。南西諸島では，かなり攪乱された河川でも生息することが知られているが，本種が多産する場所は他の汽水，淡水性アマオブネガイ類の多様性が高い場合が多い。県下では温暖な地域に生息していた種で，近年の海水温上昇で英虞湾奥部まで分布域が拡大している。しかし，上流からの土砂流入が激しい河川では個体数が激減するので，河川下流域の健全性を示す指標生物とも言える。直ちに絶滅危惧種には移行しないが，モニタリングが必要な種と評価された。

【種概要】 殻高10 mm，殻は球形で厚質，殻口は大きく蓋は白色で石灰質。赤褐色の地色に緑褐色の色帯，黄色の成長脈に沿った斑紋がある個体が多いが，色彩変異も大きい。

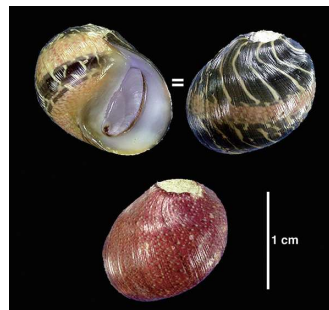
【分布】 静岡県から南太平洋に分布し，河川下流域，河口部に生息する。県内では英虞湾から尾鷲市にかけての熊野灘沿岸に分布する。

【現況・減少要因】 現状は選定理由参照。減少要因は水質汚濁，土砂の堆積などが考えられる。

【文献】 58, 139, 141, 158.

(木村昭一)

(写真：紀伊長島町小河川，2006年，木村昭一採集)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

—

ヒロクチカノコ

腹足綱 アマオブネ目 アマオブネ科

Dostia sp.

【選定理由】 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化。1979年以前に伊勢湾内の白子，津の2箇所の分布記録がある。現在伊勢湾沿岸内湾奥のヨシ原塩性湿地が保全された河口域に健全な個体群が確認されている。近年，詳細な分布調査により約10地点の生息地が見つかったが，雲出古川下流域，櫛田川河口域のように近年行われた護岸工事によって生息環境の破壊と個体数の減少が確認されている生息地もあり，予断は許されない。最近五ヶ所湾，鳥羽市北部（伊勢湾河口部）の塩性湿地からも生貝が確認されたが，健全な個体群ではない。

【種概要】 殻長15 mm，イシマキガイより殻幅が大きく，殻口が広い。蓋は石灰質で半円形。南西諸島の近似種とは別種で，未記載種である可能性もある。

【分布】 東京湾から九州，中国大陸に分布する。東京湾，三浦半島では絶滅し，現在三河湾が分布の東限となっている。内湾奥の河口域の塩性湿地内の感潮クリークのような河川水が直接当たらない泥底の朽ち木等に付着することが多い。

【現況・減少要因】 減少要因は河口域の単純化，干潟・塩性湿地の減少などが考えられる。

【文献】 3, 31, 116, 143, 156, 158, 164, 184, 186, 236.

(木村昭一)

(写真：鳥羽市北部ヨシ原湿地，2015年，木村昭一採集)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

NT

ミヤコドリ

腹足綱 アマオブネ目 ユキスズメ科

Plesiothyreus cinnamomeus (Gould, 1846)

【選定理由】 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化，特殊生息環境．1979年以前に伊勢湾内の東黒部，二見の2箇所，県南部の紀伊長島，尾鷲，三木里の3箇所から分布記録（いずれも汽水域）がある．近年も伊勢湾湾口部から県南部にかけて淡水の影響のある内湾礫底に生息が確認されているが，生息地は多くはなく，分断されていて面積も狭い．鳥羽市では生浦湾湾奥部，市南部の入江で生息地は少ないが，健全な個体群が確認されている．

【種概要】 殻長10 mm，細長いが膨らみの強い笠形．殻頂部は後端中央に位置し，殻頂から細いが明瞭な放射肋が多数出る．軟体部は鮮赤色．

【分布】 房総半島・佐渡から南西諸島の内湾域に分布する．外洋に面した河口の転石が多い干潟周辺や内湾域の転石地の深く埋もれた石の下面に付着している．ニッポンマメアゲマキ，ワカウラツボなどと同所的に分布していることもある．伊勢湾沿岸では本種よりも，近似種のヒナユキスズメの生息地，個体数が多い．

【現況・減少要因】 現状は選定理由参照．減少要因は護岸工事による生息地の喪失，河口域の単純化，干潟・塩性湿地の減少などが考えられる．

【文献】 3, 114, 137, 156, 158, 164, 186, 236.

(木村昭一)

(写真：鳥羽市生浦湾湾奥潮間帯，2022年，木村昭一採集)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

NT

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

ツメナリミヤコドリ

腹足綱 アマオブネ目 ユキスズメ科

Zacalantica unguiformis (Gould, 1859)

【選定理由】 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化，特殊生息環境．1979年以前に県内では賀田の潮間帯から分布記録がある．近年も伊勢湾湾口部から県南部にかけて外洋に面した内湾礫底に生息が確認されているが，生息地は少なく，分断されている．鳥羽市では島嶼部，市南部の入江で健全な個体群が確認されている．ミヤコドリと比較して外海の影響の強い潮間帯に生息し，生息地には陸域から淡水が滲出している例が多く確認される．底質に深く埋没した石の下面に付着している．

【種概要】 殻長10 mm，殻はほぼ円形で膨らみが弱く，扁平な笠形．殻は白～淡黄褐色で，殻表は布目状．

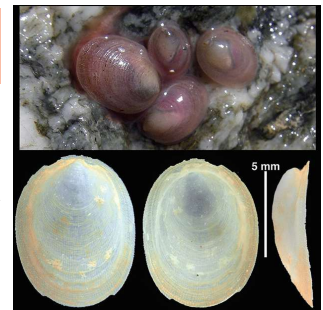
【分布】 宮城県・山口県から九州の湾口部，砂礫底に分布する．外洋に面した岩礁海岸の陸地側や転石地に生息するので，生息環境自体はミヤコドリより広いが，本種が生息する半ば底質に埋もれて適度の還元度のある状態の転石は限定的で，生息面積は小さく個体数も少ない．本種が生息できる場所は貝類の多様性が高い場合が多い．

【現況・減少要因】 現状は選定理由参照．減少要因は工事による生息地の喪失，上述した生息環境の減少などが考えられる．

【文献】 3, 152, 164, 186.

(木村昭一)

(写真：鳥羽市菅島北部潮間帯，2008年，木村昭一採集)



三重県 2025

NT

三重県 2015

—

環境省 2020

—

EX

EW

CR

EN

VU

カワイ

二枚貝綱 オニノツノガイ目 キバウミナ科

Pirenella pupiformis Ozawa & Reid in Reid & Ozawa, 2016

【選定理由】 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化．1979年以前に県内では伊勢湾中部の志登茂川河口等の3箇所，県南部檜山路の1箇所の潮間帯から分布記録がある．近年も伊勢湾沿岸の内湾奥部及び県南部の小規模な内湾域の干潟で健全な個体群が確認されている．近年内湾域で護岸工事などによる生息地の消失例も少なくない．鳥羽市では近年市南部の入江等に個体群が確認されているが，生息面積は小さい．

【種概要】 殻長40 mm，成長した個体の殻口は肥厚し，ヘナタリと近似するが，外唇後部は白色に肥厚せず，外唇前部も角状にならず，水管部へ伸長しない．分類学的再検討の結果，本種には新しい学名が与えられ，タイプ産地は榎田川河口（松阪市松名瀬）とされた．

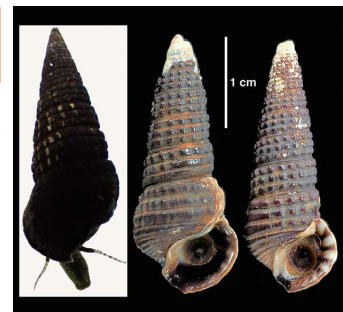
【分布】 松島湾・北長門海岸から九州，南西諸島，朝鮮半島，ベトナム中部に分布する．河口域の泥分の多い底質表面に生息する．ヘナタリより低い潮位に生息することが多い．愛知県側の伊勢湾，三河湾では更に生息地，個体数が少ない．

【現況・減少要因】 現状は選定理由参照．減少要因は護岸工事による生息地の喪失，干潟・塩性湿地の減少などが考えられる．

【文献】 3, 158, 164, 186, 236, 245.

(木村昭一)

(写真：鳥羽市南部入江奥干潟，2012年，木村昭一採集)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

VU

NT

DD

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

モロハタマキビ

腹足綱 エゾタマキビ目 タマキビ科

Lacuna carinifera A. Adams, 1853

【選定理由】 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化，特殊生息環境．前回のレッドデータブックが県下より正式な分布記録となる．2000年代に松阪市より生死不明で図示のない記録がある．伊勢湾中部から湾口部の干潟から潮下帯のアマモの葉上に付着して生息する．鳥羽市では2014年に初めて生浦湾沿岸のアマモ場周辺から少数の生貝が記録された．ほぼ1年生の種と考えられ，冬～早春に大形個体が見られる．県下のアマモ場の面積は明らかに減少しているため，本種の生息基盤も脆弱である．またアマモ場があれば必ず本種が生息しているわけではない．

【種概要】 殻長5mm，冬～早春に10mm前後の大形個体も見られる．殻は菱形で，緑褐色，薄質半透明，縫合は深くくびれる．

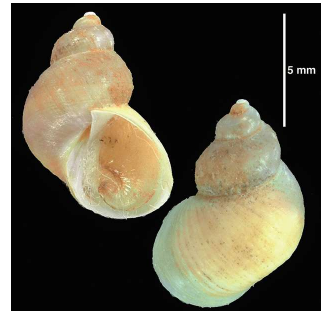
【分布】 北海道南部から九州北部，朝鮮半島に分布する．近年瀬戸内海では潮間帯の個体群の著しい減少が報告されている．

【現況・減少要因】 現状は選定理由参照．減少要因については，干潟の減少，アマモ場の減少，水質汚濁などが考えられる．

【文献】 3, 81, 135, 158, 164, 186, 221, 236.

(木村昭一・早瀬善正)

(写真：鳥羽市生浦湾水深1m ダイビング，2014年，佐藤達也採集)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

NT

ヘソカドタマキビ

腹足綱 エゾタマキビ目 タマキビ科

Lacuna smithi Pilsbry, 1895

【選定理由】 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化，特殊生息環境．1979年以前に記録はない．伊勢湾中部などから画像もない生死不明の記録がある．河合・他(2022)が三重県産本種の図示を伴う初記録である．本種はモロハタマキビより外洋に面した波あたりの強い岩礁周辺のアマモ類の葉上で生活するほぼ1年生の種．県下では英虞湾湾口部に健全な個体群が確認されているにすぎないが，湾口部の岩礁周りの潮下帯より死後間もない殻が採集され，生息域は広範囲である．県下のアマモ場の面積は明らかに減少しているため，生息基盤も脆弱である．

【種概要】 殻長5mm，殻は菱形で，モロハタマキビと近似するが，やや殻質は厚く，殻表は暗色の殻皮で覆われ，紅白色の石灰藻類が付着している個体が多い．モロハタマキビの瀬戸内海に分布する小型の地域個体群はセトウチヘソカドタマキビと呼称された経緯から2種は現在も混同されることが多い．

【分布】 北海道南部から九州北部，瀬戸内海に分布する．

【現況・減少要因】 現状は選定理由参照．減少要因については，干潟の減少，アマモ場の減少，水質汚濁などが考えられる．

【文献】 3, 81, 120, 186, 221, 236.

(木村昭一)

(写真：英虞湾湾口部潮間帯，2020年，木村昭一採集)



三重県 2025

NT

三重県 2015

—

環境省 2020

—

ヤマトクビキレガイ

腹足綱 エゾタマキビ目 クビキレガイ科

Truncatella pfeifferi Martens, 1861

【選定理由】 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化．1979年以前に伊勢湾沿岸の津，二見2箇所，南部の内湾の新鹿の1箇所から分布記録がある．内湾域から外洋に面した内湾の転石海岸や塩性湿地周辺の潮間帯上部から潮上帯の打ち上げ物の下や礫の下などに生息する．現在でも伊勢湾湾口部から鳥羽市，英虞湾及び県南部の小規模な内湾域に健全な個体群が確認されているが，生息地は少なく，その面積も小さい．生息環境は陸域に近く，護岸工事などの改変を受けやすい．

【種概要】 殻長7mm．殻は細長い円錐形であるが，殻口が反転し，十分に成長した個体では，殻頂部が欠損し円筒形になる．殻の色は白桃色から橙色で半透明であるが，殻質は厚い．殻上に強い縦肋がある個体からほとんど無い個体まで変異する．

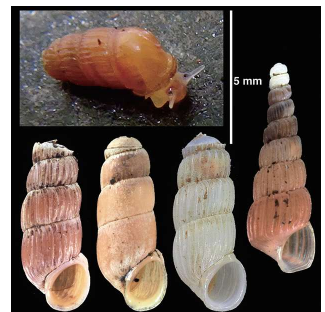
【分布】 北海道南部から九州南部，種子島，朝鮮半島に分布．

【現況・減少要因】 現状は選定理由参照．減少要因については，上述したような生息環境の減少などが考えられる．

【文献】 2, 156, 158, 164, 184, 186, 236.

(木村昭一)

(写真：鳥羽市北部海岸，2022年，木村昭一採集)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

—

ヨシダカワザンショウ

腹足綱 エゾタマキビ目 カワザンショウ科

"*Angustassiminea*" *yoshidayukioi* (Kuroda, 1959)

【選定理由】 個体群・個体数の減少、生息条件の悪化。1979年以前に分布記録がないが他種と混同していたこと等による単純な記録漏れであると考えられる。1999年には伊勢湾沿岸のヨシ原塩性湿地6箇所に生息していることが報告された。現在でも伊勢湾から英虞湾など南部の内湾域の塩性湿地周辺にも分布する。最近鳥羽市の島嶼域から生息が確認された。本種は陸上植生まで良く保全された塩性湿地の潮間帯上部から潮上帯に生息する。本種の生息環境は三重県の内湾河口域に生息する本科貝類としては最も陸域に近く、改変を受けやすい。

【種概要】 殻長3mmの小型種。螺塔は高く、各層の膨らみが強い。クリイロカワザンショウの幼貝とよく似ているが、本県に産する本種は、殻の色彩はうすく、光沢が強い。臍孔は狭いが明らかに開く点で明確に識別できる。

【分布】 北海道南部から九州南部に分布。朝鮮半島よりも記録があるが別種で、日本固有種の可能性が高い。

【現況・減少要因】 現状は選定理由参照。減少要因については、塩性湿地・干潟の減少などが考えられる。

【文献】 2, 143, 156, 158, 164, 233.

(木村昭一)

(写真：鳥羽市答志島北部海岸，2022年，木村昭一採集)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

NT

ツブカワザンショウ

腹足綱 エゾタマキビ目 カワザンショウ科

Assiminea estuarine Habe, 1946

【選定理由】 個体群・個体数の減少、生息条件の悪化。1979年以前に分布記録がないが、他種と混同していたこと等による単純な記録漏れであると考えられる。1999年に伊勢湾沿岸のヨシ原塩性湿地周辺に生息していることが報告された。最近鳥羽市でも北部の河口域で生息が確認された。現在でも伊勢湾から南部の内湾域の塩性湿地周辺から転石地に広く分布するが、塩性湿地自体が近年の護岸工事で改変されることが多く、生息地は破壊されやすい。

【種概要】 殻長3mmで小型。カワザンショウガイの幼貝に似ているが、殻は丸みを持ち、殻質は厚く、狭いが明らかに臍孔が開く。殻の色は黄褐色であるが、2本の褐色帯を持つことが多い。

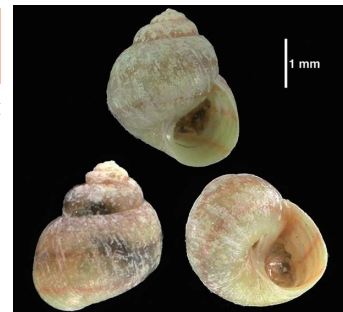
【分布】 東北地方から九州、奄美大島、沖縄本島に分布。奄美大島以南に分布する個体群はヒメカワザンショウとして区別される事もあったが、現在では同種とされる。

【現況・減少要因】 現状は選定理由参照。減少要因については、塩性湿地・干潟の減少などが考えられる。

【文献】 2, 116, 117, 156, 158, 236.

(木村昭一)

(写真：鳥羽市北部河口域，2022年，木村昭一採集)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

NT

ヒナタムシヤドリカワザンショウ

腹足綱 エゾタマキビ目 カワザンショウ科

Assiminea aff. *parasitological* Kuroda, 1958

【選定理由】 個体群・個体数の減少、生息条件の悪化。1979年以前に県南部の3箇所の内湾域から分布記録がある。1999年には伊勢湾沿岸のヨシ原塩性湿地9箇所に生息していることが報告された（以上の記録はムシヤドリカワザンショウ）。現在でも伊勢湾から南部の内湾域の塩性湿地周辺に広く分布するが、特に生息環境の改変が認められないのに本種のみが減少している。鳥羽市では北部の塩性湿地での本種の個体数が激減し、生息が確認できなくなった地点があるが、最近島嶼域から生息が確認された。今回は上位カテゴリーに評価されなかったが、注意を要する種である。

【種概要】 殻長4mm、殻の色は橙褐色から赤褐色で光沢がある。縫合の下と殻の底部の色が黄色である。最近、従来「ムシヤドリカワザンショウ」とされていた種には2種あり、太平洋側沿岸に分布する種は未記載種である可能性が高く、ヒナタムシヤドリカワザンショウの和名が提唱された。

【分布】 東北地方から九州（太平洋側）に分布。

【現況・減少要因】 現状は選定理由参照。減少要因については、塩性湿地・干潟の減少などが考えられる。

【文献】 2, 116, 117, 143, 156, 158, 164, 186, 236.

(木村昭一)

(写真：鳥羽市答志島北部海岸，2022年，木村昭一採集)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

NT

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

藓苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蘚苔類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

カハタレカワザンショウ

腹足綱 エゾタマキビ目 カワザンショウ科

Xenassimineana nana Fukuda, 2023

【選定理由】 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化，特殊生息環境．2000年に英虞湾の潮間帯から報告されたのが，県下よりの最初の記録である．現在，伊勢湾湾口部，県南部の内湾域の塩性湿地，礫地の潮間帯上部から中部の底質に埋もれた石の下に生息している．微小種で特殊な生息環境に生息するためか，生息が確認されている場所は少ない．ウソコミミガイと同所的に見られることも多い．塩性湿地自体が近年の護岸工事で改変されることが多く，生息地は破壊されやすい．

【種概要】 殻径1.2 mmで微小．発見から約30年間未記載種であったが，絶滅危惧種としてよく知られていた．2023年に新属新種として記載された．殻はカワザンショウガイ科貝類としては偏平，薄質でガラス質，臍孔は広い．

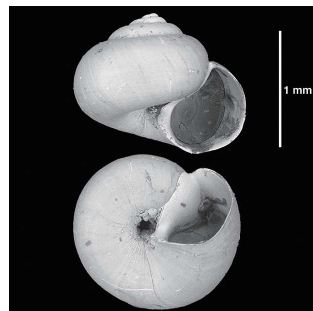
【分布】 東京湾（小櫃川河口）から九州にかけて広く分布する．三重県では主に志摩半島沿岸部に分布する．鳥羽市内においては，2022年答志島の湾奥環境および外海に面した湾奥に位置する潮上帯で，埋没礫下と粘土質の底泥との僅かな隙間空間2箇所を確認された．

【現況・減少要因】 減少要因については，塩性湿地・干潟の減少などが考えられる．

【文献】 2, 114, 156, 164, 236.

(木村昭一)

(写真：鳥羽市塩性湿地，2010年，木村昭一採集)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

VU

カワグチツボ

腹足綱 エゾタマキビ目 ワカウラツボ科

Fluviocingula elegantula (A. Adams, 1861)

【選定理由】 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化．1979年以前に本県から分布記録がない．1993年に県下で初めて伊勢湾沿岸河口域より生息が報告された．1999年さらに2箇所の内湾奥の河口域に健全な個体群が確認されている．その後の分布調査により県南部でも生息地が確認されたが，生息地点数は少ない．

【種概要】 殻長5 mmの紡錘形の小型種．ワカウラツボと近似しているが，殻質が薄いこと，狭いが臍孔があること，各層の膨らみが強いことなどから識別できる．また，ワカウラツボは塩性湿地周辺の深く埋もれた転石や朽ち木下に生息するのに対して，本種は内湾奥の泥質干潟の表層にエドガワミズゴマツボと同所的に生息することが多い．

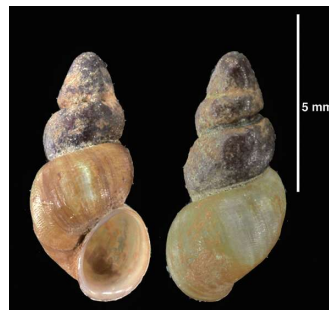
【分布】 北海道北部から九州，朝鮮半島，中国大陸，ロシア沿海州に分布する．淡水の影響の強い内湾奥の干潟の泥上や藻類の上に生息することが多い．

【現況・減少要因】 現状は選定理由参照．減少要因は河口域の単純化，干潟の減少などが考えられる．

【文献】 2, 129, 143, 156, 158, 184, 236.

(木村昭一)

(写真：津市志登茂川河口域，1992年，木村昭一採集)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

NT

エドガワミズゴマツボ (ウミゴマツボ)

腹足綱 エゾタマキビ目 ミズゴマツボ科

Stenothyra edogawensis Yokoyama, 1927

【選定理由】 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化．1993年に県下では初めて伊勢湾の干潟から生息が記録されたが，単純な記録漏れと思われる．伊勢湾沿岸から南部の内湾域の湾奥の干潟の泥底に生息地が散在する．英虞湾には湾奥部数箇所に健全な個体群が確認され，近年五ヶ所湾でも生息が確認されている．生息地は少なくないが，湾奥の干潟は護岸工事などで改変されやすく，本種の生息地も減少している．

【種概要】 殻長2 mmでタニシ型の巻貝であるが，殻口が丸く小さく，蓋は石灰質．ミズゴマツボと近似するが，小形で螺塔が高く，殻表に点刻状の列が無いことなどから明確に識別される．本種は内湾奥の河口域の泥干潟表層にカワグチツボと同所的に見られることが多く，ミズゴマツボの生息環境とは大きく異なる．

【分布】 現在東北地方から九州に分布する．日本固有種の可能性が高い．

【現況・減少要因】 現状は選定理由参照．減少要因については，干潟の減少，水質汚濁などが考えられる．

【文献】 2, 129, 143, 156, 157, 158, 184, 236.

(木村昭一)

(写真：英虞湾湾奥部，2012年，木村昭一採集)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

NT

シラギク

腹足綱 エゾタマキビ目 イソコハクガイ科

Pseudoliotia pulchella (Dunker, 1860)

【選定理由】 個体群・個体数の減少、生息条件の悪化、特殊生息環境。1979年以前に伊勢湾から県南部の4箇所の内湾域から分布記録がある。伊勢湾湾口部から南の内湾域で死殻は広範囲で比較的普通に採集される。しかし、生貝が確認されている内湾域は限られている。的矢湾、英虞湾、鳥羽市で健全な個体群が確認されている。鳥羽市では生息地が多く、浦村北部沿岸、生浦湾、島嶼域、市南部の入江で生息が確認されている。

【種概要】 殻径3mm、円盤状の微小種で殻質は厚く堅固。殻表には格子目状の強い彫刻があり、生時には褐色から黒色の付着物で被われている。死殻は白色の場合が多い。

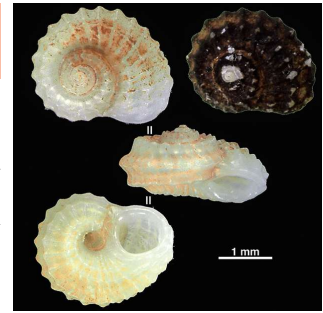
【分布】 三陸海岸から九州、朝鮮半島に分布する。湾奥部の干潟から湾口部の礫底までの底質に深く埋もれた石の下面に生息する。ミヤコドリ、ヒナユキズメ、ニッポンマメアゲマキと同所的に生息していることもある。

【現況・減少要因】 現状は選定理由参照。減少要因については、干潟の減少、上述したような微小生息環境の減少、水質汚濁、浮泥の堆積などが考えられる。

【文献】 2, 20, 158, 164, 186, 236.

(木村昭一)

(写真：鳥羽市麻倉島潮間帯，2014年，木村昭一採集)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

NT

ナギツボ

腹足綱 エゾタマキビ目 イソコハクガイ科

Vitrinella sp.

【選定理由】 本種は近年和名だけが提唱された未記載の微小種で三重県下での過去の記録はほとんどない。伊勢湾湾口部から英虞湾、県南部にかけて内湾潮間帯下部の砂礫底で生貝は採集されているが、生息地・個体数は多くない。底質に深く埋もれた石の下面に生息することが多い。鳥羽市では浦村北部沿岸、島嶼域、市南部の入江で生息が確認されている。

【種概要】 殻長1.5mm、殻は卵形、殻質は薄く、無色透明（死殻では白濁）、殻表は平滑で光沢が強い（図：電子顕微鏡画像）。微小種であるが、匍匐移動する速度が早く、その動きが特徴的で生息地で肉眼でも見つけることができる。

【分布】 伊豆半島、浜名湖、伊勢湾湾口部、英虞湾、三河湾、紀伊水道、瀬戸内海、九州西岸に分布する。国外での分布は不明。同所的にはヒナユキズメ、シラギク、アラウズマキが見られることが多い。

【現況・減少要因】 現状は選定理由参照。減少要因として、生息環境が水質汚濁、底質の泥質化、有機物量の増加などで悪化していること、浮泥の堆積により転石下面の環境が過度に還元化することなどが考えられる。

【文献】 3, 7, 164, 236.

(木村昭一)

(写真：鳥羽市南部入江潮間帯 砂礫底，2010年，木村昭一採集)



三重県 2025

NT

三重県 2015

DD

環境省 2020

NT

ネコガイ

腹足綱 エゾタマキビ目 タマガイ科

Eunaticina papilla (Gmelin, 1791)

【選定理由】 個体群・個体数の減少、生息条件の悪化。1979年以前にも伊勢湾から湾口部の3箇所、県南部の3箇所の干潟から潮下帯より分布記録がある。現在、伊勢湾沿岸から湾口部の海岸で、死殻は広い範囲で普通に採集されているが、生貝の採集例は特に干潟では非常に少ない。伊勢湾中部から湾口部、県南部の内湾域の潮下帯では比較的広い範囲で生息が確認されているが、生貝の個体数は少ない。近年、鳥羽市では浦村沿岸、生浦湾湾口部で生貝が確認されているが、個体数は少ない。

【種概要】 殻長30mmの卵形で多数の螺肋でおおわれる。蓋は革質、小さく退化的で殻口全てを覆わない。螺層は低く、白色の貝殻は黄褐色の薄い殻皮でおおわれている。軟体部は大きく黄白色。

【分布】 房総半島から南西諸島、朝鮮半島、中国大陸、インド・太平洋に分布する。現在でも死殻が見られる産地は少なくないが、干潟で生貝を確認できる場所は限られている。

【現況・減少要因】 現状は選定理由参照。干潟の消失、水質汚濁などが減少要因と考えられる。

【文献】 2, 20, 83, 135, 143, 158, 164, 186, 236.

(木村昭一)

(写真：鳥羽市生浦湾水深5m ダイビング，2011年，佐藤達也採集)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

NT

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

藓苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蘚苔類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

カスミコダマ

腹足綱 エゾタマキビ目 タマガイ科

Natica buriasensis Récluz, 1844

【選定理由】 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化．1979年以前に答志の潮下帯1箇所より分布記録がある．現在伊勢湾湾口部から南部の内湾域の潮下帯から生貝が採集されているが個体数は非常に少ない．鳥羽市では，近年のドレッジ調査で答志島から石鏡沖の水深30～80 mの砂泥底より少数の生貝が採集されている．県下の干潟では近年死殻も稀で，生息は確認されていないが，湾口部から熊野灘の水深30 m程度の砂底に個体群が確認されている．

【種概要】 殻長10 mm，ほぼ球形の巻貝で殻表は光沢が強い．殻の色彩は淡褐色地色に不規則な褐色斑があり，殻口内唇，臍版はやや濃い褐色になる個体が多い．蓋も石灰質で弱い螺肋がある．底引き網にかかったモミジヒトデ類の胃中より捕食された個体が見いだされることがある．

【分布】 相模湾から九州，沖縄本島，インド・太平洋に分布する．内湾の干潟や潮下帯では珍しい種となってしまうが，現在でも外洋の潮下帯に生息域が残されている．

【現況・減少要因】 現状は選定理由参照．減少要因については，干潟の減少，水質汚濁，内湾域潮下帯の環境悪化などが考えられる．

【文献】 164, 186, 236.

(木村昭一)

(写真：鳥羽市生浦湾水深20 m ダイビング，2012年，佐藤達也採集)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

NT

フロガイダマシ

腹足綱 エゾタマキビ目 タマガイ科

Naticarius concinnus (Dunker, 1860)

【選定理由】 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化．1979年以前に県南部の内湾域6箇所の干潟から潮下帯より分布記録がある．2000～2010年代，伊勢湾湾口部から県南部の内湾域の潮下帯から生貝が採集されていたが個体数は少なく，干潟では生貝が確認できなかった．近年，英虞湾では中央部から湾口部で健全な個体群が確認され，鳥羽市では浦村沿岸，生浦湾湾口部，島嶼域から石鏡沖の比較的広い範囲で個体数は少ないが生貝が確認されている．これらのモニタリング結果を受けて，今回カテゴリーダウンと評価された．

【種概要】 殻長15 mm，ほぼ球形の巻貝で，蓋も石灰質で強い螺肋がある．

【分布】 房総半島から九州，朝鮮半島に分布する．かつては普通種であったが，特に内湾の干潟では非常に珍しい種になってしまった．かつて瀬戸内海の高砂中にはおびただしい量の本種の死殻が含まれていた．近年，瀬戸内海ではタマガイ科としては特に本種のみが著しく減少していることが報告されている．

【現況・減少要因】 現状は選定理由参照．環境悪化が著しい内湾域のみならず外洋域でも著しい減少が認められ，減少要因については不明．

【文献】 3, 20, 164, 186, 236, 278.

(木村昭一)

(写真：鳥羽市石鏡沖水深20 m ドレッジ，2018年，佐藤達也採集)



三重県 2025

NT

三重県 2015

VU

環境省 2020

VU

キリオレ

腹足綱 エゾタマキビ目 ミツクチキリオレ科

Viriola tricincta (Dunker, 1882)

【選定理由】 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化．1979年以前に県内では，県南部の5箇所の水深10～15 mから分布記録がある．県下のミツクチキリオレ科貝類は，本種以外にも多種の生息が確認されている．内湾域にも生息し，比較的モニタリングがされている本種を科の代表種として取り上げる．近年，鳥羽市から県南部の沿岸の岩礁，礫海岸，その周辺の砂泥底から死殻は普通に採集されているが，生貝の確認例は少ない．本種は本科としては大形種で，生貝は潮通しの良い入江の礫地の半ば埋もれた石の下面等に付着している．本種の生息地は他の貝類の多様性も高い．

【種概要】 殻長15 mm，殻は左巻で細長く，殻質は厚く暗褐色．本県に分布する本科貝類としては最大種．

【分布】 房総半島・男鹿半島から沖縄の潮間帯から浅海の礫底に分布する．

【現況・減少要因】 現状は選定理由参照．近年，泥粒子の浮遊や浮泥の堆積が顕著で，やや深く埋もれた石の下面を生息環境とする本種にとっては，浮泥の堆積に起因する過度の還元状態は，減少要因として重要であると考えられる．

【文献】 20, 120, 164, 186.

(木村昭一)

(写真：鳥羽市北部礫地 潮間帯，2022年，木村昭一採集)



三重県 2025

NT

三重県 2015

—

環境省 2020

—

ケシカニモリ

腹足綱 エゾタマキピ目 アミメケシカニモリ科

Scila morishimai (Habe, 1970)

【選定理由】 個体群・個体数の減少、生息条件の悪化。1979年以前に県内では、御座、宿浦、相賀浦の水深10 mから分布記録がある。県下のアミメケシカニモリ科貝類は、本種以外にも多種の生息が確認されているが、内湾域にも生息し、比較的モニタリングがされている本種を科の代表種として取り上げる。近年、鳥羽市沿岸の岩礁、礫海岸、その周辺の砂泥底から死殻は少数採集されているが、生貝の確認例は少ない。本種は本科としては大形種で、生貝は潮通しの良い入江の礫地のやや埋もれた石の下面に付着している。本種の生息地は他の貝類の多様性も高い。

【種概要】 殻長10 mm、殻は細長く、殻質は厚く橙褐色。本県に分布する本科貝類としては最大種。

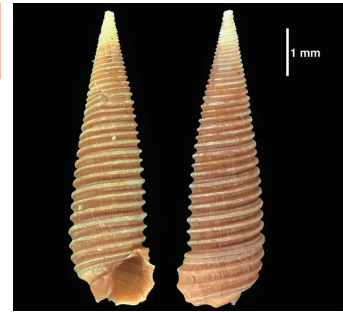
【分布】 北海道南部から沖縄の潮間帯から浅海の砂礫底に分布する。

【現況・減少要因】 現況は選定理由参照。近年、泥粒子の浮遊や浮泥の堆積が顕著で、やや深く埋もれた石の下面を生息環境とする本種にとっては、浮泥の堆積に起因する過度の還元状態は、減少要因として重要であると考えられる。

【文献】 20, 120, 164, 186, 278.

(木村昭一)

(写真：鳥羽市北部礫地 潮間帯，2022年，木村昭一採集)



三重県 2025

NT

三重県 2015

—

環境省 2020

—

クリンイトカケ

腹足綱 エゾタマキピ目 イトカケガイ科

Amaea thielei (de Boury, 1913)

【選定理由】 個体群・個体数の減少、生息条件の悪化。1979年以前に県内では、有滝、尾鷲、新鹿の水深20~30 mから分布記録がある。2000~2010年代には伊勢湾中部で稀に死後間もない殻が打ち上げ採集された。近年、鳥羽市生浦湾の水深10~20 mで稀に生貝が採集された。愛知県では1990年代に三河湾湾口部、伊勢湾知多半島沖で生貝が確認されているが、近年死殻のみで生貝が記録されていない。

【種概要】 殻長25 mm、殻は高い塔形、白色から薄いクリーム色で殻質は薄い。螺層はよく膨らみ、殻表は細かい布目状彫刻がある。殻口は太い縦張肋で肥厚した状態になる個体、大形ではあるが、殻口が肥厚しない個体、小形でも著しく殻口が肥厚した個体など変異に富む。オオジイトカケなど数種は前述したクリンイトカケの個体変異に命名された種である。蓋は革質で淡黄褐色。

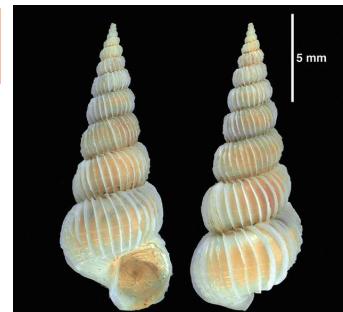
【分布】 房総半島から九州まで朝鮮半島、中国大陸の内湾から湾口部、水深20 mまでの潮下帯砂泥底に分布する。

【現況・減少要因】 現況は選定理由参照。内湾域潮下帯の無酸素水域の拡大、水質汚濁などが減少要因と考えられる。

【文献】 3, 132, 133, 135, 164, 186.

(木村昭一)

(写真：鳥羽市生浦湾水深10 m ドレッジ，2012年，木村昭一採集)



三重県 2025

NT

三重県 2015

—

環境省 2020

—

オダマキ

腹足綱 エゾタマキピ目 イトカケガイ科

Epitonium auritum (Sowerby II, 1844)

【選定理由】 個体群・個体数の減少、生息条件の悪化。1979年以前に県内では、津、有滝、尾鷲の水深5~10 mから分布記録がある。近年、伊勢湾中部では打ち上げられる死殻も激減し、死殻もほとんど確認できない。鳥羽市を含めた伊勢湾湾口部、英虞湾湾口部の潮下帯からは、死後間もない死殻と生貝が少数確認されている。その他の海域では死殻も稀で、生貝は確認できない。

【種概要】 殻長10 mm、高い塔形で、殻は淡褐色で3本の広い褐色帯がある。殻表は光沢があり、不規則な縦肋が多数有る。蓋は革質で黒褐色。

【分布】 房総半島・佐渡島以南から九州、西太平洋の内湾から外洋に面した湾口部の水深20 mまでの潮下帯砂底に分布する。数少ない本種の生貝が採集された生息環境は、潮通しの良い透水性の高い砂底に限定されるようである。三浦半島周辺、徳島県西部などでは、普通に打ち上げられた死殻が採集される海岸も知られている。

【現況・減少要因】 現況は選定理由参照。内湾域潮下帯の無酸素水域の拡大、水質汚濁、底質への浮泥の堆積などが減少要因と考えられる。

【文献】 3, 132, 135, 164, 186, 236, 278.

(木村昭一)

(写真：鳥羽市生浦湾水深10 m ドレッジ，2011年，木村昭一採集)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

NT

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

藓苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蘚苔類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

クレハガイ

腹足綱 エゾタマキビ目 イトカケガイ科

Epitonium clementinum (Grateloup, 1840)

【選定理由】 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化。1979年以前に県内では，津，有滝，紀伊長島の水深20 mまでの潮下帯から分布記録がある。近年，伊勢湾北・中部では死殻は普通であるが，干潟での生貝確認例は少ない。近年，鳥羽市を含めた伊勢湾湾口部では打ち上げられた死殻も著しく少なく，鳥羽市では生浦湾奥部で死後間もない殻がドレッジで採集されたが，生貝が確認できない。

【種概要】 殻長15 mm，殻は低い塔形，螺層は良く膨れ，白色で各層には3本の褐色帯がある。蓋は革質で褐色。

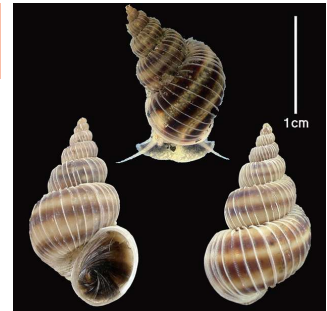
【分布】 房総半島・佐渡島以南から九州，西太平洋の内湾干潟から湾口部の水深20 mまでの砂泥底に分布する。本科貝類としては最も内湾域奥部まで分布する種である。

【現況・減少要因】 現状は選定理由参照。内湾域潮下帯の無酸素水域の拡大，水質汚濁，底質への浮泥の堆積などが減少要因と考えられる。

【文献】 3, 132, 135, 164, 186, 236, 278.

(木村昭一)

(写真：伊勢湾中部干潟，2011年，木村昭一採集)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

NT

セキモリ

腹足綱 エゾタマキビ目 イトカケガイ科

Epitonium robillardii (Sowerby III, 1894)

【選定理由】 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化。1979年以前に県内では四日市，津，有滝の伊勢湾内3箇所，紀伊長島，矢の浜の県南部内湾域2箇所の水深5～10 mから分布記録がある。近年でも伊勢湾中部で打ち上げられた死殻は比較的普通であるが，干潟で生貝はほとんど確認できない。伊勢湾中部，湾口部の潮下帯で生貝が採集されているが，個体数は少ない。鳥羽市では浦村沿岸，生浦湾湾口部潮下帯で稀に生貝が確認されている。

【種概要】 殻長15 mm，殻は太い塔形で，螺層はよく膨れる。クレハガイに近似するが，やや小形で，灰白色地に2本の濃褐色帯をめぐらし，螺肋も強い。蓋は革質で黒褐色。

【分布】 房総半島から九州，西太平洋に分布する。内湾砂泥質干潟から砂礫海岸に生息する。クレハガイと同所的に生息する場合も多いが，より外洋寄りに生息地が広がり，垂直分布の幅，底質選択の幅もやや広い。

【現況・減少要因】 現状は選定理由参照。内湾域潮下帯の無酸素水域の拡大，水質汚濁，底質への浮泥の堆積などが減少要因と考えられる。

【文献】 3, 132, 135, 158, 164, 186, 236, 278.

(木村昭一)

(写真：鳥羽市生浦湾水深5 m ドレッジ，2012年，木村昭一採集)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

NT

シドロ

腹足綱 スイショウガイ目 スイショウガイ科

Doxander japonicus (Reeve, 1851)

【選定理由】 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化。1979年以前に県内では白子，有滝の伊勢湾中部2箇所，紀伊長島，三浦，三木浦，新鹿の県南部内湾域4箇所の水深20～50 mで分布記録がある。近年，伊勢湾湾口部から県南部にかけて内湾砂泥底に生息が確認されているが，個体数の著しい減少傾向が認められる。近年，鳥羽市でも浦村沿岸，生浦湾湾口部からはドレッジで生貝が確認されている。しかし，小浜沖の鳥羽湾からは，かつて生貝が普通に底刺網で採集されていたが，近年生貝が確認できない。

【種概要】 殻長70 mm，殻質はやや厚く，十分に成長した個体では殻口外唇がそで状に張り出す。殻に性的2型があり（図下段左：雌，右：雄），雌個体の方が大形になり，螺管が太く，殻口の外唇がより袖状に拡張する。

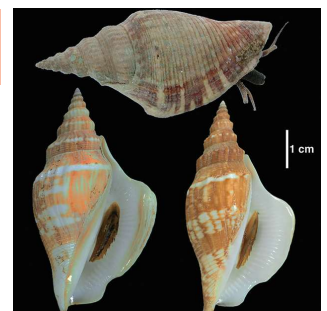
【分布】 房総以南から九州の外洋に面した干潟の潮間帯下部から水深30 mの砂泥底に分布する。

【現況・減少要因】 現状は選定理由参照。内湾域潮下帯の無酸素水域の拡大，水質汚濁などが減少要因と考えられる。

【文献】 20, 158, 164, 186, 266, 278.

(木村昭一)

(写真：鳥羽市生浦湾水深20 m ドレッジ，2012年，木村昭一採集)



三重県 2025

NT

三重県 2015

—

環境省 2020

—

カズラガイ

腹足綱 ヤツシロガイ目 トウカムリ科

Phalium flammiferum (Röding, 1798)

【選定理由】 個体群・個体数の減少、生息条件の悪化。1979年以前に県内では有滝、神前浦、尾鷲、新鹿の水深20 mから分布記録がある。1980年代から、伊勢湾中部から鳥羽市を含めた湾口部にかけての底刺網、蛸壺漁などで生貝が採集されていたが、個体数は少ない。一時期ほとんど生貝が確認できなかったが、近年回復傾向が認められる。近似種のナガカズラガイは本種より外洋寄りの砂底に生息域があり多産する。

【種概要】 殻長80 mm、殻は卵形で、殻質はやや厚く黄色褐色の縦縞がある。ナガカズラガイと同種もしくは亜種とする説もあるが、両種は殻の形態で明確に区別される。

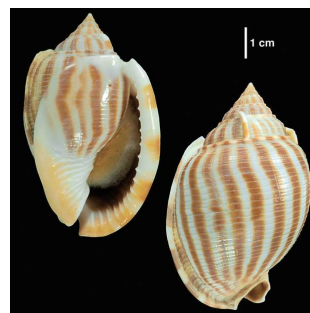
【分布】 房総半島・新潟県から九州、台湾の水深20 mの内湾から湾口部砂泥底に分布する。日本海側（新潟県）の外洋に面した砂底には普通に生息している海域が多いが、殻が小形で、殻表の彫刻や色彩も多少異なり、地域変異もしくは遺伝的に異なる個体群の可能性もある。瀬戸内海では著しい減少傾向（岡山県では絶滅）が報告されている。

【現況・減少要因】 現状は選定理由参照。内湾域潮下帯の無酸素水域の拡大、水質汚濁などが減少要因と考えられる。

【文献】 3, 9, 20, 158, 164, 186, 266, 278.

(木村昭一)

(写真：鳥羽市生浦湾水深20 m ドレッジ, 2012年, 木村昭一採集)



三重県 2025

NT

三重県 2015

—

環境省 2020

—

ヘソアキオリイレボラ

腹足綱 新腹足目 コロモガイ科

Trigonostoma crenifera (Sowerby I, 1833)

【選定理由】 個体群・個体数の減少、生息条件の悪化。1979年以前に県内では尾鷲、三木浦の潮間帯から分布記録がある。1980年代から鳥羽市を含めた伊勢湾湾口部、尾鷲湾の底刺網で死殻が確認されていた。近年、勢水丸のドレッジ調査で英虞湾湾口部より生貝が採集され、鳥羽市菅島から石鏡沖の水深30~40 mの砂泥底よりドレッジで少数の生貝が採集された。土佐湾のように本種の生息する海域は貝類の多様性が高い場合が多い。九州北部では本種の著しい減少例が報告された。

【種概要】 殻長25 mm、殻は太く、臍孔は広い。肩部は刺状に尖り、縦肋は強く螺肋と交わり鋸歯状になる。蓋は持たない。

【分布】 房総半島、山口県北部から九州、熱帯インド・太平洋の潮間帯から水深50 mの砂泥底に分布する。

【現況・減少要因】 現状は選定理由参照。内湾域潮下帯の無酸素水域の拡大、水質汚濁などが減少要因と考えられる。

【文献】 164, 186, 278.

(木村昭一)

(写真：鳥羽市石鏡沖水深30 m ドレッジ, 2021年, 佐藤達也採集)



三重県 2025

NT

三重県 2015

—

環境省 2020

—

モスソガイ

腹足綱 新腹足目 エゾバイ科

Volutharpa perryi (Jay, 1857)

【選定理由】 個体群・個体数の減少、生息条件の悪化。1979年以前に県内では有滝、桃取、答志の水深10~30 mで分布記録がある。近年も伊勢湾中部から湾口部にかけて砂泥底に生息が確認されているが、個体数の減少傾向が顕著である。また近年鳥羽市でも、生貝が確認されているが、浮泥の発生、堆積とともに個体数の減少が確認されている。最近の勢水丸の伊勢湾湾口部調査でも死後間もない殻が採集されたが、生貝は確認されなかった。

【種概要】 殻長40 mm、卵形で、殻質は薄く、厚い殻皮で覆われる。殻口は大きいですが、蓋は革質で非常に小さく退化的。

【分布】 瀬戸内海以北北海道までの水深30 mの砂泥底に分布する。青森から北海道にかけては食用種として漁獲されているが、東海地方（伊勢湾・三河湾）の個体群より遙かに大形である。本種は東北・北海道型と定義された、「内海が太平洋側の分布限界である、外海では生息し得ないが、低温・低塩分の内海に生息している」貝類群集に含まれる。

【現況・減少要因】 現状は選定理由参照。内湾域潮下帯の無酸素水域の拡大、浮泥の堆積、水質汚濁などが減少要因と考えられる。

【文献】 3, 91, 164, 167, 186.

(木村昭一)

(写真：鳥羽市小浜沖水深20 m 底刺網漁, 1982年, 木村昭一採集)



三重県 2025

NT

三重県 2015

—

環境省 2020

—

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

藓苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

イソナナ

腹足綱 新腹足目 エゾバイ科

Japeuthria ferrea (Reeve, 1847)

【選定理由】 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化．1979年以前に県内では津，答志，県南部5箇所の潮間帯から分布記録がある．県内では2010年代までは，伊勢湾湾口部，県南部の湾口部から外洋の岩礫地，潮間帯中部に多産した普通種であるが，既に津市沿岸などの伊勢湾中部では生息が確認できなかった．近年鳥羽市を含む湾口部で個体数の急激な減少が確認されている．

【種概要】 殻長40 mm，殻は太い紡錘形，殻表はやや厚い殻皮で覆われるが，彫刻はなく平滑．成熟個体では殻頂部は欠落する．

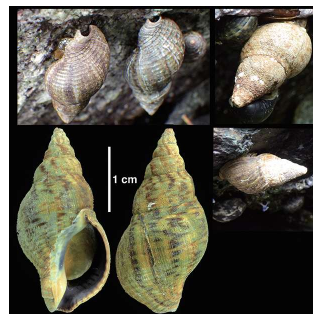
【分布】 房総半島から九州の潮間帯の岩礫地に分布する．満潮時には岩や石の上面を匍匐することが多いが，それ以外の潮汐では石と石の間や，岩や石の下面を利用することも多い（図上段）．瀬戸内海でも著しい減少傾向が報告されている．

【現況・減少要因】 現況は選定理由参照．近年，泥粒子の浮遊や浮泥の堆積が顕著で，転石地の石の下面等を生息環境とする本種にとっては，浮泥の堆積は，減少要因として重要であると考えられる．

【文献】 9, 160, 164, 186.

(木村昭一・木村妙子)

(写真：鳥羽市答志島東海岸潮間帯，2022年，木村昭一採集)



三重県 2025

NT

三重県 2015

—

環境省 2020

—

シラゲガイ

腹足綱 新腹足目 タモトガイ科

Indomitrella lischkei (Smith, 1879)

【選定理由】 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化．1979年以前に県内では答志，紀伊長島の水深10～20 mより分布記録がある．近年，伊勢湾湾口部から県南部にかけての外洋に面した内湾域で死殻が採集されているが，個体数は少なく，生貝の記録はない．鳥羽市では近年のドレッジ調査で答志島から石鏡沖の水深5～50 mの砂泥底より死後間もない殻が少数採集されているが，生貝は未確認．湾口部内湾域での減少傾向が顕著である．

【種概要】 殻長10 mm，スミスシラゲガイと近似するが，螺塔は高い円錐形で彫刻はなく平滑，光沢が強い．殻は白色から淡褐色まで変異し，不規則な黄褐色の雲状斑がある．

【分布】 房総半島から九州の潮間帯から水深40 mまでの潮下帯砂底に分布する．

【現況・減少要因】 現状は選定理由参照．内湾域潮下帯の無酸素水域の拡大，水質汚濁などが減少要因と考えられる．

【文献】 164, 186, 266.

(木村昭一)

(写真：鳥羽市石鏡沖水深30 m ドレッジ，2020年，佐藤達也採集)



三重県 2025

NT

三重県 2015

—

環境省 2020

—

テングニシ

腹足綱 新腹足目 テングニシ科

Hemifusus tuba (Gmelin, 1791)

【選定理由】 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化．1979年以前に伊勢湾の四日市，答志の2箇所，県南部の内湾域4箇所の水深10～50 mより分布記録がある．現在伊勢湾中部の特に干潟では生貝は稀産．伊勢湾湾口部，県南部の内湾域の干潟から潮下帯の比較的広い範囲で生貝は確認されているが，食用として大量に採集されていた時代から比べると個体数は激減している．潮下帯では健全な個体群が認められる海域でも干潟での確認個体数は少ない．

【種概要】 大形の個体は殻長200 mmを越える．殻は紡錘形で殻口は大きくやや長い．殻表は褐色の厚いピロード状の殻皮で覆われる．卵嚢は「うみほうずき」と呼ばれる．

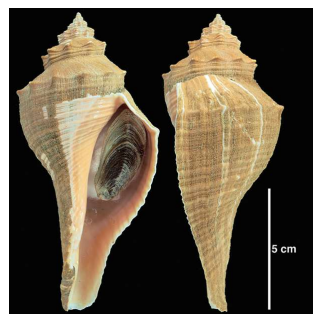
【分布】 房総半島から九州，朝鮮半島，中国大陸，インド・太平洋の潮間帯から水深50 mの砂泥底に分布する．鹿児島県南部・和歌山県などの外洋や有明海にはオニニシと呼ばれる角状突起が顕著で殻の厚い個体群が生息し，同一種か検討を要する．

【現況・減少要因】 現況は選定理由参照．内湾域潮下帯の無酸素水域の拡大，水質汚濁の他，船体塗料に含まれる有機スズによるインボセックスが減少要因と考えられる．

【文献】 88, 158, 164, 186, 236, 266, 278.

(木村昭一)

(写真：鳥羽市鏡浦水深2 m ダイビング，2011年，佐藤達也採集)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

NT

ムシロガイ

Nassarius livescens (Philippi, 1849)

腹足綱 新腹足目 オリイレヨフバイ科

【選定理由】 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化．1979年以前に伊勢湾の白子，有滝の2箇所，県南部の内湾域4箇所の潮下帯より分布記録がある．近年伊勢湾中部では生貝が確認できるようになったが，個体数は非常に少ない．伊勢湾湾口部，県南部の内湾域の干潟から潮下帯の比較的広い範囲で生貝は確認されている．分布全域で生貝がほとんど確認できなかった1980年代と比べると明らかな回復傾向が認められる．近年鳥羽市，英虞湾からも健全な個体群が確認されている．最近紀伊長島港からも生息が確認された．

【種概要】 殻長20 mm，殻は卵形，殻表には多数の疣状突起の連なった縦肋が並び，殻口は肥厚し白色の滑層が発達する．県内で地域変異や個体変異は少ないが，英虞湾中部の個体は白色から淡色の個体が多い．腐肉食性．

【分布】 東北地方から九州，朝鮮半島，中国大陸，インド・太平洋に分布するが，奄美大島の個体群は殻口形態に違いがあり．同種か否か検討を要する．内湾から湾口部の干潟から潮下帯の砂泥底に生息．

【現況・減少要因】 干潟の消失，水質汚濁，有機スズによるインボセックスなどが減少要因と考えられる．

【文献】 3, 158, 161, 164, 186, 236, 266.

(木村昭一)

(写真：鳥羽市生浦湾水深20 m ドレッジ，2012年，木村昭一採集)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

NT

アオモリムシロ

Reticunassa hypolia (Pilsbry, 1895)

腹足綱 新腹足目 オリイレヨフバイ科

【選定理由】 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化．今までにアオモリムシロ，クロスジムシロ，ウネムシロは全て同一種の亜種関係とされるなど分類が混乱していたが，DNA解析の結果3種は独立種で，県下にはアオモリムシロ（タイプ産地：青森県陸奥湾）が分布すると判明した．1979年以前に県内で3箇所の潮間帯から分布記録がある．鳥羽市では健全な個体群が確認されたが，その生息域は限定的．

【種概要】 殻長15 mm，雌個体は雄個体よりやや大きい，殻質は厚く，殻表にはうね状に顆粒突起が並んでいる．東海地方産の殻の色彩は黄～灰褐色で黒・橙・黄色が入り交じる個体が多い．腐肉食性．

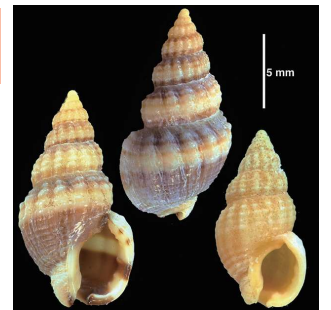
【分布】 北海道から三重県・山口県北部の外洋に面した内湾潮間帯の岩礫底に分布する．本種は北方系種と考えられ，東北地方以南には近似種のクロスジムシロが分布するとされていたが，本種の分布域は南側に広く，日本海側は山口県，太平洋側は三重県（伊勢湾湾口部）まで分布する事が明らかとなった．

【現況・減少要因】 現状は選定理由参照．干潟の消失，水質汚濁，有機スズによるインボセックスなどが減少要因と考えられる．

【文献】 3, 133, 158, 164, 186, 236.

(木村昭一)

(写真：鳥羽市生浦湾潮間帯岩礫底，2010年，木村昭一採集)



三重県 2025

NT

三重県 2015

—

環境省 2020

—

キヌボラ

Reticunassa japonica (A. Adams, 1852)

腹足綱 新腹足目 オリイレヨフバイ科

【選定理由】 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化．1979年以前に伊勢湾中部3箇所，県南部の内湾域3箇所の水深10～30 mより分布記録がある．現在伊勢湾中部でも生貝が確認できるが，個体数は多くない．鳥羽市を含む伊勢湾湾口部，南部の内湾域の干潟から潮下帯のアマモ場周辺の砂泥底で生貝は確認されている．最近の勢水丸の伊勢湾湾口部調査でも死後間もない殻が採集された．

【種概要】 殻長15 mm，螺塔は高く螺層はよく膨れ，縫合はくびれる．殻質はやや薄く，殻表は細く密な縦肋が細い螺溝で横切られ，顆粒状になる．殻口は丸く，十分に成長すると外唇は肥厚するが，内唇側の滑層は発達しない．殻表は薄い殻皮で覆われる．生時に殻表をヒドロ虫で覆われる個体も多い．

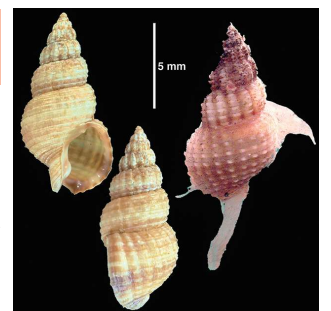
【分布】 本州から九州，台湾の潮間帯から水深20 mまでのアマモ場周辺の砂泥底に分布する．

【現況・減少要因】 現状は選定理由参照．アマモ場の減少，内湾域潮下帯の無酸素水域の拡大，水質汚濁などが減少要因と考えられる．

【文献】 3, 158, 164, 167, 186, 266.

(木村昭一)

(写真：鳥羽市生浦湾水深10 m ドレッジ，2012年，木村昭一採集)



三重県 2025

NT

三重県 2015

—

環境省 2020

—

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

藓苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

ヒメムシロ

腹足綱 新腹足目 オリイレヨフバイ科

Reticunassa multigranosa (Dunker, 1847)

【選定理由】 個体群・個体数の減少、生息条件の悪化。1979年以前に伊勢湾中部の津、県南部の内湾域4箇所の水深10 mより分布記録がある。本種は、内湾奥の潮間帯下部から水深5 m程度の潮下帯の、潮通しの良いよく保全されたアマモ場の多い砂泥底及び外洋に面した湾口部の砂泥底に生息し、本種の生息域は貝類多様性が高い。本種には2型があるが、共に生息環境は限られ、生貝の個体数は少ない。鳥羽市には両型が分布する。今回は1種として評価された。

【種概要】 内湾型は殻長10 mm前後、外洋型は10~20 mm。内湾型(図1, 2)は、殻が細長く濃色で、殻の大きさ、色帯の濃淡の変異幅が小さい。外洋型(図3, 4)は、殻径が大きく円みが強く大形で、色彩は淡色であり、殻の大きさ、色帯の濃淡の変異幅が大きい。軟体部は内湾型が黒褐色、外洋型は白色。

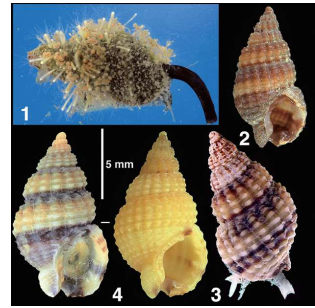
【分布】 北海道から九州、朝鮮半島、中国大陸の潮間帯から水深20 mの砂泥底に分布する。内湾型は内湾奥の水深1~3 mの砂泥底、外洋型は潮通しの良い岩礫地周辺の砂底に生息する。

【現況・減少要因】 現状は選定理由参照。干潟の消失、水質汚濁などが減少要因と考えられる。

【文献】 3, 158, 164, 186, 266.

(木村昭一)

(写真: 1, 2: 答志漁港内水深2 m, 2022年, 3, 4: 麻倉島水深1 m, 2014年, 木村昭一採集)



三重県 2025

NT

三重県 2015

—

環境省 2020

—

ナガゴマフホラダマシ

腹足綱 新腹足目 ベッコウバイ科

Engina menkeana (Dunker, 1860)

【選定理由】 個体群・個体数の減少、生息条件の悪化。1979年以前に県南部の3箇所の水深10~20 mより分布記録がある。近年、伊勢湾湾口部から南部の外洋に面した潮通しの良い内湾域の岩礫地の潮間帯から潮下帯で少数の生貝が採集されている。鳥羽市では浦村沿岸、生浦湾湾口部、島嶼域の岩礫地周辺の転石下面で生貝が確認されている。浜名湖の例では本種の主分布域は外洋側にあるが、潮通しの良い内湾域まで分布を拡大できる種である。

【種概要】 殻長15 mm, 殻質は厚く、紡錘形で白地の殻表に暗褐色の顆粒状突起が縦肋となり密生する。螺塔の高さは個体変異が著しい。成熟個体の殻口は厚く肥厚し、外唇に暗褐色斑紋がある。

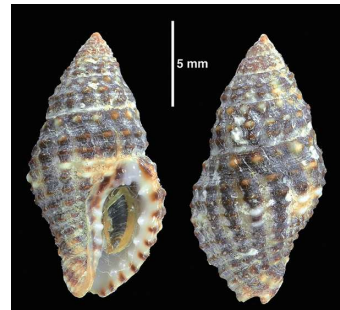
【分布】 房総半島から九州、朝鮮半島の潮間帯下部から水深20 mの転石地から岩礁に分布する。潮通しの良い潮下帯転石地の石の下面に複数個体が集まって付着していることが多い。内湾域では個体数が少ない。

【現況・減少要因】 現状は選定理由参照。近年、泥粒子の浮遊や浮泥の堆積が顕著で、石の下面を生息環境とする本種にとっては、浮泥の堆積に起因する還元状態は、減少要因として重要であると考えられる。

【文献】 3, 20, 164, 186, 266.

(木村昭一)

(写真: 鳥羽市麻倉島水深1 m転石下, 2014年, 木村昭一採集)



三重県 2025

NT

三重県 2015

—

環境省 2020

VU

バイ

腹足綱 新腹足目 バイ科

Babylonia japonica (Reeve, 1842)

【選定理由】 個体群・個体数の減少、生息条件の悪化。1979年以前に伊勢湾2箇所、県南部の内湾域3箇所の潮下帯より分布記録がある。現在伊勢湾内の干潟では生貝は確認されていない。伊勢湾中部から湾口部の潮下帯で生貝が確認され、一部食用として採集されるまでの回復傾向が認められるが、大量に採集されていた時代から比べると個体数は依然として少ない。近年、志摩市外洋側の淡水の影響がある砂泥地では潮間帯より2個体の生貝が得られた。最近の勢水丸の伊勢湾湾口部調査でも生貝が普通に採集された。

【種概要】 殻長80 mm, 太い紡錘形で殻口はやや大きく、殻表には、薄茶色の地色に褐色の斑点がちりばめられていてさらに褐色の厚い殻皮で被われる。腐肉食性で、その習性を利用して籠漁で漁獲される。

【分布】 北海道南部から九州、朝鮮半島に分布する。内湾の干潟から湾口部、外洋の潮下帯の砂泥底まで分布域は広いが、かつて内湾域での個体数の減少が顕著であった。

【現況・減少要因】 現状は選定理由参照。船体塗料に含まれる有機スズによるインボセックスが減少要因と考えられている。

【文献】 3, 88, 164, 167, 186, 236.

(木村昭一)

(写真: 鳥羽市小浜沖水深20 m 蛸壺漁, 2022年, 木村昭一採集)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

NT

マクラガイ

腹足綱 新腹足目 マクラガイ科

Oliva mustelina Lamarck, 1811

【選定理由】 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化．1979年以前に伊勢湾湾口部から県南部の水深30 mの4箇所から分布記録がある．かつては内湾域の干潟でも普通に生息が確認できたが，1980年頃にはすでに干潟で生息が確認されることは非常に少なくなり，現在伊勢湾湾口部から熊野灘にかけての潮下帯でのみ生貝が採集されているが個体数は少ない．近年鳥羽市の潮下帯，英虞湾湾口部より生貝が確認され，健全な個体群も確認された．また最近の紀伊長島港調査では本種は優占種であった．今回これらの調査結果を受けてカテゴリーダウンと評価された．

【種概要】 殻長35 mm，円筒形で殻表は強い光沢があり，平滑．殻質は非常に厚い．

【分布】 房総半島から九州，朝鮮半島，中国大陸，インド・太平洋に分布する．瀬戸内海など大規模な内湾域では干潟でも普通種であったが，現在干潟で本種の生息が確認されている海域は非常に少ない．現在でも外洋域（特に日本海側）には健全な個体群が確認されている．

【現況・減少要因】 現況は選定理由参照．船体塗料に含まれる有機スズによるインポセックスが減少要因である可能性がある．

【文献】 158, 161, 164, 186, 236.

(木村昭一)

(写真：鳥羽市石鏡沖水深30 m ドレッジ，2021年，佐藤達也採集)



三重県 2025

NT

三重県 2015

VU

環境省 2020

NT

クリイロマンジ

腹足綱 新腹足目 フデシヤジク科

Pseudodaphnella leuckarti (Dunker, 1860)

【選定理由】 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化．1979年以前に伊勢湾沿岸の白子，県南部の内湾域の錦，紀伊長島，三木崎の3箇所の水深20 mから分布記録がある．現在，伊勢湾中部沿岸では古い死殻は打ち上げられるが，生貝は確認できない．伊勢湾湾口部の広い範囲でも死後間もない殻は打ち上げられるが，生貝が確認されている場所は少ない．鳥羽市では市中部，島嶼域の岩礫地で生貝が確認されている．生貝は潮通しの良い砂礫質干潟周辺の低潮線から潮下帯の石の下面で見つかることが多い．

【種概要】 殻長8 mm，細長い紡錘形で螺塔はやや高く，殻表には格子目状の強い彫刻がある．本種で代表される内湾に生息域があるイモガイ上科の小型種は減少が著しい．

【分布】 東北地方から九州，朝鮮半島に分布する．死殻は広い範囲で確認されているが，近年生貝が確認されているのは，三浦半島，伊勢湾・三河湾湾口部，瀬戸内海西部，九州西部など限られている．

【現況・減少要因】 現状は選定理由参照．減少要因については，干潟の減少，水質汚濁などが考えられる．また，石の下面を生息環境とする本種にとっては，浮泥の堆積も減少要因として重要であると考えられる．

【文献】 3, 20, 164, 186, 236, 278.

(木村昭一)

(写真：鳥羽市北部入江潮間帯石の下面，2022年，木村昭一採集)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

NT

ヒメトクサ

腹足綱 新腹足目 タケノコガイ科

Strioterebrum japonicum (E.A. Smith, 1873)

【選定理由】 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化．1979年以前にトクサガイとして有滝，安乗，田曾浦の水深20 mから分布記録がある．近年，伊勢湾中部から鳥羽市を含めた湾口部の潮下帯で生貝が採集されている．鳥羽市では，生浦湾から答志島，菅島，石鏡沖の水深10～50 mの砂泥底から普通に生貝が採集されている．タケノコガイ科貝類はゴカイなどの底生動物を選択的に餌とする食性の種が多く，環境の悪化の影響を受けやすく，最初に減少傾向を示す種群である．本科では内湾域で唯一健全な個体群が確認されている種と言える．内湾域まで分布する本科貝類は元々少なく，絶滅危惧種が多く，本種の今後の動態にも注意が必要である．

【種概要】 殻長40 mm，殻は細長い円錐形，殻質は厚くやや強い縦肋がある．本種は近似種のアワジタケより小形で細く，縫合より下の溝が縦肋を横切らない点異なる．軟体部は白色．

【分布】 房総半島から瀬戸内海の水深20～60 mの砂底に分布する．

【現況・減少要因】 現状は選定理由参照．水質汚濁，底質の泥質化，被捕食者である環形動物の減少などが減少要因と考えられる．

【文献】 20, 164, 186, 236, 266, 278.

(木村昭一)

(写真：答志島北沖水深20 m 勢水丸ベントスネット，2014年，木村昭一採集)



三重県 2025

NT

三重県 2015

—

環境省 2020

—

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

藓苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類

カミスジカイコガイダマシ

腹足綱 頭楯目 ブドウガイ科

Cylichnats yamakawai (Yokoyama, 1920)

【選定理由】 個体群・個体数の減少、生息条件の悪化。1979年以前に伊勢湾1箇所、県南部の内湾域の1箇所の潮下帯から分布記録がある。近年、伊勢湾中部から南部の内湾域の広い範囲で普通に死殻は見つかるが、生貝が確認されているのは鳥羽市生浦湾、英虞湾などの数箇所に限られている。アマモ場周辺の砂泥質干潟から潮下帯に生息する。死後間もない殻が多い割りに、生貝が少ないのは生活史に関係する季節的な消長である可能性が高い。

【種概要】 殻長8mm、やや長い卵形で、殻は薄く白色で半透明。殻表には全面に細い螺溝をめぐらせる。生時には殻は軟体部で被われる。

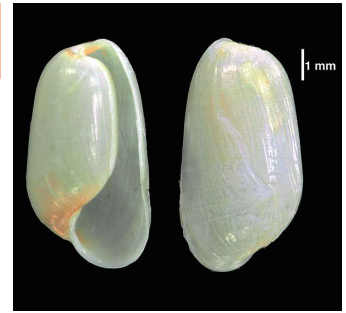
【分布】 北海道南部から九州、朝鮮半島、中国大陸の潮間帯から水深100mの砂泥底に分布する。浜名湖、三重県内の生息地はアマモ場で良く保全された干潟である場合が多い

【現況・減少要因】 現状は選定理由参照。減少要因については、干潟、アマモ場の減少、水質汚濁などが考えられる。

【文献】 3, 164, 186, 236.

(木村昭一)

(写真：鳥羽市小浜沖水深10m カレイ底刺網、1984年、木村昭一採集)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

VU

ミガキクチキレ

腹足綱 トウガタガイ目 トウガタガイ科

Agatha virgo A. Adams, 1860

【選定理由】 個体群・個体数の減少、生息条件の悪化、特殊生息環境。1979年以前に県内では、答志、尾鷲、新鹿の水深30mより分布記録がある。1980年代から、伊勢湾中部から鳥羽市を含めた湾口部で死殻が採集されていた。近年、鳥羽市では生浦湾、菅島から石鏡沖の水深5~20mで少数の死後間もない殻が採集され、生貝も確認された。英虞湾中央部でも生貝が確認されている。最近の勢水丸の伊勢湾湾口部調査では死後間もない殻が採集された。県内には本科貝類は多種生息しているが、本種のような大型種は少なく、生貝を確認できる種は限定的である。内湾域にも生息し、比較的モニタリングがされている本種を科の代表種として取り上げる。

【種概要】 殻長15mm、殻は白色で細長い紡錘形、殻質は薄く殻表には光沢がある。軟体部は純白で触角は褐色。浜名湖で本種は砂泥底にやや深く潜る石灰質の棲管を持つゴカイ類に付着している例が確認された。

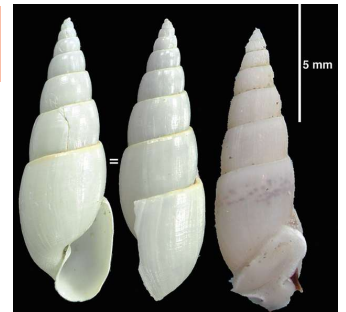
【分布】 北海道南部から九州の内湾、湾口部から外洋の潮間帯から水深30mの潮下帯砂泥底に分布する。

【現況・減少要因】 干潟の消失、水質汚濁、宿主の減少などが減少要因と考えられる。

【文献】 20, 120, 164, 167, 186.

(木村昭一)

(写真：鳥羽市生浦湾水深20m ドレッジ、2013年、木村昭一採集)



三重県 2025

NT

三重県 2015

—

環境省 2020

—

カゴメイトカケクチキレ

腹足綱 トウガタガイ目 トウガタガイ科

Pyrgulina casta (A. Adams, 1861)

【選定理由】 個体群・個体数の減少、生息条件の悪化。三重県から本種の生息記録は文献のフィールド図鑑に英虞湾産個体が図示されたのが初めてである。近年、鳥羽市でも生浦湾奥部の砂泥底より、死後間もない殻が少数採集されているが、生貝は確認されていない。本種は英虞湾内湾奥の砂泥底5箇所健全な個体群が確認されている。

【種概要】 殻長8mm、殻は細長く螺塔が高い。殻は白色であるが、黄褐色から赤褐色の殻皮で覆われる。肩部は角張り、縦肋が強く螺肋と交差する。シゲヤスイトカケギリと近似するが、肩部がやや丸みを持ち、軸襞がより張り出す。軟体部の形状、色彩も相違する。

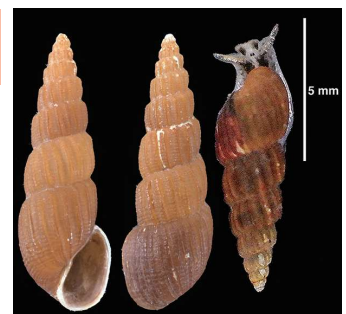
【分布】 房総・能登半島から南西諸島、中国大陸の内湾奥部潮間帯の砂泥底に分布する。九州北西部の内湾域では本種とシゲヤスイトカケギリが混生していたが、現在東海地方では愛知県下ではシゲヤスイトカケギリ、三重県下では本種のみが生息が確認されている。

【現況・減少要因】 現状は選定理由参照。干潟の消失、水質汚濁などが減少要因と考えられる。

【文献】 3, 158, 164, 186, 236, 278.

(木村昭一)

(写真：鳥羽市生浦湾水深1m ダイビング、2011年、佐藤達也採集)



三重県 2025

NT

三重県 2015

—

環境省 2020

—

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蘚苔類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

ヌカルミクチキレ
"Sayella" sp.

腹足綱 トウガタガイ目 トウガタガイ科

【選定理由】 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化．1996年に和名が付けられ図示されたが未記載種．現在，伊勢湾沿岸の河口域や湾奥の干潟，県南部の内湾域の河口域で生息が確認されているが，生息場所は少なくその面積も小さい．伊勢湾中部の河口域ではサザナミツボ，エドガワミズゴマツボと共に比較的多くの死殻が打ち上がることもある．しかし，どの生息地でも生貝の個体数は少ない．

【種概要】 殻長4 mm，殻は長い紡錘形で，餡色半透明で光沢がある．軟体部は白色．多毛類に寄生すると考えられるが，詳細は不明．

【分布】 東北地方から九州に分布し，現在のところ日本でのみ生息が確認されている．最も内湾奥の河口域の干潟の中潮線から低潮線の底質表面に生息するが，攪乱された干潟域では生息が認められず，生息地は分断される．

【現況・減少要因】 現状は選定理由参照．減少要因については，干潟の減少，水質汚濁などが考えられる．

【文献】 2, 117, 158, 236.

(木村昭一)

(写真：津市相川河口，2010年，木村昭一採集)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

NT

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蘚苔類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

哺乳類	サザナミマクラ <i>Modiolus flavidus</i> (Dunker, 1857)	二枚貝綱 イガイ目 イガイ科	三重県 2025 DD	三重県 2015 DD	環境省 2020 NT
鳥類	伊勢湾の潮下帯より分布記録はあるが、分類学的な再検討も必要で現状不明。 【文献】186, 236.				
爬虫類	(木村昭一)				
両生類	ハイガイ <i>Tegillarca granosa</i> (Linnaeus, 1758)	二枚貝綱 フネガイ目 フネガイ科	三重県 2025 DD	三重県 2015 DD	環境省 2020 VU
汽水・淡水魚類	半化石の採集例はあるが、本県で明治時代以降の生息確認の有無が不明。絶滅種の可能性もある。 【文献】2, 236.				
昆虫類	(木村昭一)				
クモ類	マルミミエガイ <i>Didimacar tenebrica</i> (Reeve, 1844)	二枚貝綱 フネガイ目 サンカクサルボウ科	三重県 2025 DD	三重県 2015 —	環境省 2020 —
貝類	半化石の採集例はあるが、本県で明治時代以降の生息確認の有無が不明。絶滅種の可能性もある。 【文献】164, 236.				
甲殻類	(木村昭一)				
その他動物	チビツクエガイ <i>Cucurbitula cymbium</i> (Spengler, 1783)	二枚貝綱 ツクエガイ目 ツクエガイ科	三重県 2025 DD	三重県 2015 —	環境省 2020 —
維管束植物	近年、鳥羽市から生息情報が報告されたが、全県下での採集報告はほとんどない。 【文献】164, 221.				
蘚苔類	(木村昭一)				
藻類	オキナノエガオ <i>Platomysia rugata</i> Habe, 1951	二枚貝綱 ウロコガイ目 チリハギ科	三重県 2025 DD	三重県 2015 —	環境省 2020 —
キノコ	近年、鳥羽市から死殻が採集されたが、近似種の可能性があり、全県下での採集報告はない。 【文献】164.				
EX	(木村昭一)				
EW	オサガニヤドリガイ <i>Borniopsis macrophtalmensis</i> (B. Morton & P. H. Scott, 1989)	二枚貝綱 ウロコガイ目 チリハギ科	三重県 2025 DD	三重県 2015 DD	環境省 2020 NT
CR	英虞湾湾口部の潮下帯より1例のみメナガオサガニ類に付着した生貝の採集記録はあるが、調査不足。 【文献】82, 157, 236.				
EN	(木村昭一)				
VU	ミクニシボリザクラ <i>Jactellina</i> sp.	二枚貝綱 ドブシジミガイ目 ニッコウガイ科	三重県 2025 DD	三重県 2015 DD	環境省 2020 NT
NT	近年、伊勢湾より死殻の採集記録はあるが、現状不明。学名も未定で、分類学的にも検討が必要な種である。 【文献】165, 236.				
DD	(木村昭一)				
	ヒラザクラ <i>Tellinides striatus</i> (Gmelin, 1790)	二枚貝綱 ドブシジミガイ目 ニッコウガイ科	三重県 2025 DD	三重県 2015 DD	環境省 2020 NT
	近年、伊勢湾より死殻の採集記録はあるが、現状不明。もともと生息に適した環境が少なかった可能性もある。 【文献】165, 236.				
	(木村昭一)				
	アシガイ <i>Gari maculosa</i> (Lamarck, 1817)	二枚貝綱 ドブシジミガイ目 シオサザナミガイ科	三重県 2025 DD	三重県 2015 DD	環境省 2020 NT
	県南部の潮下帯より分布記録はあるが、現状不明。外洋域に主生息域がある種である可能性も高い。 【文献】236.				
	(木村昭一)				

クチベニデの近似種 <i>Corbula cf. venusta</i> (Gould, 1861)	二枚貝綱 シコロクチベニ目 シコロクチベニガイ科	三重県 2025	三重県 2015	環境省 2020
		DD	DD	NT

鳥羽市より採集記録はあるが情報不足。ツマベニの幼貝とされたこともあるが明らかに別種。
【文献】9, 164.

(木村昭一)

スカシエビス <i>Sukashitrochus carinatus</i> (A. Adams, 1862)	腹足綱 スカシガイ目 クチキレエビス科	三重県 2025	三重県 2015	環境省 2020
		DD	DD	VU

湾口部の潮下帯より死殻の採集記録はあるが情報不足。高いカテゴリーの絶滅危惧種である可能性が高い。
【文献】20, 236.

(木村昭一)

キンランカノコ <i>Clithon parvulum</i> (Le Guillou, 1841)	腹足綱 アマオブネ目 アマオブネ科	三重県 2025	三重県 2015	環境省 2020
		DD	DD	NT

湾口部の潮下帯より死殻の採集記録はあるが、情報不足。偶因分布種の可能性がある。
【文献】12, 236.

(木村昭一)

ヒメカニモリ <i>Rhinoclavis sordidula</i> (A. Gould, 1849)	腹足綱 オニツノガイ目 オニツノガイ科	三重県 2025	三重県 2015	環境省 2020
		DD	—	—

最近、死後間もない殻が採集された。追加調査が必要。高いカテゴリーの絶滅危惧種である可能性が高い。
【文献】161.

(木村昭一)

ヌノメハナタリ <i>Pirenella cancellata</i> Ozawa & D. Reid, 2016	腹足綱 オニツノガイ目 キバウミナ科	三重県 2025	三重県 2015	環境省 2020
		DD	—	—

近年、三重県から記録があるとされたが、生息していた痕跡すらなく記録の真偽も不明で情報不足。
【文献】245.

(木村昭一)

タニシツボ <i>Voorwindia cf. paludinoides</i> (Yokoyama, 1927)	腹足綱 エゾタマキビ目 リソツボ科	三重県 2025	三重県 2015	環境省 2020
		DD	DD	NT

湾口部の潮下帯より死殻の採集記録はあるが、分類学的な再検討も必要で現状不明。
【文献】236.

(木村昭一)

イリエツボ <i>Pseudonoba yendoi</i> (Yokoyama, 1927)	腹足綱 エゾタマキビ目 ワカウラツボ科	三重県 2025	三重県 2015	環境省 2020
		DD	DD	CR+EN

1979年以前に四日市より分布記録はあるが、現在、死殻さえ採集されない。現状不明。
【文献】186, 236.

(木村昭一)

ゴマフダマ <i>Paratectonatica tigrina</i> (Röding, 1798)	腹足綱 エゾタマキビ目 タマガイ科	三重県 2025	三重県 2015	環境省 2020
		DD	CR	CR+EN

生息の証拠資料標本を検討したが、本種の生息海域として考えにくく、生息記録自体が疑問視された。
【文献】186, 236.

(木村昭一)

ヒメミミガイ <i>Sinum japonicum</i> (Lischke, 1872)	腹足綱 エゾタマキビ目 タマガイ科	三重県 2025	三重県 2015	環境省 2020
		DD	—	—

1979年以前にも記録があり、最近、伊勢湾湾口部で1個体生貝が報告されたが、県下全域の現状が不明。
【文献】167, 186.

(木村昭一)

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蘚苔類
藻類
キノコ

EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

哺乳類

フドロ

腹足綱 スイショウガイ目 スイショウガイ科

Neodilatilabrum robustum (G.B. Sowerby III, 1875)

三重県 2025

DD

三重県 2015

DD

環境省 2020

NT

鳥類

1979年以前に県南部の潮下帯より分布記録はあるが、近年死殻すら未確認で現状不明。
【文献】186, 236.

(木村昭一)

爬虫類

両生類

アワジタケ

腹足綱 新腹足目 タケノコガイ科

Punctoterebra awajiense (Pilsbry, 1904)

三重県 2025

DD

三重県 2015

—

環境省 2020

—

汽水・淡水魚類

1979年以前に、近年鳥羽市共に潮下帯より記録はあるが、県下全域の現状不明。ヒメトクサとの関係も要検討。

【文献】164, 186.

(木村昭一)

昆虫類

クモ類

イワカワトクサ

腹足綱 新腹足目 タケノコガイ科

Duplicaria evoluta (Deshayes, 1859)

三重県 2025

DD

三重県 2015

DD

環境省 2020

VU

貝類

湾口部の潮下帯より分布記録はあるが、近年死殻も非常に少ない。県下全域での現状不明。

【文献】186, 236.

(木村昭一)

甲殻類

その他動物

シチクガイ

腹足綱 新腹足目 タケノコガイ科

Hastula sp.

三重県 2025

DD

三重県 2015

DD

環境省 2020

NT

維管束植物

県南部の潮下帯より分布記録はあるが、現状不明。県南部の生息域の調査が不十分。分類学的な再検討も必要。

【文献】186, 236.

(木村昭一)

蘚苔類

藻類

アサグモキジビキガイ

腹足綱 オオシノミガイ目 オオシノミガイ科

Japanacteon aff. *nipponensis* (Yamakawa, 1911)

三重県 2025

DD

三重県 2015

—

環境省 2020

—

キノコ

近年、鳥羽市、英虞湾より分布記録はあるが、県下全域での現状不明。分類学的な再検討も必要。

【文献】164, 186.

(木村昭一)

EX

EW

CR

クロダマメウラシマ

腹足綱 マメウラシマ目 マメウラシマ科

Ringicula kurodai Takeyama, 1935

三重県 2025

DD

三重県 2015

—

環境省 2020

—

EN

近年、鳥羽市より死殻の記録はあるが、県下全域で生貝未確認、現状不明。分類学的な再検討も必要。

【文献】120, 164, 186.

(木村昭一)

VU

NT

コヤスツララガイ

腹足綱 頭楯目 スイフガイ科

Acteocina koyasensis (Yokoyama, 1927)

三重県 2025

DD

三重県 2015

DD

環境省 2020

NT

DD

英虞湾1箇所の潮間帯より生息が確認されているが、分類学的な検討も不十分で県下全域での現状不明。

【文献】236.

(木村昭一)

ウツセミガイ

腹足綱 アメフラシ目 ウツセミガイ科

Akera soluta (Gmelin, 1791)

三重県 2025

DD

三重県 2015

—

環境省 2020

—

近年、鳥羽市の潮下帯より2生貝が採集されているが、その他の県下全域では生貝未確認、現状不明。

【文献】3, 164, 186.

(木村昭一)

チョウジガイ

腹足綱 トウガタガイ目 トウガタガイ科

Mormula philippiana (Dunker, 1860)

三重県 2025

DD

三重県 2015

—

環境省 2020

—

近年、鳥羽市の潮下帯より死殻が採集されているが、県下全域でも生貝未確認、現状不明。

【文献】164, 186.

(木村昭一)

ヒガタヨコイトカケギリ <i>Cingulina cf. cingulate</i> (Dunker, 1860)	腹足綱 トウガタガイ目 トウガタガイ科	三重県 2025	三重県 2015	環境省 2020
		DD	DD	DD

伊勢湾，県南部の内湾の潮間帯より生息記録はあるが，分類学的な再検討が必要で，現状不明。
【文献】236.

(木村昭一)

エバラクチキレ <i>Tiberia ebarana</i> (Yokoyama, 1927)	腹足綱 トウガタガイ目 トウガタガイ科	三重県 2025	三重県 2015	環境省 2020
		DD	DD	NT

伊勢湾湾口部の潮下帯より死殻の採集記録はあるが，現状不明。
【文献】186, 236.

(木村昭一)

クラエノハマイトカケギリ <i>Turbonilla kuraenohamana</i> Hori & Fukuda, 1999	腹足綱 トウガタガイ目 トウガタガイ科	三重県 2025	三重県 2015	環境省 2020
		DD	DD	NT

前回のレッドデータブックで記録された。英虞湾の潮下帯より生貝が採集されたが，その後再採集されない。

【文献】236.

(木村昭一)

ヒメアワモチ <i>Onchidella kurodai</i> Iw. Taki, 1935	腹足綱 ドロアワモチ目 ドロアワモチ科	三重県 2025	三重県 2015	環境省 2020
		DD	—	—

三重県での明確な分布記録はない。現時点では存在可能性のみ。分布状況不明。
【文献】267.

(早瀬善正)

シュジュコミミ <i>Laemodonta</i> sp.	腹足綱 オカミミガイ目 オカミミガイ科	三重県 2025	三重県 2015	環境省 2020
		DD	—	NT

三重県は分布範囲内だが明確な分布記録はない。現時点では存在可能性のみ。分布状況不明。
【文献】236.

(早瀬善正)

- 哺乳類
- 鳥類
- 爬虫類
- 両生類
- 汽水・淡水魚類
- 昆虫類
- クモ類
- 貝類
- 甲殻類
- その他動物
- 維管束植物
- 蘚苔類
- 藻類
- キノコ
- EX
- EW
- CR
- EN
- VU
- NT
- DD

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

文 献

- 1 阿部 茂. 1986. 軟体動物 陸水産貝類. *In*: 三重県 その自然と動物. 545–556 pp. 三重県良書出版会, 津.
- 2 愛知県. 2009. 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物—レッドデータブックあいち—2009動物編. 651 pp. 愛知県環境部自然環境課, 名古屋.
- 3 愛知県環境調査センター. 2020. 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータブックあいち 2020—動物編—. 768 pp. 愛知県環境局環境政策部自然環境課, 名古屋.
- 4 秋山吉寛・西田翔太郎・夏原由博. 2011. 三重県の農業用ため池でみつかったマツカサガイの殻. ちりぼたん, 41(3–4): 127–128.
- 5 東 正雄. 1960. 北山峡陸産貝類について. *Venus*, 21 (1) : 4–10.
- 6 千葉県. 2000. 千葉県の保護上重要な野生生物千葉県レッドデータブック動物編. 438 pp. 千葉県, 千葉.
- 7 福田 宏. 2001. 内湾の貝類「最後の楽園」周防灘—そして私たちがなすべきこと, 日本ベントス学会誌, 56: 33–41.
- 8 福田 宏. 2020. キヌカツギハマシイノミ. p. 478. *In*: 岡山県野生動植物調査検討会 (編) 岡山県版レッドデータブック2020動物編. 812 pp. 岡山県環境文化部自然環境課, 岡山.
- 9 福田 宏. 2020. 軟体動物. *In*: 岡山県環境文化部自然環境課 (編) 岡山県版レッドデータブック2020動物編. pp.309–707, 岡山県環境文化部自然環境課, 岡山.
- 10 福田 宏. 2024. コヅツガイ (補遺). *In*: 軟体動物. 岡山県環境文化部自然環境課 (編) 岡山県版レッドデータブック2020動物編. pp. 309–707, 岡山県環境文化部自然環境課, 岡山.
- 11 Fukuda, H. & Ekawa, K., 1997. Description and anatomy of a new species of the Elachisinidae (Caenogastropoda: Risssooidea) from Japan. *The Yuriyagai, Journal of the Malacozoological Association of Yamaguchi*, 5(1/2):69–88.
- 12 福田宏・藤野睦子・江田伸司. 2014. 岡山県倉敷市高洲で生貝が見出されたウミヒメカノコ (腹足綱: アマオブネ科), ならびに同種とキンランカノコ・レモンカノコを巡る同定の混乱. 倉敷市自然史博物館研究報告29: 29–38.
- 13 福田 宏・早瀬善正. 2020. ウメムラシタラ. p. 504. *In*: 岡山県野生動植物調査検討会 (編) 岡山県版レッドデータブック2020動物編. 812 pp. 岡山県環境文化部自然環境課, 岡山.
- 14 福岡県レッドデータブック2014 (改訂版)
<https://biodiversity.pref.fukuoka.lg.jp/rdb/rdfs/detail/201400641>
- 15 Habe, T. (1961). Descriptions of fifteen new species of Japanese shells. *Venus*. 21(4): 416–431.
- 16 Habe, T., 1964. Razar Shells in Japan and its Adjacent Areas. *Bulletin of National Science Museum* 7 (1): 7–16.
- 17 波部忠重. 1964. 陸産貝類 2 新種. *Venus*, 23 (1) : 39–42.
- 18 波部忠重. 1965. 微小淡水貝類1新種1新亜種. *Venus* 23 (4) : 205–209.
- 19 波部忠重. 1977. 日本産軟体動物分類学 二枚貝綱/堀足綱. 372 pp. 図鑑の北隆館, 東京.
- 20 濱村陽一. 2004. 芸南の海産貝類図鑑. 222 pp. 蘭島文化振興財団, 広島.
- 21 濱村陽一. 2022. アオサギガイ. *In*: 生物多様性広島戦略推進会議 希少生物分科会 (編), 広島県の絶滅のおそれのある野生生物 (第4版) —レッドデータブックひろしま 2021—, 331, 339. 広島県環境県民局自然環境課, 広島.
- 22 濱村陽一. 2022. フデガイ. *In*: 生物多様性広島戦略推進会議 希少生物分科会 (編), 広島県の絶滅のおそれのある野生生物 (第4版) —レッドデータブックひろしま 2021—, pp. 331, 336. 広島県環境県民局自然環境課, 広島.
- 23 濱村陽一. 2022. ヒラドサンゴヤドリ. *In*: 生物多様性広島戦略推進会議 希少生物分科会 (編), 広島県の絶滅のおそれのある野生生物 (第4版) —レッドデータブックひろしま 2021—. pp. 331, 334. 広島県環境県民局自然環境課, 広島.
- 24 濱村陽一. 2022. イチョウシラトリ. *In*: 生物多様性広島戦略推進会議 希少生物分科会 (編), 広島県の絶滅のおそれのある野生生物 (第4版) —レッドデータブックひろしま 2021—, 331, 339. 広島県環境県民局自然環境課, 広島.
- 25 濱村陽一. 2022. イシカゲガイ. *In*: 生物多様性広島戦略推進会議 希少生物分科会 (編), 広島県の絶滅のおそれのある野生生物 (第4版) —レッドデータブックひろしま 2021—, 331, 337. 広島県環境県民局自然環境課, 広島.

- 26 濱村陽一. 2022. ツノオリイレ. *In*: 生物多様性広島戦略推進会議 希少生物分科会 (編), 広島県の絶滅のおそれのある野生生物 (第4版) —レッドデータブックひろしま 2021—, 331, 335. 広島県環境県民局自然環境課, 広島.
- 27 濱村陽一. 2022. ウスオビフタナシシヤジク. *In*: 生物多様性広島戦略推進会議 希少生物分科会 (編), 広島県の絶滅のおそれのある野生生物 (第4版) —レッドデータブックひろしま 2021—, p. 332, 339. 広島県環境県民局自然環境課, 広島.
- 28 濱村陽一・木村昭一. 2014. マガキを宿主とするイソチドリ, かきつばた39: 41–42.
- 29 花木勇太・香取祥人・林 誠司・木村昭一, 2014. ミトコンドリアDNAによるクロスジムシロ種群の予察的系統解析. *Venus* 72 (1–4): 148.
- 30 長谷川和範. 2017. ミジンチョウジガイ. *In*: 奥谷喬司 (編著) 日本近海産貝類図鑑 (第二版). pp. 809. 東海大学出版部, 平塚.
- 31 葉山しおさい博物館. 2001. 相模湾レッドデータ 貝類. 104 pp. 葉山しおさい博物館, 葉山.
- 32 速水 格. 2017. ヒナノヒオウギ. *In*: 奥谷喬司 (編著) 日本近海産貝類図鑑 [第二版]. pp.578, 1239. 東海大学出版部, 平塚.
- 33 早瀬善正. 2004. 岐阜県 (金生山山麓) 産ハクサンベッコウ属の一種. かきつばた (名古屋貝類談話学会誌), 30: 8–10.
- 34 早瀬善正. 2008. 静岡県清水区能島遊水地におけるナガオカモノアラガイの生活史. 兵庫陸水生物, (60): 151–157.
- 35 早瀬善正. 2015. 三重県2例目となるツバサコハクカノコの生息地. かきつばた, (40): 45–47.
- 36 早瀬善正. 2015. 三重県産キイゴマガイの特徴及び近似種との比較. かきつばた, 40: 34–38.
- 37 早瀬善正. 2018. 東海地方で確認されたウラウズタカキビ. かきつばた, 43: 35–37.
- 38 早瀬善正. 2020. ゴマオカタニシ. p. 640. *In*: 愛知県環境調査センター (編) 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータブックあいち2020 —動物編—. 768 pp. 愛知県環境局環境政策部自然環境課, 名古屋.
- 39 早瀬善正. 2020. ヘソカドガイ. p. 565. *In*: 愛知県環境調査センター (編) 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータブックあいち2020 —動物編—. 768 pp. 愛知県環境局環境政策部自然環境課, 名古屋.
- 40 早瀬善正. 2020. ヒラベッコウ. p. 593. *In*: 愛知県環境調査センター (編) 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータブックあいち2020 —動物編—. 768 pp. 愛知県環境局環境政策部自然環境課, 名古屋.
- 41 早瀬善正. 2020. ヒロクチコギセル. p. 504. *In*: 愛知県環境調査センター (編) 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータブックあいち2020 —動物編—. 768 pp. 愛知県環境局環境政策部自然環境課, 名古屋.
- 42 早瀬善正. 2020. ヒゼンキビ. p. 652. *In*: 愛知県環境調査センター (編) 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータブックあいち2020 —動物編—. 768 pp. 愛知県環境局環境政策部自然環境課, 名古屋.
- 43 早瀬善正. 2020. イボイボナメクジ. p. 642. *In*: 愛知県環境調査センター (編) 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータブックあいち2020 —動物編—. 768 pp. 愛知県環境局環境政策部自然環境課, 名古屋.
- 44 早瀬善正. 2020. ナガオカモノアラガイ. p. 643. *In*: 愛知県環境調査センター (編) 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータブックあいち2020 —動物編—. 768 pp. 愛知県環境局環境政策部自然環境課, 名古屋.
- 45 早瀬善正. 2020. オオウスイロヘソカドガイ. p. 566. *In*: 愛知県環境調査センター (編) 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータブックあいち2020 —動物編—. 768 pp. 愛知県環境局環境政策部自然環境課, 名古屋.
- 46 早瀬善正. 2020. スジキビ. p. 654. *In*: 愛知県環境調査センター (編) 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータブックあいち2020 —動物編—. 768 pp. 愛知県環境局環境政策部自然環境課, 名古屋.
- 47 早瀬善正. 2020. ウラウズタカキビ. p. 651. *In*: 愛知県環境調査センター (編) 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータブックあいち2020 —動物編—. 768 pp. 愛知県環境局環境政策部自然環境課, 名古屋.

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

境課, 名古屋.

- 48 早瀬善正. 2021. モノアラガイの岐阜県内1記録と主に東海地方での棲息状況. かきつばた, 46 : 52-59.
- 49 早瀬善正・福田 宏. 2020. ハクサンベッコウ. p. 498. *In*: 岡山県野生動植物調査検討会 (編) 岡山県版レッドデータブック2020動物編. 812 pp. 岡山県環境文化部自然環境課, 岡山.
- 50 早瀬善正・福田 宏. 2020. ヒメカサキビ. p. 506. *In*: 岡山県野生動植物調査検討会 (編) 岡山県版レッドデータブック2020動物編. 812 pp. 岡山県環境文化部自然環境課, 岡山.
- 51 早瀬善正・福田 宏. 2020. ヒラベッコウ. p. 509. *In*: 岡山県野生動植物調査検討会 (編) 岡山県版レッドデータブック2020動物編. 812 pp. 岡山県環境文化部自然環境課, 岡山.
- 52 早瀬善正・福田 宏. 2020. ヒゼンキビ. p. 499. *In*: 岡山県野生動植物調査検討会 (編) 岡山県版レッドデータブック2020動物編. 812 pp. 岡山県環境文化部自然環境課, 岡山.
- 53 早瀬善正・福田 宏. 2020. スジキビ. p. 501. *In*: 岡山県野生動植物調査検討会 (編) 岡山県版レッドデータブック2020動物編. 812 pp. 岡山県環境文化部自然環境課, 岡山.
- 54 早瀬善正・岩口明文. 2025. 段戸裏谷(愛知県設楽町)の陸親貝類相. かきつばた, 50: 5-18.
- 55 早瀬善正・岩田明久. 2024. 伊勢神宮林(島路山)のホラアナゴマオカチグサ近似種. かきつばた, 49 : 24-26.
- 56 早瀬善正・岩田明久. 2024. 伊勢神宮林(島路山)産イセキビの形態的特徴. かきつばた, 49 : 19-23.
- 57 早瀬善正・岩田明久・西 浩孝・木村昭一. 2024. 篠立の風穴(三重県)で確認されたヒメコハク近似種. かきつばた, 49 : 30-34.
- 58 早瀬善正・影山良祐・木村昭一. 2013. 庵原川河口域(静岡市)の貝類相—特に北進分布記録を含むアマオブネ型類5種について—, かきつばた38 : 23-32.
- 59 早瀬善正・木村昭一. 2014. 三重県初記録のハクサンベッコウ. かきつばた, 39 : 37-40.
- 60 早瀬善正・木村昭一. 2020. 佐久島(三河湾)の潮間帯貝類相. ちりぼたん50(1) : 33-79.
- 61 早瀬善正・木村昭一. 2021. 天野景従コレクション(鳳来寺自然科学博物館所蔵)の注目すべき貝類標本. 日本貝類学会特別出版物(5) : 179-192.
- 62 早瀬善正・木村昭一. 2022. 渥美半島太平洋岸(遠州灘)での打ち上げ貝類調査記録. かきつばた, 47 : 47-54.
- 63 早瀬善正・木村昭一・浅田 要・岩田明久・守谷茂樹. 2022. 愛知県美浜町野間と小野浦地先(伊勢湾)の潮間帯貝類相-2. かきつばた, 47 : 9-22.
- 64 早瀬善正・木村昭一・岩田明久. 2024. 三重県南部で確認された稀少淡水棲腹足類2種. かきつばた, 49 : 58-60.
- 65 早瀬善正・木村昭一・岩田明久. 2024. 三重県南部の陸産貝類. かきつばた, 49 : 44-56.
- 66 早瀬善正・木村昭一・岩田明久. 2024. 楯ヶ崎(三重県熊野市)でのタシナミオトメマイマイの棲息状況. かきつばた, 49 : 42-43.
- 67 早瀬善正・木村昭一・河辺訓受. 2008. 三重県鳥羽市神島における陸・淡水産貝類相調査. かきつばた, 33 : 10-16.
- 68 早瀬善正・木村昭一・河辺訓受. 2011. 室生寺周辺地域(奈良県宇陀市室生区)の陸産貝類相. かきつばた, 36 : 1-14.
- 69 早瀬善正・木村昭一・河辺訓受. 2015. イノウエヤマトガイの三重県北部における新分布記録. *Venus*, 73(1-2) : 79-83.
- 70 早瀬善正・木村昭一・河辺訓受・守谷茂樹. 2008. 三重県鳥羽市菅島における陸・淡水産貝類相調査. かきつばた, 33 : 40-46.
- 71 早瀬善正・木村昭一・河辺訓受・守谷茂樹. 2008. 三重県鳥羽市菅島における陸・淡水産貝類相調査追加報告. かきつばた, 34 : 30-34.
- 72 早瀬善正・木村昭一・河辺訓受・矢橋 真・西 浩孝・守谷茂樹・岩田明久. 2018. 冠山山頂部周辺(岐阜県側)の陸産貝類相. かきつばた, 43 : 1-27.
- 73 早瀬善正・木村昭一・河辺訓受・矢橋 真・守谷茂樹・西 浩孝・岩田明久. 2014. 藤原岳・多志田峽・御池岳その周辺地域の陸産貝類相. かきつばた, 39 : 1-24.
- 74 早瀬善正・木村昭一・河辺訓受・矢橋 真・守谷茂樹・西 浩孝・岩田明久・亀田勇一. 2013. 藤原岳

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

とその周辺地域の陸産貝類調査報告. かきつばた, 38 : 1-15.

- 75 早瀬善正・木村昭一・河辺訓受・矢橋 真・守谷茂樹・西 浩孝・川瀬基弘・岩田明久. 2012. 御池岳の陸産貝類調査報告. かきつばた, 37 : 1-11.
- 76 早瀬善正・木村昭一・川瀬基弘. 2012. 面ノ木原生林のベッコウマイマイ科3種. かきつばた, 37 : 28-35.
- 77 早瀬善正・木村昭一・西 浩孝・守谷茂樹・浅田 要・岩田明久. 2022. 愛知県田原市越戸町(遠州灘)の岩礁潮間帯上部の貝類. かきつばた, 47 : 1-8.
- 78 早瀬善正・西 浩孝・岩田明久. 2025. 三重県南部の陸産貝類2. かきつばた, 50 : 61-70.
- 79 早瀬善正・西 浩孝・岩田明久・守谷茂樹・川瀬基弘. 2024. 三重県大紀町阿曾石灰岩地の陸産貝類. かきつばた, 49 : 6-14.
- 80 早瀬善正・多田 昭. 2013. 奈良県十津川村(タイプ産地)のヒメビロウドマイマイの特徴, および紀伊半島各地の個体群との比較. ちりぼたん, 42 (1-4) : 22-29.
- 81 早瀬善正・種倉俊之・松永育之・長谷川貴大・山崎喬之・野場俊樹・神谷武之・吉川 尚. 2013. 三河湾に生息するモロハタマキビの形態的特徴と生活史. Venus, 71(1-2) : 150.
- 82 早瀬善正・上野信平・松永育之・社家間太郎. 2009. 駿河湾久連地先におけるオサガニヤドリガイの分布記録. ちりぼたん, 40 (1) : 15-19.
- 83 秀島佑典・木村妙子・木村昭一・佐藤達也. 2014. 生浦湾における貝類群集と底質環境の季節変動. Venus, 72 (1-4) : 139.
- 84 平野尚浩・亀田勇一. 2014. 三重県南部から新たに記録されたシロモリサキギセル. ちりぼたん, 45 (1) : 31-35.
- 85 Hirano, T., Kameda, Y., Kimura, K. & Chiba, S., 2014. Substantial incongruence among the morphology, taxonomy, and molecular phylogeny of the land snails *Aegista*, *Landouria*, *Trishoplita*, and *Pseudobulimimus* (Pulmonata: Bradybaenidae) occurring in East Asia. Molecular Phylogenetics and Evolution, 70: 171-181.
- 86 平野尚浩・久保弘文. 2017. マルタニシ. In: 沖縄県環境部自然保護課(編)改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版(動物編)ーレッドデータおきなわー. pp. 427-428. 沖縄県環境部自然保護課, 那覇.
- 87 日田市立博物館. 2023. 清流日田の小さな貝のものがたり〜貝がはぐくむ豊かな川の生態系〜. 日田市立博物館, 日田.
- 88 堀口敏広. 1998. インポセックス 巻貝類における雌の雄化現象. 海洋と生物, 17 : 283-288.
- 89 市橋 甫・鈴木慎一. 1959. 紀北, 紀南の陸産貝類. 熊野灘沿岸国立公園調査報告, XI : 149-151.
- 90 飯田市美術博物館. 2014. 長野県産陸生・淡水生貝類 飯島國昭コレクション(飯田市美術博物館自然資料目録第2集). 147 pp. 飯田市美術博物館, 飯田.
- 91 稲葉明彦, 1982. 瀬戸内海の貝類. 181pp. 広島貝類談話会, 広島.
- 92 Inoue, K., Yahagi, T., Kimura, T., Kimura, S. & Kano, Y. (2024). Comparison of genetic structures among sympatric, red-listed salt-marsh snails in mainland Japan (Gastropoda: Ellobiidae). Zoological Science, 41(6): 509-521.
- 93 Inoue, K., Yahagi, T., Kimura, T., Kimura, S. & Kano, Y. 2022. Population differentiation of the endangered salt-marsh snail *Ellobium chinense* in Japan (Gastropoda: Ellobiidae). Plankton Benthos Reserch 17(1): 66-75.
- 94 石川 裕. 2011. カモジガイとヒラカモジガイの区別点. まいご(18): 8.
- 95 伊藤有明. 1986. 貝類(軟体動物門, 腹足綱) In: 大宮町史 自然編. 226-236. 大宮.
- 96 伊藤 玄・北村淳一・野口亮太・長太伸章・古屋康則. 2021. 三重県北勢地域における国内外来タビラ *Acheilognathus tabira* 類の確認と遺伝的特徴. 魚類学雑誌, 68(1): 47-52.
- 97 岩崎敬二・石田 惣・柏尾 翔・亀田勇一・久保弘文・齊藤 匠・澤田直人・芳賀拓真・早瀬善正・平野尚浩・福田 宏. 2025. 日本産軟体動物の稀少な未記載種の形態的標徴, 分布ならびに棲息環境. Molluscan Diversity, 7(1-2): 93-210.
- 98 Kajiyama, H. & Habe, T., 1961. Two new forms of the Japanese Melanians, *Semisulcospira*. Venus, 21(2) : 167-176.
- 99 亀田勇一. 2013. 紀伊半島産ニッポンマイマイ種群の分類学的再検討. Venus, 71 (1-2) :

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

136–137. (日本貝類学会平成24年度大会(東京)研究発表要旨).

100 Kameda, Y. & Kato, M. 2011. Terrestrial invasion of pomatopsid gastropods in the heavy-snow region of the Japanese Archipelago. *BMC Evolutionary Biology*. 11:118. (<http://www.biomedcentral.com/1471-2148/11/118>)

101 亀田勇一・川北 篤・加藤 真. 2008. 「ホラアナゴマオカチグサ」は洞窟ごとに別種である. *Venus*, 67 (1–2) : 99.

102 環境省(編). 2005. 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータブック 6. 陸・淡水産貝類. 402 pp. 自然環境研究センター, 東京.

103 狩野泰則. 2006. コハクカノコ科貝類概説. *ちりぼたん* 37 (3) : 135–146.

104 狩野泰則・福森啓晶. 2016. ゴマオカタニシ類の進化と邦産種の多様性. 日本貝類学会平成28年度大会(習志野)研究発表要旨集. p. 39, 日本貝類学会, 東京.

105 Kano, Y., Sasaki, T. & Ishikawa, H. 2001. *Neritia mimotoi*, a new neritiliid species from an anchialine lake and estuaries in southwest Japan. *Venus*, 60: 129–140.

106 柏木健司・野彰宏. 2014. 三重県大紀町阿曾カルストの霧穴(鍾乳洞)洞口付近の陸産貝類相. *南紀生物*, 56 (1) : 34–39.

107 柏木健司・増山 慈. 群馬県下仁田町青倉川流域から採集した微小貝クチマガリスナガイ類(腹足綱スナガイ科). 下仁田町自然史館研究報告, (9) : 17–20.

108 柏木健司・湊 宏. 2014. 三重県大紀町阿曾カルストから得られたカギヒダギセル(有肺類, キセルガイ科). *南紀生物*, 56 (1) : 62–65.

109 加藤次雄・鈴木慎一. 1959. 藤原岳の蝸牛. *三重生物*. (9) : 27–31 (+2 pls.) .

110 加藤次雄・鈴木慎一. 1959. 鈴鹿山脈の陸貝. *三重生物*. 9 : 97–110.

111 加藤次雄・鈴木慎一. 1960. 石大神の風穴の生物調査. *三重生物*. 10 : 43–45.

112 加藤次雄・鈴木慎一. 1961. 三重県の陸棲貝. *三重生物*. 11 : 3–8.

113 加藤次雄・鈴木慎一. 1963. 鈴鹿山脈の陸貝. 鈴鹿山脈自然科学調査報告書 : p.97–110.

114 河辺訓受. 2000. 志摩地方採集・観察調査会報告. *かきつばた*, 26 : 21–27.

115 河辺訓受. 2002. 北勢地方淡水貝, 汽水貝観察調査会報告. *かきつばた*, 28 : 29–30.

116 河辺訓受. 2013. 平成24年春季観察調査会報告. *かきつばた*, 38 : 64–65.

117 河辺訓受. 2014. 平成25年春季観察調査会報告. *かきつばた*, 39 : 54–55.

118 河合秀高. 2009. 名古屋港のサンドポンプで得られた貝, *かきつばた*, 34 : 20.

119 河合秀高. 2018. 南知多町内海海岸において打ち上げ採集で得られた貝類. *かきつばた*, 43 : 30–34.

120 河合秀高・木村昭一・佐藤達也・自見直人. 2022. 鳥羽市石鏡沿岸よりドレッジで採集された貝類. *かきつばた*, 47 : 32–41.

121 川瀬基弘・西尾和久・森山昭彦・市原 俊・桜井栄一. 2015. ミヤマヒダリマキマイマイ(腹足綱:ナンバンマイマイ科)種内の形態変異と分子系統. *Molluscan Diversity*, 4 (1–2) : 5–13.

122 紀平 肇, 1990. 琵琶湖淀川淡水貝類. 131 pp. たたら書房.

123 木村昭一. 1980. 垂水付近の漁網の貝類. *かいなかま*, (16) 2 : 10–14.

124 木村昭一. 1980. 垂水周辺のシマメノウフネガイについて. *かいなかま*, 16 (2) : 15–16.

125 木村昭一. 1983. 鳥羽市小浜の刺網の貝類相. *こむらさき*, 8 : 76–88.

126 木村昭一. 1984. 伊勢湾沿岸オカミミガイ科貝類最新生息状況. *かいなかま*, 18 (1) : 1–3.

127 木村昭一. 1987. ワカウラツボを有明海にて採集. *南紀生物*, 29 (2) : 95.

128 木村昭一. 1989. ワカウラツボを汐川干潟(三河湾)にて採集. *南紀生物*, 31 (2): 130–131.

129 木村昭一. 1993. 三重県新記録の貝類(I). *ちりぼたん*, 23 (2) : 33–38.

130 木村昭一. 1994. 東海地方の淡水貝類相. 全国高等学校水産教育研究会研究彙報, 33 : 14–34.

131 木村昭一. 1995. 日間賀島南部海岸の潮間帯付近の軟体動物相. 全国高等学校水産教育研究会研究彙報, 34 : 16–27.

132 木村昭一. 1996. ドレッジによって採集された日間賀島南部海域の底生動物. 全国高等学校水産教育研究会研究彙報, 35 : 3–19.

133 木村昭一. 1996a. クリンイトカケガイとコガタクリンイトカケガイの分類学的再検討(腹足類:盤足目:イトカケガイ科). *ユリヤガイ*(山口県貝類研究談話会誌), 4 (1・2): 103–108.

134 木村昭一. 2000. 愛知県より初めて採集されたカタママイマイ. *かきつばた*, 26 : 11–13.

- 135 木村昭一. 2000. 伊勢湾・三河湾でドレッジによって採集された貝類 (予報). かきつばた, 26 : 18-20.
- 136 木村昭一. 2004. 津市周辺河口域で採集された希少貝類. かきつばた, 25 : 15-20.
- 137 木村昭一. 2004. 紀伊長島町片上池の貝類. かきつばた, 29 : 38-40.
- 138 木村昭一. 2006. 愛知県におけるミズゴマツボの産出記録. かきつばた, 32 : 22-27.
- 139 木村昭一. 2006. 紀伊長島町片上池の貝類 続報. かきつばた, 32 : 28-32.
- 140 木村昭一. 2007. 日本本土に分布するトガリュウシオガイ. ちりぼたん, 38 (1-2) : 27-31.
- 141 木村昭一. 2008. 五ヶ所湾観察・調査報告. かきつばた, 33 : 51-54.
- 142 木村昭一. 2009. 三重県南部の小河川に生息するツバサコハクカノコ. ちりぼたん, 39 (3-4) , 142-145.
- 143 木村昭一. 2010. 軟体動物. *In* : 名古屋市動植物実態調査検討会 (監修) . 2010. レッドデータブック なごや2010—2004年版補遺—. 316 pp. 名古屋市環境局環境都市推進部生物多様性企画室.
- 144 木村昭一. 2015. ホラアナミジンナ. p. 374. *In* : 三重県農林水産部みどり共生推進課 (編) 三重県 レッドデータブック2015～三重県の絶滅のおそれのある野生生物～. pp. 757. 三重県農林水産部みどり共生推進課, 津.
- 145 木村昭一, 2016. 三河湾日間賀島沖で採集されていたキタサメハダヒザラガイ近似種. かきつばた (41), 25-26.
- 146 木村昭一. 2020. マルタニシ. *In* : 愛知県環境調査センター (編) 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータブックあいち2020—動物編—. p. 665. 愛知県環境局環境政策部自然環境課, 名古屋.
- 147 木村昭一. 2023. カワコザラ. *In* : 佐藤達也 (企画・編集) : 鳥羽市 海のレッドデータブック2023～鳥羽市の絶滅のおそれのある野生生物～. p.93. 鳥羽市役所観光商工課, 鳥羽.
- 148 木村昭一. 2023. Q47貝を見つけやすい場所はありますか? *In* : 貝の疑問50 (日本貝類学会編) , 成山堂書店, 179-184 (2023).
- 149 木村昭一・藤岡エリ子・藤岡純治. 2021. イボウミニナの干潟, 弁財ヶ浜潮間帯の貝類相. かきつばた, 46 : 36-40.
- 150 木村昭一・早瀬善正. 2011. 浜名湖錨瀬で採集されたオマセムシロガイ. かきつばた, 36 : 61-62.
- 151 木村昭一・早瀬善正. 2013. 三重県におけるミズゴマツボの生息記録. かきつばた, 38 : 44-46.
- 152 木村昭一・早瀬善正・河辺訓受・湊 宏. 2016. 東日本大震災の津波により波伝谷地先に打ち上げられた貝類, ちりぼたん, 46(1-2): 84-90.
- 153 木村昭一・早瀬善正・河辺訓受・矢橋 真・林 誠司・河合秀高, 2015. 鳥羽市麻倉島のヒザラガイ類相 (観察調査会報告) . かきつばた, 40 : 17-22.
- 154 木村昭一・秀島佑典・木村妙子・佐藤達也. 2013. 豊かな内湾の貝類相7—三重県鳥羽市浦村生浦湾—. *Venus*, 70 (1-4) : 69.
- 155 木村昭一・河辺訓受・矢橋 真. 2007. 浜名湖で採集されたオウギウロコガイ. ちりぼたん, 38 (1-2) : 24-26.
- 156 木村昭一・木村妙子. 1999. 三河湾および伊勢湾河口域におけるアシ原湿地の腹足類相. 日本ベントス学会誌, 54 : 44-56.
- 157 木村昭一・木村妙子. 2004. 豊かな内湾の貝類相—三重県英虞湾—. *Venus*, 63 (1-2) : 71.
- 158 木村昭一・木村妙子. 2013. 貝類, p.118-184. *In* : 鈴木孝男・木村昭一・木村妙子・森 敬介・多留聖典. 干潟ベントスフィールド図鑑, 257 pp. 日本国際湿地保全連合, 東京.
- 159 木村昭一・木村妙子. 2013. 石灰岩採掘による三重県指定希少野生動植物種カナマルマイマイの生息地破壊の危機. *Venus*, 71 (1-2) : 160-161. (日本貝類学会平成24年度大会 (東京) 研究発表要旨) .
- 160 木村昭一・木村妙子. 2019. 粟島港東側周辺で採集された貝類. まいご, (26): 4-10. 四国貝類談話会.
- 161 木村昭一・木村妙子. 2024. 2023年に紀伊長島港より採集された貝類. かきつばた, 49 : 35-41.
- 162 木村昭一・中西尚文. 1997. 東海地方に分布するオトコタテボシ属の1種. ちりぼたん, 27 (2) : 41-48.
- 163 木村昭一・佐藤達也. 2012. 豊かな内湾の貝類相6—三重県鳥羽市南部入江—. *Venus*, 70 (1-4) : 69.
- 164 木村昭一・佐藤達也. 2023. 海産貝類 *In* : 佐藤達也 (企画・編集) : 鳥羽市 海のレッドデータブック2023～鳥羽市の絶滅のおそれのある野生生物～. 鳥羽市役所観光商工課, 鳥羽. 297pp.
- 165 木村昭一・締次美穂. 2009. 津市田中川河口において打ち上げ採集で得られた貝類. かきつばた,

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

34 : 27–29.

- 166 木村昭一・山本妙子. 1990. マゴコロガイを伊勢湾で採集. *ちりぼたん*, 21 (1–2) : 12–13.
- 167 木村妙子・木村昭一・自見直人・喜瀬浩輝・波々伯部夏美・藤本心太・中島広喜・松尾拓己・山崎博史・小林 格・小川晟人・榊田優花・前川陽一・中村 亨・奥村順哉・高野雅貴. 2024. 伊勢湾南部潮下帯の底生動物相: 三重大学大学院生物資源学研究科, p.1–31.
- 168 Kitamura, J. I. 2007. Reproductive ecology and host utilization of four sympatric bitterling (Acheilognathinae, Cyprinidae) in a lowland reach of the Harai River in Mie, Japan. *Environmental Biology of Fishes*, 78: 37–55.
- 169 Klishko, O. K., Lopes-Lima, M., Froufe, E., Bogan, A. E. & Abakumova, V. Y. 2018. Unravelling the systematics of *Nodularia* (Bivalvia, Unionidae) species from eastern Russia. *Systematics and Biodiversity*, 16(3): 287–301.
- 170 小林 哲. 2012. 玄界灘の砂浜海岸におけるナミノコガイの成長と分布様式. *日本ベントス学会誌*, 66 : 93–101.
- 171 高知県. 2002. 高知県レッドデータブック[動物編]. 470 pp. 高知県文化環境部環境保全課, 高知.
- 172 駒田廣正. 1972. 大台ヶ原山および大杉谷の陸貝. 大杉谷・大台ヶ原自然科学調査報告書. p.191–194. 三重自然科学研究会, 津.
- 173 駒田廣正. 1974. 奥香肌峡の陸貝類. pp.95–98. 台高山脈北部ならびに奥香肌峡一帯自然科学調査報告. 三重県立博物館自然科学調査報告書 第5報.
- 174 駒田廣正・松本幸雄・東川俊一・真鍋三郎. 1968. 熊野灘沿岸海洋生物調査 紀伊長島周辺の貝類. In : 紀伊長島周辺の海洋生物. 68pp. 三重県立博物館, 鳥羽水族館.
- 175 Kondo. 1998. Revision of the Genus *Inversiumio* (Bivalvia: Unionidae). *Venus*, 57 (2) : 85–94.
- 176 近藤高貴. 2008. 日本産イシガイ目貝類図譜. 日本貝類学特別出版物 3. 69 pp. 日本貝類学会, 東京.
- 177 Kondo, T. & Hattori, A. 2019. A new species of the genus *Lanceolaria* (Bivalvia: Unionidae) from Japan. *Venus*, 78(1–2): 27–31.
- 178 近藤高貴・山下純子. 1980. カタハガイのグロキディウム幼生の形態. *Venus*, 39 (3) : 187–189.
- 179 久保弘文・伊藤有明・浦中秀人・木村昭一. 1983. 三重県産陸産貝類. *こむらさき* (三重大学生物研究会誌), 8 : 39–71.
- 180 黒田徳米・波部忠重・大山 桂. 1971. 相模湾産貝類. xvi + [iii] + 741 (和文) + 489 (英文) + 51 pp. + 121 pls. 丸善, 東京.
- 181 黒田徳米・宮永宗男. 1943. 朝鮮多島海巨文島産陸産貝類. *Venus*, 12 (3–4) : 119–129.
- 182 Lopes-Lima, M., Hattori, A., Kondo, T., Lee, J. H., Kim, S. K., Shirai, A., Hayashi, H., Usui, T., Sakuma, K., Toriya, T., Sunamura, Y., Ishikawa, H., Hoshino, N., Kusano, Y., Kumaki, H., Utsugi, Y., Yabe, S., Yoshinari, Y., Hiruma, H., Tanaka, A., Sao, K., Ueda, T., Sano, I., Miyazaki, J.-I., Gonçalves, D. V., Klishko, O. K., Konopleva, E. S., Vikhrev, I. V., Kondakov, A. V., Gofarov, M. Y., Bolotov, I. N., Sayenko, E. M., Soroka, M., Zieritz, A., Bogan, A. E. & Froufe, E. 2020. Freshwater mussels (Bivalvia: Unionidae) from the rising sun (Far East Asia): phylogeny, systematics, and distribution. *Molecular Phylogenetics and Evolution*, 146: 106755.
- 183 増田 修, 2017. 姫路市家島諸島周辺 (播磨灘北部) で採集されたオガイ. *かいなかま*, 51 (1) : 25–28.
- 184 増田 修・内山りゅう. 2004. 日本産淡水産貝類図鑑 ②汽水域を含む全国の淡水貝類. 240 pp. ピーシーズ, 東京.
- 185 松本幸雄. 1959. 熊野灘沿岸の貝類. In : 熊野灘沿岸国立公園調査報告, XI : 123–148.
- 186 松本幸雄. 1979. 三重の貝類 (三重県産貝類目録). 179 pp. + 4 pls. + 1 map. 鳥羽水族館, 鳥羽.
- 187 松本幸雄. 1994. 「三重県の貝類」追加目録. *三重動物学会会報* 17 : 9–28.
- 188 松本幸雄. 1997. 三重県の貝類追加リスト. 18 pp. 自刊. (謄写版).
- 189 三重県. 2006. 三重県レッドデータブック2005 動物. 498 pp. (財) 三重県環境保全事業団, 津.
- 190 三重県農林水産部みどり共生推進課 (編). 2015. 三重県レッドデータブック2015～三重県の絶滅の恐れのある野生生物～. 757 pp. 三重県農林水産部みどり共生推進課. 津.
- 191 三重県立博物館・鳥羽水族館・立教大学. 1965. 答志・大築海島周辺の海洋生物 (答志島総合調査・生物班報告). 鳥羽水族館10年のあゆみ, 69–84 pp.

- 192 湊 宏. 1980. ヤママメタニシ—その形態・生態・分布—. 南紀生物, 22 (2) : 77-79.
- 193 湊 宏. 1988. 日本陸産貝類総目録. 294 pp. 同刊行会. 白浜.
- 194 湊 宏. 1994. 日本産キセルガイ科貝類の分類と分布に関する研究. 貝類学雑誌, [別巻2] : 1-212. +6 tabs. + 74 pls.
- 195 湊 宏. 2003. 和歌山県に分布するピロウドマイマイ属貝類. 南紀生物, 45 (2) : 110-114.
- 196 湊 宏. 2004. 三重県南部の久木崎でホラアナミジンナを記録する. かきつばた, 30 : 1-2.
- 197 湊 宏. 2006. 紀伊長島”大島”から採取されたウロコマイマイ (新種). Venus. 日本貝類学会. 65 (3) : 259-262.
- 198 Minato, H. 2014. A new Clausiliid, *Tyrannophaedusa (Aulacophaedusa) matsumurai* n sp. (Gastropoda: Pulmonata) from Northern area of the mountainous region of the Kii Range, Japan. Venus, 72(1-4): 131-134.
- 199 湊 宏. 2017. キイキビ. p. 336. In: 奈良県レッドデータブック改訂委員会 (編) 大切にしたい奈良県の野生動植物—奈良県レッドデータブック2016改訂版—. 791 pp. 奈良県くらし創造部景観・環境局景観・自然環境課, 奈良.
- 200 湊 宏. 2017. シリプトギセル. p. 321. In: 奈良県レッドデータブック改訂委員会 (編) 大切にしたい奈良県の野生動植物—奈良県レッドデータブック2016改訂版—. 791 pp. 奈良県くらし創造部景観・環境局景観・自然環境課, 奈良.
- 201 湊 宏. 2017. シロバリギセル. p. 332. In: 奈良県レッドデータブック改訂委員会 (編) 大切にしたい奈良県の野生動植物—奈良県レッドデータブック2016改訂版—. 791 pp. 奈良県くらし創造部景観・環境局景観・自然環境課, 奈良.
- 202 湊 宏. 2022. シリプトギセル. p. 330. In: 和歌山県環境生活部環境政策局 環境生活総務課自然環境室 (編) 保全上重要なわかやまの自然—和歌山県レッドデータブック— [2022年改訂版]. 783 pp. 和歌山県環境生活部環境政策局 環境生活総務課自然環境室, 和歌山.
- 203 宮下 直・井鷲裕司・千葉 聡. 2012. 生物多様性と生態学—遺伝子・種・生態系—. 176 pp. 朝倉書店, 東京.
- 204 Morita, K., Saito, T., Uechi, T., Sawada, N., Miura, O. 2023 Out of the ancient lake: multiple riverine colonizations and diversification of the freshwater snails in the genus *Semisulcospira* around Lake Biwa. Molecular Phylogenetics and Evolution, 191: 107987.
- 205 守谷茂樹・河辺訓受. 2013. 三重県, 愛知県で確認されたミズコハクガイ. かきつばた, 38 : 50-51.
- 206 Motochin, R., Wang, M. & Ueshima, R. 2017. Molecular phylogeny, frequent parallel evolution and new system of Japanese clausiliid land snails (Gastropoda: Stylommatophora). Zoological Journal of the Linnean Society, 181 (4): 795-845.
- 207 宗方 浩. 2002. カラスノマクラの正体. かきつばた, 28 : 1-2.
- 208 武蔵石壽. 1843. 目八譜 二. 118 pp. 江戸.
- 209 中 優. 2003. 祓川および周辺域の淡水貝類・陸産貝類. (財) 三重県環境保全事業団研究報告, 9 : 71-74.
- 210 中 優. 2007. ノミガイの三重県における初記録. ちりぼたん. 日本貝類学会. 37 (4) : 217.
- 211 中 優. 2013. 原生林にすむカスガコギセル, p.123. In: 三重自然誌の会 (編), つし自然ガイドブック, 295 pp. 津.
- 212 中 優. 2015. カタハガイ. p. 317. In: 三重県レッドデータブック2015 (三重県農林水産部みどり共生推進課編). 三重県農林水産部みどり共生推進課, 津.
- 213 中 優. 2015. ノミガイ. p. 313. In: 三重県農林水産部みどり共生推進課 (編) 三重県レッドデータブック2015~三重県の絶滅のおそれのある野生生物~. 757 pp. 三重県農林水産部みどり共生推進課, 津.
- 214 中 優. 2015. トンガリササノハガイ. p. 331. In: 三重県レッドデータブック2015 (三重県農林水産部みどり共生推進課編). 三重県農林水産部みどり共生推進課, 津.
- 215 中 優. 2017. 三重県紀北町大島の貝類. いせきび (4) : 40-41.
- 216 中 優. 2021. 熊野地域の貝類. いせきび, (8): 168-170.
- 217 中 優・中野 環. 2015. ドブガイ. p. 356. In: 三重県レッドデータブック2015 (三重県農林水産部みどり共生推進課編). 三重県農林水産部みどり共生推進課, 津.

哺乳類

鳥 類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝 類

甲殻類

その他動物

維管束植物

蘚苔類

藻 類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

- 218 中 優・中野 環. 2015. マツカサガイ. p.357. *In*: 三重県レッドデータブック2015 (三重県農林水産部みどり共生推進課編). 三重県農林水産部みどり共生推進課, 津.
- 219 中 優・中野 環. 2015. ウロコマイマイ. p.308. *In*: 三重県農林水産部みどり共生推進課 (編) 三重県レッドデータブック2015～三重県の絶滅のおそれのある野生生物～. 757 pp. 三重県農林水産部みどり共生推進課, 津.
- 220 中野 (中) 大三郎. 1994. 第4章動物 第9節淡水貝類. *In*: p.650–659. 上野市史 自然編, 上野.
- 221 中野 環・中 優. 2018. 三重県の貝類. *In*: 三重自然誌の会 (編) みえ生物誌—貝類. pp. 1–205. 三重自然誌の会, 松阪.
- 222 中野 環. 2000. 津市の干潟におけるオチバガイ *Psammotaea virescens*の生息記録. 三重自然誌, (6): 73–75.
- 223 中野 環. 2001. 雲出川高潮堤防工事に伴うオカミミガイ *Ellobium chinensis* 生息地の破壊. 三重自然誌, 7: 103–109.
- 224 中野 環. 2005. 三重県尾鷲市賀田湾の貝類. 自然誌だより, (65): 2.
- 225 中野 環. 2007. 三重県におけるフジノハナガイ科貝類3種の分布. 三重自然誌, 11. 109–111.
- 226 中野 環. 2007. 三重県におけるワカウラツボの新たな産地. 自然誌だより, (72): 4–5.
- 227 中野 環. 2011. 三重県におけるベニゴマガイの分布. ちりぼたん, 41 (3–4): 99–102.
- 228 中野 環. 2014. 帰ってきたムラサキガイ. 自然誌だより, (102): 13.
- 229 中野 環・中 優. 2001. 鳥羽市菅島の陸・淡水産貝類. 三重自然誌, (7): 53–54.
- 230 中野 環・中 優. 2006. 三重県における希少な貝類および甲殻類の生息記録. 紀伊半島の野生生物, 8: 9–28.
- 231 中野 環・中 優・帝釈元・岡 由佳里・芦刈治将・上野早苗. 2004. 英虞湾における注目すべき貝類および甲殻類の記録. 三重自然誌, (8/9/10): 33–37.
- 232 中野恒夫. 1991. 干潟の生物と探鳥会. 三重動物学会会報, (14): 19–20.
- 233 中野恒夫. 1997. 松名瀬海岸の貝類. みえの生物定点調査報告書, 1996年度・海辺. 三重県: p.16–17.
- 234 奈良県レッドデータブック改訂委員会 (編). 2017. 奈良県野生生物目録. 422 pp. 奈良県くらし創造部景観・環境局 景観・自然環境課, 奈良.
- 235 成ヶ島探見の会 2023. 由良湾・成ヶ島の貝類 (2022 改訂版). vi +40 +178 pls + 索14. 成ヶ島探見の会, 洲本.
- 236 日本ベントス学会編. 2012. 干潟の絶滅危惧動物図鑑—海岸ベントスのレッドデータブック. 285 pp. 東海大学出版会, 秦野.
- 237 西 浩孝. 2010. 三河湾で絶滅危惧種の二枚貝ウミタケの生息を確認. 豊橋市自然史博物館研究報告, (20): 15–17.
- 238 西 浩孝. 2021. 愛知県田原市で絶滅危惧種の二枚貝シナヤカスエモノガイを確認. 豊橋市自然史博物館研報 (31): 33–34.
- 239 西 浩孝・早瀬善正・岩田明久. 2024. 篠立の風穴 (三重県いなべ市) の貝類. かきつばた, 49: 27–29.
- 240 西 浩孝・早瀬善正・岩田明久, 2025, 三県県南部のホラアナミジンコ新産地. かきつばた, 50: 71–72.
- 241 大垣内宏. 1960. 伊勢神宮々域林の陸貝. 三重生物, (10): 53–55.
- 242 Páll-Gergely, B., Sajan, S., Tripathy, B., Meng, K., Asami, T. & Ablett, I.D. 2020. Genus-level revision of the Alycaeidae (Gastropoda, Cyclophoroidea), with an annotated species catalogue. *Zookeys* 981: 1–220.
- 243 Páll-Gergely, Barna & White, T.S. 2023. Solving the mystery of the misunderstood *Bensonella plicidens* (Benson, 1849) (Gastropoda: Stylommatophora: Hypselostomatidae). *Journal of Natural History*, 56 (45–48): 2011–2019.
- 244 Raven H. & Vermeulen J. J. (2007) Notes on molluscs from NW Borneo and Singapore. 2. A synopsis of the Ellobiidae (Gastropoda, Pulmonata). *Vita Malacol* 4: 29–62.
- 245 Reid, D.G. & Ozawa, T. 2016. The genus *Pirenella* Gray, 1847 (= *Cerithideopsilla* Thiele, 1929) (Gastropoda: Potamididae) in the Indo-West Pacific region and Mediterranean Sea. *Zootaxa*, 4076:

- 1–91.
- 246 齋藤 寛, 2000. ケハダヒザラガイ科. pp.20–23. *In*: 奥谷喬司 (編著) 日本近海産貝類図鑑. 1173 pp. 東海大学出版会, 東京.
- 247 齋藤 寛, 2000. サメハダヒザラガイ科. pp.5–9. *In*: 奥谷喬司 (編著) 日本近海産貝類図鑑. 1173 pp. 東海大学出版会, 東京.
- 248 齊藤匠. 2017. カワコザラ. *In*: 沖縄県環境部自然保護課(編) 改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物第3版(動物編) —レッドデータおきなわ—, p. 447. 沖縄県環境部自然保護課, 那覇.
- 249 Saito, T., V.T. Do, L. Prozorova, T. Hirano, H. Fukuda and S. Chiba, 2018. Endangered freshwater limpets in Japan are actually alien invasive species. *Conservation Genetics*, 19: 947–958.
- 250 齊藤 匠・福田 宏. 2020. モノアラガイ近似種, ナデガタモノアラガイ. pp. 470–471. *In*: 岡山県野生動植物調査検討会(編) 岡山県版レッドデータブック2020動物編. 812 pp. 岡山県環境文化部自然環境課, 岡山.
- 251 齊藤 匠・平野尚浩・内田翔太・山崎大志. 2017. 石垣島および西表島におけるヒメヒラマキミズマイ(腹足綱: ヒラマキガイ科)の発見. *Molluscan Diversity* 5 (1–2) : 79–82.
- 252 Saito, T., Hirano, T., Ye, B., Prozorova, L., Shovon, M.S., Do, T.V., Kimura, K., Surenkhorloo, P., Kameda, Y., Morii, Y., Fukuda, H. & Chiba, S. 2021. A comprehensive phylogeography of the widespread pond snail genus *Radix* revealed restricted colonization due to niche conservatism. *Ecology and Evolution*, 11 (24): 18446–18459.
- 253 Sano, I., Saito, T., Ito, S., Ye, B., Uechi, T., Seo, T., Do, V.T., Kimura, K., Hirano, T., Yamazaki, D., Shirai, A., Kondo, T., Miura, O., Miyazaki, J.-I. & Chiba, S. 2022. Resolving species-level diversity of *Beringiana* and *Sinanodonta* mussels (Bivalvia: Unionidae) in the Japanese archipelago using genome-wide data. *Molecular Phylogenetics and Evolution*, 175: 107563.
- 254 佐藤勝義・岡本正豊. 1978. ヒナミルクイの2型とワカミルガイについて. *ちりぼたん*, 10 : 27–31.
- 255 佐藤達也・木村昭一. 2011. 三重県鳥羽市に残されていたシイノミミミガイの繁殖地. *かきつばた*, (36) : 49–52.
- 256 佐藤達也・木村昭一. 2013. 三重県伊勢湾湾口域におけるイガイの生息状況. *かきつばた*, 38 : 35–40.
- 257 佐藤達也・木村昭一. 2021. 鳥羽市で採集されたイソチドリの新たな宿主. *かきつばた*, 46 : 49–51.
- 258 Sayenko, E. M., Soroka, M., Akiyama, Y. B., Uechi, T., Ito, K. & Kondo, M. 2020. Taxonomic status of genera *Nodularia*, *Middendorffinaia* and *Inversiumio* (Bivalvia: Unionidae) from South–East Asia: morphometric, genetic and GenBank data. *Systematics and Biodiversity*, 19 (1): 54–73.
- 259 瀬尾友樹・上地健琉・福田 宏・近藤高貴. カタハガイ. pp. 563. *In*: 岡山県版レッドデータブック2020 動物編(岡山県野生動植物調査検討会編). 岡山県環境文化部自然環境課, 岡山.
- 260 瀬尾友樹・上地健琉・福田 宏・近藤高貴. ニセマツカサガイ. pp. 561. *In*: 岡山県版レッドデータブック2020 動物編(岡山県野生動植物調査検討会編). 岡山県環境文化部自然環境課, 岡山.
- 261 瀬尾友樹・上地健琉・福田 宏・近藤高貴. オバエボシ. pp. 562. *In*: 岡山県版レッドデータブック2020 動物編(岡山県野生動植物調査検討会編). 岡山県環境文化部自然環境課, 岡山.
- 262 瀬尾友樹・上地健琉・福田 宏・近藤高貴. ササノハ. pp. 562. *In*: 岡山県版レッドデータブック2020 動物編(岡山県野生動植物調査検討会編). 岡山県環境文化部自然環境課, 岡山.
- 263 Seo, T., Yashima, Y. & Tanangonan, J. 2018. DNA barcoding of the freshwater mussel, genus *Inversiumio* and *Pronodularia japonensis* (Bivalvia, Unionidae) and exploration for new diagnostic characters based on soft body morphology. *Biogeography*, 20, 55–61.
- 264 杉谷房雄・阿部 茂. 1951. 神宮宮域林産陸貝目録. 4 pp. 神宮農業館, 伊勢.
- 265 鈴木慎一・市橋 甫. 1968. 平倉演習林の陸貝類目録. 三重大学農学部演習林資料.
- 266 高重 博. 2019. ネイチャーウオッチングガイドブック 温帯域・浅海で見られる種の生態写真+貝殻標本 日本の貝. 382 pp. 誠文堂新光社, 東京.
- 267 Taki, Iw. 1935. Two new species of *Oncidella* from Japan (Pulmonata). *Venus*, 5 (2-3): pl. 4, 63–69.
- 268 瀧 巖, 1965. ひざらがい綱 (POLYPLACOPHORA) . pp. 5–13. *In*: 岡田 要 (著) 新日本動物図鑑 [中] . 803 pp. 北隆館, 東京.

哺乳類

鳥 類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝 類

甲殻類

その他動物

維管束植物

蘚苔類

藻 類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

- 269 照屋清之介・日比野友亮・山下博由. 2016. 三重県座賀島の海産軟体動物相. 南紀生物, 58 (2): 178-183.
- 270 鳥羽市農水商工課. 2022. 根付漁業実態調査 (昭和55年～令和3年).
- 271 富田靖男. 2003. 第三章 三雲町の動物. 三雲町史 第1巻 通史編. 三雲町.
- 272 内田益次. 2018. 鎌倉市和賀江島に生息する貝類 第3報. かきつばた43: 43-44.
- 273 上地健琉・柏尾 翔. 2020. きしわだ自然資料館軟体動物類収蔵目録: 日本産淡水貝類 (腹足綱・二枚貝綱). きしわだ自然資料館研究報告, (6): 41-51.
- 274 上地健琉・児嶋 格・馬場雄司・山田浩二・柏尾 翔. 2024. 大阪府泉州地域産陸・淡水棲軟体動物チェックリスト. きしわだ自然資料館研究報告, (9): 31-57.
- 275 海の博物館. 1984. 三重県水産図解, 232 pp. 海の博物館.
- 276 海の博物館. 2011. 鳥羽の海辺の生きもの調査報告書. 60 pp. 海の博物館.
- 277 海の博物館. 2011. 鳥羽 海辺で遊ぼう 生きもの観察ガイドブック. 48 pp. 海の博物館.
- 278 魚住賢司. 1988. 福間町史編集委員会 (編). 福間町史 自然編Ⅱ 福間町の貝類. 180 pp. 福間町, 福岡.
- 279 和田意次・西平守孝・風呂田利夫・野島 哲・山西良平・西川輝昭・五島聖治・鈴木孝男・加藤 真・島村賢正・福田 宏. 1996. 日本の干潟海岸とそこに生息する底生動物の現状. WWF Japan Science Report 3: 182p.
- 280 和歌山県. 2001. 保全上重要なわかやまの自然 和歌山県レッドデータブック. 428p. 和歌山県環境生活部環境生活総務課, 和歌山.
- 281 Yamashita, H., Okamoto, M., Harato, M. and H. Fukuda. 1997. The present status and conservation values of endangered mollusks in tidal flats and estuaries of Japan, 1. *Tellina (Serratina) capsoides* (Bivalvia: Veneroida: Tellinidae). The Yuriyagai, 5: 101-115.
- 282 吉崎和美・山下博由. 2005. 熊本県天草・羊角湾の貝類と主要な生物相について 第二報, 天草自然研究会, 81 pp.
- 283 財団法人自然環境研究センター (編). 2010. 自然環境保全基礎調査 動物分布調査 日本の動物分布図集. 1070 pp. 環境省自然保護局 生物多様性センター, 富士吉田.